

国際馬術連盟

## 障害馬術規程

第26版

2018年1月1日発効

2019年1月1日更新

公益社団法人 日本馬術連盟

**本規程は英文版が原本となります。**

**本規程の英文と和文に差異がある場合には、英文が優先されます。**

## 目 次

### 序 文

#### 馬のウェルフェアのための FEI 馬スポーツ憲章

#### 第1章 はじめに 12

##### 第 200 条 概 要

#### 第2章 アリーナとスクーリングエリア 17

##### 第 201 条 アリーナ、スクーリングエリア、練習用障害物

##### 第 202 条 アリーナへの立ち入りと練習用障害物

##### 第 203 条 ベ ル

##### 第 204 条 コースと全長測定

##### 第 205 条 コースプラン

##### 第 206 条 コースの修正

##### 第 207 条 標 旗

#### 第3章 障害物 26

##### 第 208 条 障害物－概略

##### 第 209 条 垂直障害

##### 第 210 条 幅障害

##### 第 211 条 水濠障害、垂直障害を伴った水濠障害、およびリバプール

##### 第 212 条 コンビネーション障害

##### 第 213 条 バンク、堆土、傾斜路

##### 第 214 条 閉鎖コンビネーション障害、一部閉鎖コンビネーション障害、 および一部開放コンビネーション障害

##### 第 215 条 選択障害とジョーカー

#### 第4章 走行中のペナルティ 32

##### 第 216 条 ペナルティ－概略

##### 第 217 条 障害物の落下

##### 第 218 条 垂直障害と幅障害

##### 第 219 条 不従順

##### 第 220 条 コースからの逸脱

##### 第 221 条 拒 止

##### 第 222 条 逃 避

##### 第 223 条 反 抗

##### 第 224 条 落馬および人馬転倒

##### 第 225 条 許可のない援助

#### 第5章 タイムと速度 36

##### 第 226 条 走行タイム

第 227 条	規定タイム	
第 228 条	制限タイム	
第 229 条	計 時	
第 230 条	計時の中断	
第 231 条	計時中断中の不従順	
第 232 条	タイム修正	
第 233 条	走行中の停止	
第 234 条	速 度	
<b>第 6 章</b>	<b>ペナルティー覧</b>	<b>40</b>
第 235 条	過 失	
第 236 条	基準 A	
第 237 条	基準 A でのスコア	
第 238 条	基準 A に基づく採点方法	
第 239 条	基準 C	
<b>第 7 章</b>	<b>罰金、イエローカード、失権、失格</b>	<b>44</b>
第 240 条	罰金とイエローカード	
第 241 条	失 権	
第 242 条	失 格	
第 243 条	馬に対する虐待行為（一般規程第 142 条も参照）	
第 244 条	ブーツとバンデージ規制	
<b>第 8 章</b>	<b>ジャンプオフ</b>	<b>51</b>
第 245 条	ジャンプオフ－概略	
第 246 条	ジャンプオフでの障害物	
第 247 条	ジャンプオフあるいは第 2 ラウンドでの失権もしくは出場辞退	
<b>第 9 章</b>	<b>順 位</b>	<b>54</b>
第 248 条	個人順位と表彰	
<b>第 10 章</b>	<b>選手と馬</b>	<b>54</b>
第 249 条	CSIO への招待	
第 250 条	CSI への招待（付則 5 も参照）	
第 251 条	参加申込（一般規程第 116 条も参照）	
第 252 条	スターティングオーダー	
第 253 条	出場選手の申告	
第 254 条	馬の参加と年齢、頭数	
第 255 条	シニア競技へのマイナー選手の参加（付則 9、11、12 も参照）	
第 256 条	服装、保護用ヘッドギア、敬礼	
第 257 条	馬 装	
第 258 条	事 故	

<b>第 11 章 役 員</b>	<b>73</b>
第 259 条 役 員	
<b>第 12 章 競 技</b>	<b>79</b>
第 260 条 概 要	
第 261 条 ノーマル競技とグランプリ競技	
第 262 条 パワーアンドスキル競技	
第 263 条 ハンティング競技、あるいはスピードアンドハンディネス競技	
第 264 条 ネーションズカップ	
第 265 条 スポンサーチーム競技と他の団体競技	
第 266 条 フォルト・アンド・アウト競技	
第 267 条 ヒット・アンド・ハリー競技	
第 268 条 リレー競技	
第 269 条 アキュムレーター競技	
第 270 条 トップスコア競技	
第 271 条 コース自由選択競技	
第 272 条 ノックアウト競技	
第 273 条 2 回走行競技	
第 274 条 二段階走行競技	
第 275 条 決勝ラウンドを行うグループ競技	
第 276 条 決勝ラウンドを行う競技	
第 277 条 ダービー競技	
第 278 条 コンビネーション障害で競う競技	
第 279 条 貸与馬による競技会と競技	
<b>第 13 章 獣医検査とホースインスペクション、馬の薬物規制とパスポート</b>	<b>109</b>
第 280 条 獣医検査、ホースインスペクション、パスポート査閲	
第 281 条 馬の薬物規制	
第 282 条 馬のパスポートおよび個体識別番号	
<b>付則 1 FEI 名誉バッジ</b>	<b>111</b>
<b>付則 2 規定タイムの計算</b>	<b>112</b>
<b>付則 3 ノックアウト競技（障害馬術規程第 272 条）</b>	<b>114</b>
<b>付則 4 計時器とスコアボードの要件</b>	<b>116</b>
<b>付則 5 CSI 招待ルール</b>	<b>121</b>
<b>付則 6 CSI/CSIO 開催要件</b>	<b>129</b>
<b>付則 7 水濠障害の構造</b>	<b>142</b>
<b>付則 8 オリンピック大会、世界障害馬術選手権大会、 大陸障害馬術選手権大会への出場資格認定手順</b>	<b>143</b>
<b>付則 9 アンダー25（U25）、ヤングライダー、およびジュニア規程</b>	<b>149</b>

## **第1章 緒 言**

第1条 概 要

第2条 諸規程の優先性

第3条 U25、ヤングライダーおよびジュニア選手の定義

## **第2章 国際競技会と選手権大会**

第4条 国際競技会（一般規程第102条参照）

第5条 ヤングライダーとジュニア対象の選手権大会

第6条 国際競技会と選手権大会への出場資格

第7条 他のカテゴリー、シニア競技会および他の選手権大会への参加

第8条 経費と特典

第9条 褒 賞

第10条 馬のスクーリング

第11条 技術代表

第12条 実施要項

## **第3章 大陸および地域選手権大会（ヤングライダーとジュニア）**

第13条 参加申込

第14条 出場選手の申告と交代

第15条 年齢条件

第16条 競 技

第17条 障害物とコース

第18条 団体順位

第19条 個人順位

第20条 馬装と服装

第21条 競技場審判団

第22条 外国人技術代表

第23条 獣医師代表団

第24条 上訴委員会

第25条 その他

## **付則 10 ベテラン選手規程**

**168**

### **第1章 ベテラン選手**

第1条 概 要

第2条 ベテラン選手の定義

第3条 国際競技会（一般規程第102条参照）

第4条 障害物とコース

### **第2章 大陸選手権大会 チームと個人選手**

第5条 開 催

第6条 外国人技術代表、獣医師代表団、コースデザイナー

- 第7条 上訴委員会と競技場審判団
- 第8条 参加申込
- 第9条 出場選手の申告と交代（チームと個人選手）
- 第10条 出場資格
- 第11条 経費と特典
- 第12条 トレーニングセッション
- 第13条 選手権競技
- 第14条 第1競技（チームと個人選手）
- 第15条 第2競技（団体決勝、第2次個人）
- 第16条 第3競技（個人決勝）
- 第17条 褒 賞

## **付則 11 ポニーライダー規程**

**177**

### **第1章 緒 言**

- 第1条 概 要
- 第2条 諸規程の優先性

### **第2章 ポニーライダーとポニーの定義**

- 第3条 ポニーライダー
- 第4条 ポニーの定義

### **第3章 国際競技会と選手権大会**

- 第5条 国際競技会
- 第6条 大陸選手権大会
- 第7条 国際競技会と選手権大会への出場資格
- 第8条 経費と特典
- 第9条 褒 賞
- 第10条 ポニーのスクーリング
- 第11条 役 員
- 第12条 パスポート
- 第13条 ポニーの体高測定
- 第14条 実施要項
- 第15条 ポニー障害馬術競技会および選手権大会規定
- 第16条 障害物
- 第17条 練習用障害物
- 第18条 速 度
- 第19条 服装と敬礼
- 第20条 ヘッドギアの脱落と顎紐の緩み
- 第21条 馬装の検査
- 第22条 大陸障害馬術選手権大会

第 23 条 選手権大会以外の競技会

## **付則 12 チルドレン競技会規程**

194

### **第 1 章 緒 言**

第 1 条 概 要

第 2 条 諸規程の優先性

### **第 2 章 出場資格**

第 3 条 チルドレンの定義

### **第 3 章 国際競技会と FEI 選手権大会**

第 4 条 競技会の種類

第 5 条 大陸選手権大会

第 6 条 国際競技会と選手権大会への出場資格

第 7 条 経費と特典

第 8 条 褒 賞

第 9 条 馬

第 10 条 役 員

第 11 条 パスポート

第 12 条 実施要項

第 13 条 チルドレン障害馬術競技会および選手権大会規定

第 14 条 障害物

第 15 条 速 度

第 16 条 基準「C」競技

第 17 条 服装と敬礼

第 18 条 馬 装

### **第 4 章 大陸および地域障害馬術選手権大会**

第 19 条 参加申込

第 20 条 出場選手の申告

第 21 条 馬の出場資格

第 22 条 競 技

第 23 条 障害物とコース

第 24 条 団体順位

第 25 条 個人順位

第 26 条 競技場審判団

第 27 条 外国人技術代表

第 28 条 獣医師代表団

第 29 条 上訴委員会

第 30 条 落 馬

第 31 条 安全性

<b>付則 13 アマチュアオーナー・カテゴリー規程</b>	<b>210</b>
第 1 条    要    件	
第 2 条    国際競技会	
第 3 条    選手権大会	
第 4 条    コースデザイナー	
第 5 条    諸施設	
<b>障害馬術競技での特定用語集</b>	<b>212</b>
<b>索引</b>	<b>214</b>



## 序 文

本障害馬術規程は、国際障害馬術競技会に関する FEI（国際馬術連盟）規則を詳細に提示するものであるが、FEI 定款や FEI 一般規程、FEI 獣医規程、その他 FEI 諸規程すべての併読が必要である。この障害馬術規程で引用されているその他の FEI 諸規程条項は以下の通り：

- (i) 第 1 条～第 99 条は FEI 定款の条項
- (ii) 第 100 条～第 199 条は FEI 一般規程の条項
- (iii) 第 200 条～第 299 条は本障害馬術規程の条項
- (iv) 第 300 条～第 399 条は障害馬術選手権および諸大会規程の条項
- (v) 第 1000 条～第 1099 条は FEI 獣医規程の条項

この障害馬術規程にあらゆる事態を想定して記載することは不可能である。予期せぬ状況、あるいは例外的な状況においては、この障害馬術規程と一般規程の趣旨をできるだけ反映させつつ、スポーツ精神に基づいて判断をするのが、しかるべき人物あるいは団体の責務である。障害馬術規程に網羅されていない事例については、可能な限り、障害馬術規程にある他の条項や他の FEI 諸規程の趣旨に添い、スポーツ精神に則って判断するべきものである。

簡潔にまとめるため、本規程の記載には男性形名詞を使用した。男女の区別なく適用するものとして解釈する。最初の文字を大文字で表記した用語は障害馬術規程の用語集、一般規程、あるいは定款にて定義を示している。

# FEI 馬スポーツ憲章

## 馬のウェルフェアのために

国際馬術連盟（FEI）は、国際的な馬スポーツに係わるすべての者が、FEI 馬スポーツ憲章を順守し、いかなる場合にも馬のウェルフェアが最優先されることに同意し、これを受け入れることを求める。馬のウェルフェアよりも、競技の勝敗または商業的な側面に重きを置くことがあってはならない。以下の要点を特に順守しなければならない。

### 1. ウェルフェア概要

#### a) 良質な管理

馬を最上の状態で管理するには厩舎設備および飼料給与が不可欠である。清潔で良質な飼葉、飼料、水が常に与えられなければならない。

#### b) トレーニング方法

馬は当該種目で求められる身体能力および技術に応じたトレーニングを受けるべきである。馬を虐待するような方法または恐怖を与える方法を用いてはならない。

#### c) 装蹄および馬装具

フットケアおよび装蹄は高い水準にななければならない。馬装具は傷害や外傷のリスクを避けるようにデザインされ、つくられていなければならない。

#### d) 輸送

輸送中は、馬の傷害やその他の健康被害に対して十分な対策がとられていなければならない。車両は安全、良好な換気、高水準の整備、常に清潔な状態で、かつ適格なドライバーが運転しなければならない。馬を正しく扱える者が、常に馬の管理のために同行していること。

#### e) 移動

すべての輸送は最新の FEI ガイドラインに則って綿密に計画され、定期的に飼料および水を給与するための休憩時間をとらなくてはならない。

### 2. 競技参加適性

#### a) 競技参加への適性と能力

競技への参加は、十分な能力を備えた競技参加適性のある馬および選手に限定されなければならない。トレーニングから競技参加までの間には、馬に適当な休養期間を与えなければならない。輸送後にも休養期間を与えるべきである。

#### b) 健康状態

競技参加適性がないと判断された馬は、競技への参加または参加の継続をすることはできない。その馬の参加適性に疑義のある場合には獣医師のアドバイスを求めること。

#### c) ドーピングと薬物

ドーピング行為および薬物の不法使用またはそれらの行為を意図することは、ウェルフェアに係わる深刻な問題であり、認められていない。いかなる獣医学的な治療であっても、治療後には競技の前に完全に回復するだけの十分な時間

が必要である。

d) 外科的処置

競技馬のウェルフェアあるいは他馬および／または選手の安全をおびやかすあらゆる外科的処置は認められていない。

e) 妊娠牝馬／出産直後の牝馬

妊娠 4 ヶ月以降または仔馬を伴っている牝馬は競技に参加させてはならない。

f) 扶助の誤用

馬に対して過剰な負担となる騎乗あるいは器具（鞭や拍車など）による過剰な扶助は認められていない。

### 3. 競技会が馬のウェルフェアを損なってはならない。

a) 競技場

馬は適当かつ安全な路面上で馬のトレーニングと競技を行わなければならない。すべての障害物および競技環境は馬の安全を考慮してデザインしなければならない。

b) 路面

馬の通行路や、トレーニングあるいは競技を行う馬場の路面はすべて、傷害を引き起こす要因を取り除いてデザイン、維持されていなければならない。

c) 異常な気象条件

馬のウェルフェアあるいは安全が確保できない気象条件の下では、競技を実施してはならない。競技参加後の馬のために、馬体を冷やす環境および設備を整えなければならない。

d) 競技会場の厩舎

馬房は安全かつ衛生的で、換気が良く、快適であり、馬の品種と性質に適応できるだけの十分な広さがなければならない。水の使える洗い場が常設されていなければならない。

### 4. 馬の人道的な扱い

a) 獣医学的治療

競技会においては常に獣医学的な専門技術が提供されるべきである。もし馬が競技中に受傷、あるいは疲弊した場合、選手は競技を中止し、獣医師の診断を受けなければならない。

b) 救急センター

必要であれば、さらなる検査および治療のために、馬は救急車で最寄りの治療施設に搬送されなければならない。受傷した馬には輸送前に最大限の手当てを施すこと。

c) 競技におけるケガ

競技中に発生した傷害については調査が行われるべきである。競技場路面の状態、競技出場の頻度、その他の危険要因について、傷害の発生を最小限に食い止めるために、注意深く調査しなければならない。

d) 安楽死

傷害が重篤なものである場合、その馬は可及的速やかに獣医師によって安楽死処置を行う必要がある。安楽死は苦痛を最小限にする人道的な方法で行われなければならない。

e) 引退

競技から引退した馬は、人道的に扱われなければならない。

## **5. 教育**

FEI は馬術スポーツに係わるすべての者が、競技馬のケアおよび管理に関する知識について、可能な限り高いレベルの教育を受けることを推進する。

馬のウェルフェアのための馬スポーツ憲章は、あらゆる意見を受け入れて、適宜改正される。新しい研究成果に注目するとともに、FEI はウェルフェアに関する研究のための助成およびサポートをいっそう促進する。

## 第1章 はじめに

### 第200条 概要

1. 障害馬術競技とは、障害物を配置したコースを用いて様々な条件のもとで馬と選手のコンビネーションが審査される競技である。この競技は飛越における馬の自由な動きやエネルギー、技能、速度、従順性、および選手のホースマンシップを具現することを目的とする。競技を統制するためには厳格かつ詳細な障害馬術規程を定めることが肝要である。
2. 選手が障害物の落下、拒止、規定タイム超過などの過失を犯した場合には減点される。競技の種類によるが、減点の最も少ない選手、あるいは走行タイムの最も早い選手、得点の最も多い選手が優勝となる。
3. 障害馬術競技の多様性が推奨される。競技やコースに変化をもたせることは選手や観客の関心を高める大切な要素であり、従って本障害馬術規程は障害馬術競技に適用される諸規程を画一化するものではあっても競技の本質を画一化するものではない。
4. 一般規程と障害馬術規程に記載の要件を遵守するという条件で、障害馬術部門ディレクターは障害馬術委員長と協議のうえ、他種の競技を許可する場合がある。各競技の詳細な競技条件は、競技会の実施要項とプログラムに明記しなければならない。FEI が競技の開催条件を承認しない限り、組織委員会は競技の実施を認められない。これらの競技を開催する諸条件は、書面にて FEI の承認が必要である。
5. 競技はすべての選手に公平でなければならない。その為には公式ビデオ記録など、利用できるあらゆる技術的支援を駆使し、FEI 諸規程に則ってその責務を遂行する FEI 役員を支援することが認められる。公式なビデオ記録が FEI 諸規程に即して認可されるには、公式成績発表後 30 分以内に競技場審判団長への提出が必要である。公式なビデオ記録とは、当該大会前に組織委員会および／または FEI に指名された代表放送局および／または認定放送局および／または選定されたビデオ収録会社が記録したビデオとする。いかなる状況下でも、その他の組織が撮影したビデオは認められない。ビデオ記録を用いて再考するかどうかは競技場審判団長の判断に任される。競技場審判団がビデオ証拠を信頼し、成績発表後に競技結果を変更する場合には、このビデオ記録に元の裁定あるいは判断が誤っていたとする確固たる証拠がなければならない。ビデオ記録は選手の走行タイムを測定する目的で使用してはならない（障害馬術規程 229.5 条参照）。ビデオの使用はいかなる場合も適用規定の範囲内とし、その使用によって現行規定を変えるものであってはならない。水濠障害については、水濠障害審判員の判断が最終である（障害馬術規程第 211 条 8 参照）。

## 6. 経 費

### 6.1 チーム監督、チーム獣医師、選手、グルーム、馬

6.1.1 シニア対象の世界選手権大会と大陸選手権大会の組織委員会は、公式チームに属するチーム監督、チーム獣医師、選手、馬、およびその馬のグルームについて、ホースインスペクション前日から競技会終了翌日までの宿泊費と食費を負担するとともに、開催国 NF 国内での船または航空機からの馬の積み降ろしと、それらへの積み込みの費用、検疫費用、関税も含め、開催国 NF の国境あるいは到着地点から競技会場までの旅費を負担しなければならない。帰路も同様とする。

6.1.2 CSIO の組織委員会は、公式チームに属するチーム監督、選手、馬、およびその馬のグルームについて、最初の公式競技前日から競技会終了翌日までの宿泊費と食費を負担しなければならない。CSIO については旅費の償還義務はない。組織委員会の裁量により、CSIO にて公式チームに加えて参加申込をした個人選手についても、上記条件の一部または全部を適用する場合がある。

6.1.3 CSIO の組織委員会は、チーム獣医師について最初の公式競技前日から競技会終了翌日までの食費を負担しなければならない。

6.1.4 組織委員会は実施要項で発表した期間以外での経費、あるいは公式チームに随行した同行者の旅費や滞在費については一切支払う義務がない。

6.1.5 FEI 諸規程に別段の定めがない限り、選手およびグルームの旅費と宿泊費、厩舎代と馬糧経費の規模を実施要項に記載する必要があり、また妥当な額の宿泊費および食費を負担しなければならない。

### 6.2 役員の経費

6.2.1 組織委員会は以下の通り、すべての役員の旅費、宿泊および食費を負担しなければならない。

#### 6.2.1.1 旅費の立替清算

役員には、渡航に要する時間や乗り継ぎなどを最小限に減らして便宜を図った旅程を提示するものとする。渡航プランについては、先ず当該役員へ提示して了解を得たうえで予約をとらなければならない。6時間以上のノンストップフライトの場合はビジネスクラスを提供しなければならない。いかなる場合でも組織委員会と役員との間で個別に渡航手配を行うことができる；例：エコノミークラスのフライト利用であれば日当を高くする。

#### 6.2.1.2 交通機関

空港とホテル間の移動手段については役員と事前に連絡をとり、適切な手配を行う。自宅から自国空港までの交通機関費用あるいは自国空港の駐車料金は、組織委員会が立替清算をしなければならない。組織委員会が到着空港／駅からホテル／競技会場までの交通機関を提供しない場合は、かかった経費の全額が当該役員に払い戻される。

#### 6.2.1.3 食事

競技会期間中はすべての役員に、（朝食に加えて）1日2回の適切な食事を提供しなければならない。組織委員会がその提供を怠った場合、審判員は1食につき25ユーロの日当追加を求めることができる。

#### 6.2.1.4 宿泊

朝食付きで3\*以上のホテル宿泊を提供するものとする。他の役員との同室は不可。

#### 6.2.1.5 技術代表を除くすべての役員に対する報酬（日当）

FEIすべての役員に対して競技会期間中は少なくとも120ユーロの日当を提供しなければならない。この諸経費に対する報酬は、該当する税金を組織委員会が支払った後の手取り額である。また職務遂行日程の他に移動日がある場合には、1日を上限として日当が加算される。

#### 6.2.1.6 技術代表に対する報酬（日当）

FEI 障害馬術競技会と選手権大会に FEI が選任した技術代表へは、競技会期間中と会場への技術代表事前訪問の期間について、少なくとも 300 ユーロの日当を提供しなければならない(マルチスポーツ大会には適用しない)。この諸経費に対する報酬は、該当する税金を組織委員会が支払った後の手取り額である。また職務遂行日程の他に移動日がある場合には、1 日を上限として日当が加算される。

#### 6.2.2 FEI 指名役員は組織委員会と協議して選任されるが、その経費は組織委員会が負担する。

#### 6.3 他の FEI 選手権大会、FEI ワールドカップ™ファイナル、FEI ネーションズカップ™ファイナル、オリンピック大会における諸経費については、これら当該競技会の規則を参照のこと。地域選手権大会と地域大会での諸経費は組織委員会の判断に任される。

7. 組織委員会が資金上の義務を果たせないのではないかと、何らかの理由により FEI が推測した場合、その該当 NF には銀行保証などの財務保証、あるいはエスクロー勘定により競技会を保証するよう求める権限がある。情報を競技会実施要項に記載し、競技会がそのような財務保証を受けているか否かを示す。競技会で賞金支払いが不履行になる可能性があるとして FEI が認識した場合、参加選手にはその所属 NF を通じて通知される。あらゆる予防措置を講じても組織委員会が FEI と選手に対して金銭的債務を果たせなくなった場合は、すべての債務が決着するまで、新たな競技会を開催することは認められず、さらに組織委員会が開催を希望する次の競技会で見込まれる賞金総額は、事前に組織委員会と当該 NF との共有口座に確保されなければならない。
8. カレンダー（一般規程第 112 条も参照）  
疑念を避けるために記すと、以下に記載（第 200 条 8）の CSI5\* と CSIO5\* 競技会関連事項はすべて CSI5\*-W と CSIO5\*-W 競技会にも適用する。

CSI5\* と CSIO5\* 競技会の日程は、競技会開催 2 年前に FEI 事務総長の承認を受けることとする；その他のハイレベル競技会すべて（一般規程付則 E に CIM として掲載されているものを除くすべての競技会）の日程は、競技会開催の前年に事務総長の承認を受けることとする。

従って、FEI カレンダーに盛り込まれる競技会については以下の受付期限を適用する：

- すべての CSI5\* と CSIO5\* 競技会の日程申請は、競技会開催 2 年前の 10 月 1 日までに FEI 事務総長の元に届かなければならない。
- その他のハイレベル競技会すべて（一般規程付則 E に CIM として掲載されていない競技会）の日程申請は、競技会開催前年の 10 月 1 日までに FEI 事務総長の元に届かなければならない。
- 上記受付期限以降に届いたハイレベル競技会の申請あるいは変更は、受付期限後申請あるいは変更とみなし、当該競技会開始の遅くとも 12 週間前までに到着した場合に限り FEI が勘案する可能性がある。
- CIM の日程申請あるいは変更は、競技会開始の 4 週間前までに FEI 事務総長の元に届かなければならない。

競技会開催 2 年前の 10 月 2 日から競技会開催 1 年前の 10 月 1 日までに遅れて届いた CSI5\* と CSIO5\* 競技会の日程申請または日程変更申請については、既に登録を行っていて、期限以降の追加申請または日程変更により影響を受け



と思われる 5\*競技会の開催 NF および／または組織委員会には、意見を述べる機会が与えられ、異議がある場合にはその理由を説明しなければならない。異議の理由を検討した後に、事務総長は追加申請あるいは日程変更を承認することがある。競技会開催 1 年前の 10 月 1 日以降に遅れて届いた CSI5\*と CSIO5\*、および他のハイレベル競技会すべての日程申請または日程変更申請には、一般規程第 112 条 7 条の手順を適用する。

関与する組織委員会が同意しない限り、CSI5\*と CSIO5\*競技会の日程は、FEI ワールドカップ ™ 西ヨーロッパリーグの大会日程と重複してはならない；CSI5\*と CSIO5\*競技会は、FEI ワールドカップ ™ 障害馬術ファイナルあるいは FEI ネーションズカップ ™ 障害馬術ファイナルと重複してはならない。シリーズの一環である競技会は、FEI ワールドカップ ™ 障害馬術ファイナルと重複あるいは一部重複してはならない。

シニア世界および大陸障害馬術選手権大会の開催前週の月曜日から全開催期間にかけては、FEI ワールドカップ ™ 競技、CSI4\*、CSIO4\*、CSI5\*あるいは CSIO5\*を選手権大会と同一の大陸で開催することは禁止されている。

オリンピック大会の障害馬術競技会前 10 日間とすべての開催日、そして終了後 7 日間は、いかなる FEI ワールドカップ ™ 競技（世界共通）も開催できない；パン-アメリカン大会の障害馬術競技会前 10 日間とすべての開催日、そして終了後 7 日間は、同一大陸でいかなる FEI ワールドカップ ™ 競技も開催できない。

世界馬術選手権大会（WEG）とオリンピック大会の障害馬術競技会、また FEI ワールドカップ ™ 障害馬術ファイナルの開催前週月曜日から全開催期間にかけては、FEI ネーションズカップ ™ 障害馬術競技会（世界共通）を開催することは禁止されている。

シニア大陸選手権大会の開催前週月曜日から全開催期間にかけては、FEI ネーションズカップ ™ 障害馬術競技会を選手権大会と同一の大陸で開催することは禁止されている。

パン-アメリカン大会障害馬術競技会の開催前週月曜日から全開催期間にかけては、FEI ネーションズカップ ™ 障害馬術競技会をアメリカで開催することは禁止されている。

アジア大会障害馬術競技会の開催前週月曜日から全開催期間にかけては、FEI ネーションズカップ ™ 障害馬術競技会をアジアで開催することは禁止されている。

## 9. 厩舎

すべての馬は大会期間中、組織委員会が提供した公式厩舎へ入らなければならない。競技場審判団の許可なく組織委員会が提供した公式厩舎ではない厩舎へ馬を移動させた場合、その馬は当該競技会から失格となる。

## 第2章 アリーナとスクーリングエリア

### 第201条 アリーナ、スクーリングエリア、練習用障害物

1. アリーナは四方を囲まれていなければならない。競技中、馬がアリーナ内にいる間はすべての出入口を物理的に閉鎖しなければならない。
2. 屋内アリーナは短辺が 25m 以上で、1,200 m<sup>2</sup>以上の広さがなければならない。屋外アリーナは短辺が 50m 以上で、4,000 m<sup>2</sup>以上の広さがなければならない。状況により FEI 障害馬術ディレクターが障害馬術委員長と協議のうえ、この規則に関する例外を認めることがある。

### 3. スクーリングエリア

組織委員会は、適正なトレーニング条件として十分な広さを持つスクーリングエリアを最低1ヶ所は提供しなければならない。少なくとも垂直障害1個と幅障害1個を用意する必要がある。またグラウンドは馬のトレーニングに適切な状態でなければならない。参加選手数が多く、また十分なスペースがある場合には障害物を追加して提供するべきである。これらの障害物はすべて通常の方法で構築し、赤と白の標旗を設置しなければならない。しかしこのような標旗に代えて、テープやペンキなどで障害物のソデあるいは支柱の上端を白色や赤色にしてもよい。

スペース的に余裕があり参加選手数が多い場合は、スクーリングエリアを別に1面設けることができる。

スクーリングエリアが一般の人々もアクセスできるようなエリアに位置している場合は、安全上の理由により、周囲に幅約1メートルのバッファゾーンを設けて、一般の人が馬と直接接触しないようにしなければならない。

### 4. 練習用障害物

組織委員会が提供した障害用資材以外のものをを用いることは禁止され、これに違反した場合は失格および／または罰金が科せられる（障害馬術規程第242条2.6と第240条2.5参照）。練習用障害物は標旗の指示方向にしか飛越してはならない。練習用障害物のいかなる部分も物理的に人が支えてはいけない。

- 4.1 グラウンドラインは障害物正面の真下、あるいは踏切側手前1.00m以内に置くことができる。障害物踏切側にグラウンドラインを置く場合には、それと同じ距離で障害物着地側にもグラウンドラインを置くことができるが、距離は1.00m以内とする。
- 4.2 高さ1.30mあるいはそれ以上の障害物では、グラウンドライン使用の有無にかかわらず、障害物踏切側に最低2本の横木を掛け金にのせて設置しなければならない。低い方の横木は常に1.30m未満の高さでなければならない。
- 4.3 もし障害物最上段にクロスバーを使う場合は、個々に落下するように設置しなければならない。横木の上端は掛け金にのせることとする。しかしクロスバー後方に水平横木を置くことはでき、その場合はクロスバー中央より少なくとも20cm高くしなければならない。
- 4.4 障害物の最上段横木は両端とも必ず掛け金にのせなければならない。もし横木を掛け金の端にのせる場合は、踏切側に近い部分ではなく着地側の方へのせなければならない。
- 4.5 障害物の高さ最大が1.40mあるいはそれ以下の競技において、練習用馬場で使用できる障害物は、進行中の競技にて使われている障害物の高さおよび幅の最大実測値から10cmを超えない範囲とする。進行中の競技に使われている障害物の高さが1.40mを超える場合は、練習用馬場で使用できる障害物の高さを1.60mまで、幅は1.80mまでとする。
- 4.6 横木が持ち上げられている場合、あるいはその片端もしくは両端が掛け金にのせられている場合に、馬を常歩で通過させることは認められない。
- 4.7 組織委員会は水濠障害を模した障害用資材を提供することができる。

## 5. ジムナスティック・トレーニング

- 5.1 選手はグラウンドに置き横木を用いてジムナスティック・トレーニングを行うことができるが、この目的に使用できる障害物の高さは1.30mまでとする。このような障害物を使用する選手は、肢たたきに関する規定に違反してはならない（障害馬術規程第243条2.1参照）。十分なスペースがあれば、ストライドなしで設置した連続障害（インアンドアウト／バウンス練習）を使ったトレーニングが許可される。このような運動には高さ1.00m以内の障害物を3個まで利用できる；障害間距離は2.50m以上、3.00m以下とする。

- 5.2 置き横木：十分なスペースがある場合は、高さ1.30m以下の垂直障害の踏切側に2.50m以上離して置き横木を用いることができる。置き横木は着地側にも置くことはできるが、速歩で飛越する場合は2.50m以上離し、駢歩通過の場合は3.00m以上離すこととする。障害物から約6.00m以上離して飛越側か着地側のいずれか、または両方に置かれた横木は置き横木とみなされないため、垂直障害およびオクサーのいずれでも使用が認められる。
- 5.3 運動とトレーニング：午前中の数時間はスチュワード1名を常駐させて、選手が運動やトレーニングを行えるよう、可能な限り準備を整える必要がある。選手は障害馬術規程第201条4、第201条5、第201条6に違反しない範囲で障害物を変えることができる。
6. 十分なスペースがあって正しい障害間距離で設置する場合に限り、コンビネーション障害の使用が認められる。障害用資材は組織委員会が用意しなければならない。  
トレーニングエリアが混んでいる場合、選手は単独障害のみ使用できる。
7. スクーリングエリアの使用中は、必ずスチュワードが監視していなければならない。

## **第 202 条 アリーナへの立ち入りと練習用障害物**

1. 選手が徒歩でアリーナへ入場できるのは、各競技前のコース下見 1 回のみであり、これにはジャンプオフのある競技も含まれる。アリーナ入場口や、目立つようアリーナ中央に「アリーナ閉鎖」を表示して、アリーナへの入場を禁止する。アリーナ内への入場が許可されるのは競技場審判団がベルを鳴らして入場の合図をした時と、「アリーナ開放」の表示がある場合である。また場内放送でのアナウンスも必要である。ただし異なるコースで 2 回走行が行われる競技では、2 回目の走行前に下見をすることができる。
2. 練習用施設が著しく限られている屋内競技会については、組織委員会が競技場審判団の合意を得た上で、時間を定めてアリーナを練習に開放することができる。
3. スクーリングエリアが不適切もしくは使用できない場合は、コースに使われていない練習用障害物をアリーナ内に 1 個設置しなければならない。その他の状況下ではいかなる競技においても、任意障害あるいは練習用障害物を設置することはできない。一部の特別競技（六段障害飛越競技やピュイッサンス競技な

ど)においては、競技場審判団の判断により、1回目あるいは2回目のジャンプオフ後に残っている選手はアリーナ内に待機していなければならないことがある。この場合、競技場審判団はアリーナ内に練習用障害物1個の設置を認めなければならない。

4. 練習用障害物は高さ 1.40 m、幅 1.60 m 以内の幅障害、あるいは高さ 1.40 m 以内の垂直障害とし、必ず赤と白の標旗を設置するが番号は付けない。この障害物の大きさは競技中に変更してはならない。この障害物の飛越試行は2回までとする。この障害物を3回以上飛越、または飛越しようと試みた選手は失格となる場合があり、加えて罰金が科せられる(障害馬術規程第 242 条 2.3 と第 240 条 2.6 参照)。

練習用障害物を間違った方向から飛越した場合は失格となる(障害馬術規程第 242 条 2.7 参照)。

選手には練習用障害物の飛越に最大 90 秒が与えられ、競技場審判団によるベルの合図でカウントが始まる。

練習用障害物における落下、拒止あるいは逃避は、飛越行為1回とみなされる。1回目の試行で拒止があり、障害物の落下もしくは移動を伴った場合は、この練習用障害物が復旧された時点で2回目かつ最終飛越を試みることができる。障害物の復旧に要した時間は90秒には含まれない。

競技場審判団は選手が練習用障害物の飛越試行を終了した後、もしくは90秒が経過した時点で競技走行開始の合図をしなくてはならない。このベルの合図後に、1回しか試行していない選手は2回目の飛越を試みてもよいが、スタートラインを正方向から45秒以内に通過しなければならない；これを怠った場合は走行タイムの計測が開始される(障害馬術規程第 203 条 1.2 参照)。

5. 競技開始前に行われるパレードの最中に選手はアリーナ内の障害物を飛越したり、飛越しようとしてはならない。この条項に違反した場合は失格となる場合がある(障害馬術規程第 242 条 2.4 参照)。
6. 入賞者は競技場審判団の許可を得て、プレス向けに障害物を1個飛越することができるが、その後の走行に使用される障害物ではないものとする。この行為は奨励されるものではない。

## 第 203 条 ベ ル

1. ベルは選手とのコミュニケーション手段である。競技場審判団メンバー1 名がベルを担当し、この使用に責任を負う。ベルは次の場合に使われる：
  - 1.1 コースの準備が終わり、選手に下見のためアリーナ入場を許可すること（障害馬術規程第 202 条 1 参照）と下見終了を伝える；
  - 1.2 スタートの合図を送り、アリーナに隣接して設置されたスコアボードのタイム表示装置、あるいはこれに代わる表示装置にて 45 秒のカウントダウンを開始する。

45 秒のカウントダウンは選手が走行開始前に使える時間を示す。予期できぬ状況が発生した場合は、競技場審判団にこの 45 秒カウントダウンを中断する権限がある。スタートの合図から人馬コンビネーションが正方向からスタートラインを通過するまでに生じた不従順などの偶発事例は減点されない（障害馬術規程第 235 条 3 参照）。しかし人馬コンビネーションが競技アリーナに入場した時点からスタートライン通過までのいかなる時点でも、落馬および／または人馬転倒があった場合は、走行開始の合図が出されていたか否かにかかわらず、同コンビネーションは当該ラウンドあるいは当該競技に出場することは認められず、しかるべくベルを鳴らす必要がある。

ベルが鳴ってから第 1 障害を飛越するまでにスタートラインを正方向から 2 回目通過した場合は、不従順とみなされる。

しかし状況に鑑み、競技場審判団はその判断でスタートを有効化せず、あるいはスタート手順を取りやめ、再度スタートの合図を行ってカウントダウンを再開する権限を有する。
  - 1.3 何らかの理由や予期せぬ事態により選手の走行を中断させるため、および中断後に走行再開の合図をする（障害馬術規程第 217 条 4 と第 233 条参照）；
  - 1.4 不従順によって落下した障害物が復旧されたことを選手に合図する（障害馬術規程第 233 条参照）；
  - 1.5 長めの合図を繰り返して、選手が失権となったことを知らせる。
2. 障害馬術規程第 233 条 2 に特段の記載がある場合を除き、選手が停止の合図に従わない場合は競技場審判団の判断により失権となる（障害馬術規程第 241 条 4.5 参照）。

3. 走行中断後に選手が走行開始のベルの合図を待たずに走行を再開し、障害物を飛越したり飛越しようとした場合、その選手は失権となる（障害馬術規程第 241 条 3.14 参照）。

## 第 204 条 コースと全長測定

1. 競技場審判団は競技開始前にコースの下見を行い、これを検証しなければならない。コースとは、乗馬した選手が競技中に正方向からスタートを切ってフィニッシュに至るまでに走行するであろう軌跡を言う。全長は馬が通常走行するライン上を短距離部分で正確に測定してメートル表示するが、カーブする箇所では特に通常の走行ラインに留意する。この通常走行するラインとは障害物の中央を通るものとする。
2. 選手権競技やオリンピック大会、FEI ワールドカップ<sup>TM</sup>、ネーションズカップ、グランプリ競技では、コースデザイナーが正確にコース全長を測定したことを競技場審判団長あるいは同団長により指名された人物が確認しなければならない。選手権大会、ファイナル、大会、すべての 5\* 競技会とともに、FEI ワールドカップ<sup>TM</sup> とネーションズカップ競技を含めてロンジン・ランキングにカウントされるすべての競技では、競技場審判団長あるいは同団長により指名された人物がコースデザイナーとともにコースを歩き、距離計を使ってコースが適正に測定されていることを確認しなければならない。例外として、障害馬術規程第 204 条 3 に記載の条件が適用される場合は、競技場審判団がタイムを変更できる。
3. 一度競技が開始されると、コースデザイナーおよび技術代表（選任されている場合）と協議のうえ、競技場審判団だけがコース全長測定に著しい誤りがあったと結論づけることができる。これは遅くとも、不従順やその他いかなる中断もなしにコースを完走した選手が 3 名出るまでとし、これら 3 選手は 45 秒のカウントダウン終了前にコース走行を始めたとみなす。そして次の選手が走行を開始する前に判断する。この場合、競技場審判団は規定タイムを変更することができる。規定タイムが延ばされた場合、この変更前にコース走行を終了している選手については、その変更に従ってスコアを修正する。規定タイムの短縮は、既に走行を終了している選手が規定タイムの変更によりタイム減点を受けることがない範囲でのみ可能である。
4. フットィング状態が悪化した場合、当該競技の最初の選手がスタートする前であれば、競技場審判団は実施要項に記載された規定速度を変更できる。

5. メートル表示のコース全長は、競技に使用される障害物総数×60 を超えてはならない。
6. スタートラインとフィニッシュラインは、第1障害および最終障害から6m～15m以内の距離で設置しなければならない。これらのラインは両方とも、全面赤の標旗を右側に、全面白の標旗を左側に設置しなければならない。スタートラインとフィニッシュラインには「S」（＝スタート）と「F」（＝フィニッシュ）の文字を書いたマーカーも設置しなければならない。

## 第205条 コースプラン

1. コースデザイナーは、コース詳細をすべて正確に示したコースプランのコピーを競技場審判団へ渡さなければならない。競技場審判団に渡されたコースプランのコピーを、各競技開始の遅くとも30分前までにアリーナ入場口にできるだけ近い場所へ掲示しなければならない。すべての競技会において、コースデザイナーが測定したコース全長は、事前に掲示されるコースプランに記載しなければならない。
2. 障害馬術規程に定める特定競技の場合を除き、障害物は飛越順序に従って番号を付けなければならない。
3. コンビネーション障害に付ける番号は1つとする。競技場審判団と選手に分かりやすくするため、コンビネーションの各障害物にこの番号を繰り返し表示できる。その場合は区別するために文字を加える（例：8A、8B、8Cなど）。
4. コースプランには以下の項目記載が必要である：
  - 4.1 スタートラインとフィニッシュラインの位置。別段の記載がない限り、走行中にこれらのラインを再度通過しても減点対象とならない；
  - 4.2 障害物の相対的な位置、障害物の種類（幅障害、垂直障害、トリプルバー）、障害物に表示される通し番号と文字表示；
  - 4.3 左側に白標旗、右側に赤標旗で表示した回転義務地点；
  - 4.4 選手が通過すべきコースを継続したラインで示したり（この場合、選手は正確にこのコースを通らなければならない）、矢印で各障害物の飛越方向を示す（この場合、選手はコースを自由に選択できる）。制限のないコースに回転義務地点を指定する場合は、同一プラン上に継続したラインと矢印で示さなければならない；



- 4.5 使用するペナルティー覧；
- 4.6 競技での走行速度（適用する場合）；
- 4.7 コース全長；
- 4.8 規定タイムと制限タイム（ある場合）；または障害馬術規程に定める特定競技では指定タイム；
- 4.9 ジャンプオフに使用される障害物、コース全長、規定タイム、制限タイム；
- 4.10 完全閉鎖もしくは一部閉鎖とみなされるコンビネーション障害（障害馬術規程第 214 条参照）；
- 4.11 コースに関する競技場審判団の決定および／または変更事項。

## **第 206 条 コースの修正**

1. 状況によりやむを得ず、既に掲示されたコースプランを修正する必要がある場合は、競技場審判団の合意をもってのみ変更できる。この場合、各チーム監督と個人選手全員へ変更事項の伝達が必要である。
2. 一度競技が開始された後は障害馬術規程に別段の記載がない限り、その競技の開催条件を修正したり、コースや障害物を変更してはならない（第 204 条 3 参照）。競技を中断する必要がある場合（激しい雷雨や照明の不備など）は、同じ障害物とコースを使い、できるだけ同じ条件下で中断した段階から競技を続行しなければならない。しかしネーションズカップについては障害馬術規程第 264 条 3.6 を適用する。
3. 上記 2.にかかわらず、競技場審判団の意見により状況の悪化あるいは他の異例な状況により必要と判断された場合は、ラウンド中もしくはラウンドとラウンドの合間に障害物の位置を移動させることができる。水濠障害や乾壕、固定障害のように移動できない障害物の場合はコースから外す。障害物がラウンド中にコースから外された場合は、変更以前に走行を終了している選手で当該障害にて減点があった選手については、障害減点やそれに伴うタイム修正を取り消し、スコアを調整しなければならない。しかし、既に発生した失権とタイム減点はすべてそのままとする。

4. 上記 3.により変更されたコースについて、必要であれば規定タイムと制限タイムを新たに設定する。

## 第 207 条 標 旗

1. 全面赤と全面白の標旗を用いて、次のようなコース詳細を示さなければならない：
  - 1.1 スタートライン；「S」と記したマーカーも設置しなければならない（障害馬術規程第 204 条 6 参照）；
  - 1.2 障害物の限界；標旗は障害物の支柱のどの部分に装着してもよい。また標旗を単独で立てても構わない。垂直障害については赤旗と白旗を 1 本ずつ設置し、幅障害の限界を示すには少なくとも 2 本ずつの赤旗と白旗を設置しなければならない。これらの標旗はスクーリングエリアに提供される障害物（障害馬術規程第 201 条 3）、あるいはアリーナ内の練習用障害物（障害馬術規程第 202 条 3）の限界を示すためにも使用しなければならない；スクーリングエリアでは、標旗の代わりに上端が赤色あるいは白色の障害物のソデ／支柱を使用してもよい；
  - 1.3 回転義務地点；
  - 1.4 フィニッシュライン；「F」と記したマーカーも設置しなければならない（障害馬術規程第 204 条 6）。
2. 障害物、スタートライン、フィニッシュライン、回転義務地点において、選手は必ず標旗の間を（赤旗を右手に、白旗を左手に見て）通過しなければならない。水濠障害着地側の限界を示す標旗のポールは、砕けたり割れたりせず、またこれに当たった時には曲がるような素材で作る必要がある；標旗には尖った先端や角があってはならない。
3. 選手が標旗間を正しく通過しなかった場合は、戻って正しく通過してから走行を続行しなくてはならない。修正を行わなかった場合は失権となる（障害馬術規程第 220 条 2 参照）。
4. アリーナ内で標旗を転倒させても減点にはならない。障害物や回転義務地点、フィニッシュラインの限界を示す標旗を不従順や反抗によって（これらのラインを通過せずに）転倒させたり、予期せぬ事情により倒れた場合は、標旗の再設置を直ぐには行わない；選手は走行を継続しなければならず、障害物／回転義務地点は標旗が元の位置にあるものとして審査が行われる。この標旗は次の選手にスタートの合図を出す前に再設置しなければならない。

5. しかしながら、水濠障害や自然障害の限界を示す標旗が不従順や予期せぬ事情により転倒し、この標旗の転倒によって障害物の性質が変わってしまった場合には、競技場審判団が当該選手の走行を中断させる。標旗が再設置される間は時計を止め、障害馬術規程第 232 条の手順に従ってタイム修正の 6 秒を適用する。
6. 特定の競技では、スタートラインとフィニッシュラインを両方向から通過する場合がある。この場合は 4 本の標旗を使用し、赤旗 1 本と白旗 1 本をラインの各々の端に設置する。

### 第3章 障害物

#### 第 208 条 障害物 – 概略

1. 障害物は全体の形状と外観が魅力に溢れ、変化に富み、周囲の環境によく合ったものでなければならない。障害物自体、およびこれを構成する各々のパーツも落下し得るものでなければならず、かつ軽すぎてわずかな接触でも落下するものであったり、重過ぎて馬の転倒や怪我を誘引するものであってはならない。
2. 障害物はホースマンシップと公平性を念頭においてデザインしなければならない。
3. スポンサーつき障害物とは、標旗間に広告やスポンサー製品、またはそれを表現するような描写がある障害物のことを言う。障害物のソデに表示された広告あるいは製品描写の面積が  $0.5\text{m}^2$  を超える場合も、スポンサーつき障害物とみなされる。障害物のソデに  $0.5\text{m}^2$  以内の面積で広告が表示されている場合は、スポンサーつき障害物とみなさない。

FEI 世界および大陸選手権大会、FEI ワールドカップ™ファイナル、FEI ネーションズカップ™ファイナル、および FEI が指定する他の競技会や競技では、飛越回数総数の 30%（切り上げで整数とする）までスポンサーつき障害物とすることができる。技術代表は安全性と技術的適性の観点から、すべての障害物のデザインと構造を承認しなければならない。

スポンサーつき障害物の飛越回数は、障害馬術委員長および FEI コマーシャル部門ディレクター、FEI 障害馬術部門ディレクターの合意を得て 50%にまで増やすことができる。スポンサーつき障害物飛越回数の 25%追加については FEI 障害馬術委員会の承認待ちだが、この数字は 75%に増える可能性がある。
4. 一般規程第 102 条 6 に則って区分けされた競技会の範疇で行われるいかなる競技でも、第 1 ラウンドでの障害物の高さは：

- (i) CSI1\*競技会では 1.40m まで；
- (ii) CSI2\*競技会では 1.45m までとする。実施要項で高さを 1.45m と記載している競技では、競技に使用する障害物の高さをコースデザイナーの判断で記載より 3cm を限度として高くできる。

上記条項は六段障害飛越競技とピュイッサンス競技には適用しない。

- 5. 六段障害飛越競技、ピュイッサンス競技、パワーアンドスキル競技を除いては、いかなる場合も障害物の高さが 1.70m を超えてはならない。幅障害は 2.00m を超えるものであってはならないが、例外としてトリプルバー（三段横木）の最大幅は 2.20m とする。この制限は 1 回あるいは数回のジャンプオフにも適用する。水濠障害の奥行は、踏切部分を含めて 4.50m を超えてはならない。
- 6. 横木とその他の障害物構成パーツは、掛け金（カップ）で支えるものとする。横木は掛け金の上で回転し得る状態になければならない；この場合、掛け金の深さは 18mm 以上、30mm 以内とする。プランク、欄干、障壁、ゲートなどの掛け金については、通常の掛け金よりも開いているか、あるいは平らなものでなければならない。
- 7. この障害馬術規程と最終実施要項に記載された障害物の高さとの制限は、細心の注意を払って遵守しなければならない。しかし、障害物に使われている材料や設置された場所によって規定の大きさを多少超えるような場合は、規定の上限を超えたとはみなされないが、使用可能な材料を用いて実施要項に記載されている大きさの上限を超えないよう、最大限の努力を払っていることを条件とする。実施要項で高さ最大を 1.45m あるいはそれ以上と記載している競技では、競技に使用する障害物の高さをコースデザイナーの判断で要項記載の高さより 3cm を限度として高くできる。
- 8. 本障害馬術規程に明記されたもの以外で競技に使われる障害物については、実施要項に明示しなければならない。

## **第 209 条 垂直障害**

- 1. その構造のいかなを問わず、同一垂直面で過失が判定される場合にのみ、垂直障害と称することができる。

## **第 210 条 幅障害**

- 1. 幅障害は高さとの両方で飛越に努力を要するよう造られた障害物である。幅障害の奥の横木や、トリプルバーの中央と奥の横木には掛け金として FEI 認可

のセイフティーカップを使用しなければならない。競技アリーナおよびスクーリングエリアでは認可されたセイフティーカップの使用が義務づけられる。

2. セイフティーカップに関する規則の遵守については競技場審判団長が責任を負う。外国人審判員はこれに関わるあらゆる規則違反を FEI へ報告する。競技会で使用される FEI 認可のセイフティーカップ業者の名称を実施要項に記載する。

## **第 211 条 水濠障害、垂直障害を伴った水濠障害、およびリバプール**

1. 障害物を水濠障害と称するには水濠の手前、中間、着地側にいかなる障害物も設置してはならない。水濠障害の奥行は 2.00m 以上とし、掘り下げる必要がある。水濠障害設営の詳細については付則 7 を参照のこと。  
水濠障害が付則 7 に記載の規格を満たさない場合は、障害馬術規程第 211 条 10 に記載されている通り、垂直障害を水濠の上に設置しなければならない。
2. 踏切側には高さが 40cm 以上、50cm 以下の踏切（生垣、小さい壁）を設置しなければならない。水濠障害正面の幅は奥行より 30%以上広くなければならない。
3. オリンピック大会、地域大会、FEI 選手権大会、CSIO、CSI では、厚さ約 1cm で対比色のプラスティシオンで覆った幅 6cm 以上、8cm 以内の着地板で水濠障害の着地側限界を明示しなければならない。このプラスティシオンは馬が踏んだときにはその都度、取り替える。馬が跡を残したときにはいつでも取り替えられるよう、予備の着地板とともにプラスティシオンを幾つか準備しておく必要がある。着地板は水際の地面に正しく固定しなければならない；競技場審判団によるコース視察時には、着地板の全長が水に接している状態でなければならない。
4. 水濠障害の底がコンクリートや硬い素材でできている場合は、ヤシ製あるいはゴム製マットのような柔らかい素材で覆わなければならない。
5. 水濠障害での過失は次の通り：
  - 5.1 水濠障害の限界を示す着地板に馬の 1 蹄またはそれ以上の蹄がのった場合。  
蹄または蹄鉄が着地板に接触して跡を残した場合は過失である；球節あるいはブーツの跡は過失とならない。
  - 5.2 馬の 1 蹄またはそれ以上の蹄が着水した場合。

6. 生垣や踏切部分にぶつかったり、これを転倒または移動させても過失とはならない。
7. もし 4 本の標旗のうち 1 本を落下または移動させた場合は、水濠障害審判員が標旗のどちら側を馬が通過したか見極めて、それが逃避にあたるか否かを判断する。逃避と判断した場合はベルを鳴らし、落下または移動した標旗が復旧されるまで計時を止め、障害馬術規程第 232 条に則って 6 秒を加算する。
8. 水濠障害審判員の決定は最終的なものである。このため水濠障害審判員は競技場審判団メンバーでなければならない。
9. 水濠障害審判員は、水濠障害で減点のあった馬の個体識別番号と減点理由を記録しなければならない。
10. オープン水濠障害の上には高さ 1.50m までの垂直障害のみ設置でき、これに使用する横木の数に制限はないが、FEI 認可のセーフティーカップを使用する。垂直障害はこの水濠障害正面から 2.00m 以内に設置することとする。この障害物は水濠障害ではなく垂直障害として審査される。その為、限界を指定する着地板やその他の措置を講じる必要はない。着地板が使用されている場合は視覚的補助と考え、これに何らかの跡が残っても減点とはならない。踏切側の障害構成パーツが移動した場合でも同様に判断する。水濠障害の上に設置する垂直障害には、長さ 3.50m 以上の横木のみ使用できる。
11. 第 211 条 10 の例外として、障害物の下、手前あるいは背後に水を用いる場合（いわゆる「リバプール」）、（水の部分を含めた）障害物の奥行きは 2.00m 以内とし、奥行き 2.00m を超えるオープンウォーターはリバプールとして使用できない。
12. 投光照明のもとで行われる競技で水濠障害を使用できるか否かは、技術代表、もしくは技術代表が不在の場合は外国人審判員の判断に任される。
13. コースデザイナーと技術代表が照明の状態に鑑みて安全でないとする場合を除き、オリンピック大会と FEI シニア選手権大会では、大会／選手権大会の公式競技に水濠障害を 2 回以上、3 回を限度として使用しなければならない。どの競技に水濠障害を使用するかはコースデザイナーの判断で決定する。

## 第 212 条 コンビネーション障害

1. ダブル、トリプルもしくはそれ以上のコンビネーション障害とは、2 個あるいはそれ以上の障害物の集合を意味し、各障害間距離は 7m～12m として（ただし、基準 C 採用のハンディング競技やスピードアンドハンディネス競技の場合、および障害間距離が 7m 未満の固定障害を除く）、2 回以上の連続飛越を必要とするものである。障害間距離は、着地側の障害物基底部から次の障害物の踏切側基底部までを測定する。
2. コンビネーション障害では、いかなる障害物も周回することなく、各障害物を別々に、かつ連続して飛越しなければならない。コンビネーション障害のどの障害物における過失も個々に減点される。
3. 拒止や逃避があった場合、選手はそのコンビネーション障害が完全閉鎖か一部閉鎖（障害馬術規程第 214 条参照）、あるいは六段障害飛越競技かオブスタクル・イン・ライン競技でない限り、このコンビネーション障害をすべて再飛越しなければならない。
4. コンビネーション障害を構成する各障害物における過失と再飛越の際の過失は個々に減点され、合算される。
5. コンビネーション障害では、トリプルバーは最初の障害物にのみ使用することができる：

## 第 213 条 バンク、堆土、傾斜路

1. 障害馬術規程第 213 条 2 に記載の場合を除き、バンク、堆土、傾斜路、サンカンロードはそれに障害物が設けられていてもいなくても、また飛越方向がどちらからであってもコンビネーション障害とみなされる（障害馬術規程第 212 条参照）。
2. 障害物が設置されていないか、あるいは 1 本か数本の横木のみがその上に設置されているバンクや堆土は、1 回で飛越しても良い。この方法で飛越しても減点対象とならない。
3. 高さ 1m 以内のテーブルバンクを除き、バンクや堆土、サンカンロード、崖錘、スロープ、傾斜路を屋内競技会に使用してはならない。

## **第 214 条 閉鎖コンビネーション障害、一部閉鎖コンビネーション障害、および一部開放コンビネーション障害**

1. 四方を囲まれており、飛越以外には通過の方法がない場合には、このコンビネーション障害を完全閉鎖障害とみなす。
2. 閉鎖コンビネーション障害とは出入りのできる羊用囲い（四角形または六角形）、もしくはこれに類似するもので、競技場審判団が閉鎖コンビネーション障害と判断したものとする。コンビネーション障害の一部が開放でもう一方が閉鎖である場合は、一部開放かつ一部閉鎖とみなす。拒止や逃避が生じた場合は次の要領で対処する（障害馬術規程第 219 条参照）：
  - 2.1 閉鎖部分で不従順が生じた場合、選手はコースの表示方向へ飛越して出なければならない；
  - 2.2 開放部分で不従順が生じた場合、選手はそのコンビネーション障害のすべてを再飛越しなければならない。これを怠った場合は失権となる（障害馬術規程第 241 条 3.15 参照）。
3. 競技場審判団は競技前にコンビネーション障害を閉鎖とするか一部閉鎖とするかを決定しなければならない。この決定はコースプランに示さなければならない。
4. コースプランにコンビネーション障害が閉鎖か一部閉鎖なのか明記されていない場合は、開放コンビネーション障害とみなし、しかるべく審査される。

## **第 215 条 選択障害とジョーカー**

1. 競技でコース上の 2 つの障害物に同一番号が付けられている場合は、選手はいずれの障害物を飛越するか選択できる：
  - 1.1 障害物の落下や移動を伴わずに拒止や逃避が生じた場合は、次の試行に際して選手は拒止あるいは逃避のあった障害物を飛越する義務はない。飛越する障害物を選択できる；
  - 1.2 障害物の落下や移動を伴う拒止や逃避が生じた場合は、その落下あるいは移



動した障害物が復旧され、競技場審判団がスタートの合図を出すのを待って、選手は走行を再開しなければならない。飛越する障害物を選択できる。

2. 選択障害の各々に赤色と白色の標旗を設置する必要がある。
3. ジョーカーは難しい障害物であり、ホースマンシップと公平性を念頭においてデザインしなければならない。これはアキュムレーター競技かトップスコア競技でのみ使用できる。

## **第4章 走行中のペナルティ**

### **第216条 ペナルティ－概略**

走行中に次のような事例にはペナルティが発生する：

1. 障害物の落下（障害馬術規程第 217 条参照）と水濠障害における馬の肢の着水、もしくは水濠障害限界を示す着地板に肢もしくは蹄鉄の跡が残った場合；
2. 不従順、（拒止、逃避、あるいは反抗）（障害馬術規程第 219 条参照）；
3. コースからの逸脱（障害馬術規程第 220 条参照）；
4. 人馬転倒および／または落馬（障害馬術規程第 224 条参照）；
5. 許可のない援助（障害馬術規程第 225 条参照）；
6. 規定タイムあるいは制限タイムの超過（障害馬術規程第 227 条と第 228 条参照）。

### **第217条 障害物の落下**

1. 馬または選手の過失により、次のようなことが発生した場合は障害物の落下とみなされる：
  - 1.1 障害物全体あるいは同一垂直面上で上のパーツが落下したものの、落下したパーツが他のパーツに引っかかって落ちなかった場合（障害馬術規程第 218 条 1 参照）；
  - 1.2 少なくとも障害物の片側が掛け金のいかなる部分からも外れている場合。
2. 飛越方向を問わず、飛越中に障害物の一部や標旗に接触したり、これを移動させてしまっても、障害物の落下とはみなされない。疑念がある場合は、競技場審判団が選手に有利となるよう判断するべきである。不従順による障害物およ

び／または標旗の落下や移動は、拒止としてのみ減点される。

不従順の結果、障害物（標旗の場合を除く）の移動が発生した場合はベルを鳴らし、復旧される間は時計を止める。この場合は落下とみなされず、不従順でのみ減点され、障害馬術規程第 232 条に則ってタイム修正される。

3. 障害物の落下に対する減点は、基準 A と基準 C に記載の通り（障害馬術規程第 236 条と第 239 条参照）。
4. 落下した障害物の一部が他の障害物を飛越する際に妨げとなる場合はベルを鳴らし、これを除去してコース走行が可能となるまで時計を止める。
5. 適正に復旧されなかった障害物を選手が正しく飛越した場合は減点とならない；しかしこの障害物を落下させた場合は、競技で採用されている基準に従って減点される。

#### **第 218 条 垂直障害と幅障害**

1. 垂直障害もしくは障害物の一部が 2 つ以上のパーツで構成されており、これらが同一垂直面上で積み上げられている場合は、最上部が落下した時にのみ減点される。
2. 1 回の飛越で通過しなければならない幅障害が、同一垂直面上に位置しない複数のパーツで構築されている場合は、落下したパーツの個数や位置に関わりなく最上段にある 1 個か複数個のパーツが落下した場合にのみ 1 過失としてカウントされる。障害物の空間をうめる目的で使われる木や生垣は、減点対象とならない。

#### **第 219 条 不従順**

1. 次に述べる行為は不従順とみなされ、減点となる（障害馬術規程第 236 条と第 239 条参照）：
  - 1.1 拒止；
  - 1.2 逃避；
  - 1.3 反抗；
  - 1.4 コースのいかなる場所であれ、またいかなる理由があろうと、巻乗りと思われるもの、もしくは連続巻乗りを行った場合。コース上で要求されていない限り、直前に飛越した障害物の周囲を回るのも不従順である。

2. 上記の記載にかかわらず、次に述べる行為は不従順とみなされない：
- 2.1 逃避や拒止の後に、（障害物が復旧されているか否かにかかわらず）飛越態勢に入るために行う 45 秒以内の巻乗り。

## **第 220 条 コースからの逸脱**

1. 選手が次のような走行を行った場合はコースからの逸脱とみなされる：
  - 1.1 発表されたコースプラン通りの走行をしなかった場合；
  - 1.2 スタートラインやフィニッシュラインの標旗間を正方向から通過しなかった場合（障害馬術規程第 241 条 3.6 と第 241 条 3.17 参照）；
  - 1.3 回転義務地点を通らなかった場合（障害馬術規程第 241 条 3.7 参照）；
  - 1.4 一部の特別競技を除いて、指定された順序あるいは方向へ障害物を飛越しなかった場合（障害馬術規程第 241 条 3.10 と第 241 条 3.11 参照）；
  - 1.5 コースの一部ではない障害物を飛越したり飛越しようとした場合、あるいはこれを抜かした場合。コースに含まれない障害物は閉鎖されるべきであるが、仮にアリーナ関係者がこれを閉鎖していなかった場合でも、コースの一部でない障害物を飛越した選手は失権となる。
2. コースからの逸脱を修正しない場合、その人馬コンビネーションは失権となる（障害馬術規程第 241 条 3.6、第 241 条 3.7、第 241 条 3.17 参照）。

## **第 221 条 拒 止**

1. 飛越しなければならない障害物の前で馬が止まった場合は、障害物が落下もしくは移動する、しないにかかわらず拒止とみなされる。
2. 障害物の手前で止まっても、後退したり障害物を倒したりせず、直ちにその場から障害物を飛越した場合は減点されない。
3. この停止が長引いて、馬が自発的にであろうとなかろうと 1 歩でも後退した場合は拒止とみなされる。
4. 馬が滑り込みながらも障害物を押し倒して通り過ぎた場合、ベル担当の審判員はこれが拒止か障害物の落下かを速やかに判断しなければならない。当該審判員が拒止と判断した場合は直ちにベルを鳴らし、選手は障害物が復旧された時

に速やかに再試行できるよう準備しなければならない(障害馬術規程第 232 条と第 233 条参照)。

- 4.1 審判員が拒止とみなさなかった場合はベルを鳴らさず、選手は走行を継続しなければならない。選手は障害物の落下で減点される。
- 4.2 コンビネーション障害では、ベルが鳴った後にコンビネーションの別の障害物を飛越しても失権の対象とならず、またその障害物を落下させたとしても減点されない。

## **第 222 条 逃 避**

1. 馬が選手のコントロールから逃れ、飛越しなければならない障害物や、通過しなければならない回転義務地点を避けた場合は逃避とみなされる。
2. 馬が 2 本の赤標旗、あるいは 2 本の白標旗の間を飛越した場合は、障害物を正しく飛越したとみなされず、選手は逃避で減点され、再度、障害物を正しく飛越しなければならない。
3. 飛越しようとしている障害物、コンビネーションの一部、フィニッシュライン、もしくは回転義務地点の延長線上を馬体全体、あるいはその一部が通過した場合は逃避とみなされ、しかるべく減点される。

## **第 223 条 反 抗**

1. 馬が前進を拒んだり、何らかの理由で止まったり、1 回もしくは数回にわたって多少なりとも半回転をしたり、もしくは理由を問わず後肢で立ち上がったり後退した場合は反抗とみなされる。
2. 障害物が正しく復旧されていない場合や予期せぬ状況を競技場審判団へ知らせる場合を除き、いかなる時、あるいは理由であれ、選手が馬を止めた場合は反抗となる(障害馬術規程第 233 条 3.2 参照)。障害馬術規程第 241 条 3.4 に記載の状況を除き、反抗は拒止として減点される。

## **第 224 条 落馬および人馬転倒**

1. 選手の意思の有無にかかわらず、選手の身体が転倒していない馬体から離れて地面に接触するか、あるいは鞍上に戻るためには何らかの支えまたは外部からの援助が必要となった場合は、落馬とみなされる。  
落馬しないよう選手が何らかの形で体を支えたり、外部から援助を受けたことが明白でない場合は、選手に有利なように計らう。

2. 馬の肩と後躯がともに地面に着いている、あるいは障害物と地面に着いた場合は、転倒とみなされる。
3. いかなる時点でも競技アリーナ、練習馬場、あるいは競技会場内のその他の場所で選手の落馬／人馬転倒があった場合、その選手および／または馬は各々、競技会メディカルサービスや獣医師代表から許可を受けなければ、当該競技会で次のラウンドあるいは次の競技に出場できない。

## **第 225 条 許可のない援助**

1. スタートラインを正方向に通過してから最終障害飛越後にフィニッシュラインを通過するまでの間、選手や馬を助ける目的で行われた第三者による物理的介入は、援助の依頼があったかどうかにかかわらず許可なき援助とみなされる。
2. 例外的に競技場審判団は選手が徒歩でアリーナへ入場したり、人から援助を受けることを認め、許可なき援助とみなさないことがある。
3. 走行中に馬上の選手に対して馬装や頭絡の調整を支援したり、もしくは鞭を手渡す行為は当該選手の失権となる。走行中に馬上の選手にヘッドギアおよび／または眼鏡を手渡すことは許可なき援助とみなされない（障害馬術規程第 241 条 3.20 参照）。
4. FEI 障害馬術競技においてはイヤフォンおよび／または他の電子通信機器の使用は厳格に禁止され、そのような機器を用いた場合は失権となる。疑義を避けるために記すと、選手、グroomsあるいはその他の人物は、アリーナを除けば片耳にイヤフォンを装着することはできる（障害馬術規程第 256 条 1.10 参照）。

## **第 5 章 タイムと速度**

### **第 226 条 走行タイム**

1. 走行タイムとは選手がコースを完走し終わるまでの時間と、タイム修正（障害馬術規程第 232 条参照）がある場合はこれを加算した時間であり、1/100 秒まで記録する。走行タイムは第 226 条 2 に記載されているようにスタートラインを通過した時点、あるいは 45 秒のカウントダウンが終了した時点（障害馬術規程第 203 条 1.2 参照）のいずれか早い方で計測開始となる。最終障害を飛越後、選手が騎乗した状態でフィニッシュラインを正しい方向から通過する時点まで計測する。

2. 走行は、選手が騎乗している状態でベルの合図後にスタートラインを正方向から初めて通過した時点で始まる。この走行は最終障害を飛越後、選手が騎乗した状態でフィニッシュラインを正方向から通過する時点までとする。
3. 選手にはっきり見えるディスプレイで 45 秒のカウントダウンを表示しなければならない。

## **第 227 条 規定タイム**

1. 各競技における走行の規定タイムは、障害馬術規程第 234 条と付則 2 に定めるコース全長と速度に対応して決定される。

## **第 228 条 制限タイム**

1. 規定タイムが設定されているすべての競技において、その制限タイムは規定タイムの 2 倍とする。

## **第 229 条 計 時**

1. 競技会ではどの競技でも同じ計時システムを使うか、あるいは同一タイプの計時器を使用しなければならない。状況によって FEI 障害馬術部門ディレクターが例外を認めた場合を除き、オリンピック大会、地域大会、FEI 選手権大会、FEI ワールドカップ<sup>TM</sup>ファイナル、CSIO、CSI では、FEI 承認計時器の使用が義務づけられている。いかなる場合もタイムキーパーが馬番号と走行に要した時間を電子計時システムを使用して記録しなければならない。タイムは 1/100 秒まで記録しなければならない。
2. 電子計時システムが故障した時に備えて、2 個のデジタル・ストップウォッチを用意し、またもう 1 つを不従順でベルが鳴らされてから走行再開までの時間や中断、連続している 2 個の障害間の所要時間、反抗の制限タイムを計測するために用いる。競技場審判団長あるいは審判団メンバー 1 名は、デジタル・ストップウォッチを持たなければならない。
3. ストップウォッチを使用して時間を計測する競技では、時間の記録を 1/100 秒まで行う。タイムキーパーが 2 名配置されている場合は 1 名の測定時間のみを公式計時とみなし、2 人目の測定時間はバックアップとして用いる。
4. 電子計時器が故障した場合、これにより影響を受けた選手のタイムはストップウォッチで 1/100 秒まで測定する。（詳細については付則 4 を参照。）

5. 選手の走行タイムの確定にビデオ記録は使用しない。
6. 選手のスタートラインおよび／またはフィニッシュライン通過が競技場審判団席からはっきり判断できない場合は、スタートラインとフィニッシュラインに各々役員を1名配置するなど、1～2名の役員を配置して選手の通過を旗で合図させなければならない。選手が走行を完了するのに要した時間は競技場審判団席にて記録する。

### **第 230 条 計時の中断**

1. 計時が中断されている間、選手はベルの合図で走行の再開が許可されるまで自由にアリーナ内を移動することができる。

時計が止められた地点に選手が戻った時点で、時計が再スタートされる。例外として、不従順による障害物の落下や移動があった場合は障害馬術規程第 232 条が適用される。

2. 計時の開始と停止の責務は、唯一、ベル担当の審判員が負う。使用される計時器はこの操作が可能なものでなければならない。タイムキーパーはこの性能に責任を負う必要はない。
3. 電子計時システムは選手の走行タイムを記録するばかりでなく、タイム修正があればこれも含めなければならない。

### **第 231 条 計時中断中の不従順**

1. 走行タイムの計測中断は、障害馬術規程第 232 条と第 233 条の条項に従うこととする。コースからの逸脱、逃避、あるいは拒止の場合は時計を止めない。
2. 計時中断中の不従順は減点されないが、障害物の落下を伴う拒止の後に 2 回目の拒止があった場合を除く。
3. 失権に関する条項は計時を中断している間も有効である。

### **第 232 条 タイム修正**

1. 不従順の結果、選手がいかなる障害物であっても移動させたり落下させた場合、あるいは水濺障害や自然障害の限界を示す標旗を移動させたり落下させた場合、もしくは標旗の落下によって障害物の性質が変わってしまった場合はベルが鳴らされ、障害物が再構築されるまで時計が止められる。障害物が再構築さ

れた段階でベルが鳴らされ、コースの準備ができて選手は走行を継続できる旨を知らせる。選手は拒止に対して減点され、走行終了に要した時間に 6 秒のタイム修正が加算される。拒止があった障害物地点で、馬が地面を離れた瞬間に時計が再スタートとなる。落下を伴う不従順がコンビネーションの 2 つ目以降の障害物で発生した場合には、当該コンビネーションの最初の障害物の踏切で馬が地面を離れた時に時計が再スタートとなる。

### **第 233 条 走行中の停止**

1. 何らかの理由や予期せぬ事態により選手が走行を継続できない場合は、ベルを鳴らして選手の走行を止めるべきである。選手が停止しようとしていることが明らかになった段階で直ちに時計を止める。コースの準備ができた段階でベルを鳴らし、選手が走行を停止した地点に戻った時に時計を再開させる；減点はなく、当該選手の走行時間に 6 秒の加算もない。
2. 選手がベルを鳴らされても走行を停止しない場合は本人の責任にて競技を継続することとなり、時計を止めない。競技場審判団は、その選手が指示を無視して走行を停止しなかったことで失権とするか、状況によって走行の続行を許可するかを決定しなければならない。選手が失権とされずに走行の続行を認められた場合は、停止の指示が出される前と後の障害物スコアがカウントされる。
3. 飛越する障害物が正しく構築されていない旨を競技場審判団に伝えるために選手が自ら走行を停止した場合や、予期せぬ事態により選手が不可抗力で通常の状況下では走行を継続できなくなった場合などは、直ちに時計を停止しなければならない。
  - 3.1 もしその障害物の寸法が正しく、また正確に復旧されており、あるいは予期せぬ事態との申し立てを競技場審判団が認めなかった場合、当該選手は走行中の停止で減点され（障害馬術規程第 223 条 1 参照）、走行タイムに 6 秒が加算される。
  - 3.2 もし障害物や障害物の一部が再構築を要する状態であったり、予期せぬ事態が競技場審判団により認められた場合、選手は減点されない。中断した時間は差し引かれ、選手が走行を中断した地点に戻るまで時計が止められる。このような場合に選手の対応が遅れても、その遅れは斟酌され、妥当と思われる秒数が同選手の記録タイムから差し引かれる。

### **第 234 条 速 度**

1. 国際競技における速度は次の通り：
  - 1.1 分速 350m 以上、400m 以下。屋内アリーナでは速度を分速 325m まで落としてもよい；実施要項に記載すれば、屋外アリーナでも速度を分速 325m まで落とす。



で落とすことができる。

1.2 ピュイッサンス競技／パワーアンドスキル競技：最低速度なし

1.3 グランプリ競技：屋外では分速 375m 以上で 400m 以下、屋内では分速 350m 以上。広さが 65m×85m 以下の屋外アリーナでは、分速 350m に速度を設定することができる。

1.4 ネーションズカップ：屋外の 5\*と 4\*ネーションズカップ競技では分速 400m；屋外の 3\*ネーションズカップ競技では分速 375m；2\*と 1\*のネーションズカップ競技、およびすべての屋内ネーションズカップ競技では分速 350m。

1.5 ヤングホース競技：分速 325m以上。

## 第6章 ペナルティー一覧

### 第 235 条 過失

1. スタートラインとフィニッシュラインの間で発生した過失を考慮しなければならない。

例外：最終障害の落下は、選手がアリーナから退場するまでに、もしくは次の選手に走行開始を合図するベルが鳴るまでのいずれか早い時点までに、その最上段部分が掛け金から片端あるいは両端とも落下した場合に過失とみなされる。過失の定義は障害馬術規程第 217 条と第 218 条に従う。

2. 走行が中断されている間の不従順については減点されない（障害馬術規程第 231 条 2 参照）。

3. スタートの合図が出てから選手／馬コンビネーションが正しい方向でスタートラインを通過するまでに発生した不従順は減点されない。しかし人馬コンビネーションがアリーナに入場してから、走行開始の合図後にスタートラインを正しい方向で通過するまでに選手の落馬および／または人馬転倒が生じた場合、当該コンビネーションはそのラウンドあるいは競技に出場できない。さらにいかなる時点でも競技アリーナで選手の落馬／人馬転倒があった場合は、走行開始の合図の有無にかかわらず、その選手および／または馬は各々、競技会メディカルサービスや獣医師代表から許可を受けなければ、当該競技会で次のラウンドあるいは次の競技に出場が認められない。（障害馬術規程第 224 条 3 参照）

4. フィニッシュライン通過後の選手の落馬／人馬転倒は失権とならない。しかし

フィニッシュライン通過後の落馬／人馬転倒については以下を適用する：

- 4.1 ジャンプオフを即時行う競技にて、フィニッシュライン通過後に選手の落馬／人馬転倒があった場合、当該選手／馬コンビネーションはジャンプオフからは失権となり、ジャンプオフを出場辞退、棄権あるいは失権した最下位選手と同順位となる。当該人馬は各々、競技会メディカルサービスや獣医師代表から許可を受けなければ、当該競技会でそれ以降の競技に出場が認められない。
- 4.2 （即時には行わない）ジャンプオフを伴う競技にて、フィニッシュライン通過後に選手の落馬／人馬転倒があった場合、あるいは2回走行競技の第1ラウンドのフィニッシュライン通過後に落馬／人馬転倒があった場合、当該選手／馬コンビネーションは各々、競技会メディカルサービスや獣医師代表から許可を受けなければ、ジャンプオフあるいは第2ラウンドに出場が認められない。
- 4.3 ジャンプオフでフィニッシュライン通過後に選手が落馬した場合、あるいは人馬コンビネーションがジャンプオフへの出場資格がなく初回ラウンドのフィニッシュライン通過後に選手が落馬した場合、もしくはジャンプオフのない競技でフィニッシュライン通過後に選手が落馬した場合、当該選手および／または馬は各々、競技会メディカルサービスや獣医師代表から許可を受けなければ、当該競技会でそれ以降の競技に出場が認められない。

## 第236条 基準A

1. 過失は本章に示す一覧表に従い、減点あるいは失権として科される。

過失		減点
(i)	1回目の不従順	減点 4
(ii)	飛越中の障害物の落下	減点 4
(iii)	水濠障害で馬の1肢あるいはそれ以上の肢が着水、または着地側で水濠の限界を示す着地板に肢もしくは蹄鉄の跡が残った場合	減点 4
(iv)	すべての競技において選手の落馬あるいは人馬転倒	失権
(v)	2回目の不従順、あるいは障害馬術規程第241条に定める他の違反行為	失権
(vi)	制限タイムの超過	失権
(vii)	第1ラウンドと第2ラウンド、タイムレースでないジャンプオフでの規定タイム超過	4秒ごとに減点 1
(viii)	タイムレースのジャンプオフにおける規定タイム超過	1秒ごとに、あるいは端数につき減点 1

2. 不従順の減点は同一障害だけではなく、全走行を通して累積される。

## **第 237 条 基準 A でのスコア**

1. 障害物での過失減点とタイム減点を加算したものが、選手の走行スコアとなる。  
第 1 位および／またはその他の順位で同点がでた場合は、当該競技について定められた条件に従い、走行タイムが順位決定に勘案されることがある。

## **第 238 条 基準 A に基づく採点方法**

### **1. タイムレースとしない競技**

- 1.1 同減点の選手は同順位となる。実施要項に定める条件により、第 1 位で同減点の場合はタイムレースでないジャンプオフを 1 回もしくは 2 回実施することができる。
- 1.2 タイムレースとせず、規定タイムを設けた競技ではあるが、第 1 位で同減点となった場合はタイムレースのジャンプオフを 1 回行う。他の選手については、初回ラウンドにおける減点によって順位を決定する。
- 1.3 タイムレースとせず、規定タイムを設けた競技ではあるが、第 1 位で同減点となった場合はタイムレースではない 1 回目のジャンプオフを行い、これでも第 1 位で同減点がでた場合は、タイムレースで 2 回目のジャンプオフを行う。他の選手については 1 回目のジャンプオフでの減点と、必要であれば初回ラウンドでの減点で順位を決定する。

### **2. タイムレース競技**

- 2.1 どの順位についても同減点の選手がでた場合は、走行に要したタイムに従って順位を決定する。第 1 位で減点とタイムが同じ場合は、短縮コースでジャンプオフを 1 回行うことができ、実施要項の条項に則って障害物の高さおよび／または幅を増すことができる。
- 2.2 タイムレース競技であるが、第 1 位で同減点となった場合はタイムレースのジャンプオフを 1 回行う。他の選手については第 1 ラウンドでの減点とタイムで順位を決定する。マイナー競技（一般規程参照）では、実施要項にその旨を記載すれば基準 C に従ってジャンプオフを行うことができる。
- 2.3 第 238 条 2.2 と同じく、これはタイムレース競技であるが、タイムレースで 1 回目ジャンプオフを行っても、なお第 1 位で同減点の選手がでた場合はタイムレースで 2 回目のジャンプオフを行う。他の選手については最初のジャンプオフでの減点とタイム、そして必要であれば第 1 ラウンドでの減点とタイムで順位を決定する。

3. タイムレースで順位が決定されるすべての競技において、第 1 位で減点とタイムが同じ場合は、実施要項の条項に則って障害物の高さおよび／または幅を増した短縮コースでジャンプオフを 1 回行うことができる。実施要項にジャンプオフに関する条項を定めていない場合は、ジャンプオフなしの競技と考える（障害馬術規程第 245 条 6 参照）。
4. 障害馬術規程第 238 条 1.1 および第 238 条 2.1 に則って実施される競技では、いかなる場合もジャンプオフは 2 回までとする。

### 第 239 条 基準 C

1. 基準 C での過失は秒数に換算されて走行に要した時間に加算されるか、あるいは失権が科される。
2. 基準 C における減点

過失	減点
(i) 飛越中の障害物落下、馬の 1 肢あるいはそれ以上の肢が水濠障害で着水、もしくは着地側で水濠の限界を示す着地板を踏んだ場合	4 秒（二段階走行競技、ノックアウト競技、基準 C で行われるジャンプオフでは 3 秒） インドア競技では以下の減点を適用する： 障害物の高さ 1.40m まで：4 秒； 障害物の高さ 1.45m：組織委員会の判断で 3 秒か 4 秒とし、実施要項に明記； 障害物の高さ 1.50m：組織委員会の判断で 2 秒*、3 秒または 4 秒とし、実施要項に明記。 *減点 2 秒はコース上の障害物の 50% 以上が高さ 1.50m の場合にのみ適用できる；高さ 1.50m の障害物が 50% に満たない場合は減点 3 秒（あるいは 4 秒）を適用しなければならない。
(ii) 1 回目の不従順	なし
(iii) 落下および／または障害物の移動を伴う 1 回目の不従順	6 秒のタイム修正
(iv) 2 回目の不従順、もしくは障害馬術規程第 241 条に定める他の違反	失権
(v) すべての競技において選手の落馬あるいは人馬転倒	失権

3. 基準 C では規定タイムはない。以下の制限タイムを適用できる：
  - (i) 3 分：コース全長が 600m 以上の場合、あるいは
  - (ii) 2 分：コース全長が 600m 未満の場合制限タイムの超過 失権
4. 基準 C に基づくスコア  
走行に要した時間（タイム修正がある場合はこの秒数を含める）に、障害物の落下 1 個につき 4 秒（ジャンプオフ、あるいは二段階走行競技の二段階目については 3 秒）を加算し、選手の走行スコアを秒数で示す。
5. 基準 A あるいは基準 C のスピード競技で馴致を行いたいと希望する選手は、当該競技の開始前に組織委員会へ連絡しなければならない。馴致走行を希望する者は当該競技の最初に出場する。上記に従わない選手は競技場審判団により失権とされる場合がある（障害馬術規程第 241 条 4.4 参照）。
6. 第 1 位で同点の場合は、競技会実施要項にジャンプオフに関する特定条項がない限り、等しく第 1 位となる。

## 第 7 章 罰金、イエローカード、失権、失格

### 第 240 条 罰金とイエローカード

1. 障害馬術規程および／または一般規程に則って出される制裁措置に加えて、競技場審判団長、上訴委員長、チーフスチュワードおよび技術代表は、各々が一般規程第 169 条 7.1 に基づきイエローカードを出す権限を有する。
2. 次のような場合、妥当とみなされれば競技場審判団長または上訴委員長が一般規程に則って罰金を科すことがある：
  - 2.1 失権後、速やかにアリーナを去らない選手；
  - 2.2 走行終了後、速やかにアリーナを去らない選手；
  - 2.3 失権または棄権した後に、アリーナから退場するまでに単独障害の飛越を 2 回以上試みたり、誤った方向から飛越した選手；
  - 2.4 フィニッシュラインを通過した後に、1 個あるいは複数の障害物を飛越して失権となった選手、または競技場審判団の許可なしにマスコミ向けに障害物を飛越した選手（障害馬術規程第 202 条 6 参照）；
  - 2.5 スクーリングエリアで組織委員会が準備したものと異なる障害物を使用した選手（障害馬術規程第 242 条 2.6 と第 201 条 4 参照）；
  - 2.6 アリーナ内に設けられた練習用障害物を許可された回数以上に飛越したり、飛越しようとした選手（障害馬術規程第 202 条 4、第 242 条 2.3、第 262 条

- 1.9参照) ;
- 2.7 アリーナへの入場の際して、競技場審判団あるいは役員に敬礼を怠った選手（障害馬術規程第256条2.1参照） ;
- 2.8 個体識別番号を付けていない反則が度重なった場合（障害馬術規程第282条2参照） ;
- 2.9 広告規定（一般規程第135条も参照）に違反したり、服装および馬具に関する規則（障害馬術規程第256条1と第257条）に従わない選手 ;
- 2.10 組織委員会の指示に従わない選手 ;
- 2.11 変形させる目的で障害物に触れた選手 ;
- 2.12 役員の指示に従わなかったり、競技会役員やその他競技会関係者（他の選手、FEI職員あるいは代表者、ジャーナリスト、観客など）に対して不穏当な行動をとった選手 ;
- 2.13 警告を受けても違反を繰り返す選手。
3. 競技場審判団長あるいは上訴委員長が科した罰金についてはすべてFEIから当該NF宛に請求書が送られ、罰金はFEIに支払われるものとする。

## **第 241 条 失 権**

1. 規程もしくは競技条件に別段の記載がない限り、失権とは争点となっている競技において選手と馬が競技を継続できないことを意味する。失権は時間を遡って適用できる。
2. 選手は棄権したり失権となった後に、単独障害を1個飛越する権利があるが、その競技のコース中にある障害物であること。しかしながら、これは落馬による失権には適用しない。
3. 障害馬術競技において選手が失権となる事由を以下に示す。競技場審判団は以下の場合に失権を適用しなければならない :
- 3.1 競技場審判団が許可した練習用障害物を除き、走行を開始する前にアリーナ内の障害物を飛越したり、飛越しようとした場合（障害馬術規程第202条3参照） ;
- 3.2 スタートの合図が出される前に走行を開始し、コース上の第1障害を飛越した場合（障害馬術規程第202条5と第203条1.2参照） ;
- 3.3 走行タイムの計測が始まってから45秒以内に第1障害を飛越しなかった場合。ただし不可抗力による場合を除く（障害馬術規程第203条1.2参照） ;

- 3.4 走行中に馬が継続して45秒間反抗した場合（障害馬術規程第223条2参照）；
- 3.5 次の障害物を45秒以内に飛越しなかった場合、もしくは最終障害を飛越してフィニッシュラインを通過するまでの所要時間が45秒を超えた場合；
- 3.6 スタートラインで標旗間を正しい方向から通過せずに第1障害を飛越した場合（障害馬術規程第220条1.2参照）；
- 3.7 回転義務地点を通過しなかった場合、あるいはコースプラン上に継続したラインで示された経路をとらなかった場合；
- 3.8 走行中にコースの一部ではない障害物を飛越したり、飛越しようとした場合（障害馬術規程第220条1.5参照）；
- 3.9 コース上の障害物を抜かした場合（障害馬術規程第220条1.5参照）、あるいは逃避や拒止の後にその障害物を再飛越しなかった場合；
- 3.10 順序を間違えて障害物を飛越した場合（障害馬術規程第220条1.4参照）；
- 3.11 誤った方向から障害物を飛越した場合（障害馬術規程第220条1.4参照）；
- 3.12 制限タイムを超過した場合（障害馬術規程第236条と第239条参照）；
- 3.13 拒止の後に、落下した障害物が復旧されるのを待たずに飛越したり、飛越しようとした場合；
- 3.14 走行中断の後、ベルが鳴るのを待たずに障害物を飛越したり、飛越しようとした場合（障害馬術規程第203条3参照）；
- 3.15 コンビネーション障害の閉鎖部分である場合を除き（障害馬術規程第214条参照）、拒止または逃避の後にコンビネーションのすべての障害物を再飛越しなかった場合（障害馬術規程第212条3参照）；
- 3.16 コンビネーションの各障害物を別々にかつ連続して飛越しなかった場合（障害馬術規程第212条2参照）；
- 3.17 （一部の特別競技を除き）最終障害を飛越した後にフィニッシュラインの

標旗間を騎乗で正方向から通過せず、アリーナを出た場合（障害馬術規程第226条2参照）；

3.18 スタート前も含め、競技場審判団の許可なく選手および／または馬がアリーナを出た場合；

3.19 スタート前も含め、走行を終了する前に放馬した馬がアリーナから出た場合；

3.20 走行中にヘッドギアおよび／または眼鏡以外の物を騎乗したまま受け取った場合；

3.21 馬具と装具に関する規定を遵守しない場合（障害馬術規程第257条1と第257条2参照）；

3.22 選手もしくは馬に競技を終了できないような事故が起こった場合（障害馬術規程第258条参照）；

3.23 閉鎖コンビネーション障害を正しい方向から出なかったり、閉鎖コンビネーション障害を移動させた場合；

3.24 走行中の2回目の不従順（障害馬術規程第236条と第239条参照）；

3.25 走行中の選手の落馬あるいは人馬転倒（障害馬術規程第224条、第236条、第239条参照）；注記：フィニッシュライン通過後の落馬／人馬転倒は失権とならない（障害馬術規程第235条4参照）；

3.26 何らかの理由により選手あるいは馬が競技続行に不適性であると競技場審判団が判断した場合；

3.27 走行終了後にアリーナ内にある障害物を飛越したり、あるいは飛越しようとした場合；ただし選手／馬コンビネーションが障害物を飛越せざるを得ないような状況、例えばジャンプオフを即時に行う競技であったり、あるいは二段階競技でベルの合図が遅すぎて障害前で馬を制止できない場合などを除く（プレス向けに障害物を1個飛越する許可については、障害馬術規程第202条6参照）。



3.28 ヘッドギアの固定ポイントを的確に締めずに、またはまったく締めずに飛越したり、あるいは飛越しようとした場合；ただし固定ポイントを締め直すために選手が急停止すると危険な状況の場合を除く（障害馬術規程第256条1.4参照）；

3.29 競技中にイヤフォンおよび／または他の電子通信機器を装着している選手（障害馬術規程第225条4参照）；

3.30 馬の脇腹に出血；

3.31 口に出血がみとめられる馬（明らかに馬が舌や唇を噛んだためと思われる口の出血など軽微な事例では、役員は口をすすがせたり血を拭き取る行為を許可し、当該選手の競技継続を認めることがある；口にこれ以上の出血が確認された場合は失権となる）；

4. 次の場合、失権となるかは競技場審判団の判断に任される：

4.1 選手氏名および／または出場番号が呼ばれてもアリーナへ入場しなかった場合；

4.2 騎乗してアリーナへ入場、あるいはアリーナから退場しなかった場合（ただしフィニッシュライン通過後に落馬した場合は退場前に再騎乗する必要はない）；

4.3 上記3.20の場合を除き、許可されない物理的援助を受けた場合；

4.4 事前に組織委員会に通知することなく、基準Aあるいは基準C採用のスピード競技で馬を馴致させた場合；

4.5 走行中にベルが鳴っても停止しなかった場合（障害馬術規程第203条2と第233条2）。

## **第 242 条 失 格**

1. 失格とは選手、その騎乗馬（1頭もしくは複数頭）および／または人馬ともに、争点となっている競技または競技会全般から出場資格を失うことを意味する。失格は時間を遡って適用できる。

2. 次の場合に競技場審判団は失格を科すことができる：

2.1 競技開始後に選手が徒歩でアリーナへ入場した場合；

- 2.2 競技場審判団の許可なくアリーナ内で練習したり障害物を飛越したり、飛越しようとした場合（障害馬術規程第202条2、第202条5、第202条6参照）；
- 2.3 アリーナ内の練習用障害物を許可された回数以上に飛越したり、飛越しようとした場合（障害馬術規程第202条4、第240条2.6、第262条1.9参照）；
- 2.4 アリーナ内にある障害物や、次の競技に使用される障害物を飛越したり、飛越しようとした場合（障害馬術規程第202条5参照）；
- 2.5 競技場審判団の許可を得ることなく、あるいは正当な理由なしに、ジャンプオフを前にして競技を棄権した場合；
- 2.6 競技会開催中に、組織委員会が用意したものとは異なる障害物を使って練習を行った場合（障害馬術規程第240条2.5と第201条4参照）；
- 2.7 スクーリングエリアに設置された障害物を誤った方向から飛越した場合、あるいはアリーナ内に練習用障害物が設置されている時にこれを誤った方向から飛越した場合（障害馬術規程第201条4と第202条4参照）；
- 2.8 獣医規程第1050条（四肢の知覚異常に関する最終検査）にて対象となっている事例などを含め、競技場審判団メンバー、上訴委員会メンバー、スチュワード、あるいは他の関係者から役員に報告のあった馬への虐待行為および／または残虐な扱いすべて（一般規程第142条2参照）。
3. 以下の場合には失格措置が必須である：
- 3.1 馬体のいずれかの部位で拍車や鞭の過剰使用を示唆する兆候；追加措置を適用することもある（障害馬術規程第243条参照）
- 3.2 競技会場のいかなる場所においても、許可されていない障害物を飛越すること；
- 3.3 競技会期間中にどのような目的であれ、馬とともに競技会場を出ること。

#### **第 243 条 馬に対する虐待行為（一般規程第 142 条も参照）**

1. 様々なやり方の肢たたきを含め、いかなる形態であろうと馬に対する残忍行為、非人道的行為、虐待行為は厳しく禁止される（障害馬術規程第243条2参照）。競技場審判団の見解により馬への虐待行為であるとみなされた行為あるいは一連の行為に対して、一般規程に則って次のペナルティのいずれか、あるい

は複数のペナルティが適用される：

- (i) イエローカード（一般規程第169条7参照）
- (ii) 罰金
- (iii) 失権
- (iv) 失格

2. 次の行為は馬に対する虐待行為とみなされる（一般規程第142条も参照）：

#### 2.1 馬の肢たたき

「肢たたき」という用語は、競技において馬がより高く、かつ注意深く障害物を飛越するように導くある種の人為的技巧と解釈される。肢たたきとなり得る例をすべてここに挙げることは無理であるが、概して言えば、選手および／または騎乗していない助手（この場合も選手の責任）が手に持った物で馬の肢をたたくこと（何であれ、誰がやろうとも）、または意図的に馬が何かにぶつかるよう仕向けること、例えば必要以上に障害物を高くしたり／あるいは幅を広くすること、不適正なグラウンドラインを置くこと、速歩通過用横木やコンビネーション障害の間隔を狂わせたり、馬を障害物前で急に止めたり追うこと、あるいは馬が肢をぶつければ飛べないような向け方をすることなどと言う。

競技場審判団の管轄期間中に、肢たたきやその他いかなる形態であっても虐待的調教が行われた場合、当該選手と馬は少なくとも24時間、すべての競技から失格となる。更に競技場審判団は状況に鑑みて妥当と思われる場合には、当該選手および／または馬をその競技会全般から失格とするなどの措置をとることもできる。

#### 2.2 鞭の過剰使用

- 鞭は選手の感情のはけ口として使用してはならない。そのような使い方は常に過剰となる；
- 馬の頭部を鞭で打つ行為は常に鞭の過剰使用となる；
- 4回以上続けて馬を打ってはいけない。馬の皮膚が破れた場合には常に鞭の過剰使用とみなされる；
- 失権した後に鞭を使ってはならない。

鞭を誤用したり過度に使用したと確認された選手は失格となり、競技場審判団の判断により罰金が科されることもある。

#### 2.3 他の形態での虐待行為

他のいかなる形態の虐待行為（例えば肢の知覚過敏処置や知覚鈍麻処置、禁止されている調教方法の採用、拍車の過剰使用、そして一般規程、獣医規程または他の FEI 諸規程に明記されている他の事例など）も禁止され、本規則に基づいて適切に処罰されなければならない。

#### **第 244 条 ブーツとバンデージ規制**

1. スチュワード業務 – ブーツとバンデージ規制（障害馬術規程第 257 条 2.3～第 257 条 2.5 と獣医規程第 1023、1046、1047 条も参照）

グランプリ競技、ネーションズカップ競技、および各競技会で最高賞金額が設定されている競技では、全頭についてブーツとバンデージの検査を行わなければならない。他の競技でもブーツとバンデージの検査を行うことが推奨される。ブーツとバンデージ規制の手順については、獣医規程と障害馬術スチュワードマニュアルを参照のこと。

### **第 8 章 ジャンプオフ**

#### **第 245 条 ジャンプオフ – 概略**

1. 同一競技において1回またはそれ以上の走行を経て、第1位で同点となった選手のみジャンプオフに出場できる。選手は初回走行で騎乗した馬にてジャンプオフに出場しなければならない。
2. 原則として、ジャンプオフは本競技で使われたルールと基準、およびその種の競技で適用されるジャンプオフ規定に則って行わなければならない。しかし、基準A採用のマイナー競技のジャンプオフについては、その旨が実施要項に記載してあれば基準Cで審査を行うこともできる。いかなる場合も、ジャンプオフは本競技の走行が終了した後、直ちに行わなければならない。
3. 実施要項に明記してあれば、本走行を減点なしで完走した選手はその後直ちにジャンプオフへ進むよう、組織委員会が定めることができる。この場合はジャンプオフ・コース走行開始の合図として、ベルをもう1度鳴らさなければならないが、これに際しては障害馬術規程第203条1.2の45秒ルールを適用する。ジャンプオフへ出場資格を得た選手は、本走行を終了してからジャンプオフの前にアリーナから退出することは認められない。この種のジャンプオフは、障害馬術規程第238条1.2あるいは第238条2.2に従い、基準Aで行われる競技でのみ認められ、グランプリ競技や最高賞金額が設けられている競技では許可されない。本走行で減点なしで完走した選手がいない場合は、適宜、第238条1.1あるいは第238条2.1に従って順位を確定する。

4. 障害馬術規程に別段の定めがない限り（パワーアンドスキル競技参照）、いかなる競技でも3回以上のジャンプオフは行えない。
5. 実施要項または障害馬術規程で特に決められている場合を除き、ジャンプオフのスターティングオーダーは、その前に行われた本走行のスターティングオーダーと同じでなければならない。
- 5.1 ロンジン・ランキングにカウントされる個人競技のジャンプオフ・スターティングオーダーは、本走行と同じスターティングオーダーとする代わりに、本走行でのタイムのリバースオーダーとすることもできる。ジャンプオフでのスターティングオーダー決定方法は、実施要項に記載しなければならない；記載がない場合は本走行でのスターティングオーダーを採用する。
- 5.2 ジャンプオフのある1回走行競技の本走行スタート前に落鉄した馬については、これより後のスターティングオーダーとなる。ジャンプオフでスタート前に落鉄した場合は、3頭分後ろのスターティングオーダーとなる。蹄鉄の装着がこの時までには終了していない場合は、競技場審判団の判断で、スターティングオーダーをさらに繰り下げるか失権とするか決定される。
6. 第1位で同点となった場合は、実施要項の条項に則ってジャンプオフを1回行うことができる。実施要項にジャンプオフの条項がない場合は、ジャンプオフを行わない競技とみなす。

#### **第 246 条 ジャンプオフでの障害物**

1. ジャンプオフでの障害物は、障害馬術規程第208条5に定める限度内で、高さおよび／または幅（部分的もしくは全体的に）を変更できる。しかしジャンプオフ用障害の寸法を増すことができるのは、第1位で同点でとなっている複数の選手が障害減点なしで本走行を終えている場合のみである。
2. オリジナルコースでコンビネーション障害が使われている場合は、ジャンプオフにもコンビネーション障害を最低1個は含めなければならない。
3. ジャンプオフにおける障害物の個数は6個（コンビネーション障害は1つと数える）にまで減らすことができる。
4. ジャンプオフでは障害物の形、タイプ、色を変えてはならないが、コンビネーション障害の一部を取り除いても構わない。コンビネーション障害がトリプル、あるいは4個の障害物で構成されている場合は、中央の障害物だけを除くことはできない。

5. ジャンプオフ用障害物の飛越順序は、オリジナルコースから変更してもよい。
6. ジャンプオフでは、コンビネーションの障害間距離を変更してはならない。
7. ジャンプオフ用コースには、最大2個まで単独障害を追加することができる。  
この追加障害物については2個とも、コース下見に際してコースに設置されているか、あるいは本走行もしくは複数の走行で使われた障害物を使って構築しなければならない；もし本走行で使われた障害物を本走行とは異なる素材でジャンプオフ用に構築したり、あるいは新たな素材を加えて構築する場合は、ジャンプオフ用の追加障害物とはみなされないが、素材の変更は競技場審判団の承認を受け、コースプランに示して選手に通知していることを条件とする。2個の追加障害物は幅障害2個、垂直障害2個、あるいは幅障害1個と垂直障害1個の何れでもよい。障害物はどちらの方向へ飛越してもよいのか、あるいは1方向のみなのかをコースプランと障害物自体にも明示しなければならない。本走行のコースに含まれていた障害物をジャンプオフで反対方向から飛越する場合、この障害物は追加が認められる2個の障害物の1つとみなされる。第1あるいは第2ラウンドにて使用された垂直障害をジャンプオフで幅障害（あるいはその逆）に造りかえることができるが、その場合は2個の追加障害物の1つとみなされる。  
また直前のラウンドにおいて垂直障害2個で構成されていたコンビネーションを、ジャンプオフでは反対方向からの飛越とすることもできるが、この場合、このコンビネーションはジャンプオフ用コースで許可される追加の障害物2個分とみなされる。

#### **第 247 条 ジャンプオフあるいは第 2 ラウンドでの失権もしくは出場辞退**

1. ジャンプオフあるいは第2ラウンドで失権もしくは棄権した選手／チームは、ジャンプオフ／第2ラウンドにて最下位となり同順位とする。
2. 競技場審判団の許可を得てジャンプオフへの出場を辞退した選手は、いかなる場合もジャンプオフで失権した選手、あるいはコース走行中に棄権した選手と同順位となる。
3. 順位決定のジャンプオフ前に、2名またはそれ以上の選手がジャンプオフ出場を辞退した場合、競技場審判団はこの申請を受け入れるか退けるべきかを決定する。競技場審判団がこの出場辞退を認める場合は、組織委員会がくじ引きでトロフィーの授与先を決め、賞金は合計して選手間で等分する。競技場審判団から競技続行の指示があったにもかかわらず選手らが従わなかった場

合は、トロフィーの授与はなく、当該選手らはジャンプオフを行った場合の最下位順位と賞金を受け取る。

## **第9章 順位**

### **第248条 個人順位と表彰**

1. 個人選手の順位は、競技で採用されている基準と競技実施要項に記載の指示、あるいはコースプランに示された変更に従って決定される。
2. 入賞する可能性がない選手については、競技場審判団の判断で、その走行中のどの時点でも走行中止を命じることがある。
3. 競技の第1ラウンドを完走できない選手は、一部の特別競技を除いて受賞する権利はない。
4. 予選競技で入賞した選手は、予選で出場資格を得た決勝競技への出場を辞退した場合でも、予選競技での受賞を維持できる。
5. 入賞した選手は、その入賞馬とともに表彰式に参加しなければならない。しかし安全上の理由から、競技場審判団が例外を設けることもある。入賞した選手が正当な理由なしに表彰式へ出席しなかった場合は、競技場審判団の判断で組織委員会から当該選手への賞の授与を保留することがある。従って、組織委員会は実施要項とプログラムに表彰式への出席を求める入賞者数を公表しなければならない。実施要項あるいはプログラムに出席すべき人数が記載されていない場合は、入賞したすべての人馬が表彰式に出席しなければならない。
6. 競技スポンサーから提供された馬着を除き、表彰式で馬着を使用することは認められない。しかし特別な状況下では、競技場審判団がこの規則を緩和できる。
7. CSIO5\*とCSI5\*競技会では、グランプリに優勝した馬のオーナーが当該競技会に来場している場合、組織委員会は同オーナーを表彰式に招待しなければならない。

## **第10章 選手と馬**

### **第249条 CSIOへの招待**

1. NFへの公式招待状はチーム監督1名とチーム獣医師1名、選手4名～6名、馬8頭

～15頭、各選手に1名のグループで構成する公式チームに対するものである。組織委員会が選手4名と馬8頭で構成するチームを招待する場合は、招待する外国人選手総数が前年度の招待者数を下回ってはならない。

CSIO競技会と称するには、公式チームとして3チーム以上（開催国NFチームを含む）の参加がなければならない。

CSIOへのチームエントリーが5NFに満たない場合は、1NFにつき2チーム（開催国チームを含め）まで招待できる。2チームを参加申込したNFは、競技会の開始前、遅くともテクニカル・ミーティングにてどちらのチームでFEIネーションズカップ™ポイントを競うかを決定しなければならない。

## 2. ヨーロッパにおけるCSIO競技会

（開催国チームを含め）8チーム以上が招待される場合、組織委員会は障害馬術規程第249条5に則って個人選手を外国から招待することができる。

（開催国チームを含め）7チーム以下の招待の場合は、外国から個人選手を招待することはできない。

## 3. 北米におけるCSIO競技会

（開催国チームを含め）5チーム以上が招待される場合は、障害馬術規程第249条5に則って個人選手を外国から招待することができる。

（開催国チームを含め）4チームが招待される場合は、外国から2名までの個人選手を招待することができる。

（開催国チームを含め）3チーム以下の招待の場合は、外国から個人選手を招待することはできない。

## 4. 各組織委員会は招待したNF名称と、招待されたNFが何らかの理由で参加できなかった場合のリザーブとして少なくとも3NFの名称を、実施要項ドラフトに記載しなければならない。参加できない旨の連絡が入った場合、組織委員会は直ちにリザーブリストに掲載されているNFの1つへ連絡しなければならない。組織委員会は招待したNFが辞退する場合を考慮し、二重のノミネートエントリー締切日を設けるよう推奨する。FEIネーションズカップ™シリーズの一環である競技会の組織委員会は、このシリーズに特化した規定に従ってチームを招聘しなければならない。

## 5. 組織委員会の判断により、チームに属する選手に加えて、あるいは完全なチームを派遣できないNFから、各NFにつき1～2名の個人選手が公式チームと同条件で招待される場合がある。CSIO競技会では個人選手に対する個別招待は認められない。



6. すべてのカテゴリーのCSIO（FEIネーションズカップ<sup>TM</sup>ディビジョン1競技会を除く）に開催国NFから出場できる個人選手数は30名まで；公式チームの選手数は6名までである。
7. 5\*/4\*ネーションズカップを行うCSIO競技会では、7チーム以上を外国から招待しなければならない。極めて例外的に、またFEI事務総長から明確な許可がある場合に限り、外国からの招待チーム数を7チーム未満とすることができる。
8. FEIワイルドカード
  - 8.1 ワイルドカードとして、FEIは組織委員会が招待する外国チームのうち1チームを指名する権利がある。
  - 8.2 ワイルドカードとして、FEIはチームを派遣しないNFから個人選手を2名指名する権利がある。FEIネーションズカップ<sup>TM</sup>ディビジョン1競技会については、個人ワイルドカードはCSIOに参加できる65名の最大選手割り当てに含めなければならない。FEIがワイルドカードの1枚あるいは2枚とも利用しない場合は、その割り当てが組織委員会に戻り、当該委員会はチームを派遣しないNFにその空きをあてることができる。

## **第 250 条 CSI への招待（付則 5 も参照）**

1. CSIについては、組織委員会が招待する個人選手数と馬の頭数を開催国NFの合意を得て実施要項と招待状に記載しなければならない；CSI招待ルールが適用されるCSIの組織委員会は、招待ルールを遵守しなければならない（障害馬術規程付則5参照）。直近のオリンピック大会における個人障害馬術ゴールドメダリストと直近の世界選手権大会における個人障害馬術ゴールドメダリストは、すべてのCSIから招待を受ける権利がある。

## **第 251 条 参加申込（一般規程第 116 条も参照）**

1. FEI ワールドチャレンジ競技を除き、いかなる選手および馬も、国際競技会への参加許可を得るにはFEI および自国 NF への登録が必要であり、また必要に応じて開催国 NF（CSI1\*と CSI2\*競技会）への登録も必要である（一般規程第 113 条も参照）。
2. 競技会に参加申込できる馬の頭数は、実施要項と障害馬術規程に従わなければならない。

3. 国際競技会または FEI 選手権大会に招待あるいは指名された選手の参加申込は、いずれも各々が所属する NF を通してのみ行うことができる。選手が参加申込を行う競技会に出場できる年齢に達していることを確認するのは、その選手が所属する NF の責務である。実施要項の記載事項および障害馬術規程に従って所属 NF が選考した選手については、組織委員会が全員を受け入れなければならない。組織委員会は、NF からの参加申込以外のいかなる参加申込も受け付けてはならない。疑念を避けるため追記すると、FEI オンライン招待システムを通して NF が直接追認している参加申込については、当該 NF が行った参加申込とみなされ、組織委員会はこれを受諾しなければならない。適用される CSI 招待ルールと FEI オンライン招待システム詳細については、障害馬術規程付則 5 を参照のこと。
4. NF は、出場資格を得た馬と選手を選考して参加申込を行う責任がある。これには参加申込を行う競技会への馬と選手の参加適性と出場能力が含まれる。当該馬と選手が参加申込を行う競技会に出場できる年齢に達していることを確認するのは、その所属 NF の責任である。
5. 参加申込を行えるチーム数と個人選手数は、障害馬術規程に定める。
6. NF は、障害馬術委員会が策定して理事会が承認し、また必要に応じて国際オリンピック委員会（IOC）が承認した条件のもとで出場資格を得た選手のみ、世界選手権大会とオリンピック大会へ参加申込できる。
7. 公式チームとして認められる選手数／頭数を超えて NF が参加申込をした場合は、遅くとも 1 回目のホースインスペクション終了時点までに、公式チームとして選考する人馬をチーム監督が指定しなければならない。
8. 組織委員会はいかなる場合も、選手権大会に出場資格のある選手あるいはチームの参加申込数を制限してはならない。FEI 理事会が必要と判断した場合は、参加申込数を制限することがある。
9. 参加申込期限
  - 9.1 FEI 選手権大会と大会(Games)への参加申込は、一般規程第 116 条 2.2 (i) と第 116 条 2.2 (ii)に定める 2 段階の手順を踏まなければならない：
    - ノミネートエントリーは遅くとも当該競技会の 4 週間前までに行わなければならない。一般規程第 116 条 2.2(i)参照。
    - デフィニットエントリーは遅くとも当該競技会開始の 4 日前までに行わなければならない。一般規程第 116 条 2.2(ii)参照

- 9.2 CSIO を含むその他すべての競技会については、以下に示す期限までにデフィニットエントリーを行わなければならない；この他に NF／組織委員会が実施要項で、NF の参加意思表示の期限を指定することがある。

デフィニットエントリーは実施要項に記載の期日までに行わなければならない。この期日は当該競技会開始の 4 週間前より早くてはならず、また 4 日前を過ぎても認められない。これは競技会に派遣される選手と馬の最終選考である。デフィニットエントリーではリストアップされた数を超えてはならず、競技会に出場する選手と馬の最終選考となる。デフィニットエントリー受理後の馬および／または選手の交代は、組織委員会の明確な許可があった場合に限り行える。組織委員会は実施要項に馬と選手の交代が認められる最終期日を明記しなければならない、この期日はホースインスペクションの日より後であってはならない。

10. 選手と馬の参加申込書には名前と FEI 登録番号（FEI ID）、また必要に応じて出場資格を記載しなければならない（一般規程第 116 条 2.3 参照）。
11. 仮に NF がノミネートエントリーに記載した数以上の選手および／または馬を派遣してきた場合には、例え障害馬術規程と実施要項でそのような参加を認めている場合であっても、組織委員会としては彼等に宿泊施設／厩舎を提供することも、競技会への参加を認める義務もない（一般規程第 116 条 4）。
12. 競技会において選手は騎乗馬のいずれか、あるいは全頭について出場を辞退することはできるが、事前にこの競技会へ参加申込を行っていない馬を組織委員会と競技場審判団の許可なく追加することはできない（一般規程第 116 条 5）。
13. NF はチームのノミネートエントリーを行ったものの、そのチーム派遣が不可能となった場合は速やかに組織委員会へ通知しなければならない（一般規程第 116 条 6）。
14. いずれの競技会においても、NF がデフィニットエントリーを行ったにもかかわらず妥当な理由もなく参加しなかったチームあるいは個人選手については、外国人審判員／技術代表が FEI 事務総長へ報告し、FEI 裁定機関の審議に委ねる。当該競技会に参加できなかった理由として、同時期に行われていた他の競技会への出場は有効と認められない。しかしながら一般規程には反するものの、CSI にデフィニットエントリーをしていた選手が、同じ週末に開催される CSIO に派遣予定であった選手（正当な理由で出場不可となった場合）の交代要員とし

て選考された場合は、この間際になっての指名を当初予定していたCSIへ参加できなかった正当な理由として勘案される。

15. カレンダー上で同一週に開催される2つ以上の競技会の組織委員会に対し、NFは同一選手をデフィニットエントリーすることはできず、これに違反した場合、当該選手は参加する競技会から失格となる。ただし、一般規程には反することとなるが、これに関わる両組織委員会が同意した場合を除く（例外については障害馬術規程第251条14参照）。同一週末に開催される2つ以上の競技会に参加申込した選手の馬は、それぞれの競技会のホースインスペクションに臨場しなければならない（障害馬術規程第280条2.1.1も参照）。

16. エントリー代

CSI/CSIO競技会で課される場合があるエントリー代とその他の費用については、用語集にてエントリー代の定義と障害馬術規程付則6を参照のこと。

17. デフィニットエントリー期日以降の参加辞退あるいはノーショウは、その参加辞退やノーショウの結果として組織委員会が被った財務上の損失（厩舎費用やホテル代など）について、組織委員会への弁償が義務づけられる。

18. 国内障害馬術競技会：一般規程第 101 条 3 参照。

## **第 252 条 スターティングオーダー**

1. スターティングオーダーの抽選

1.1 選手権大会/CSIO-チームと個人選手

- 1.1.1 チームに加えて参加申込を行った個人選手のスターティングオーダーを決定する抽選は、国籍に関係なく最初に行う。

- 1.1.2 2回目の抽選を行い、チームの参加申込をしたNFのスターティングオーダーを決定する。その後、各チーム監督は当該NFの出番にチーム内選手のスターティングオーダーを指定してゆく。これらのチーム選手は、既に決まっている個人選手のスターティングオーダーの間に順番に組み込まれる。

- 1.1.3 もし個人選手が1競技に2頭以上で出場する場合には、競技場審判団がその選手のスターティングオーダーを調整し、2頭間にできる限り10名以上の間隔を入れるようにする。

- 1.1.4 スターティングオーダーの発表後にチーム監督が選手と馬を変更するよう

な場合には、2頭乗りの選手が2頭を近い間隔で騎乗せざるをえない状況も生じ得る。この場合、当該選手の監督は競技場審判団もしくは組織委員会へ競技開始の遅くとも1時間前までに連絡しなければならない。競技場審判団は、この選手についてのみスターティングオーダーを変更することがある。

2. CSIOとCSIでは、選手のスターティングオーダーを決定する抽選を行わなければならない。この場合は、同一NFの選手が2名続いて走行することのないよう、選手の国籍を考慮しなければならない。1名またはそれ以上の選手が2頭乗りをする際に、2頭間のスターティングオーダーが近すぎる状況が発生した場合は、競技場審判団が独自の権限で、あるいは選手かチーム監督の要請に基づき、これらの選手に関する限りそのスターティングオーダーを変更することができる。
3. スターティングオーダーを選手名や馬名のアルファベット順で抽選してはならない。
4. 団体競技に関しては、その都度、抽選を行わなければならない。
5. 個人競技におけるスターティングオーダーのローテーション  
ローテーションは必須であるが、適用するローテーション・システムは組織委員会の判断に任される。プログラム中に記載される個人競技におけるスターティングオーダーのローテーションは、次に定める手順に従うことが推奨される。
  - 5.1 個人競技において選手が2頭または3頭の馬に乗ることが許される競技会では、以下の手順を採用してプログラムに掲載の個人競技のスターティングオーダーをローテーションさせることができる：
    - 5.1.1 実施要項にて、その競技会を通して同一馬が1日に2回以上、個人競技に出場することを認めている場合は、頭数を個人競技の数で割る。
    - 5.1.2 実施要項にて、その競技会を通して同一馬が1日に1回だけ個人競技に出場できると定める場合は、頭数を個人競技が行われる日数で割る。
  - 5.2 実施要項にて、各個人競技で選手が騎乗できるのは馬1頭のみとする競技会では、選手が抽選を行うとその選手の馬には連番がつけられる：  
1番目の選手：1、2、3（この選手の馬番）  
2番目の選手：4、5

ローテーションは上記5.1.1および5.1.2と同様の手順であるが、この場合は選手数を個人競技の数あるいは個人競技が行われる日数で割る。

#### 6. グランプリ競技でのスターティングオーダー

「グランプリ」の名称は国際障害馬術競技会において、CSIYやCSIJ、CSI3\*などの各カテゴリーにつき1度だけ使用できる。グランプリ競技のスターティングオーダーは、次の方法のいずれかにより決定しなければならない：

- 6.1 スターティングオーダーを別個の抽選で決定する。
- 6.2 競技会で最優秀選手あるいは最優秀人馬コンビネーションの特別ランキングが設けられている場合は、グランプリ競技までのランキングのリバースオーダーをスターティングオーダーとすることができる。
- 6.3 組織委員会は選手を同じ規模の3グループに分けることができる；選手総数が均等に3グループに分けられない場合は、最終出場グループ、そして必要であれば2番目の出場グループに、最初の出場グループより選手を1名多く割り振る。各グループ内でスターティングオーダー決定の抽選を行わなければならない。障害馬術ランキングで上位の選手らは最終グループでの出場が認められる。  
抽選の際には競技場審判団長の臨席が必要である。  
抽選方法は実施要項に記載しなければならない。

### 第 253 条 出場選手の申告

1. CSIOでは、第1競技の前日にチーム監督が公式チーム（3組以上、6組以内）を構成する選手と馬、および個人選手名とその騎乗馬名を書面にて組織委員会へ申告しなければならない（障害馬術規程第249条参照）。公式チームメンバーとして申告された選手および／または馬が事故や病気で出場できない場合、チーム監督は当該競技会の第1競技開始の遅くとも1時間前までに、個人選手（もし出場者がいる場合）から代替選手を出すことができる。交代となった選手またはチーム馬が個人競技に出場することはできない。ネーションズカップ競技に出場する選手と馬（3組以上、4組以内を公式チームから選考）の申告詳細と、ネーションズカップへの出場を申告した選手および／または馬が事故や病気で交代する場合の詳細は第264条5.5を参照。
2. すべての競技会において、チーム監督（CSIO）または個人選手（CSIO、CSI）は、組織委員会の定めた時刻に翌日の競技の出場選手を組織委員会へ申告する。

## 第 254 条 馬の参加と年齢、頭数

### 1. 馬の年齢

- 1.1 オリンピック大会、世界選手権大会、FEI ワールドカップ™ ファイナルに参加申込を行う馬は 9 歳以上でなければならない。大陸選手権大会、地域大会、地域選手権大会に参加申込を行う馬は 8 歳以上でなければならない。例外として地域大会と地域選手権大会では、これらの大会で使われる障害物の高さが 1.40m 以内であることを条件として、7 歳から馬の参加申込を行うことができる。CSIO3\*~5\*競技会、CSI3\*~5\*競技会、そして FEI ワールドカップ™ ファイナルを除くすべての FEI ワールドカップ™ 競技会に参加申込を行う馬は、7 歳以上でなければならない。しかしながら、5 歳から参加できるヤングホース対象の CSI をこれらの競技会で開催することはできる。CSIO1\*と CSI1\*/2\*競技会に参加申込を行う馬は 6 歳以上でなければならない。障害馬術規程第 264 条 3 に定める 2\*競技会用の障害規模でネーションズカップ競技を行う CSIO2\*競技会への参加申込馬は、6 歳以上でなければならない；障害馬術規程第 264 条 3 に定める 3\*競技会用の障害規模でネーションズカップ競技を行う CSIO2\*競技会への参加申込馬は、7 歳以上でなければならない。

### 1.2 馬の年齢 – 北半球と南半球

#### 1.2.1 国内競技会

北半球で競技に参加している南半球産の馬については、その公式誕生日は8月1日であるため、1歳若い馬を対象とする国内競技への参加を認めるべきである。南半球で競技に参加している北半球産の馬については、その公式誕生日は1月1日であるため、1歳上の馬を対象とする競技への参加を認めるべきである。

#### 1.2.2 ヤングホース対象の国際競技（5 歳\*/6 歳/7 歳/8 歳）

北半球で国際ヤングホース競技に参加する南半球産の馬については、その公式誕生日は8月1日であるため、1歳若い馬を対象とするヤングホース競技への参加が認められる（例えば南半球産の8歳馬は、北半球では7歳馬のカテゴリーに出場する）。南半球で国際ヤングホース競技に参加している北半球産の馬については、その公式誕生日は1月1日であるため、1歳上の馬を対象とするヤングホース競技への参加が認められる（例えば北半球産の5歳馬は、南半球では6歳馬のカテゴリーに出場する）。

2. CSIOとCSIでは実施要項で各選手が騎乗できる馬の頭数を特定しなければならないが、上限は3頭とする。CSIあるいはCSIO競技会では、CSIあるいはCSIOに参加申込した選手に限定して参加できるヤングホース対象競技も行うことができる；このような競技では、選手はCSIあるいはCSIOで認められる3

頭に加えて、2頭の馬を参加申込できる。これら追加馬の出場はヤングホース競技に限定される。同じ週末に異なるカテゴリーのCSIが複数行われる競技会では、各選手が騎乗を許される馬の頭数をカテゴリーごとに3頭までと限定しなければならない。これらの競技会において、別個にヤングホース対象のCSI（CSIYH）を開催できる；CSIYHへ参加申込する選手は、ヤングホース競技に特定して馬を3頭参加申込することが認められる。

これは同一会場において数週間続けて週末に行われるCSI競技会には適用しない；この種の競技会では、各CSIの期間中に選手はカテゴリー（スモール／ミディアム／ビッグツアー）ごとに4頭までの馬で参加できる。これらの競技会では、選手1名につき9頭までの馬をCSIYH競技に参加申込でき、そのうち3頭までを各CSIの各年齢カテゴリーで競技に参加させることができる。単独開催のCSIYH競技会、すなわち同一会場で同じ週末に他のCSIと同時開催されるものではないCSIYH競技会では、選手は各ヤングホース年齢カテゴリーにつき3頭を参加申込できる。CSIあるいはCSIOの実施要項でピュイッサンス競技、種牡馬を対象とするダービーおよび／または特別競技の開催がうたわれている場合は、これら各競技に馬の追加申込が認められることがある。この追加馬の参加は、これらの競技への出場に限定される。実施要項にて、ピュイッサンス競技および／または種牡馬を対象とする特別競技に限定して追加選手の招待を認めることがある

3. CSIOではチーム監督に競技会開催期間を通して公式チームの馬を変更する権利があるが、各選手が騎乗できる最大頭数は障害馬術規程第254条2に明記された通りとする。このような変更は撤回できない。
4. CSIOとCSIで個人選手の馬の変更が認められるのは、当該馬が共に同じNFに所属し、実施要項の記載に従い競技会開催中に各個人選手が騎乗できる頭数に準拠している場合に限られる。このようにして行った変更は撤回できない。
5. CSIOでは各選手ともグランプリ競技、もしくはグランプリ競技がない場合は最高額の賞金が授与される競技において騎乗できるのは1頭のみである。グランプリ競技に加えて、これと同額かそれより高額の賞金が授与される競技が併せて開催される場合、選手はこれらの競技に各々1頭の馬でのみ出場できるが、各選手とも2頭以上の馬に騎乗できるダービー競技の場合を除く。
6. 上記項目はCSIにも適用する。しかし上記5.で示したグランプリ競技、あるいはこれに類する競技への参加申込が50名以下の場合（本条項の後出記述に従



う）、組織委員会は当該競技で各選手に2頭乗りを許可することがあるが、その旨が実施要項に記載されており、また出場者総数がグランプリ競技あるいは当該競技に認められる上限を超えないことを条件とする。グランプリ競技については特に以下を適用する：

- －CSI1\*／CDI2\*：出場者数が50名以下の場合、選手は各々馬2頭に騎乗できる（グランプリでは100頭まで）
- －CSI3\*／CDI4\*：出場者数が30名以下の場合、選手は各々馬2頭に騎乗できる（グランプリでは60頭まで）
- －CSI5\*：出場者数が25名以下の場合、選手は各々馬2頭に騎乗できる（グランプリでは50頭まで）

競技会にてグランプリ競技もしくは最高額の賞金が授与される競技がないものの、同額の賞金が授与される複数の競技が行われる場合、それらの競技で選手が騎乗できる頭数に制限はない。

これらの条項は、組織委員会がすべての競技で選手に2頭以上の騎乗を認めるCSI-アマチュア競技会には適用しない。

7. CSIOまたはCSIにてグランプリおよび／またはグランプリではなく最高額の賞金が授与される競技に出場する選手は、同一競技会で少なくとも1つのFEI競技の初回ラウンドをグランプリ馬もしくは最高額の賞金が授与される競技に出場予定の馬で完走していなければならない（出場資格要件を満たせる特定のFEI競技詳細については、障害馬術規程第261条4.4参照）。グランプリ競技または最高額の賞金が授与される競技が当該競技会の初日に行われる場合、もしくはそれらが競技会で行われる唯一のFEI競技である場合は、組織委員会がトレーニングセッションを設けて、グランプリ競技あるいは最高額の賞金が授与される競技の前に選手がアリーナで出場馬にて障害飛越する機会を提供しなければならない（障害馬術規程第261条4.4参照）。最高額の賞金が授与される競技がダービーの場合はこの条項を適用しない。

## **第 255 条 シニア競技へのマイナー選手の参加（付則 9、11、12 も参照）**

1. 下記2.に記載の除外規定には制約されるが、選手はその所属NFから明確な許可があれば12歳の誕生日を迎える年から特定のシニア競技に参加できる。
2. 選手は18歳の誕生日を迎える年まで、次の競技には参加できない：
  - CSI3\*～CSI5\*でのグランプリ競技；

- CSIO1\*～CSIO5\*でのグランプリ競技；
- CSIO1\*～CSIO5\*でのネーションズカップ競技；
- FEIワールドカップ<sup>TM</sup>競技；
- パワーアンドスキル競技；
- ダービー競技；
- 上記以外で、CSI3\*～CSI5\*およびCSIO1\*～CSIO5\*における最高賞金額の競技

- 2.1 選手は12歳の誕生日を迎える年から13歳の誕生日を迎える年の終わりまで、初回ラウンドでの障害物の高さが1.30mを超えないことを条件にCSIとCSIO1\*～5\*競技会の特定競技（上記リストの競技を除く）に出場できる。
- 2.2 選手は14歳の誕生日を迎える年から15歳の誕生日を迎える年の終わりまで、CSI1\*競技会におけるすべての競技（上記リストの競技を除く）と、初回ラウンドでの障害物の高さが1.40mを超えないことを条件にCSI2\*～5\*およびCSIO1\*～5\*競技会の特定競技に出場できる。
- 2.3 選手は16歳の誕生日を迎える年から、CSI1\*と2\*競技会の全競技（上記リストの競技を除く）に出場できる。選手は16歳の誕生日を迎える年から17歳の誕生日を迎える年の終わりまで、CSI3\*～5\*競技会およびCSIO1\*～5\*競技会の特定競技に出場できる。

## **第 256 条 服装、保護用ヘッドギア、敬礼**

### **1. 服 装**

- 1.1 選手は観客の前に出る時には正しい服装でなければならず、競技中および表彰式においては障害馬術規程第256条1、第256条3、および一般規程第135条2の適用条項に合致した服装が求められる。
- 1.2 コース下見に際しては身だしなみのよい服装でなければならない。いかなる場合でも長靴、白または淡黄褐色の乗馬ズボン、長袖あるいは半袖のシャツ、白いタイあるいはチョーカーを着用しなければならない。シャツは白い襟（カラー）つきでなければならない；長袖シャツの場合は白い袖口が付いていなければならない。
- 1.3 悪天候の場合、競技場審判団は外套または防水服の着用を許可することがある。非常に暑い天候の場合、競技場審判団は選手にジャケット着用なしに騎乗を認めることがある。

- 1.4 騎乗中はいかなる者も常に3点で固定された保護用ヘッドギアを適正に着用することが義務づけられる。どのような時であれ選手がヘッドギアを脱いだ場合には、本規則で許可しているか否かにかかわらずすべて自己責任となる。走行中にヘッドギアが脱げるか、あるいはその固定ポイントが外れた選手はかぶり直し、またはつけ直し、固定ポイントがゆるくなった場合は締め直さなければならない。そのような場合、ヘッドギアを再装着／または固定ポイントを締め直す際に停止しても選手は減点されないが、時計は止めない。固定ポイントを正しく締め直すために急停止すると危険な状況（例えばコンビネーションの途中であったり、あるいは飛越しようとしている障害物の1歩または2歩手前でゆるんだ場合）を除き、選手が固定ポイントを的確に締めずに、またはまったく締めずに障害物を飛越したり、あるいは飛越しようとした場合は失権となる。例外として、シニア選手が表彰式で褒賞を受領する際、あるいは国歌の演奏中、その他式典の際にヘッドギアを外すことはできる。
- 1.5 民間人はユニフォームか所属NFの承認した服装、ジャケット（競技用ジャケットの色は指定なし；襟はジャケットと同色かあるいは他の色でも良い）、白または淡黄褐色の乗馬ズボン、黒または茶色の長靴の着用が求められる。他の暗色の長靴もFEIの判断で認められる場合がある。長靴は踵付きでなければならない。シャツは長袖でも半袖でもよいが、白の襟付きであること；長袖シャツの場合は白い袖口が必要である。白いタイあるいはチョーカーを着用しなければならない。ジャケットを着用しない場合（天候による例外については第256条1.3参照）は袖付きシャツを着用しなければならない；長袖も半袖も許可される。
- 1.6 軍人、警察官、憲兵隊員、軍関係者または国立生産牧場の職員は、民間人と同じ服装か、もしくは制服を着用することができる。
- 1.7 競技場審判団の判断により、服装が不適切な選手については競技への参加が認められないことがある。
- 1.8 CSIOのネーションズカップ競技、および地域選手権大会、大陸選手権大会、世界選手権大会における競技（チームと個人）のあらゆるステージで、そして該当国のオリンピック委員会の承認を受けることを条件としてオリンピック大会と地域大会の競技中、選手は所属NFの公式な服装を着用するものとする。NFに公式な服装がない場合、当該NFの選手は障害馬術規程第256条3の条項に従うことを前提として、適宜、障害馬術規程第256条1.5ま

たは第256条1.6に則った服装を着用できる。

襟が同色である黒、赤、紺、緑色のジャケットはNFの公式ジャケットとして登録できない。

チームメンバーのジャケットは同一色でなければならない（襟はジャケットと同色かあるいは他の色でも良い）。この規則に従わない選手は、競技場審判団により1,000スイスフランの罰金が科される。更に当該選手はアリーナからの退場を求められ、規則に準拠したジャケットを着用するまでは競技参加が認められない。

1.9 色彩について論議が生じた場合はFEI事務総長に付託し、この事務総長の決定が最終となる。

1.10 イヤフォンおよび／または電子通信機器をFEI障害馬術競技中に着用することはできない。疑義を避けるために明記すると、選手、グルームあるいはその他の人物は、アリーナ以外であれば片耳にイヤフォンを装着することはできる。

## 2. 敬 礼

2.1 競技場審判団長が別段の指示を出さない限り、競技場審判団の管轄下にてアリーナで行われるすべての競技において、各選手は敬意の意味合いで主審に敬礼しなければならない。競技場審判団は敬礼を怠った選手の走行開始を拒否することができる。更に競技場審判団は当該選手に罰金を科すこともある（障害馬術規程第240条2.7参照）。特別な理由により、競技場審判団は組織委員会と協議のうえ、各競技開始前の選手の敬礼を必要とするか否かを決定する場合がある。国家元首が臨席しているときには、組織委員会が競技場審判団長の下承を得て、敬礼は国家元首に対して行うよう出場選手に指示しなければならない、また役員席に特別な来賓がある場合にも同様な処置をとることがある。

2.2 選手はパレード、表彰式、あるいは国歌が流れる間は敬礼することとする。

2.3 競技場審判団は、特別な理由により敬礼は不要と判断することができる。

2.4 選手は敬礼の際にヘッドギアを外してはならない。鞭を上げるか頭を下げることで適切な敬礼とみなされる。

### 3. 選手および馬につける広告（一般規程第 135 条参照）

3.1 IOCの後援を受けて行われる地域大会やオリンピック大会（オリンピック大会におけるオリンピック馬術競技規程参照）を除くすべての競技会において、選手はメーカー、選手スポンサー、選手のチームスポンサー、NFスポンサー、選手の所属国、および／または選手自身を識別表示する服装を着用および装具を使用できるが、以下に示す特定条件に従う場合のみとする：

#### 3.1.1 スポンサーではないメーカーの識別表示

3.1.1.1 競技エリアにいる場合と表彰式の際に、スポンサー企業ではない衣類・装具メーカーを特定する名称やロゴの表示は、衣服と装具につき各1ヶ所、3cm<sup>2</sup>以内の表面積とする。

#### 3.1.2 スポンサーの識別表示

3.1.2.1 競技エリアにいる場合と表彰式の際に表示できる選手スポンサー、選手のチームスポンサーおよび／または所属NFのスポンサーの名称および／またはロゴは、以下の表面積を超えない範囲とする：

- i) ジャケットあるいは上衣の両側各々に胸ポケットの高さで80cm<sup>2</sup>；
- ii) シャツの両襟あるいは女性のブラウスの襟では中央部分で 16cm<sup>2</sup>；
- iii) 民間人はヘッドギアの中央部分に垂直にスポンサーロゴを表示できる。このロゴは長さ 25cm、幅 5cm 以内とする。
- iv) 乗馬ズボン左脚に縦方向で 1 ヶ所 80cm<sup>2</sup>（長さ 20cm、幅 4cm 以内）
- v) サドルクロスの側面は両側とも200cm<sup>2</sup>；
- vi) イヤーフードでのロゴは 75cm<sup>2</sup>

3.1.2.2 すべてのFEI競技会において、組織委員会は競技および／または競技会スポンサーの名称および／またはロゴを、競技エリアにいる組織委員会運営員の衣服、および馬が競技エリアにいる場合や表彰式の際に使用する馬着にも表示できる。選手ナンバーに付ける名称および／またはロゴのサイズは100cm<sup>2</sup>以内とする。

#### 3.1.3 選手の所属国識別

3.1.3.1 競技エリアにいる場合と表彰式の際に表示できる選手の国名やロゴ、国の象徴および／または国旗、および／または選手のNFロゴもしくは名称は、以下の表面積を超えない範囲とする：

- (i) ジャケットあるいは上衣の両側各々に胸ポケットの高さで、また襟に適度な大きさ；
- (ii) ジャケットあるいは上衣の片腕に200cm<sup>2</sup>、もしくはジャケットあるいは

上衣の両腕各々に100cm<sup>2</sup>

(iii) ヘッドギアの中央部分に垂直に（障害馬術規程第256条3.1.2.1.iiiの仕様を参照）

(iv) 乗馬ズボン左脚に縦方向で1ヶ所80cm<sup>2</sup>（長さ20cm、幅4cm以内）

(v) サドルクロスの側面は両側とも200cm<sup>2</sup>

(vi) イヤーフードのロゴは75cm<sup>2</sup>

いかなる場合も、表示方法と見える度合いが3.1.2.1と3.1.3.1に記載の表面積に合致している限り、選手の所属国識別を選手スポンサー、選手のチームスポンサーおよび／またはNFスポンサーの名称および／またはロゴと併せて表示してもよい。

上記に加えて、選手所属国の国旗または国を示すIOC使用の略記で公式3文字を選手ジャケット背面の両肩中央に表示することができる。国旗あるいは国の略式3文字の上端は襟よりも4cm下に配置しなければならない。国旗の幅は25cm以内で、高さは幅に釣り合う程度とする；IOCによる国の略式3文字はIOCの標準書体で記載しなければならず、高さは8cm以内とする。

### 3.1.4 選手名

3.1.4.1 競技エリアにいる場合や表彰式の際に表示できる選手氏名は、乗馬ズボン左脚に縦方向で1ヶ所80cm<sup>2</sup>以内（長さ20cm、幅4cm以内）の表面積とする。

3.2 本条項に別段の記載がない限り、競技エリアにいる間または演技中にいかなる選手、役員、馬についても広告や宣伝を身につけることはできず、騎乗用具にも表示できない。しかしながらコース下見の際に上衣の前後であれば400cm<sup>2</sup>以内、ヘッドギアでは50cm<sup>2</sup>以内で選手は自分のスポンサー、チームスポンサーおよび／またはNFスポンサーのロゴ、および／または国籍を表示することができる。

3.3 チーフスチュワードは、選手がアリーナへ入場する前に前述条項を遵守しているかを確認する責任がある。前述の内容に準拠していない選手は競技の間、アリーナへの入場が認められない。NF承認の公式な服装が本条項の要件に準拠していない場合、FEIはこれを認可しない。

3.4 適用される放映契約、インターネット契約、あるいはこれに類する法規や合意によって認められていれば、障害物とアリーナ側面に広告を表示することができる。スポンサーつき障害物の規格詳細は障害馬術規程第208条3に網羅されている。

- 3.5 FEIとの書面による別段の合意がない限り、本条項でいう競技エリアとは選手が審査される場所または馬がホースインスペクションを受ける場所すべてを含む。これには練習馬場を含めない。

## 第257条 馬 装

### 1. 競技アリーナにて

- 1.1 ブリンカーと馬の目を覆うフライマスクの使用は禁止である。
- 1.2 頭絡の頬革上に革、シープスキンもしくはこれに類する素材をあてることはできるが、馬の頬から測って直径3cmを超えないものとする。
- 1.3 可動式ランニング・マルタンガールのみ使用が許可される。チルドレン競技の馬にはスタンディング・マルタンガールの使用が認められる。
- 1.4 銜の規制はない。しかし競技場審判団には、獣医師の助言に基づき馬が怪我をしそうな銜の使用を禁止する権限がある。

手綱は銜に付けるか頭絡に直接装着しなければならない。手綱は2組まで使用できる。2組の手綱を使う場合にはその1組を銜に付けるか頭絡に直接装着しなければならない。ギャグとハックモアの使用が許可される。

- 1.5 表彰式やパレードの間を除き、競技アリーナでの折り返し（ランニングレーン）の使用は禁止である。
- 1.6 第257条1.1～第257条1.5に記載の規定遵守を怠った場合は失権となる（障害馬術規程第241条3.21参照）。
2. 組織委員会の管轄下にある競技会場内すべての場所（制限区域）で、以下の条項を適用する：
- 2.1 安全確保の観点より、鐙や鐙革（セイフティ鐙にも適用される）はあおり革の外側で托革から垂れ下がっていないなければならない。選手は直接あるいは間接的にであれ、自分の体のいかなる部分も馬具に縛り付けてはならない。
- 2.2 選手はフラットワークを行う際に馬場馬術用の鞭を使用できるが、先端に重りの付いた鞭はいかなる時も認められず、またアリーナとスクーリングエリアで横木通過や障害飛越をする際に、75cmを超える長さの鞭を使用したり携帯することも禁止されている。鞭の代用品を携帯することも認められない。
- 2.3 馬の前肢あるいは後肢に装着が認められる装具（単一のブーツか複数のブーツ、フェットロックリングなど）の総重量は、1肢あたり500gまでとする

(蹄鉄は含まない)。

## 2.4 すべてのFEIヤングホース(5歳\*、6歳、7歳、8歳馬)障害馬術競技について:

国際ヤングホース競技では後肢ブーツに関して以下の基準を遵守しなければならない:

後肢保護具はすべて内側の長さが16cm以内でなければならない; 留め具の幅は5cm以上とする(図についてはFEIウェブサイトのFEI障害馬術スチュワードマニュアルを参照)。

ブーツの丸みを帯びた保護用部位は、球節内側を覆うように装着しなければならない;

ブーツの内側は滑らかであること、即ち表面が平らでブーツ内側にいかなる圧点もあってはならない; 疑念を避けるために記すと、保護用パーツのブーツ内張りへの縫い付けは許可される。シープスキンの内張りは認められる。伸縮性のないマジックテープのみ認められる; フック、バックル、クリップ、その他の留め具は使用できない;

他の装備をブーツに付けたり埋め込むことはできないが、保護用フラップはソフトであり、明らかに保護用である場合に限り使用できる。

フェットロックリングは適切に調整されており、馬の肢に装着する装備重量合計が500グラムを超えないことを条件に、保護目的での使用が認められる(障害馬術規程第257条2.3)。

## 2.5 ポニーライダー、チルドレン、アマチュアオーナー、ベテラン対象のすべてのFEI障害馬術競技会では、以下の記述に合致する後肢用ブーツのみ使用できる。

### 2.5.1 ヤングホース対象のFEI障害馬術競技については第257条2.4に記載のブーツ。



### 2.5.2 内側と外側に保護用パーツがあるブーツ、即ち球節の背部を包み込むダブルシェル・ブーツは以下の基準を満たすことを条件に許可される: ブーツの長さが最大で20cmであること。

ブーツの丸みを帯びた保護機能のあるパーツが球節を包むように装着されること。

ブーツの内側は滑らかであること、即ち表面が平らでブーツ内側にいかなる圧点もあってはならない; 疑念を避けるために記すと、保護用パーツのブーツ内張りへの縫い付けは許可される。シープスキンの内張りは認められる。



ブーツには幅2.5cm以上の伸縮性がある留め具がついていなければならない。次のような留め具のみ許可される：

- スタッドタイプの留め具：末端に穴があり、ここにスタッドをはめ込むストラップ；	
- かぎホックタイプの留め具：末端にホックがついていて「受け金具」にはまるストラップ	

留め具は一方向の使用であること、即ちブーツの片側から出ている留め具が直接、もう片方の端へと装着されるものであり、ブーツ全体を巻き上げるものであってはならない；留め具自体が折返し式のものは許可されない。

ブーツ自体になんらかの部品を追加したり、あるいは挿入してはならない。

- 2.6 2020年1月1日付けで施行：ジュニア、ヤングライダーおよびU-25対象のFEI障害馬術競技会では、第257条2.4と第257条2.5に記載された後肢ブーツのみ使用できる。

2021年1月1日付けで施行：FEI障害馬術競技会では、第257条2.4と第257条2.5に記載された後肢ブーツのみ使用できる。

- 2.7 舌紐の使用は禁止である。舌押さえの使用については獣医規程第1046条5を参照のこと。

- 2.8 競技アリーナで第257条2.1～第257条2.6のいずれかの条項遵守を怠った場合は失権となる（障害馬術規程第241条3.21参照）。

### 3. 馬具および装具に付ける広告

馬具および装具に付ける広告の制限については、障害馬術規程第256条3に定める条件を適用する。

## 第 258 条 事 故

1. 事故により選手または馬が走行を終えることができない場合は、両者とも失権となる。事故が発生しても選手が走行を完了した場合は、乗馬で退場しなくても失権とならない。
2. 競技場審判団が事故後に選手あるいは馬が競技継続には適さないと判断した場合、同審判団はこれを失権としなければならない。

## 第11章 役員

### 第259条 役員

CIM、CSI、CSIO、選手権大会および大会（Games）で職務を遂行する役員はすべてFEI役員行動規範（一般規程付則H参照）を遵守し、FEIウェブサイト公表されている各々の職務内容記述に従って任務を遂行しなければならない。

#### 1. 競技場審判団

競技会	審判員数 <sup>1</sup>	競技場審判団長	外国人 審判員	メンバー	追加 メンバー	主審	水濠審判員
	必要最小限度	最低限の 資格要件	最低限の 資格要件	最低限の 資格要件	最低限の 資格要件	最低限の 資格要件	最低限の 資格要件
オリンピック 大会／ ユースオリンピック 大会(YOG)／ 世界選手権大会	審判長(**)+ メンバー(**) 4名	レベル4 <b>外国からの選任 が必須</b>	選任する場合は レベル4 (競技場審判団長 は外国人でなけ ればならず、外 国人審判員とし て活動できる)	レベル4が3名以 上；レベル3が1 名	適用なし	レベル4	レベル3 (YOGで は水濠障害 使用不可)
パン-アメリカン 大会／シニア大 陸選手権大会／ ワールドカップ ファイナル／ ネーションズカ ップファイナル	審判長(**)+ メンバー(**) 4名	レベル4 <b>外国からの選任 が必須</b>	選任する場合、 レベル4 (競技場審判団長 は外国人でなけ ればならず、外 国人審判員とし て活動できる)	レベル4が1名以 上；レベル3が3 名	レベル3	レベル3	レベル3
CSIO5*	審判長+外国 人審判員(**) +メンバー3 名	レベル4	レベル3	レベル3が2名以 上；レベル2が1 名	レベル2	レベル3	レベル3
地域大会／他の 選手権大会／ CSIO3*-4*	審判長+外国 人審判員(**) +メンバー3 名	レベル3 <b>開催国からの選 任が望ましい</b>	レベル3	レベル3が2名以 上；レベル1が1 名	レベル2	レベル3	レベル2
CSIO1*-2*	審判長+外国 人審判員(**) +メンバー3 名	レベル3 <b>開催国からの選 任が望ましい</b>	レベル3	レベル3が1名以 上；レベル2が1 名；国内あるいは レベル1が1名	国内あるい はレベル1	レベル2	レベル2

CSI5*	審判長+外国人 審判員(**)+ メンバー2名	レベル3 <b>開催国からの選 任が望ましい</b>	レベル3	レベル3が1名以 上；レベル1が1 名	レベル1	レベル3	レベル2
CSI4*, CSI3*	審判長+外国 人審判員(**) +メンバー (*)2名	レベル3 <b>開催国からの選 任が望ましい</b>	レベル3	レベル3が1名以 上；国内あるい はレベル1が1名	国内あるい はレベル1	レベル2	レベル2
CSI2*/CSIYH2* CSIU25カテゴリー A&B CSIY/J/Ch/V/Am カテゴリー A/CSIP	審判長+外国 人審判員+メン バー(*)2名	レベル3 <b>開催国からの選 任が望ましい</b>	レベル3	レベル2が1名 以上；国内ある いはレベル1が1 名	国内あるい はレベル1	レベル2	レベル2
CSI1*/CSIYH1* CSIY/J/Ch/V/Am カテゴリー B	審判長+メン バー(*)3名	レベル3 <b>開催国からの選 任が望ましい</b>	外国人審判員の 選任を推奨する が義務付けでは ない、レベル3	外国人審判員が 選任される場合 は国内あるいは レベル1が2名以 上；外国人審判 員が選任されな い場合は国内あ るいはレベル1が 3名以上	国内あるい はレベル1	国内ある いはレベ ル1	国内あるい はレベル1
ツアーの一環で ある競技会 (どのスターレ ベルでも)	競技会の スターレベル に準拠	競技会のスター レベルに準拠	レベル3 FEIによる選任 (**)	競技会のスター レベルに準拠	競技会の スターレベ ルに準拠	競技会の スター レベルに 準拠	競技会の スターレベ ルに準拠

<sup>1</sup> 四肢の知覚異常検査を行う競技会については、FEIが追加でレベル3以上の審判員1名を選任する。大会（Games）および選手権大会を含むすべての競技会では、競技場審判団メンバー1名が連携審判員として、交代でブーツ&バンデージ規制を担当する；この審判員は望ましくはレベル2以上とする。

(\*)（水濠障害がある場合は）水濠障害審判員を1名追加し、また1日に行われる競技数が多い場合は更に審判員を追加する。

(\*\*) FEIが選任。

疑念を避けるために記すが、国内審判員は自国内での職務遂行に限定されない。各競技とも審判員席にて3名構成の審判団が審査を行い、更に水濠障害がある場合は水濠障害審判員1名をこれに加える。

**重要：ここに言及した審判員数は最低限の人数であり、1日に行われる競技数および同時に使用されるアリーナ数に応じて調整しなければならない。**

### 1.1 競技場審判団のセクレタリー

すべてのCIM、CSI、CSIO、選手権大会および大会（Games）において、組織委員会はその競技会で行われるすべての競技でセクレタリーを1名、競技場審判団に配置しなければならない。セクレタリーの職務は自由意志による立場のため、役員経費に関する障害馬術規程第200条6.2の条項は適用しない。

### 1.2 審判員の昇格：FEIウェブサイト公表されているFEI審判員教育システムを参照のこと。

一般規程に記載の審判員カテゴリーは以下の通り変更となっている：

- (i) 国内審判員 = 変更なし
- (ii) 新カテゴリー審判員 = レベル1
- (iii) 国際審判員補 = レベル2
- (iv) 国際審判員 = レベル3
- (v) 公認国際審判員 = レベル4

### 1.3 審判員の定年は全員70歳とする。これは国際障害馬術競技会で競技場審判団を務める国内審判員にも適用する。テクニカル委員会の同意を得て、FEI障害馬術ディレクターにより2年間の延長期間が最大限2回まで認められることがある；最終延長期間は当該審判員が74歳を迎える年の終わりまで有効である。

## 2. 実施要項の統括とFEIへの外国人審判員報告書

競技会	実施要項の統括	競技会から14日以内にFEIへ報告
オリンピック大会、世界選手権大会	FEI	競技場審判団長
地域大会、シニア大陸選手権大会、FEIワールドカップ <sup>TM</sup> ファイナル、他の選手権大会	FEI	競技場審判団長
CSIO1* - CSIO5*	FEI	外国人審判員
CSI 3* - CSI5*	FEI	外国人審判員
CSI 2*/CSIYH2*	FEI	外国人審判員
CSIY/J/Ch/V/AmカテゴリーA/ CSIU25 A+B/CSIP	FEI	外国人審判員
CSI1*/CSIY/J/Ch/V/AmカテゴリーB/CSIYH1*	FEI	外国人審判員あるいは競技場審判団長

### 3. 上訴委員会

上訴委員会の構成、および同委員会の委員長とメンバーの選任は一般規程に従わなければならない。すべての年齢カテゴリーのCSIおよびCSIO競技会では、上訴委員会の設置は任意である；しかし参加馬が多い競技会で時間的余裕がなく、競技場審判団では上訴委員会の任務を遂行できないと思われる場合は、FEIに上訴委員会の選任を要請する権利がある。

### 4. 獣医師代表団と獣医師代表

4.1 オリンピック大会、地域大会、ユースオリンピック大会、選手権大会、FEIワールドカップ™ファイナル、シニアCSIOでは獣医師代表団の配置が必須であり、その構成と同団長およびメンバーの選任は獣医規程に従わなければならない。

4.2 シニア以外のカテゴリーを対象とするCSIO、およびCSIにて組織委員会選任の獣医師代表とみなすには、獣医規程に準拠した獣医師であることが求められる。

### 5. コースデザイナーと技術代表

#### 5.1 コースデザイナー

5.1.1 地域大会と地域選手権大会のコースデザイナーはレベル3以上のFEIコースデザイナーリストから選考し、当該NF／組織委員会がFEIの合意を得て選任しなければならない。

5.1.2 オリンピック大会、ユースオリンピック大会、世界選手権大会、シニア大陸選手権大会、FEIネーションズカップ™ファイナル、FEIワールドカップ™ファイナルのコースデザイナーはレベル4コースデザイナーでなければならず、組織委員会がFEIの合意を得て選任する。

5.1.3 ベテラン、ヤングライダー、ジュニア、チルドレン、ポニーライダー大陸選手権大会のコースデザイナーは組織委員会が選任するが、少なくともレベル3コースデザイナーでなければならない。

5.1.4 CSIO3\*/4\*/5\*とCSI3\*/4\*/5\*におけるコースデザイナーは組織委員会が選任するが、レベル3以上のFEIコースデザイナーリストから選考しなければならない。

5.1.5 CSIO1\*、第264.3条に定める2\*競技会の規模でネーションズカップ競技

を行うCSIO2\*、CSI1\*/2\*のコースデザイナーは組織委員会が選任するが、レベル2以上のFEIコースデザイナーリストから選考しなければならない。第264.3条に定める3\*以上の競技会規模でネーションズカップ競技を行うCSIO2\*競技会のコースデザイナーは、レベル3以上のコースデザイナーリストから選考しなければならない。

5.1.6 コースデザイナーは、下記7.に定める利益相反には特に留意しなければならない。また、殊に自分の近親者が1名あるいはそれ以上出場している競技会でコースデザイナーの役職を果たすことはできない。

#### 5.1.7 コースデザイナーの昇格

FEI ウェブサイトに公表されている FEI コースデザイナー障害馬術の教育システムを参照のこと。

従来のコースデザイナーのカテゴリーは以下の通りに変更されている：

(i) 国内コースデザイナー	=	変更なし
(ii) 新カテゴリー	=	レベル 1
(iii) 国際コースデザイナー補	=	レベル 2
(iv) 国際コースデザイナー	=	レベル 3
(v) 公認国際コースデザイナー	=	レベル 4

## 5.2 技術代表

5.2.1 地域大会、地域選手権大会、およびベテラン、ヤングライダー、ジュニア、チルドレン、ポニーライダー対象の大陸選手権大会においては外国人技術代表の選任が義務づけられており、レベル3以上のFEIコースデザイナーリストから選考され、FEI障害馬術部門ディレクターが障害馬術委員会と協議のうえ選任する。

5.2.2 オリンピック大会、ユースオリンピック大会、世界選手権大会、シニア大陸選手権大会、FEIネーションズカップ™ファイナル、FEIワールドカップ™ファイナルにおける外国人技術代表は、レベル4コースデザイナーであるか、またはそのレベルにあった者でなければならない。FEI障害馬術部門ディレクターが障害馬術委員会と協議のうえ選任しなければならない。オリンピック大会、パン-アメリカン大会、シニア世界および大陸選手権大会については、FEIの判断により二人目の技術代表を選任して競技会全体の運営で組織委員会との連絡調整を担当させることがある。二人目の技術代表はコースデザインの経験がなくてもよい。

5.2.3 技術代表（外国人もしくは国内資格）は審判員およびコースデザイナーのFEI リストから選考されることが望ましく、CSIOとCSIの組織委員会が選任する。

## 6. スチュワード

スクーリングエリアとウォームアップエリアは常に監視が必要である。これらの馬場が使用されている間は常に最低 1 名のスチュワードが立会い、諸規程の遵守を徹底させなければならない。

### 6.1 チーフスチュワード

各国際競技会につきチーフスチュワードの選任が必要であり、FEI スチュワードリストから選考しなければならない。オリンピック大会、ユースオリンピック大会、地域大会、世界選手権大会、大陸選手権大会、地域選手権大会、FEI ネーションズカップ<sup>TM</sup> ファイナル、FEI ワールドカップ<sup>TM</sup> ファイナルにおけるチーフスチュワードは、FEI 障害馬術部門ディレクターが障害馬術委員会と協議のうえ選任しなければならない。次のレベルの国際競技会では、チーフスチュワードは少なくとも以下の資格を有する者でなければならない：

- (i) すべての CSIO、すべての CSI、シニア以外のカテゴリーを対象とする選手権大会：レベル 2 スチュワード
- (ii) オリンピック大会、地域大会、ユースオリンピック大会、シニア大陸選手権大会、シニア地域選手権大会、シニア世界選手権大会、FEI ワールドカップ<sup>TM</sup> ファイナル：レベル 3 スチュワード

### 6.2 外国人スチュワード

すべての 5\*競技会およびすべてのツアー競技会（少なくとも 2 週続けて週末に同一競技会場にて同じ組織委員会が開催する FEI 障害馬術競技会）についてはスターレベルにかかわらず、FEI が外国人スチュワードを選任する；外国人スチュワードの選任は、チーフスチュワードとアシスタントスチュワードの選任に追加するのもである。

### 6.3 アシスタントスチュワード

国際競技会に選任されるアシスタントスチュワードは、少なくともレベル 1 スチュワード資格を有する者でなければならない。各競技会で 4 名以上のアシスタントスチュワードの選任が必要である；同じ競技会場で同時開催される競技会数により、および／または 1 日に行われる競技数、および／または同時に使用されるアリーナ数と当該競技会に参加申込している馬の頭数、競技会場の規模とレイアウトによって、アシスタントスチュワードを追加選任する必要がある。

## 7. 利益相反

状況から判断して大方の者が利害の競合があると推察するような場合には、利益相反が実質的に存在すると言える。利益相反とは、FEI を代表するか、あるいは FEI に代わってビジネスや取引を行うにあたり、客観性に影響を与える可能性があったり、あるいは与えるとみなされるような、家族関係などを含む人的関係、職業上の関係、あるいは金銭的關係と定義づけられる。

現実的に可能な限り、利益相反は避けなければならない。しかしながら、スポーツ成績の向上を目指すため、FEI が利益相反と確立された専門性との釣り合いをとらねばならない事例もあるだろう。

## 第 12 章 競 技

### 第 260 条 概 要

1. 個人およびチームを対象とする様々な障害馬術競技がある。以下の条項では、国際競技会で最も多く行われる競技を網羅する。
2. 組織委員会は、スポーツに多様性をもたせるためにも新しいタイプの競技を提案することができる。しかしながら、本章に述べる競技についてはすべて、この障害馬術規程を厳守して開催しなければならない。

### 第 261 条 ノーマル競技とグランプリ競技

1. ノーマル競技とグランプリ競技（後者については実施要項に明記しなければならない）は飛越能力の審査を主たる要素にしているが、第1位で同点の選手がでた場合は1回目のジャンプオフ、もしくは最大限2回のジャンプオフにスピードを導入して優劣を決定することができる。
2. これらの競技は基準Aにてタイムレース、あるいはタイムレースとしない条件で審査されるが、必ず規定タイムを設ける。
3. コースは馬の飛越能力の審査を主眼として設定する。組織委員会は障害物の数、種類、そして高さや幅が所定の制限内で設置されることに責任を負う。
4. グランプリ競技への出場資格
  - 4.1 CSIOにおけるグランプリ競技へ出場するための選手／馬の資格条件を実施要項に定める場合は、次の開催方式を参照することが義務づけられる。  
公式チームメンバーあるいは個人選手として参加している場合、以下の選手は自動的にCSIOのグランプリ競技への出場資格を得る：



- 4.1.1 前回のオリンピック大会とパン-アメリカン大会の個人障害馬術メダル受賞者（選手）、前回の世界および大陸選手権大会における個人メダル受賞者（選手）、および前回のFEIワールドカップ<sup>TM</sup>障害馬術ファイナル優勝人馬コンビネーション。
- 4.1.2 CSIO5\*競技会におけるグランプリ競技に出場できるのは、それより遡る12ヶ月間に行われたCSIO5\*競技会のグランプリ優勝者（人馬コンビネーション）。
- 4.1.3 CSIO4\*競技会におけるグランプリ競技に出場できるのは、それより遡る12ヶ月間に行われたCSIO4\*あるいはCSIO5\*競技会のグランプリ優勝者（人馬コンビネーション）。
- 4.2 CSI競技会におけるグランプリ競技へ出場するための選手の資格条件を実施要項に定める場合は、次の開催方式を参照することが義務づけられる。これは、FEI理事会が承認したシリーズの一環であるCSI競技会には適用しない。
- 以下の選手（人馬コンビネーションではない）は、自動的にCSI競技会のグランプリ競技への出場資格を得る：
- 4.2.1 次の条件に従い、当該競技会における前年のグランプリ競技優勝者：
- CSI3\*/CSI4\*/CSI5\*競技会のグランプリについては、前年の競技会スターレベルが同一かあるいはそれ以上であった場合に、前年の当該競技会グランプリ優勝者に出場資格がある；
  - CSI1\*/CSI2\*\*競技会のグランプリについては、前年の競技会スターレベルにかかわらず、前年の当該競技会グランプリ優勝者に出場資格がある；
- 4.2.2 開催国の現在のナショナル障害馬術チャンピオン
- 4.2.3 前回のオリンピック大会とパン-アメリカン大会の個人障害馬術メダル受賞者、前回の世界および大陸選手権大会における個人メダル受賞者、および前回のFEIワールドカップ<sup>TM</sup>障害馬術ファイナル優勝者。
- 4.3 CSIO あるいは CSI におけるグランプリ競技へ出場するための選手／馬の資格条件を実施要項に定める場合は、すべての予選競技をタイムレースで基準Aにて行つか、あるいは基準A採用で1回か2回のジャンプオフを行う条件で開催しなければならない。
- 4.4 CSIO あるいは CSI のグランプリ競技に出場する選手はすべて、グランプリ競技以前に行われる下記リスト\*中の少なくとも1FEI競技の初回ラウンドを、

各自のグランプリ馬で完走していなければならない。人馬コンビネーションが、グランプリ競技以前に行われるこれら競技のいずれかの初回ラウンドを完走したものの、その後、その競技で失権または失格となった場合でも、当該馬はグランプリ競技よりも前に行われる FEI 競技の初回ラウンドを完走するという出場資格要件を満たしたとみなされて、当該選手はこの馬でグランプリ（予選通過すれば）に出場できる。グランプリ競技が競技会初日に行われるか、あるいはそれが競技会における唯一の競技である場合は、その開催日程に関わらず組織委員会はトレーニングセッションを設け、グランプリ競技に先がけてアリーナで障害飛越を行う機会を選手に提供しなければならない。同様の条項を FEI ワールドカップ<sup>TM</sup>競技に適用する。

\*グランプリ競技への馬の出場資格を満たすのにカウントされる FEI 競技：

第 261 条「ノーマル競技」

第 262 条 4「マスタース競技」

第 263 条 ハンティング競技あるいはスピードアンドハンディネス競技

第 264 条 ネーションズカップ競技

第 265 条 スポンサーチーム競技と他の団体競技

第 267 条 ヒット・アンド・ハリー競技

第 269 条 アキュムレーター競技

第 270 条 トップスコア競技

第 271 条 コース自由選択競技

第 273 条 2 回走行競技

第 274 条 5.1 ノーマル二段階走行競技（一段階目の完走でよい）

第 274 条 5.2 特別二段階走行競技（馬の出場資格を満たすには二段階ともに完走しなければならない）

第 275 条 決勝ラウンドを行うグループ競技

第 276 条 決勝ラウンドを行う競技

第 277 条 ダービー競技

第 278 条 コンビネーション障害で競う競技

疑念を避けるために記すと、グランプリ競技への馬の出場資格を次の競技で満たすことはできない：第 262 条 2 ピュイッサンス競技、第 262 条 3 六段障害飛越競技、第 266 条 フォルト・アンド・アウト競技、第 268 条 リレー競技、第 272 条 ノックアウト競技、および第 274 条 5.2 特別二段階走行競技の一段階目のみの完走。

5. グランプリ競技は次のいずれかの方式に従って行わなければならない：

5.1 ジャンプオフを1回もしくは2回行う1回走行で、ジャンプオフの1回目か2

回目はタイムレースとするか、あるいは両方ともタイムレースとする；あるいは

5.2 タイムレースのジャンプオフを1回行う2回走行（同一または異なるコース）；あるいは

5.3 2回走行を行い、2回目をタイムレースとする。

6. CSIO 競技会でのグランプリ競技は、次のいずれかの方式で審査しなければならない：

6.1 障害馬術規程第 238 条 2.2：タイムレースのジャンプオフを 1 回行うタイムレースの 1 回走行；あるいは

6.2 障害馬術規程第 273 条 3.3.1 あるいは第 273 条 3.3.2：ジャンプオフなしの 2 回走行；あるいは

6.3 障害馬術規程第 273 条 3.1 あるいは第 273 条 3.4.2：2 回走行とジャンプオフ 1 回

第 1 ラウンドでの飛越回数は 15 回、第 2 ラウンドでは 9 回までに限定される。

7. すべての CSI5\* と CSIO5\* 競技会については、実施要項にグランプリ競技における障害物の高さを 1.60m と記載しなければならない。CSI-W 競技会については、FEI ワールドカップ™ 競技における障害物の高さ最大を 1.65m と実施要項に記載することができる。障害馬術規程第 208 条も参照。

## **第 262 条 パワーアンドスキル競技**

### **1. 通則**

1.1 パワーアンドスキル競技の目的は、限定数の大障害における馬の飛越能力を示すことにある。

1.2 第 1 位で同点の選手が出た場合は、一連のジャンプオフを行わなければならない。

1.3 ジャンプオフ用障害物は、いかなる場合も本競技のコースに使用されたものと形やタイプ、色も同じでなければならない。

1.4 3 回目のジャンプオフを終えても優勝者を決定できない場合、競技場審判団は競技の継続を止めることができる。4 回目のジャンプオフでも決定できない場合は、競技場審判団が競技の継続を止めなければならない。この段階で残っている選手は同一順位となる。

1.5 3 回目のジャンプオフ後に選手が競技の継続を希望しない場合は、競技場審判団は競技の継続を止めなければならない。

1.6 3 回目のジャンプオフで過失があった場合は、4 回目のジャンプオフを行うことができない。

- 1.7 同減点の場合、タイムは順位の決定要素にならない。規定タイムも制限タイムも設定しない。
- 1.8 競技は基準Aに基づいて審査を行う。
- 1.9 選手が練習馬場でスクーリングできない場合は、アリーナ内に練習用障害物を設置しなければならない。オプション障害の使用は認められない。
- 1.10 アリーナの広さと選手数によって状況が許す場合、競技場審判団は1回目もしくは2回目のジャンプオフで残っている選手をアリーナ内で待機させることができる。この場合、競技場審判団は練習用障害物の使用を認めることがある。

## 2. ピュイッサンス競技

- 2.1 本走行のコースは4個～6個の単独障害で構成し、このうち少なくとも1個は垂直障害でなければならない。第1障害は高さを1.40m以上とし、高さが1.60m～1.70mの障害物を2個、高さが1.70m～1.80mの箱障害か垂直障害を1個設置しなければならない。コンビネーション障害、水濠障害、乾壕、自然障害の使用はすべて禁止される。  
踏切側に傾斜板（箱障害基底部から最大30cm）が付いている箱障害の使用は認められる。
- 2.2 箱障害の代わりに垂直障害を使うこともできるが、その場合は上に横木を1本のせたプランク（平板）、あるいは上に横木を1本のせたプランクと横木のコンビネーション、もしくはすべて横木で構成した障害物で代用することができる。
- 2.3 第1位で同点の選手がでた場合は、引き続き2個の障害物でジャンプオフを行わなければならない。障害物は箱障害1個あるいは垂直障害1個と幅障害1個とする（障害馬術規程第246条1参照）。
- 2.4 ジャンプオフでは2つの障害物の高さを段階的に上げ、幅障害については幅も広げなければならない。第1位で同点の選手らが前回の走行で減点を出していない場合にのみ、垂直障害あるいは箱障害の高さを上げることができる（障害馬術規程第246条1参照）。

## 3. 六段障害飛越競技

- 3.1 この競技では、6個の垂直障害を各障害間距離が約11mとなるよう直線上に配置する。障害物は同じ種類の横木だけを使用して等しく構築しなければならない。横木を支える掛け金の深さは最大で20mmとする。障害物の数はアリーナの広さに応じて減らすことができる。
- 3.2 障害物をすべて同じ高さで造ってもよく、例えば一律1.20mに設定する、もしくは

- 3.2.1 段階的に高さをかえて、例えば1.10m、1.20m、1.30m、1.40m、1.50m、1.60mとする、あるいは；
- 3.2.2 最初の2つの障害物を1.20mで、次の2つの障害物を1.30mというように設定する。
- 3.3 馬が拒止したり逃避した場合は、過失のあった障害物から走行を再開しなければならない。
- 3.4 第1位で同点となっている選手らが第1ラウンドで減点があった場合を除き、最初のジャンプオフは高さを上げた6個の障害物で行わなければならない。最初のジャンプオフ後に、障害物数を4個にまで減らすことができるが、障害間距離は当初に定めた11mを維持しなければならない（障害物を減らす場合は低いものから外すこと）。

#### 4. マスターズ

- 4.1 この競技は初回ラウンドと最大限4回のジャンプオフを行う競技である。初回ラウンドでは障害物6個（ダブルを1個含む）のコースを高さ最大1.50m、幅最大1.40～1.70mで構築する。各ジャンプオフで選手は入場時に高さを上げる障害物を1つ指定する。最初の過失で選手は失権となる。この場合、高さを上げた障害物は元の高さに戻す。同じジャンプオフで障害物の高さを2回目に上げることができるのは、すべての障害物が既に上げられおり、また元の高さに下げられていない場合のみとする。
- 4.2 最初の3回のジャンプオフのいずれかで選手全員が失権した場合は、最後のジャンプオフで失権した選手らが障害物の高さを変えないタイムレースのジャンプオフにもう1度出場し、順位を決定する。いずれかのジャンプオフで失権となった選手はそのジャンプオフでは同順位となり、それより前のジャンプオフおよび／または初回ラウンドで失権となった選手よりも上位となる。

4回目と最終ジャンプオフにおける障害物の高さ：高さ1.70mまで－幅2mまで；トリプルバー：2.20mまで。

### 第 263 条 ハンティング競技、あるいはスピードアンドハンディネス競技

- 1. これらの競技の目的は馬の従順さ、調教程度、そしてスピードを示すことにある。
- 2. これらの競技は基準Cで審査される（障害馬術規程第239条参照）。
- 3. コースは彎曲していて、障害物の種類も多様でなければならない（選択障害を

設けることができ、これによって選手は難度の高い障害物を飛越することで走行距離を短縮できる）。

バンク、スロープ、乾壕などの自然障害を飛越する競技をハンティング競技と呼び、実施要項でもその名称で記載しなければならない。（この種類で）その他の競技はすべてスピードアンドハンディネス競技と呼ぶ。

4. コースプランには通過すべきコースを指定しない。コースプランでは、各障害物の飛越方向を矢印で示すのみとする。
5. 回転義務地点がどうしても必要な場合にのみ、コースプランに記載する。

## **第 264 条 ネーションズカップ**

### **1. 開催について**

ネーションズカップ（「NC」とも記載する）は公式国際団体競技である。その目的は次の条件にて、様々なNFから派遣されてきた選手と馬の能力を比較することにある：

- 1.1 ネーションズカップはCSIOにおいてのみ開催できる。例外的な状況下で、FEI事務総長とともに障害馬術委員長による別段の合意がある場合を除き、原則としてヨーロッパCSIOシーズンは屋外競技会のみとする。
- 1.2 この競技をネーションズカップとして成立させるには、最低 3 NFの参加が必要である。
- 1.3 何らかの理由でこの競技が他の名称で行われる場合は、「ネーションズカップ」の副タイトルを付けなければならない。
- 1.4 これは公式チームが各々NFを代表して競う唯一の競技であり、その特性を保つためにも個人順位を求めてはならない。
- 1.5 この競技の賞金額合計はグランプリ競技、もしくは最高賞金額の出る競技における授与額の50%以上に相当しなければならないが、FEI事務総長がその比率の修正を承認した場合はこの限りではない。

賞金は第2ラウンドに出場したすべてのチームに授与しなければならない。

- 1.6 この競技は同一日に同一コースで2回走行を行う。

1.7 ネーションズカップはタイムレースではなく基準Aで審査され、2回走行のどちらにも規定タイムが設けられる。

## 2. ネーションズカップ競技のカテゴリー

競技会の賞金額合計に応じて5\*、4\*、3\*、2\*、1\*CSIOを開催できる。

## 3. 障害物と他のテクニカル要件

3.1 障害物の数と大きさ、コース全長は次の限度内でなければならない：

	5 * NC	4 * NC	3 * NC	2 * NC	1 * NC
障害物の数	12	12	12	12	12
高さの下限／上限(m)	1.30/1.60	1.30/1.50	1.20/1.45	1.10/1.35	1.00/1.20
この高さの垂直障害を2個以上(m)	1.60	1.50	1.45	1.35	1.20
その他の障害物をこの高さで6個以上(m)	1.50	1.45	1.40	1.30	1.10
幅障害を2個以上高さの下限／最小幅(m)	1.50/1.70	1.45/1.60	1.40/1.50	1.30/1.50	1.20/1.40
最大幅(m)	2.00	1.90	1.80	1.70	1.50
トリプルバーの最大幅(m)	2.20	2.10	2.00	1.90	1.70
水濠障害の最小幅／最大幅(m)（障害馬術規程第211条1参照）	3.80/4.00	3.70/3.90	3.50/3.70	3.20/3.50	2.70/3.00
コース全長の下限／上限(m)	450/700	450/700	450/700	450/700	450/700
屋外での速度(m/分)	400	400	375	350	350
屋内での速度(m/分)	350	350	350	350	350

3.2 コースには水濠障害を1個設けなければならない（屋内アリーナでは任意であり、上記の幅より狭くすることができる）。水濠障害の構造に関する詳細は障害馬術規程第221.1条と付則7を参照のこと。非常に例外的に、FEI事務総長の明確な許可をもって、水濠障害を省くことができる。上記に示した水濠障害の幅は踏切部分を含めた値である。

3.3 屋外競技会の場合、バンクや堆土、スロープなどの常設障害物を除いて、いかなるコンビネーション障害も4回以上の飛越を要するものであってはならない。

3.4 コースには少なくともダブル1個かトリプルコンビネーションを1個設けなければならないが、上限はダブル3個あるいはダブル1個とトリプル1個のコンビネーションとする。

3.5 屋内アリーナの場合は、コース全長を上記に示した値よりも短縮することができる。

3.6 1回目もしくは2回目の走行が始まる前に、競技場審判団が予期せぬ事態のためコースが使用に適さない状態になったと判断した場合、同審判団は障害物の大きさを幾つか縮小したり、位置を多少動かすよう指示し、また指定速度を遅くすることができる。また第1ラウンドのコースが簡単すぎたと思われる場合は、競技場審判団がコースデザイナーと協議のうえ、第2ラウンドでの障害物を幾つか大きくするよう指示を出すこともできる。

#### 4. 選手

4.1 ネーションズカップに出場するチームは4名の選手構成で、選手はすべての競技を通して各々同一馬に騎乗する。次の4.2に記載の場合を除き、各チームのメンバーは全員が第1ラウンドに出場しなければならない。

4.2 第1ラウンドあるいは第2ラウンドで、選手4名構成のチームが第3走者の走行終了時点でチーム順位を浮上させる可能性がなくなった場合、4番目の選手を棄権させることができる。

#### 5. 参加

ネーションズカップ競技への参加は以下の条件に従う：

5.1 選手と馬は公式チームから選考され、第1競技の前にチーム監督が申告する。ネーションズカップが開催される前日に、チーム監督は選手4名と馬4頭、およびそのスターティングオーダーを申告する；

5.2 チームが選手3名と馬3頭しか出せない場合、チーム監督は選手と馬を全員参加させなければならない；

5.3 不可抗力でやむを得ないと競技場審判団が認めた場合を除き、3名以上の選手を公式派遣したNFはすべて、この競技に参加しなければならない。棄権あるいは出場を辞退して参加しなかったチームについては、その大会の全期間を通して獲得した賞金がすべて没収される。また滞在費を受給する権利を失う；



5.4 正式に代表チームを派遣していないNFから同国籍の選手が3名以上、個人選手として参加申込を行っている場合、その個人選手らはチームを構成してネーションズカップに出場しなければならない。ただし、彼らの所属するNFが競技会の7日前までに、同選手らはネーションズカップに出場しない旨を組織委員会に連絡した場合を除く。この場合、組織委員会には彼らの個人選手としての参加申込を拒否する権限がある；

5.5 出場の申告を行ってから競技開始1時間前までに、選手および／または馬が事故にあったり病気となった場合は、公式医師からの診断書および／または獣医師代表団の許可書の提出を行い、競技場審判団の承認を受けた上で、公式チームとしてデフィニットエントリーを行っている別の選手および／または馬と交代させることができる（障害馬術規程第253条参照）。交代した場合でもスターティングオーダーの変更はない。

すべてのNFがチームメンバーに加えて個人選手の参加申込を認められており、チームメンバーとして参加が認められる上限が4名である場合には、病気や事故の際に個人選手からチームメンバーへの変更が認められる（障害馬術規程第253条参照）。

## 6. スターティングオーダー

6.1 第1ラウンドにおけるチームのスターティングオーダーは、競技場審判団とチーム監督の立会いのもとで抽選によって決定される。抽選は競技場審判団の同意を得て組織委員会が定めた時刻に行われる。

6.2 各チームの1番手の選手が先ず全員出場し、次に2番手、以下同様とする。選手3名構成のチーム監督は、4名分の枠から3名のスターティングオーダーを選択できる。

6.3 第2ラウンドにおけるチームのスターティングオーダーは、第1ラウンドでの各チーム内上位3選手の減点合計に基づき、そのリバースオーダーとする。同減点のチームについては第1ラウンドと同じスターティングオーダーを維持する。

6.4 各チーム内選手のスターティングオーダーは、第1ラウンドと同じとする。

## 7. 第2ラウンドへ出場するチーム数と選手数

上記4.2と5.2に記載の状況を除き、組織委員会の判断により第1ラウンドの結果で上位6チーム（下限）～8チーム（上限）が各チーム4名構成で第2ラウンドに

出場する。第1ラウンドへの参加が6チーム未満であった場合は、第1ラウンドで失権にならない限り、全チームが各々4名構成で第2ラウンドに出場できる。

第6位、第7位あるいは第8位で同減点のチームがでた場合（第2ラウンドに出場するチーム数に応じて）は、第1ラウンドでの各チーム内上位3選手のタイム合計で決定する。

組織委員会はネーションズカップの抽選の際に、開催国チームが第2ラウンドへ出場できる6～8チーム内に残れなかった場合、特別チームとして第2ラウンドに出場できるとするかを決定しなければならない。ただし開催国チームが第2ラウンドへの出場を認められるのは、第2ラウンドへの出場資格を得た最下位チームとの差が減点8以内である場合に限る。

## 8. 失権と棄権

8.1 第1ラウンドあるいは第2ラウンドで、4名構成のチームから2名以上の選手が失権あるいは棄権した場合は、そのチーム全体が失権となる。

8.2 第1ラウンドあるいは第2ラウンドで、3名構成のチームから1名の選手が失権あるいは棄権した場合は、そのチーム全体が失権となる。第2ラウンドで失権となったチームの賞金については障害馬術規程第264条1.5を参照。

8.3 チームが第2ラウンドへの出場資格を得た場合、第1ラウンドで失権あるいは棄権した選手1名は第2ラウンドに出場することができる。第2ラウンドで失権となったチームの賞金については、障害馬術規程第264条1.5を参照。

8.4 第2ラウンドに出場資格を得たチームは、競技場審判団が認めた場合にのみ、第2ラウンドへの出場を辞退することができる。この場合、チームは賞金を受け取ることができない。また別のチームに出場資格を与えることはしない。

## 9. 順位

9.1 第2ラウンドに出場していないチームの順位は、第1ラウンドにおける各チーム内上位3選手の減点合計に基づいて決定する。同減点のチームは同順位とする。

9.2 第2ラウンド終了後のチーム順位は次の通りに決定する：

第1ラウンドにおける各チーム内上位3選手の減点合計が、第2ラウンドに

おける各チーム内上位 3 選手の減点合計に加算される。

- 9.2.1 第1位で同減点のチームがでた場合は、各チームにつき1名の選手が参加するジャンプオフを行う。チーム監督は自国チームからどの選手をジャンプオフに出場させるかを決定する。4名のチームメンバーのうち選手1名がジャンプオフに出場できる。

ジャンプオフはタイムレースとし、6個以上の障害物を用いて行う。

ジャンプオフの結果、第1位で同減点かつ同タイムだった場合、当該チームをすべて第1位とする。

その他の順位で減点合計が同じチームについては同順位とする。

## 10. 他の競技会におけるネーションズカップ

- 10.1 ネーションズカップがCSIOY、CSIOJ、CSIOChあるいはCSIOPなど他の競技会で開催される場合は、上記7.に記載の条項を適用する。

障害物の大きさやコース全長の測定については、該当するFEI諸規程に記載の条項を適用する。

- 10.2 しかし第1位で同減点となった場合はジャンプオフを1回行うが、これにはチームメンバー全員が出場できる。ジャンプオフはタイムレースとし、6個以上の障害物を用いて行う。

- 10.3 ジャンプオフのスコアは各チーム上位3選手の減点を合計して求めるが、これでもまだ同減点の場合はジャンプオフにおけるこれら3選手のタイムを合計して優勝チームを決定する。

- 10.4 他の順位で減点合計が同点となったチームについては同順位とする。

## 第 265 条 スポンサーチーム競技と他の団体競技

### 1. スポンサーチーム競技

スポンサーチーム競技は3名か4名の選手構成で、実施要項に記載された条項に則って行わなければならない。CSIOあるいはCSI-W競技会、もしくは選手権大会ではスポンサーチーム競技を設定できない。スポンサーチーム競技はネーションズカップ競技と呼称することも、またいかなるネーションズカップ方式

を採用して開催することもできない。

スポンサーチーム競技は別個の競技として設定することができ、あるいは個人順位を決定する競技の中で設けることもできる。このタイプの競技に出場するチーム選手については、氏名とNF名ではなく、氏名とチーム名のみでこの競技のスターティングリストへ掲載しなければならない。スポンサーつきチームがFEI競技会へ出場するには、以下に則ってFEI登録する必要がある：

政治団体や宗教団体を除く企業または組織は、3名以上の選手で構成するチームに資金助成を行い、特設のスポンサーチーム競技や個人順位を競う競技に参加させることができる。スポンサーつきチームの各メンバーは、チームがその傘下で競技に出場する企業あるいは組織と、コマーシャル合意書を取り交わさなければならない。

スポンサーチーム競技の開催方式詳細は実施要項に記載する。

この種の競技に出場するチーム選手については、国名に関わる記載を一切省き、氏名とチーム名のみでスポンサーチーム競技に掲載しなければならない。

スポンサーチームおよびライダーツアーチームは、FEI登録が行われており、年間登録料が支払われている限りはいかなる国際競技にも参加できる。年間登録料は選手4名までのチーム構成で10,000スイスフランである。

チームへの追加選手は1名につき年間1,000スイスフランを支払うこと。この金額にはスポンサーチームのジャケット認定料が含まれている。

## 2. 他の団体競技

他の団体競技も実施要項に定める条件に従って開催することができる。しかしネーションズカップ競技、あるいはスポンサーチーム競技と呼称することはできない。国名に関わる表示はできない。

## 第266条 フォルト・アンド・アウト競技

1. この競技はそれぞれ番号を付けた中規模の障害物を用い、タイムレースとして行う。コンビネーション障害を含めてはならない。選手の走行は過失が何であれ（障害物の落下、不従順、落馬など）、最初の過失が発生した時点で終了となる。

障害物が落下したり、指定時間が経過した時点でベルが鳴らされる。その後、選手は次の障害物を飛越さなければならず、馬の前肢が着地した時に時計が止められるが、ベルが鳴ってから飛越した障害物については得点とならない。

2. この競技ではボーナスポイントが与えられる：正しく障害物を飛越すると2点、障害物の落下があると1点である。
3. 走行終了の原因となった過失が不従順など、障害物の落下以外であった場合、もしくは（飛越後に）時計を止める障害物を選手が飛越しなかった場合はベルが鳴らされる。当該選手は同得点を獲得した選手の中で最下位となる。落馬に関わるペナルティは失権である（障害馬術規程第241条3.25）。
4. この競技の優勝者は獲得点数の一番多い選手である。同点の場合は走行タイムが勘案され、一番速く走行した選手が優勝となる。
5. フォルト・アンド・アウト競技は2つの方法で行うことができる：

#### 5.1 一定数の障害物で行う場合

競技は最大数の障害物を用いて行われ、選手が最後障害物を飛越してフィニッシュラインを通過した時点で時計が止められる。

第1位で得点もタイムも同じであった場合にのみ、障害物の数を限定してフォルト・アンド・アウト競技のジャンプオフを行わなければならない。

- 5.2 60秒～90秒の間で指定時間（屋内アリーナでは45秒）を設けて行う場合：選手は指定時間内にできるだけ多くの障害物を飛越し、コース走行を終了しても指定時間が残っている場合は、再スタートして同じコースを回る。

馬が既に踏み切った後に指定時間となった場合は、障害物落下の有無にかかわらず、その障害物はカウント対象となる。次の障害物で馬の前肢が着地した時点でタイムをとる。同減点で同タイムの場合は同順位となる。

### 第 267 条 ヒット・アンド・ハリー競技

1. この競技では最初の過失で失権となるのではなく、選手は正しく飛越した障害物について2点、落下した障害物について1点を獲得する。コンビネーション障害は認められない。

2. この競技は60秒から90秒の間で設定された指定時間（屋内では45秒）をもって行われる。不従順はその選手が費やしたタイムで減点されるが、2回の不従順あるいは落馬は失権となる。
3. この競技の優勝者は、指定時間内に終了し、最も多くの得点およびタイムが速い選手とする。
4. 指定時間が切れるとベルが鳴らされる。選手が次の障害物を飛越して馬の前肢が着地した時点で時計を止めるが、ベルが鳴らされた後に飛越した障害物は得点とならない。
5. 馬が既に踏み切った後に指定時間が切れた場合は、その障害物の落下の有無にかかわらずカウント対象となる。選手の走行タイムは前記4で述べたように、次の障害物でとる。

不従順と障害物の移動あるいは落下があった場合は、指定時間から6秒が差し引かれ、これに応じてベルが鳴らされる。
6. 時計を止めることとなる障害物を最初の試行で飛越しなかった場合は、走行終了となる。この選手は同得点を得た選手の中で最下位となる。

## **第 268 条 リレー競技**

1. 通則
  - 1.1 リレー競技は2名あるいは3名の選手で構成するチーム対象の競技である。チームメンバーは一緒にアリーナへ入る。
  - 1.2 コースプランに示されたコースをチームメンバーが連続して完走しなければならない。
  - 1.3 スタートラインを通過した選手は第1障害を飛越しなければならず、また最終障害を飛越した選手はフィニッシュラインも通過することで、時計が止められる。選手が最後から2番目の障害物を飛越した後に、別の選手がフィニッシュラインを通過した場合、チームは失権となる。
  - 1.4 走行タイムは最初の選手がスタートラインを通過した時点から、同チームの最終走者がフィニッシュラインを通過する時点までを計測する。

- 1.5 規定タイムは当該競技の速度と、コース全長にチームメンバーの人数を掛けたものに基づいて算出する。
- 1.6 走行中に障害物の落下を伴う不従順があった場合は、走行に要した時間にタイム修正を加算しなければならない（障害馬術規程第232条参照）。
- 1.7 チームメンバー1名が失権するとチーム全体の失権となる。
- 1.8 チームメンバーによる2回目の不従順、あるいは選手の落馬または人馬転倒1回でチーム全体の失権となる。
- 1.9 バトンタッチの際に、選手が前走者の馬の前肢が地面に着く前に踏み切った場合はチーム失権となる。
2. リレー競技は次の要領で行われる：
- 2.1 ノーマル・リレー
- 2.1.1 ノーマル・リレーでは、最初の選手がコースを走行して最終障害を飛越した段階で次の選手が走行を開始し、以下同様に繰り返す。
- 2.1.2 チームメンバーが最終障害を飛越して、その馬の前肢が地面に着き次第、次の選手が第1障害を飛越できる。
- 2.1.3 これらの競技は基準Cで行う。
- 2.2 フォルト・アンド・アウト・リレー（飛越回数リレー競技）
- この競技は障害馬術規程第266条に定めるフォルト・アンド・アウト競技の条項に基づいて行われ、チームメンバー全員で最多数の障害物を飛越するか、または設定された合計時間内にチームメンバー全員でできるだけ多くの障害物を飛越することで競うものである。
- 2.2.1 最多数の障害物飛越で競う場合
- 2.2.1.1 各選手が走行を終了した時点、あるいは最終障害以外で過失があった時にはベルが鳴らされ、選手は必ず交代しなければならない。次の選手は第1障害から、あるいは障害物の落下があった場合はその次の障害物、もしくは不従順があった障害物から走行を開始しなければならない。
- 2.2.1.2 チームの最終走者が過失なしで走行を終了した場合、あるいはコースの最終障害物を落下させた場合、同選手の走行はフィニッシュラインを越えた

時点で終了し、この時点で時計を止めなければならない。

2.2.1.3 チームの最終走者が最終障害以外の障害物を落下させた場合は、ベルが鳴らされ、同選手は走行タイムの記録のために次の障害物を飛越しなければならない。この最終走者が何らかの理由で時計を止める障害物を飛越しなかった場合、そのチームは同得点でタイムが記録されているチームの中で最下位となる。

2.2.1.4 この競技ではボーナスポイントが与えられる：障害物を正確に飛越した場合は2点、飛越に障害物の落下を伴った場合は1点。1回目の不従順は減点1、それ以降はチームの構成人数によるが、2番目あるいは3番目の選手による不従順は各々減点2。規定タイムの超過は、1秒あるいは1秒未満の端数ごとに減点1。

2.2.1.5 順位は各チームの得点合計で最も点数が高く、またタイムの速い順に決定される。

2.2.2 設定された合計時間内で競う場合

2.2.2.1 この場合は、2.2.1.1、2.2.1.3、2.2.1.4、2.2.1.5の条項を適用しなければならない。

2.2.2.2 各チームとも 45 秒（最小限）から 90 秒（最大限）にチームメンバーの人数を掛けた指定時間を与えられる。

2.2.2.3 チームは指定時間内にできるだけ多くの障害物を飛越し、チームメンバー全員が走行を終了してもまだ指定時間が残っている場合は、最初のチームメンバーが再スタートして同じコースを回る。

2.2.2.4 チームの最終走者がその走行の最終障害を落下させた場合、同選手はコースの第1障害を飛越して走行タイムを記録してもらわなければならない。

2.2.2.5 走行中に障害物の落下を伴う不従順があった場合は、指定時間からタイム修正の6秒が差し引かれる。

2.3 フォルト・アンド・アウト・サクセシブ・リレー（飛越回数連続リレー競技）

この競技はフォルト・アンド・アウト・リレーと同じ規則に従って行われ、



できるだけ多くの障害物を飛越することで競うものである。しかし選手は前走者が過失を出した時点で交代し、各チームの人数と同じ回数のコース走行を終了するまで継続する。

#### 2.4 フォルト・アンド・アウト・オブショナル・リレー（飛越回数選択リレー競技）

2.4.1 この競技では、選手の交代を任意で行うことができるが、各選手がその走行を終了した時点、あるいは過失があった時にはベルが鳴らされ、その場合は交代が義務づけられる。

2.4.2 選択リレーは基準Cで行われる。

### 第 269 条 アキュムレーター競技

1. この競技は6個、8個、または10個の徐々に難度の高くなる障害物を用いて行う。コンビネーション障害は認められない。段階的な難度には障害物の高さや幅だけでなく、コースの難度も含まれる。
2. 次の通りボーナスポイントが与えられる：第1障害を無過失で飛越した場合は1点、同様に第2障害で2点、第3障害で3点などとなり、合計21点、36点または55点が与えられる。障害物を落下させた場合は得点なし。障害物の落下以外の過失は基準Aに従って減点される。
3. この競技はジャンプオフを行わないタイムレースの第1ラウンド、あるいは本走行の結果、第1位で同得点だった場合にタイムレースまたはタイムレースではないジャンプオフを行う第1ラウンドで行う。ジャンプオフを行う場合は6個以上の障害物を用いるが、高さおよび／または幅を増すことができる。ジャンプオフで使われる障害物は第1ラウンドと同じ順序で飛越しなければならず、第1ラウンドで割り振られた障害物個々のポイントはそのままとする。
4. 競技がタイムレースではなく、ジャンプオフは1回として行われる場合、ジャンプオフへ残れなかった選手については走行タイムに関わりなく第1ラウンドの得点に応じて順位が決定される。第1ラウンドをタイムレースとし、ジャンプオフを行う競技として開催する場合、ジャンプオフへ残れなかった選手については、第1ラウンドの減点とタイムに従って順位が決定される。
5. コースの最終障害には選択障害を置くことができ、そのうちの1個をジョーカーとして指定することができる。ジョーカーは選択障害よりも難度が高くなければならず、ポイントは2倍となる。ジョーカーを落下させた場合は、そのポイ

ントがその時点までに選手が得たポイント合計より差し引かれる。コースデザイナーの判断により、最終障害の選択障害として1個ではなく2個のジョーカーを含めることができる。この場合は最初のジョーカーにコース最終障害のポイントの150%が与えられる；2番目のジョーカーは最初のものより難度が高くなければならず、コース最終障害のポイントの200%が与えられる。選手は最終障害の代わりにジョーカー2個のうち1個を飛越することができる。ジョーカーを正しく飛越できれば、選手はコース最終障害ポイントの150%か200%を獲得できる。ジョーカーを落下させた場合は（障害馬術規程第217条1）、当該選手がそれまでに獲得したポイント合計から、コース最終障害のポイントの150%か200%が差し引かれる。

- 5.1 オプションとして、ジョーカーをフィニッシュラインの後に設置することができ、その場合はジョーカーをメインコースの一部とせず、次の方式を採用しなければならない：選手はフィニッシュラインを通過して走行タイムが記録され、その後に20秒が与えられて飛越を選択すればジョーカーを1回試行できる。このジョーカーを正しく飛越できた場合は、メインコース最終障害の2倍のポイントが選手に与えられる。ジョーカーを落下させた場合は（障害馬術規程第217条1）、この2倍のポイントがそれまでの合計得点から差し引かれる。フィニッシュライン通過後に選手の落馬または人馬転倒があったものの、それがジョーカーを飛越できる20秒以内である場合、当該選手は失権とならないが、ジョーカー飛越の試行は認められない；同選手は、フィニッシュライン通過までに累積したポイントを維持する。

## **第 270 条 トップスコア競技**

1. この競技では一定数の障害物がアリーナに設置される。各障害物にはその難度に応じて10点から120点までのポイントが付けられる。コンビネーション障害は認められない。
2. 障害物はどちらの方向からでも飛越できるように造らなければならない。
3. 障害物に割り当てられるポイントは、コースデザイナーの判断により同じ点数を繰り返し使用しても構わない。アリーナ内に障害物を12個設置できない場合、どの障害物を省くかはコースデザイナーに任される。
4. 選手は正しく障害物を飛越した場合、その個々の障害物に付けられたポイントを獲得する。落下した障害物については得点を得られない。
5. この競技では45秒（最小限）から90秒（最大限）までの間で指定時間が与え

られる。この時間内に、選手は自分の選んだ障害物を、自分の希望する順序と方向に飛越できる。スタートラインはどちらの方向から通過してもよい。

（スタートラインには標旗を4本、即ちその両端に各々赤と白の標旗を設置しなければならない。）走行中、選手はスタートラインとフィニッシュラインを好きなだけ両方向に通過することが許される。

6. ベルを鳴らして指定の走行時間の終了を告げ、その間のポイントが得点となる。タイムを記録するため、選手はいずれかの方向でフィニッシュラインを通過しなければならない；フィニッシュラインを通過しない場合は失権となる。フィニッシュラインには標旗を4本、即ちラインの両端各々に赤と白の標旗を設置しなければならない。
7. 障害飛越で馬が既に踏み切った時点で指定時間となった場合は、その障害物を正しく飛越できれば選手の得点として加算される。
8. 走行中に落下した障害物は復旧されない；それを再び飛越しても得点とはならない。不従順の結果として障害物の落下が生じたり、障害物の最上段と同じ垂直面上に位置する下段部分が移動した場合にもこれを適用する。障害物の落下を伴わない不従順の場合は、その障害物を飛んでもよいし、違う障害物へ進んでも構わない。
9. 各障害物を2度ずつ飛越してもよい。自発的であるとないとにかかわらず、障害物を3度目に飛越すること、または既に落下した障害物の標旗間を通過しても失権とはならない。しかし、この障害物に割り当てられたポイントを獲得することはできない。
10. 不従順についてはすべて、それに費やした時間で減点される。落馬／人馬転倒は失権となる（障害馬術規程第241条3.25参照）。
11. 最高得点を得た者が優勝となる。同得点の場合は、指定タイムのスタートからベルが鳴った後のフィニッシュライン通過までの所要時間が最も短い選手を上位とする。第1位で同得点および同タイムだった場合は、実施要項に記載があれば、40秒の指定時間で同様の方式にてジャンプオフを1回行う（障害馬術規程第245条6参照）。実施要項に記載がない場合は、同得点で同タイムの選手は賞を分け合う。

12. ジョーカーの使い方には2つの選択肢がある：

12.1 コースの一部として、標旗で分かるように設置した「ジョーカー」と呼ばれる障害物を1個設置できる。ジョーカーは2回飛越できる；この障害物を正しく飛越するごとに200点が与えられるが、もし落下があった場合はそれまで選手が獲得した得点合計から200点が差し引かれる。

12.2 ジョーカーをメインコースの一部としない。所定時間が過ぎるとベルが鳴らされ、選手の走行は終了となる。選手はフィニッシュラインを通過して走行タイムの記録を受けなければならない、その後20秒が与えられてジョーカーの飛越を試みることができる。ジョーカーでは1回の試行のみ認められる。このジョーカーを正しく飛越した場合は200点が与えられるが、もし落下があった場合はそれまで選手が獲得した得点合計から200点が差し引かれる。

## 第 271 条 コース自由選択競技

1. この競技では、選手は自分が選択した飛越順序で障害物を1回ずつ飛越する。すべての障害物を飛越しない選手は失権となる。コンビネーション障害は認められない。
2. 選手はスタートラインとフィニッシュラインをどちらの方向からでも通過してよい。両ラインにはそれぞれ標旗を4本、即ちラインの両端各々に赤と白の標旗を設置しなければならない。  
コースプランに示されていない限り、障害物は何れの方向から飛越しても構わない。
3. この競技は速度を定めず、基準Cに従って行う。
4. 走行タイムの計測開始から120秒以内にコース走行を終了できない場合は失権となる。
5. 不従順はすべて選手が費やした時間で減点される。落馬／人馬転倒に関わるペナルティについては、障害馬術規程第241条3.25を参照。
6. 障害物の落下や移動を伴う拒止、逃避があった場合は、落下または移動してしまった障害物が復旧され、競技場審判団がスタートの合図を出してから選手は走行を再開できる。

その後、自分の選択した障害物を飛越できる。この場合は走行タイムに6秒のタイム修正（障害馬術規程第232条参照）が加算される。

## 第 272 条 ノックアウト競技

1. この競技は2名1組で互いに競うものである。選手はプログラム中の別の競技、または予選競技の結果によって出場資格を獲得しなければならず、タイムレースで基準Aに従うか、あるいは基準Cに基づいて審査される。
2. 同じように造られた2つのコースを使い、2名の選手は同時に競う。コンビネーション障害は認められない。

もし他方の選手のコースに侵入して相手の邪魔になった場合には、侵入した選手が失権となる。

3. 勝ち抜き戦で残った選手が2名ずつ組を作って次の勝ち抜き戦で対決し、以降、優勝者を決める最後の2名になるまでこの手順で続ける。
4. この競技で騎乗できるのは、各選手とも予選ラウンドあるいは予選競技で出場資格を得た馬のうち1頭である。対戦相手が棄権した場合、残った選手は不戦勝となり、次のラウンドへ進める。
5. 予選ラウンドまたは予選競技で最下位にて同点の選手がでた場合は、タイムレースのジャンプオフを行わなければならない。
6. 2名の選手によって行われる勝ち抜き戦において、基準Aで採点する場合はタイムレースとしない。いかなる性質の過失（障害物の落下、拒止、逃避）でも減点1となる。しかしながら、障害物の落下を伴うか否かにかかわらず拒止が発生した場合は、その障害物を飛越せずに、あるいはその障害物の復旧を待たずに走行を継続する。基準Aで審査される場合、選手は減点1となる。障害物の飛越を試みずに通過した場合は失権となる。基準Cに従って行われている競技であれば、この場合は走行タイムに3秒が加算される。

障害馬術規程第241条に定める条項に違反した場合は、当該競技から失権となる。

7. 競技が基準Cに従って行われている場合は、各過失とも3秒の加算となる。
8. 減点が少ない方の選手、また同減点の場合は早くフィニッシュラインを通過した選手が次の勝ち抜き戦に出場でき、この様にして最後の2名による優勝決定戦になるまで続けられる。各ラウンドで敗退した選手は同順位となる。

9. 競技場審判団メンバー1名はスタートラインにてスタートの合図を出し、またもう1名はフィニッシュラインで、どちらの選手が先に通過したかを判定しなければならない。
10. 勝ち抜き戦で2名の選手が引き分けとなった場合は、再度走行を行う。
11. 競技が基準Cに従って行われる場合は、選手ごとに別々の計時装置を使用しなければならない。
12. 勝ち抜き戦のスターティングオーダーは、障害馬術規程付則3に掲載された表に従って決定する（実施要項の条件により16名または8名）。

## **第 273 条 2 回走行競技**

1. この競技は同じ速度で2つのコースを使用して行うが、コース構成や障害物の数、障害物の大きさは同一でも異なるものでもよい。各選手は同一馬で出場しなければならない。第1ラウンドで失権あるいは棄権した選手は、第2ラウンドに参加できず、順位対象とならない場合がある。
2. 選手全員が第1ラウンドに出場しなければならない。実施要項に定められた条件により、以下の選手が第2ラウンドに進める：
  - 2.1 選手全員；あるいは
  - 2.2 第1ラウンドでの順位（実施要項に定める条件に従い減点とタイム、または減点のみを採用）に従い、限定数の選手（選手割合あるいは設定人数とするが、いずれの場合も25%以上）が第2ラウンドに進む；第2ラウンドに進める確実な選手割合あるいは人数を実施要項に記載するものとする。
    - 2.2.1 第1ラウンドがタイムレースでない場合は、実施要項に記載がなくても、第1位で同減点の選手および予選通過の最終順位で同減点の選手は全員が第2ラウンドへ進む。
    - 2.2.2 第1ラウンドがタイムレースの場合、組織委員会は次のオプションから選択できる（組織委員会はいずれを採用するか、実施要項に記載しなければならない）；
      - (i) 第1ラウンドの減点とタイムに基づき、選手の25%以上か設定人数（正確な選手割合あるいは人数は実施要項に記載される）が第2ラウンドに進む；または、
      - (ii) 第1ラウンドの減点とタイムに基づき、選手の25%以上か設定人数（正確な選手割合あるいは人数は実施要項に記載される）が第2ラウンドに進む；いかなる場合も第1ラウンドで減点なしの選手は全員が第2ラウンドに出場する。

3. 下記のいずれかの方式に則った競技審査方法を実施要項に明記しなければならない：

第1ラウンド	第2ラウンド		ジャンプオフ
基準A	基準A	スターティングオーダー	スターティングオーダー
3.1 タイムレース	タイムレース としない	第1ラウンドでの減点とタイムによる順位の リバースオーダー；同減点で同タイムの場合 は抽選による順番のままとする	第2ラウンドと同じ
3.2 タイムレース としない	タイムレース としない	第1ラウンドでの減点による順位のリバース オーダー；同減点の場合は抽選による順番の ままとする	第2ラウンドと同じ
3.3.1 タイムレース	タイムレース	第1ラウンドでの減点とタイムによる順位の リバースオーダー；同減点で同タイムの場合 は抽選による順番のままとする	ジャンプオフなし
3.3.2 タイムレース としない	タイムレース	第1ラウンドでの減点による順位のリバース オーダー；同減点の場合は抽選による順番の ままとする	ジャンプオフなし
3.4.1 タイムレース	タイムレース	第1ラウンドでの減点とタイムによる順位の リバースオーダー；同減点で同タイムの場合 は抽選による順番のままとする	第2ラウンドと同じ
3.4.2 タイムレース としない	タイムレース	第1ラウンドでの減点による順位のリバース オーダー；同減点の場合は抽選による順番の ままとする	第2ラウンドと同じ

#### 4. 順位決定

- 4.1 順位はジャンプオフでの減点とタイムで決定される。ジャンプオフに出場しない選手の順位は、2回のラウンドで生じた減点合計と第1ラウンドでのタイムによって決まる。
- 4.2 順位はジャンプオフでの減点とタイムで決定される。ジャンプオフに出場しない選手の順位は、2回のラウンドにおける減点合計によって決まる。
- 4.3 順位は2回のラウンドにおける減点合計と第2ラウンドでのタイムで決定される。第2ラウンドに出場しない選手の順位は、第1ラウンドでの減点（第1ラウンドがタイムレースでない場合）または第1ラウンドでの減点とタイム（第1ラウンドがタイムレースの場合）によって決まる。
- 4.4 順位はジャンプオフでの減点とタイムで決定される。ジャンプオフに出場しない選手の順位は、2回のラウンドにおける減点合計と第2ラウンドでのタイムにより決定される。第2ラウンドに出場しない選手の順位は、第1ラウンドでの減点とタイム（第1ラウンドがタイムレースの場合）または第1ラウンドでの減点（第1ラウンドがタイムレースでない場合）によって決まる。

## 第 274 条 二段階走行競技

### 1. 二段階走行のノーマル競技

1.1 この競技は中断なしに行われる二段階走行で構成され、速度は同じでも違えてもよく、一段階目のフィニッシュラインが二段階目のスタートラインとなる。

1.2 一段階目は7個から9個の障害物で構成するコースで、コンビネーション障害は入れても入れなくてもよい。二段階目は4個から6個の障害物を用いて行い、これにはコンビネーション障害を1個入れてもよい。

1.3 一段階目で減点のあった選手については最終障害の飛越後あるいは一段階目の規定タイムを超過した時点でベルが鳴らされ、一段階目のフィニッシュライン通過後に走行停止となる。当該選手は最初のフィニッシュライン通過後に停止しなければならない。

1.4 一段階目で減点のなかった選手はコース走行を継続し、二段階目のフィニッシュラインを通過して走行終了となる。

1.5 下記のいずれかの方式に則った審査方法を実施要項に明記しなければならない：

一段階目走行	二段階目走行	順位
1.5.1 基準A タイムレースとしない	基準A タイムレースとしない	二段階目の減点により決定。二段階目に出場資格を得られなかった選手は一段階目の減点に応じた順位となる。
1.5.2 基準A タイムレースとしない	基準A タイムレース	二段階目の減点とタイムにより決定。二段階目に出場資格を得られなかった選手は一段階目の減点に応じた順位となる。
1.5.3 基準A タイムレース	基準A タイムレース	二段階目の減点とタイムにより決定。二段階目に出場資格を得られなかった選手は一段階目の減点とタイムに応じた順位となる。
1.5.4 基準A タイムレースとしない	基準C	二段階目の合計タイム（基準C）により決定。二段階目に出場資格を得られなかった選手は一段階目の減点に応じた順位となる。
1.5.5 基準A タイムレース	基準C	二段階目の合計タイム（基準C）により決定。二段階目に出場資格を得られなかった選手は一段階目の減点とタイムに応じた順位となる。

1.6 一段階目終了後に停止させられた選手は、両段階ともに出場した選手より下位に順位付けられる。



1.7 第1位で同点となった場合、当該選手らは等しく第1位となる。

1.8 グランプリ競技への馬の出場資格要件を満たすには（障害馬術規程第261条4.4参照）第274条1.5.1～第274条1.5.5に記載のいずれかの方式で行われた競技の一段階目を完走することで十分である。

## 2. 特別二段階走行競技

2.1 この競技は中断なしに行われる二段階走行で構成され、速度は同じでも違えてもよく、一段階目のフィニッシュラインが二段階目のスタートラインとなる。

2.2 一段階目は5個から7個の障害物で構成するコースで、コンビネーション障害は入れても入れなくてもよい。一段階目と二段階目の障害物合計は11個以上、13個以内とする。二段階目にはコンビネーション障害を1個入れてもよい。

2.3 一段階目を完走した選手は二段階目へと走行を継続できる。

2.4 二段階目はフィニッシュライン通過で走行終了となる。

2.5 この競技は次の方式で審査しなければならない：

一段階目走行	二段階目走行	順位
基準A タイムレースとしない 5個～7個の障害物	基準Aのタイムレース 残りの障害物（一段階目と二段階目で合計11個～13個）	一段階目と二段階目の減点合計（両段階での障害過失と規定タイム超過の減点）により決定、および必要であれば二段階目のタイムに応じた順位となる。

2.6 一段階目あるいは二段階目で失権もしくは棄権した選手の順位付けはない。

2.7 第1位で同点となった場合、当該選手らは等しく第1位となる。

2.8 グランプリ競技への馬の出場資格要件を満たすには（障害馬術規程第261条4.4参照）、第274条2.5に従って行われた競技の両段階を完走していなければならない。

## **第 275 条 決勝ラウンドを行うグループ競技**

1. この競技では選手をグループ分けする。グループ分けは抽選でも、予選競技の成績、あるいは最新の障害馬術ランキングに基づいて行ってもよいが、実施要項に明記する。
2. グループ分けの方法、およびグループ内でのスターティングオーダーの決定方法を実施要項に明記しなければならない。
3. 先ず第1グループの選手が全員出場し、それから第2グループの選手全員、以降同様に出場する。
4. 各グループで最上位の選手が決勝ラウンドに出場できる。
5. 組織委員会は実施要項にて、各グループで最上位ではなかったものの次に成績のよかった選手のうち限定数の選手も決勝ラウンドへ進めると規定することができる。
6. 決勝ラウンドでは、選手全員が減点0で走行を開始する。
7. 決勝ラウンドに出場する選手は第1ラウンドのスターティングオーダーに従うか、あるいは実施要項にその旨が規定されていれば第1ラウンドの成績（減点とタイム）のリバースオーダーで出場する。
8. 第1ラウンドと決勝ラウンドは、タイムレースで基準Aに従って審査する。
9. この競技はグランプリ競技、あるいは最高賞金額のである競技、もしくは他の競技の予選としては採用できない。
10. 決勝ラウンドに出場した選手には全員に賞金を授与しなければならない。
11. 決勝ラウンドへの出場資格を得た選手がこれに出場しなかった場合でも、次点の選手の繰り上げは行わない。

## **第 276 条 決勝ラウンドを行う競技**

1. 2 回走行と決勝ラウンドを行う競技
  - 1.1 この競技では、第1ラウンドで上位16名の選手が第2ラウンドへの出場資格を獲得し、第2ラウンドでは第1ラウンドでの成績（減点とタイム）のリバー

スオーダーで出場する。

- 1.2 2回走行における減点とタイムの合計、あるいは第2ラウンドの減点とタイムだけで選考された上位8名の選手が決勝ラウンドへ出場する。
- 1.3 第2ラウンドのコースは第1ラウンドのコースと異なってもよい。
- 1.4 決勝ラウンドのコースは第1ラウンドおよび／または第2ラウンドの障害物を用いた短縮コースでなければならない。
- 1.5 決勝ラウンドのスターティングオーダーは実施要項に定める条件に従い、2回の走行における減点とタイムの合計、あるいは第2ラウンドの減点とタイムだけで決定した順位のリバースオーダーとする。
- 1.6 決勝ラウンドでは、選手全員が減点0で走行を開始する。
- 1.7 3回の走行ともタイムレースで基準Aに従って審査する。決勝ラウンドで規定タイムを超過した場合は、4秒を超えるごとに減点1となる。
- 1.8 この競技はグランプリ競技あるいは最高賞金額のである競技としては採用できない。
- 1.9 決勝ラウンドへの出場資格を得た選手がこれに出場しない場合でも、次点の選手の繰り上げは行わない。
- 1.10 決勝ラウンドで失権あるいは棄権した選手は、決勝ラウンドで同順位、最下位となる。

## 2. 走行1回と決勝ラウンドを行う競技（決勝ラウンド：選手は減点0で走行開始）

- 2.1 この競技では、第1ラウンドから選手数の少なくとも25%、10名以上が決勝ラウンドへ出場でき、決勝ラウンドでは第1ラウンドの成績（減点とタイム）のリバースオーダーで出場する。次の選手は実施要項の条件に従い決勝ラウンドへの出場資格を得る：
  - (i) 第1ラウンドでの減点とタイムに基づき、選手数の少なくとも25%か指定人数、いかなる場合でも10名以上が決勝ラウンドへに出場資格を得る；あるいは、
  - (ii) 第1ラウンドでの減点とタイムに基づき、選手数の少なくとも25%か指定人数、いかなる場合でも10名以上が決勝ラウンドへに出場資格を得る。そしていかなる場合も第1ラウンドで減点0の選手は全員が決勝ラウンドへに出場資格を得る。

決勝ラウンドに進める確実な選手割合あるいは人数を実施要項に記載しなければならない。

- 2.2 決勝ラウンドでは選手全員が減点0で走行を開始する。
- 2.3 両走行ともタイムレースで基準Aに従って審査する。決勝ラウンドで規定タイムを超過した場合は、4秒を超えるごとに減点1となる。

- 2.4 この競技はグランプリ競技あるいは最高賞金額のである競技としては採用できない。
- 2.5 決勝ラウンドへの出場資格を得た選手がこれに出場しない場合でも、次点の選手の繰り上げは行わない。
- 2.6 決勝ラウンドで失権あるいは棄権した選手は、決勝ラウンドで同順位、最下位となる。

#### **第 277 条 ダービー競技**

1. この競技は1000m以上、1300m以下の走行距離にて、飛越数の50%以上が自然障害で構成されたコースで行われ、走行は1回のみとし、実施要項に明記されている場合はジャンプオフを1回だけ行う。
2. この競技は基準Aか基準Cで審査を行う。基準Cで審査する場合は規定タイムを設けず、制限タイムのみとする。コース全長が障害馬術規程第239条3に定める制限タイム設定の要件を超える場合は、競技場審判団の判断で制限タイムを延長することができる。
3. この競技が競技会の中で最高賞金額の競技であっても、実施要項に定める条件に従い、各選手は3頭まで騎乗できる。

#### **第 278 条 コンビネーション障害で競う競技**

1. コースは6個の障害物で構成しなければならない；第1障害を単独障害として、その後は5個のコンビネーション障害。少なくとも1個はトリプルコンビネーションでなければならない。
2. この競技は基準Aか基準Cで審査する。
3. 実施要項の条件に従ってジャンプオフを行う場合、ジャンプオフ用コースは6個の障害物で構成しなければならない。このコースにはダブル1個、トリプル1個と単独障害4個とするか、あるいはダブル3個と単独障害3個としなければならない。そのため第1ラウンドで使用したコンビネーション障害の一部は取り除かなければならない。
4. 障害馬術規程第204条5の条項はこの競技に適用しない。しかしコース全長は600mを超えてはならない。

## 第 279 条 貸与馬による競技会と競技

FEI事務総長の承認を得て、国際競技会もしくは国際競技を開催国NFが用意した貸与馬で開催することができる。

その場合は次の条件が適用される：

1. 組織委員会に必要な頭数の馬を用意する（各選手につき3頭まで）。
2. 第1競技開始の24時間前までに、各チームまたは個人選手用貸与馬の公正な抽選を行わなければならない。実施要項に別段の記載がなく、FEI事務総長の承認があれば、開催国NF用の馬を最初に抽選する。
3. 抽選は各チームの監督または代表、選手、競技場審判団長または審判団メンバー、獣医師代表団長または獣医師代表の立会いのもとで行わなければならない。馬を正しく識別できるように準備し、通常使用している頭絡を装着してこれに臨ませる。ホースオーナーが頭絡の変更を了解した場合を除いて、競技会期間中はこの頭絡を使用しなければならない。
4. 組織委員会は妥当な数のリザーブ馬を用意し、獣医師代表が競技に不適格と判断した場合や、競技場審判団により馬と選手との折り合いが明らかに悪いと判断された場合に提供する。
5. 実施要項には馬の貸与条件と抽選方法、競技の実施条件を明確に記載しなければならない。もし上記1.～4.の条件の変更が予想される場合は、FEI事務総長の承認が必要である。
6. 競技に出場する馬が国内馬のみで、FEIが認めた書面にてそれらの馬の識別が明らかにできる場合は、FEIパスポートを必要としない。

## 第 13 章 獣医検査とホースインスペクション、馬の薬物規制とパスポート

### 第 280 条 獣医検査、ホースインスペクション、パスポート査閲

ホースインスペクション、獣医検査、パスポート査閲は獣医規程第1001条、第1030条、第1032条、および以下の条項に従って行わなければならない。ホースインスペクション詳細については獣医規程第1034条～第1042条も参照。

#### 1. 到着時の検査とパスポート査閲

獣医検査とパスポート査閲は、獣医規程第1030条～第1032条に従って行わなければならない。

パスポートに著しい不備がある場合は、獣医規程第1033条を参照のこと。

注記：競技会あるいは競技への出場を特定年齢の馬に限定している場合は、パスポート詳細確認時に馬の年齢をチェックしなければならない。

#### 2. ホースインスペクション

2.1 ホースインスペクションは、第1競技が開催される前日の午後までに行わなければならない。チーム監督および／または馬の管理責任者は、インスペクション・プログラムで指定された時刻に自分の馬を臨場させてインスペクションを受けられるよう、準備しなければならない。関係者に対して不必要な遅れを生じさせないよう、プログラムは第1競技の2日前までに事務局で準備し、配布できる状態にする。

2.1.1 状況により、競技場審判団はその判断で獣医師代表と協議のうえ、例外的かつ予期せぬ状況により最初のホースインスペクションに臨場できなかった馬を対象に、所定のインスペクションよりも遅い時点でもう一度ホースインスペクションを行うことを認める場合がある。

2.2 FEIワールドカップ™ファイナル、すべてのカテゴリーの世界選手権大会および陸選手権大会、またオリンピック大会では、個人決勝競技の開始前に2回目のホースインスペクションを予定する。

2.3 各馬とも水勒か大勒をつけてインスペクションに臨ませなければならない。その他、馬着やバンデージなどの馬具や装具は外さなければならない。これについては例外を認めない。

2.4 いかなる方法にせよ、ペイントや染料で馬の特徴を隠してインスペクションに臨ませてはならない。

- 2.5 チーム監督は、グルームおよび／または選手とともにチーム馬に付き添わなければならない。
- 2.6 個人選手の馬については、馬の管理責任者（選手）がグルームとともに付き添わなければならない。
- 2.7 FEIワールドカップ<sup>TM</sup>ファイナル、FEIネーションズカップ<sup>TM</sup>ファイナル、選手権大会、大会(Games)では、選手が自馬を引いてホースインスペクションに臨まなければならない。チーム監督あるいは選手から要請があれば、競技場審判団長はこの規則を緩和することができる。
- 2.8 ホースインスペクションは細部に至る獣医検査ではなく（獣医規程第1038条も参照）、できるだけ速やかに終了させるべきであることを強調したい。
3. 競技場審判団、上訴委員会、獣医師代表団の連携
- 3.1 EADCM検査のための検体採取馬の選択（獣医規程第1068条～第1069条参照）
- 3.2 FEIワールドカップ<sup>TM</sup>ファイナル、FEIネーションズカップ<sup>TM</sup>ファイナル、世界選手権大会、シニア大陸選手権大会、オリンピック大会では、確実に以下の検体を分析に回せるよう、ルーチンとして十分な頭数の馬から検体採取を行わなければならない：
- 3.2.1 すべての個人決勝競技で、上位3頭の馬；
- 3.2.2 団体障害馬術競技の決勝で、上位3チームの各々から1頭

## **第 281 条 馬の薬物規制**

馬の薬物規制は、一般規程と獣医規程、馬ドーピング防止および規制薬物規程、他のFEI諸規程に則って行わなければならない。

## **第 282 条 馬のパスポートと個体識別番号**

1. 馬のパスポート要件（一般規程第137条、獣医規程第1001条参照）
2. 各馬は到着時に組織委員会から交付される個体識別番号を、競技会開催中を通して装着しなければならない。

この個体識別番号は当該馬が厩舎を離れる際には常時装着し、スチュワードを含むすべての役員が各馬を確認できるようにすることが義務づけられる。この個体識別番号をはっきり表示していない場合、最初は警告が発せられるが、繰り返し違反した場合は競技場審判団または上訴委員会によって当該選手に罰金が科せられる（障害馬術規程第240条2.8参照）。

## 付則 1 FEI 名誉バッジ

1. シニア対象のCSIOにおけるネーションズカップ競技、オリンピック大会の団体競技および／または個人競技、そして世界およびシニア大陸団体および／または個人選手権大会の第1ラウンドを棄権もしくは失権することなく完走した選手に対して、FEI障害馬術名誉バッジが次の基準で授与される：
  - (i) 40回のネーションズカップ競技の第1ラウンドを完走した者には金バッジ
  - (ii) 20回のネーションズカップ競技の第1ラウンドを完走した者には銀バッジ
  - (iii) 10回のネーションズカップ競技の第1ラウンドを完走した者には銅バッジ
2. 以下の競技のいずれかの第1ラウンドを完走した場合は、ネーションズカップ競技 5 回としてカウントされる：
  - (i) オリンピック大会における団体あるいは個人の最終競技
  - (ii) 世界選手権大会における団体あるいは個人の最終競技
  - (iii) 大陸選手権大会における団体あるいは個人の最終競技
  - (iv) パン-アメリカン大会における団体あるいは個人の最終競技
  - (v) アジア大会における団体あるいは個人の最終競技
3. FEI名誉バッジを獲得した者へ与えられる特典の詳細については、一般規程第 132条を参照。



## 付則 2 規定タイムの計算

速度：300m/分

10の位	m	0	10	20	30	40	50	60	70	80	90
100の位	1	20秒	22秒	24秒	26秒	28秒	30秒	32秒	34秒	36秒	38秒
	2	40秒	42秒	44秒	46秒	48秒	50秒	52秒	54秒	56秒	58秒
	3	60秒	62秒	64秒	66秒	68秒	70秒	72秒	74秒	76秒	78秒
	4	80秒	82秒	84秒	86秒	88秒	90秒	92秒	94秒	96秒	98秒
	5	100秒	102秒	104秒	106秒	108秒	110秒	112秒	114秒	116秒	118秒
	6	120秒	122秒	124秒	126秒	128秒	130秒	132秒	134秒	136秒	138秒
	7	140秒	142秒	144秒	146秒	148秒	150秒	152秒	154秒	156秒	158秒
	8	160秒	162秒	164秒	166秒	168秒	170秒	172秒	174秒	176秒	178秒
	9	180秒	182秒	184秒	186秒	188秒	190秒	192秒	194秒	196秒	198秒

速度：325m/分

10の位	m	0	10	20	30	40	50	60	70	80	90
100の位	1	19秒	21秒	23秒	24秒	26秒	28秒	30秒	32秒	34秒	36秒
	2	37秒	39秒	41秒	43秒	45秒	47秒	48秒	50秒	52秒	54秒
	3	56秒	58秒	60秒	61秒	63秒	65秒	67秒	69秒	71秒	72秒
	4	74秒	76秒	78秒	80秒	82秒	84秒	85秒	87秒	89秒	91秒
	5	93秒	95秒	96秒	98秒	100秒	102秒	104秒	106秒	108秒	109秒
	6	111秒	113秒	115秒	117秒	119秒	120秒	122秒	124秒	126秒	128秒
	7	130秒	132秒	133秒	135秒	137秒	139秒	141秒	143秒	144秒	146秒
	8	148秒	150秒	152秒	154秒	156秒	157秒	159秒	161秒	163秒	165秒
	9	167秒	169秒	170秒	172秒	174秒	176秒	178秒	180秒	181秒	183秒

速度：350m/分

10の位	m	0	10	20	30	40	50	60	70	80	90
100の位	1	18秒	19秒	21秒	23秒	24秒	26秒	28秒	30秒	31秒	33秒
	2	35秒	36秒	38秒	40秒	42秒	43秒	45秒	47秒	48秒	50秒
	3	52秒	54秒	55秒	57秒	59秒	60秒	62秒	64秒	66秒	67秒
	4	69秒	71秒	72秒	74秒	76秒	78秒	79秒	81秒	83秒	84秒
	5	86秒	88秒	90秒	91秒	93秒	95秒	96秒	98秒	100秒	102秒
	6	103秒	105秒	107秒	108秒	110秒	112秒	114秒	115秒	117秒	119秒
	7	120秒	122秒	124秒	126秒	127秒	129秒	131秒	132秒	134秒	136秒
	8	138秒	139秒	141秒	143秒	144秒	146秒	148秒	150秒	151秒	153秒
	9	155秒	156秒	158秒	160秒	162秒	163秒	165秒	167秒	168秒	170秒

**速度：375m/分**

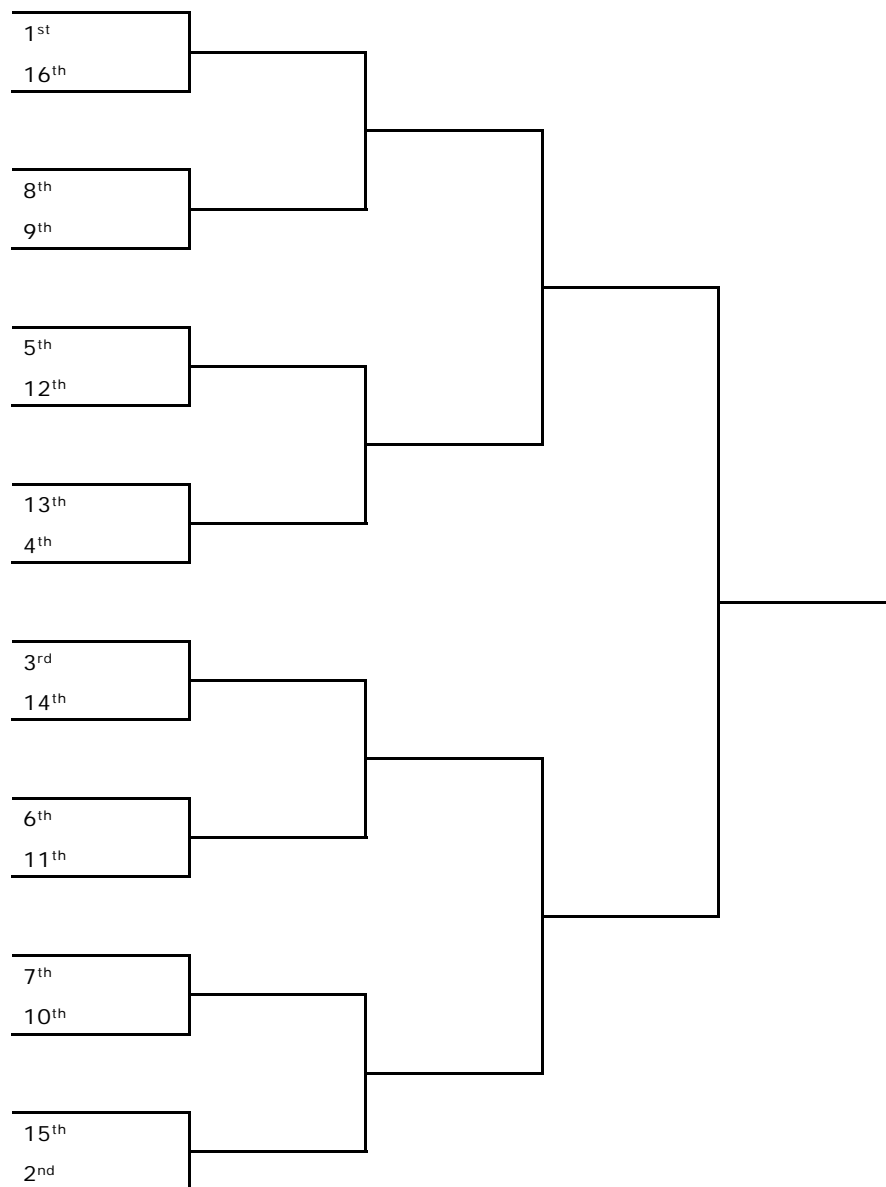
10の位	m	0	10	20	30	40	50	60	70	80	90
100の位	1	16秒	18秒	20秒	21秒	23秒	24秒	26秒	28秒	29秒	31秒
	2	32秒	34秒	36秒	37秒	39秒	40秒	42秒	44秒	45秒	47秒
	3	48秒	50秒	52秒	53秒	55秒	56秒	58秒	60秒	61秒	63秒
	4	64秒	66秒	68秒	69秒	71秒	72秒	74秒	76秒	77秒	79秒
	5	80秒	82秒	84秒	85秒	87秒	88秒	90秒	92秒	93秒	95秒
	6	96秒	98秒	100秒	101秒	103秒	104秒	106秒	108秒	109秒	111秒
	7	112秒	114秒	116秒	117秒	119秒	120秒	122秒	124秒	125秒	127秒
	8	128秒	130秒	132秒	133秒	135秒	136秒	138秒	140秒	141秒	143秒
	9	144秒	146秒	148秒	149秒	151秒	152秒	154秒	156秒	157秒	159秒

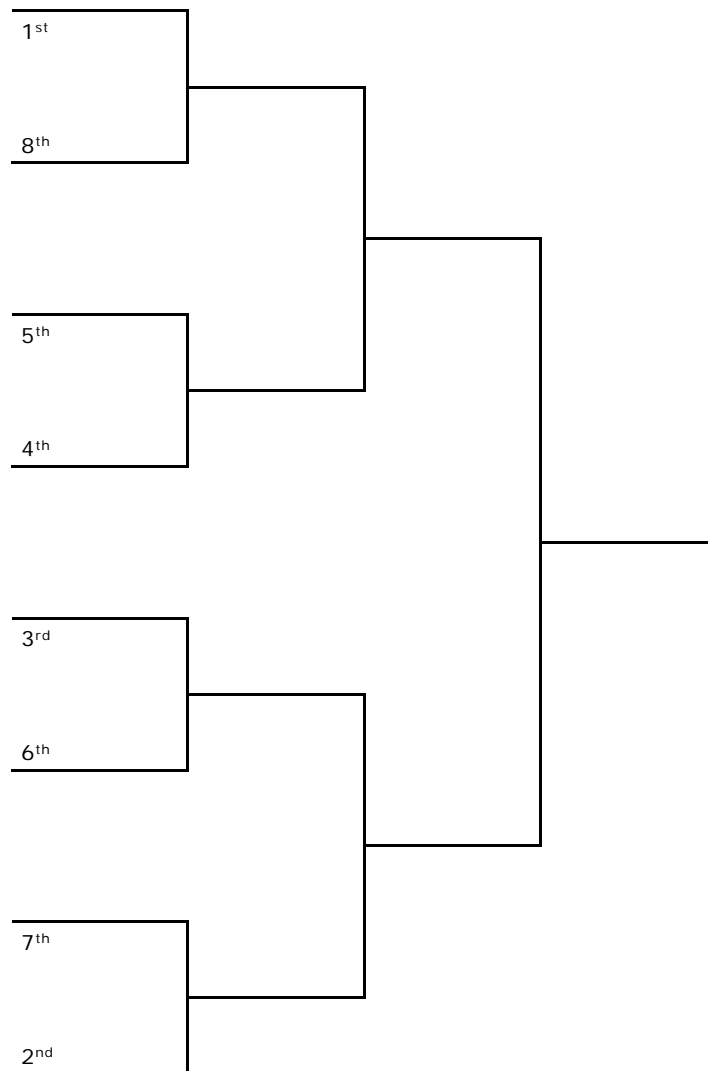
**速度：400m/分**

10の位	m	0	10	20	30	40	50	60	70	80	90
100の位	1	15秒	17秒	18秒	20秒	21秒	23秒	24秒	26秒	27秒	29秒
	2	30秒	32秒	33秒	35秒	36秒	38秒	39秒	41秒	42秒	44秒
	3	45秒	47秒	48秒	50秒	51秒	53秒	54秒	56秒	57秒	59秒
	4	60秒	62秒	63秒	65秒	66秒	68秒	69秒	71秒	72秒	74秒
	5	75秒	77秒	78秒	80秒	81秒	83秒	84秒	86秒	87秒	89秒
	6	90秒	92秒	93秒	95秒	96秒	98秒	99秒	101秒	102秒	104秒
	7	105秒	107秒	108秒	110秒	111秒	113秒	114秒	116秒	117秒	119秒
	8	120秒	122秒	123秒	125秒	126秒	128秒	129秒	131秒	132秒	134秒
	9	135秒	137秒	138秒	140秒	141秒	143秒	144秒	146秒	147秒	149秒

### 付則 3 ノックアウト競技（障害馬術規程第 272 条）

予選ラウンドのスターティングオーダー（予選方式に従う）





## 付則 4 計時器とスコアボードの要件

### 1. 審判員席およびスコアボードに関するディスプレイ要件

#### 1.1 審判員席から見えること

- 45 秒のカウントダウン（0 になった時点で走行タイム計測の開始）
- 経過時間（フィニッシュタイムからスタートタイムを差し引いたもの）
- 規定タイム
- 規定タイム超過によるタイム減点
- タイム修正（拒止に伴い障害物を壊したことによる 6 秒）。6 秒のタイム修正は、時計が再スタートされ、選手が走行を再開した時点で直ちに加算される。
- 障害物での過失（基準 A）
- 過失は秒に換算され、直ちに経過時間に加算される（基準 C）
- 合計タイム

#### 1.2 少なくとも次の情報はスコアボードに表示しなければならない。

##### 1.2.1 CSI1\*, CSI2\*, CSIO1\*, CSIO2\*, CSIO3\*, CSI-Am/V/U25/Y/J/P/Ch

- アルファベットで 9 文字以上の表示
- 45 秒のカウントダウン
- 経過時間
- 過失
- 走行中の馬の番号

##### 1.2.2 CSI3\*および CSIOV/Y/J/P/Ch

上記項目すべてに加えて：

- アルファベットで 20 文字以上の表示
- 馬名
- 選手名
- 国籍

##### 1.2.3 CSI4\*と CSI5\*

上記項目すべてに加えて：

- 暫定順位
- 上位者のスコアとタイム
- できれば暫定上位 5 選手の成績表示

##### 1.2.4 CSIO4\*/CSIO5\*/大会（Games）/選手権大会

上記項目すべてに加えて：

- ネーションズカップの特別要件
- すべてのチーム名とスコア

- 第 1 ラウンドと第 2 ラウンドでカウントしないスコアの明示
- 選手が入場してきた時に、他のチームメンバー成績を表示。各チームの成績を表示するかは任意である。

## 2 回走行競技の場合：

- 第 2 ラウンド：第 1 ラウンドでの減点を表示
- 第 2 ラウンド：順位にタイムが関わる場合は第 1 ラウンドでのタイム
- 第 2 ラウンド：順位にタイムが関わる場合は合計タイム（第 1 ラウンドと第 2 ラウンド）
- 第 2 ラウンド：両走行の減点合計

### 1.3 認可されているシステム

- タイマーと電光管（フォトセル）の接続はワイヤレスでもよい。タイマーからはワイヤで処理システムへ接続される。
- 大会（Games）、選手権大会、他の競技会の場合、電光管（フォトセル）をワイヤで同期式時刻管理タイマーに接続するのは任意である。
- CSI4\*と CSIO4\*競技会、およびカテゴリーの高い競技会では、スプリットタイミングシステムの使用が義務付けられている。

## 2. FEI 障害馬術競技会での計時

FEI カレンダーに掲載されている障害馬術競技会ではすべて、FEI が承認した電子タイマー、電光管（フォトセル）、ワイヤレス送信装置を使用しなければならない。これら承認された機器のリストは FEI ウェブサイトに公表されている。FEI 承認リストにあるもの以外のタイマー機器を使用する競技会は、FEI 審査の対象とはみなされないが、FEI 障害馬術ディレクターが例外を認めた場合はこの限りでない（障害馬術規程第 229 条 1 参照）。計時の仕様詳細と手順については、FEI ウェブサイトに公表されている国際障害馬術競技会のメモランダムにさらに詳細な記載がある。

### 2.1 FEI 障害馬術競技会での計時

#### 2.1.1 センサーでの計時

電子タイマーでは、馬がスタートラインあるいはフィニッシュラインを通過して、電光管（フォトセル）の間の光線を切った時にタイムがとられる。タイムは馬の胸でとらなければならない。選手が馬を追い込んで頭からラインを通過した場合でも、修正は行わない。手動計時の場合も、上述のようにタイムをとる。センサーの高さは、スタートラインとフィニッシュライン地点で同じでなければならない。

電光管（フォトセル）とともに基準時間が使われる場合は、連動あるいは個々で使う場合も日時をセットし、各競技開始前にメイン時計と同期させなければならない。日時の同期は競技会開始前 60 分以内に行い、競技会期間中を通して維持しなければならない。

らない。タイマーはいかなる競技でも競技中は再同期できないが、競技と競技の間であれば再同期できる。

#### 2.1.2 タイムの記録

すべての時刻は専用接続、あるいは統合されたプリンターで、少なくとも 1/1,000 (0.001) の精度にて瞬時かつ自動および連続的に印字紙に記録しなければならない。電子計時システムは、各選手のスタートタイムとフィニッシュタイムの数値比較による経過時間計算ができるよう、タイムデータを装備していなければならない。経過時間の計算後、記録されたタイムは 1/100 秒に切捨てる。各選手の最終走行成績は、1/100 (0.01) の精度で表示する。

#### 2.1.3 手動計時

手動計時は電子タイマーから完全に分離しており、単独であって、FEI カレンダーに掲載されているすべての競技において使用しなければならない。スタートとフィニッシュの両地点に配備され、少なくとも 1/100 (0.01) の精度で時間を表示できるストップウォッチあるいはバッテリー式手動計時装置が、適正手動計時機器として認定される。記録された手動タイム（自動あるいは手書）の印刷記録は、直ちにスタート地点およびフィニッシュ地点で確認できなければならない。走行に要した経過時間は、スタートタイムとフィニッシュタイムとの数値比較で求める。手動計時によるタイムは、修正計算を経たうえで公式成績に採用できる。

#### 2.1.4 手動計時修正の計算

タイムが記録されなかった選手よりも前に出場している選手 5 名とその後の選手 5 名、あるいは必要に応じて出場順番の近い選手 10 名の電子計時タイムと手動計時タイムの差を計算する。10 名分の時間差を 10 で割って修正値を求め、電子計時タイムがとれなかった選手の手動計時タイムに適用しなければならない。

#### 2.1.5 計時装置内での時間修正

公認のタイムプリンターで選手の走行タイム手動入力あるいは修正をする場合は、すべての計時関連文書に、修正を行っていることを示す何らかの印（星印、アスタリスクなど）をつけて手動入力が行われたことを表示しなければならない。

#### 2.1.6 タイムのプリントアウト

プリンターで印刷された公式タイム記録紙は外国人審判員に渡し、確認を受ける。競技会の組織委員会は競技会の公式承認がおりるまで、あるいは計時や競技会成績に関わる上訴が決着するまで、これらを管理する。完全なバックアップ・システムが求められる競技会でも、これを適用する。

外国人審判員は成績書式および FEI への報告書に署名し、競技会を承認したことを明

示しなければならない。システム A、システム B、および手動タイムの印字記録はすべて、組織委員会が競技会終了後 3 ヶ月間、あるいは計時や競技会成績に関わる上訴が決着するまで保管しなければならない。

#### 2.1.7 タイム表示

主催者は選手全員の公式タイムを常時提示できる適正な設備を提供するものとする。

### 2.2 オリンピック大会と世界選手権大会での計時

#### 2.2.1 電子計時

オリンピック大会と世界選手権大会では、個別に電子同期させた 2 台の計時システム（プリンター付き）をスタート地点とフィニッシュ地点の電光管（フォトセル）に直接接続し、実際の時刻とリンクして機能させなければならない。競技会開始前に、そのうちの片方をシステム A（メイン・システム）とし、他方をシステム B（バックアップ・システム）として指定する。システム A はこれに対応する電光管（フォトセル）A に接続しなければならない。システム B は電子的に分離された電光管（フォトセル）B へ別個に接続しなければならない。

図解、およびスタートラインとフィニッシュラインの設定については、FEI ウェブサイトで公開されている国際障害馬術競技会メモランダムを参照のこと。

##### 2.2.1.1 タイムの記録

条項 2.1.2 を参照。A と B の両システムは、選手のスタートタイムとフィニッシュタイムの数値比較による経過時間計算ができるよう、タイムデータを装備していなければならない。最終成績に採用するタイムはすべてシステム A からのデータでなければならない。メインの電子計時システム（システム A）に故障があった場合は、システム B で計算された経過時間を上記と同じ手順を経て採用しなければならない。経過時間の計算にシステム B の時刻をシステム A に代えて採用することは認められない。システム A あるいはシステム B から経過時間を算出できない場合については、2.1.4 に定める手動計時による計算値を有効とみなす。

##### 2.2.1.2 計時システムの同期

計時システムの同期は、各競技会開始前 60 分以内に行わなければならない。各競技会期間中は毎日、全システムの同期を行わなければならない。タイマーはいかなる競技でも競技中は再同期できないが、競技と競技の間であれば再同期できる。

##### 2.2.1.3 他の大会と選手権大会

他の大会や選手権大会すべてにおいて、同様のシステムを適用することが強く推奨される。



### 2.2.2 電光管（フォトセル）

オリンピック大会と世界選手権大会では、FEI が承認した 2 基の電光管（フォトセル）システムが必要であり、スタートラインとフィニッシュラインに設置する。どちらの設置場所においても、片方をシステム A に接続し、他方はシステム B に接続する。スタート地点とフィニッシュ地点では各システムのフォトセルを等しく配列し、また物理的に可能な限り近づけて設置しなければならない、いかなる場合も 0.5m 以内の間隔とする。

### 2.2.3 手動計時

これについては条項 2.1.3 を参照のこと。ストップウォッチあるいはバッテリー式手動計時器を使用する場合は、各競技会の開始前に同期させなければならない、できればシステム A とシステム B と同じ時刻を使用する。

## 2.3 全 FEI 競技会におけるワイヤレス計時器

FEI 障害馬術競技会が行われるアリーナでは、ワイヤレス・インパルス送信システムの使用が重要であると FEI は認識しており、設置の簡素化と現代障害馬術の機能性を促進するため、このシステムの採用を奨励している。しかし、どのようなワイヤレスシステムも、有線接続されたタイマーとフォトセルに比べて不具合が生じやすいことに留意すべきである。

## 付則 5 CSI 招待ルール

### CSI2\*/CSI3\*/CSI4\*/CSI5\*競技会への招待ルール（世界共通）

以下の CSI 招待ルールは FEI 事務総長が決定した日付をもって適用するが、各 NF へは十分余裕をもって正式に書面にて通知を行う。それまでは、「**2016 年 CSI 招待ルール**」で公表した 2016 年の CSI 招待ルールを適用する。

以下のルールは招待選手数が実施要項に示す人数に制限されるすべての CSI2\*/CSI3\*/CSI4\*/CSI5\*競技会に適用するが、FEI 理事会が招待ルールを明確に承認している FEI 認定シリーズの一環である CSI を除く。CSI 招待ルールは CSI 競技会の他のカテゴリー（例えば CSI1\*、CSI-Am、CSIY、CSIJ など）あるいは CSIO には適用しない。

CSI 招待ルールが適用されるすべての競技会については、一定割合の選手をロンジン・ランキングの上位から招待しなければならず、また一定割合の選手は開催国 NF の選考による自国選手とし、また一定割合は組織委員会（OC）の招待選手とする；各招待グループの割合は、以下の通りスターレベルごとに設定されている

競技会レベル	ロンジン・ランキングからの選手	開催国 NF 選考の選手	組織委員会招待
CSI5*	60%	20%	20%
CSI4*	50%	25%	25%
CSI3*	40%	30%	30%
CSI2*	30%	30%	40%
CSI2* ロンジン・ランキング競技を行わない選択 （この選択は、組織委員会からの特別要請に基づき CSI3*, 4*または 5*と合同開催の CSI2*でのみ可能）	0%	20%	80%

割当グループごとの招待選手実数は、NF／組織委員会が実施要項に設定した招待選手総数の上限に対する割当比率に基づいて計算される。計算にて端数が生じた場合は、以下の手順を順番にとる：

手順 1：標準的な四捨五入を適用して計算値を最も近い整数値（0.1 から 0.4 は切り捨て、0.5 から 0.9 は切り上げ）とし、各割当の選手実数を算出する。

手順 2：手順 1 を経て計算された選手実数合計が招待可能な最大数を超過している場合

は、組織委員会の招待割当の実数算出に、端数が 0.1 から 0.4 または 0.5 から 0.9 のいかににかかわらず、切り捨てを適用する。

手順 3：手順 2 を経ても、計算された選手実数合計が招待可能な最大数を超えている場合は、主催国 NF 割当の実数算出に、端数が 0.1 から 0.4 または 0.5 から 0.9 のいかににかかわらず、切り捨てを適用する。

手順 4：手順 3 を経ても、計算された選手実数合計が招待可能な最大数を超えている場合は、ロンジン・ランキング招待割当の実数算出に、端数が 0.1 から 0.4 または 0.5 から 0.9 のいかににかかわらず、切り捨てを適用する。

CSI 招待ルールが適用されるすべての競技会については、FEI オンライン招待システムを介して CSI 招待ルールが運用される。

FEI オンライン招待システムの目的に鑑み、週を月曜日起算として競技会は各々の開始週ごとにグループ化される。オンライン招待システムに使用するタイムゾーンはグリニッジ平均時（GMT）である。

組織委員会／開催国 NF は、各競技会について以下の情報を当該競技会開催週より 16 週間前の月曜日までに FEI へ提供しなければならない。この情報は実施要項にも記載しなければならない。

- 招待選手数の上限	}	選手総数を用いて、以下のセクション 1-3 に示す招待比率を計算する；CSI に参加申込できる馬の最大頭数は、選手数に各選手が騎乗できる頭数を掛けたものとする。
- 参加申込できる馬の頭数上限		
- 各選手が騎乗できる馬の頭数上限	}	スモールツアーおよび／またはミディアムツアーの選手数と馬の頭数は CSI 出場の選手／馬数に含めない。
- スモールツアーおよび／またはミディアムツアーのみに参加申込する選手数と馬の頭数		

参加申込締切日（当該競技会前の第 2 月曜日以降、当該競技会 4 日前まで）

これらの情報が当該競技会開催週の 16 週間前の月曜日までに届かない場合は、オンライン招待システム施行の目的に鑑み、次のデフォルト値が適用される：

招待選手数上限: 50	各選手が騎乗できる馬の頭数上限: 3 (= 最大限 150 頭が参加申込できる)	参加申込締切日: 競技会開始の 4 日前
-------------	---	----------------------

CSI3\*, 4\*または 5\*と合同開催される CSI2\*競技会の組織委員会／NF は、カレンダー

一申請書類にて、あるいは遅くとも当該競技会開催週より16週間前の月曜日までに、CSI2\*に 30%/30%/40%の招待比率を適用するか、もしくはオプションを利用して自国選手招待 20%と組織委員会招待 80%を希望するか（この場合はCSI2\*でロンジン・ランキング競技を行えない）を明示しなければならない。当該競技会開催週より16 週間前の月曜日までにこの情報が届かなかった場合は、CSI2\*のデフォルト値はCSI2\*競技会の 30%/30%/40%割当に従う。

実施要項にて馬の国際空輸を組織委員会が提供／準備すると記載している競技会については、手配の関係から、参加申込締切日を最も早くて当該競技会前の第5日曜日に設定できる。

## セクション 1 指定招待枠：ロンジン・ランキングの上位から招待される選手

競技会の**3ヶ月前**に策定されたロンジン・ランキングリストを用いて、ロンジン・ランキング上位から選手を招待する。組織委員会は選手招待に適用するロンジン・ランキングリスト番号を実施要項に記載しなければならない。

### 1.1 ロンジン・ランキングの上位から選考される選手割合

ロンジン・ランキングの上位から招待される選手割合は、競技会のスターレベルによって異なる。以下の割合を適用する：

CSI5*	CSI4*	CSI3*	CSI2*	CSI2* ロンジン・ランキング競技を行わない選択 (この選択は、CSI3*, 4*または 5*と合同開催のCSI2*でのみ可能)
60%	50%	40%	30%	必須招待なし

ロンジン・ランキングポイントで同点の選手は以下の通りに分ける：

- より少ない回数の成績で同じポイントを獲得した選手を優先させる。それでも同点の場合は；
- ロンジン・ランキングにカウントされた成績で最高ポイント獲得の回数を比較し、多い方の選手を優先させる。それでも同点の場合は；
- ロンジン・ランキングにカウントされた成績で最高順位の回数を比較し、多い方の選手を優先させる。それでも同点の場合は；
- 前回のロンジン・ランキングで順位が高い方の選手を優先させる；それでも同点の場合は同点が崩れるまで、さらに遡ったロンジン・ランキングで順位の高い方の選手を優先させる。

### 1.2 オリンピック大会および世界選手権大会の個人障害馬術ゴールドメダリスト

直近のオリンピック大会における個人障害馬術ゴールドメダリストと直近の世界選手権大会における個人障害馬術ゴールドメダリストは、すべての CSI が招待しなければならない。個人障害馬術ゴールドメダリストのロンジン・ランキング順位にかかわらず、これらの招待は 1.1 に設定した指定招待枠の割当に含まれる。

### 1.3 指定招待のタイムライン

競技会への指定招待は、当該競技会週の 8 週間前の月曜日から当該競技会前の第 3 日曜日 GMT 深夜 24 時までに出される。有効期限が過ぎたり、選手が招待を辞退した場合、または当該選手の所属 NF がこれを拒んだ場合は、ロンジン・ランキングで次点の選手に招待状が再発行され、指定招待枠の締切期限（当該競技会前の第 3 日曜日 GMT 深夜 24 時）まで同様の手順をとる。

### 1.4 指定招待枠の確認

指定選手枠の確認期限は招待状発行から 168 時間（7×24 時間）である。選手は招待状発行から 96 時間（4×24 時間）以内に招待を受けるか、辞退しなければならない；選手の所属 NF は遅くとも招待状発行から 168 時間以内に選手の招待受諾を承認して FEI エントリーシステムで参加申込の確証を受けるか、または受諾を否認しなければならない。招待状が出されてから 168 時間以内に招待を受託または辞退の表明がなかった場合、その招待は無効となる。

ある競技会への招待を受諾した選手でも、セクション 1 に基づき同一週に行われる一段とレベルの高い別の競技会への招待がその後可能となり、当該選手がその競技会でロンジン・ランキング上位からの選考対象である場合は、この招待を受けることができる。

セクション 1 に基づいて招待され、所属 NF がこれを追認した選手は全員が自動的に受け付けとなる。

### 1.5 指定招待枠を満たすこと

競技会前の第 2 日曜日までに指定招待枠が満たされない場合は、残りの招待がセクション 3：組織委員会招待枠に回される。

## セクション 2 開催国 NF 選考の自国選手枠

### 2.1 自国選手の割合

開催国 NF 選考の自国選手割合は、当該競技会のスターレベルによって異なる。この割合はセクション 1：指定招待枠とセクション 3：組織委員会枠で招待される自国選

手を含まない。次の割合を適用する：

CSI5*	CSI4*	CSI3*	CSI2*	CSI2* ロンジン・ランキング競技を行わない選択 (この選択は、CSI3*、4*または 5*と合同開催の CSI2*でのみ可能)
20%	25%	30%	30%	20%

## 2.2 開催国 NF が選考する自国選手の参加申込タイムライン

本セクションでの自国選手の参加申込は、当該競技会週の 8 週間前の月曜日から当該競技会前の第 4 日曜日までに FEI エントリーシステムを通して行わなければならない。

## 2.3 開催国 NF 選考の自国選手の参加申込確認

組織委員会は、セクション 2 に基づき開催国 NF が参加申込した自国選手全員の参加申込を受け付けなければならない。

## 2.4 自国選手招待枠を満たすこと

開催国 NF が当該競技会前の第 4 日曜日までに自国選手招待枠を満たせない場合は、残りの招待がセクション 1：指定招待枠に回される。

# セクション 3 組織委員会招待枠

## 3.1 組織委員会招待割合

組織委員会が招待する選手割合は、当該競技会のスターレベルに基づく。次の割合を適用する：

CSI5*	CSI4*	CSI3*	CSI2*	CSI2* ロンジン・ランキング競技を行わない選択 (この選択は、CSI3*、4*または 5*と合同開催の CSI2*でのみ可能)
20%	25%	30%	40%	80%

さらにセクション 1 と 2 の招待枠割当が各々の締切日までに満たせない場合は、これらの招待が組織委員会に戻され、オンライン招待システムを通して外国人選手および／または自国選手を招待してこれを満たすことができる。組織委員会招待の選手はロンジン・ランキングリストのいかなる順位、またはランク外でもよい。

## 3.2 組織委員会招待のタイムライン

組織委員会招待は、当該競技会開催週の 8 週間前の月曜日から実施要項に記載の参加

申込締切日までに、オンライン招待システムを通して出される。

### 3.3 組織委員会招待枠の確認

組織委員会招待枠の確認期限は招待状発行から 168 時間（7×24 時間）である。選手は招待状発行から 96 時間（4×24 時間）以内に招待を受けるか、辞退しなければならない；選手の所属 NF は遅くとも招待状発行から 168 時間以内に選手の招待受諾を承認して FEI エントリーシステムで参加申込の確証を受けるか、または受諾を否認しなければならない。当該選手および／またはその所属 NF が招待状発行から 168 時間以内に招待の受諾または辞退を表明しなかった場合、この招待状は失効する。組織委員会の判断で、オンライン招待システムを通して同一選手に招待状を再発行するか、あるいは別の選手に発行することがある。

セクション 3 に基づいて招待され、所属 NF がこれを追認した選手は全員が自動的に受け付けとなる。組織委員会枠にて FEI エントリーシステムを介して NF が直接行った選手の参加申込について、組織委員会はその判断でこれを受け付け、または拒むことができる。

## セクション 4 外国人選手あるいは国外に居住している自国選手のための FEI 招待枠

FEI は CSI2\*/CSI3\*/CSI4\*競技会へ選手 2 名、CSI5\*競技会には選手 1 名を招待する権利がある。FEI ウェブサイトで公表のオリンピック大会への予選リストに掲載された CSI3\*競技会については、オリンピック大会への能力証明書獲得を目指す選手に第 3 の FEI 招待を割り当てる権利が FEI にある。FEI 招待はセクション 1.1 に定める指定招待枠に含まれる。指名選手のレベルは当該競技会の必要基準を満たすものでなければならない。組織委員会は、FEI が FEI 招待を割り当てた選手の参加申込を受け付けなければならない。

同一シーズン中に本セクションで同じ選手がノミネートされ得る回数は 3 回までとする。FEI 招待が当該競技会前の第 3 日曜日までに割り振られなかった場合、招待はセクション 3：組織委員会招待枠に戻される。

## セクション 5 馬の申告タイムライン

上述のセクション 1～4 で招待を受けた選手は、当該競技会前の第 2 日曜日までに参加申込する馬の頭数を表明しなければならない。選手が参加申込頭数を表明し損ねた場合は、馬 2 頭のデフォルト値が適用される。この場合は組織委員会の判断で、実施要項で認めていれば当該選手に 2 頭を超える馬の参加申込を認めることがある；選手が馬を 1 頭のみ参加申込する場合、この選手は組織委員会に対して馬 1 頭分の厩舎代

を返済する義務がある。(実施要項で各選手とも馬 1 頭の参加申込としている場合は、デフォルト値が馬 1 頭となる。)

選手は遅くとも当該競技会開始の 4 日前までに出場する馬匹名を表明しなければならない。選手がこの締切日までに出場する馬匹名を表明し損ねた場合は、当該選手の参加申込が取り消される；交代は障害馬術規程第 251 条 9.2 に従って行わなければならない。

## セクション 6 概要

各 NF は出場資格を満たした馬と選手の参加申込に責任がある。これには参加申込を行う競技への馬と選手の参加適性と出場能力が含まれる。(障害馬術規程第 251 条 4)

競技会招待の見返りとしての報酬やアピアランスフィー詳細については、一般規程第 115 条 1 を参照のこと。

参加申込の締め切り時点で、馬の参加申込数が受け付け可能な頭数上限に達していない場合、組織委員会は限定数の追加選手を招待することが許される。グランプリへの出場資格認定システムが実施要項にない場合は、グランプリへの出場が認められる最大人数を超えて組織委員会が追加選手を招待することはできない。このような追加選手については、セクション 1～3 で招待される選手割合の算出には勘案されない。

組織委員会はその競技会で行われるスモールツアーおよび／またはミディウムツアーにのみ参加する追加選手を限定数（正確な人数を遅くとも当該競技会の 16 週間前の月曜日までに明示のこと）招待できる；当該競技会でスモールツアーおよび／またはミディウムツアーにのみ招待された選手は、セクション 1～3 で招待される選手割合の算出に使われる選手総数には含まれず、またロンジン・ランキングにカウントされる競技には出場できない。スモールツアー／ミディウムツアー競技に招待された選手の馬は、CSI に参加申込できる馬の最大頭数にカウントされない；スモールツアー／ミディウムツアー競技に招待された選手のいずれかが、各選手に認められた最大頭数の馬を参加申込しない場合でも、組織委員会はスモールツアー／ミディウムツアー用の空いた馬房を利用して、当該 CSI に追加選手を招待することはできない。

招待選手数が制限される「ツアー」（同じ競技会場で連続する週末に開催される複数の競技会）の一環として開催される CSI2\*/3\*/4\*/5\*の組織委員会は、CSI 招待ルールを遵守しなければならない。月をまたいで連続する週に開催される複数のツアーの組織委員会は、ツアー最初の競技会より 3 ヶ月前に出されたロンジン・ランキングを



用いて、セクション 1 に基づく選手招待をツアーの競技会すべてに適用でき、またツアーすべての競技会への招待を受諾した選手を優先させてもよい。あるいはこれに代えて、月をまたいで行われる複数のツアーの組織委員会は、セクション 1 に基づく各競技会への選手招待に、ツアーで行われる競技会各々の開始から 3 ヶ月前のロンジン・ランキングを利用することができる。いずれの場合も、組織委員会はツアーにおける最初の競技会の 16 週間前までにこれを表明し、適用するロンジン・ランキング番号を実施要項に記載しなければならない。

## **国内競技会**

国内競技会の開催を希望する組織委員会は、国内競技会に関わる FEI 規程に準拠しなければならない。これには外国人選手数および選手を派遣する NF 数の制限も含まれる。

## **制裁措置と結果**

競技会開催前に FEI テクニカル条件や CSI 招待ルールを遵守していないことが判明した場合は、FEI の判断によりこの競技会を FEI カレンダーから削除することがある。

CSI 招待ルールを遵守しなかった組織委員会には以下の罰金が科せられる：

1 回目の違反は 20,000 スイスフラン；2 回目の違反は 40,000 スイスフラン；3 回目の違反では当該競技会の開催が認められない。これらの罰金は当該組織委員会から FEI へ直接支払う。

競技会開催後に FEI テクニカル条件および CSI 招待ルールが遵守されていなかったと十分に証明された場合は、次シーズンの CSI 指定を行わないことがある。

当該国際競技会または国内競技会の初日から遡る 6 ヶ月間に、選手および／または馬が非認定競技会（一般規程第 113 条 4 参照）に出場していた場合は、その人馬が FEI 登録をしていますが、その国際競技会または国内競技会に出場することはできない（また組織委員会が当該競技会に招待することも、また NF が当該競技会に参加申込することもできない）。

## 付則 6 CSI/CSIO 開催要件

1. 世界共通の CSI 開催要件					
要 件	アマチュアオーナー (世界共通)	CSI+CSIO 1*+2*	CSI+CSIO 3*	CSI+CSIO 4*	CSI+CSIO 5*
賞金 (CHF) 他の通貨換算額は、 FEI ウェブサイトの 賞金通貨表を参照	制限なし	1*:最大 CHF49,999 2*:CHF50,000-149,999	CHF150,000-249,999	CHF250,000-499,999	CHF500,000 以上
賞金配分方法	同じ競技会場で同一週に行われる複数の競技会の賞金を合算してスターレベルを確定することはできない。 <sup>1</sup>				
CSIs/CSIOs の併催	<p>公表されている各競技の賞金は、付則にある 2 つのチャートのいずれかに従い、出場者数に関係なく上位 12 名までの選手に配分しなければならない。組織委員会はいずれのチャートを使用するか実施要項に記載しなければならない。出場者数の 1/4 まで賞を授与するため、組織委員会は第 13 位から最下位の選手対象に追加で賞を設け、その各賞金額を実施要項に記載しなければならない。賞金の追加があったとしても、競技会のスターレベルあるいは当該競技のロンジン・ランキング・グループが変わることはない。</p> <p>CSIs : 同一スターレベルで複数の CSI を同じ競技会場で同一日程にて開催することはできるが、別々の競技を行う完全に別個の CSI でなければならない; 各 CSI には異なる人馬が出場することとする。同じ競技会場で同一週に行う異なるスターレベルの CSI については、各レベルを別個の CSI とみなす; そのような CSI での併催競技は認められない。ある CSI スターレベルに参加申込した馬は、同じ競技会で他の CSI スターレベルに参加申込することはできない。馬は次の条件下でのみ、同一競技会における国内競技と国際競技に出場することができる:</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>-国内競技会が国際競技会のホースインスペクション開始の遅くとも 1 時間前までに終了する場合、馬は両方に参加できる;</li> <li>-国内競技会が国際競技会のホースインスペクション開始の 1 時間前を過ぎて終了する場合、馬は国内競技と国際競技の両方に出場することはできない;</li> <li>-国内競技会が国際競技会終了の翌日にも競技を行う場合、国際競技会に出場した馬はこの日、即ち国際競技会終了翌日の国内競技に出場できる。</li> </ul> <p>CSI1*あるいは CSI2*は、CSIO と同時開催できる。このような競技会を開催する組織委員会はアリーナを 2 面準備しなければならない; 1 つは CSI 用、1 つは CSIO 用。CSIO の出場馬は CSI に参加できない。</p>				

FEI 馬パスポート	自国馬匹は必要なし	自国馬匹は必要なし	必要	必要	必要
馬のエントリー代 上限 税金含まず	€1500.-	世界共通要件なし；ヨーロッパと北米における競技会要件については付則 6、条項 2.1 と 2.2 を参照			
	エントリー代には当該競技会期間中における馬 1 頭の厩舎代、競技会におけるすべての施設使用料、実施要項の記載条件に従いすべての競技に出場する権利、および運営費が含まれる。エントリー代に規定料金（エントリー代には含まれないサービスに対するもの）あるいは任意料金（任意使用の物品に対するもの）は含まれない。障害馬術規程用語集に掲載された費用の定義を参照。用語集に定義する通り、規定料金と任意料金がエントリー代に加算されることがある；その他の費用は課されない。				
出場料／ ノミネーション料	出場料なし。ノミネーション料なし（エントリー代に含む）。すべてのカテゴリーに適用。				
ボロ処理費用上限 （VAT 含む）	€40.-／馬（すべてのカテゴリーに適用）				
各競技への 出場者数上限	グランプリ（下記参照）以外の各競技で参加者数上限は 100 名。100 名を超える選手が出場を申告した場合は、競技を分割し、追加賞金を追加された競技に提供しなければならない。 <sup>2</sup>				
グランプリへの 出場者数上限	100	100	60	50	50
グランプリ競技 <sup>3</sup> の 賞金額下限	適用せず	適用せず	ロンジン・ランキングポイント・グループ C で求められる下限に準拠	ロンジン・ランキングポイント・グループ B で求められる下限に準拠	ロンジン・ランキングポイント・グループ A で求められる下限に準拠
ロンジン・ランキング 競技数下限（CSIYH には適用せず）	適用せず	CSI1*：0 CSI2*：最低 1	最低 2	最低 3	最低 4
障害物の高さ最大 （CSIYH には適用せず）	カテゴリー A：1.40m カテゴリー B：1.25m	CSI1*：1.40m CSI2*：1.45m <sup>4</sup>	規定に準拠	規定に準拠	規定に準拠
スタートリストと 成績表	馬のオーナーとブリーダー氏名（可能であれば。一般規程第 121 条 4 参照）をすべてのスタートリストと成績表に記載する。				

グルームの食事	世界共通要件なし；ヨーロッパと北米での競技会要件については付則 6、条項 2.1 と 2.2 参照
選手の食事	世界共通要件なし；ヨーロッパと北米での競技会要件については付則 6、条項 2.1 と 2.2 参照
グルームの宿泊施設	世界共通要件なし；ヨーロッパと北米での競技会要件については付則 6、条項 2.1 と 2.2 参照
選手の宿泊施設	世界共通要件なし；ヨーロッパと北米での競技会要件については付則 6、条項 2.1 と 2.2 参照
フットイング	最低基準に準拠
厩舎	最低基準に準拠；馬房は 3m x 3m 以上（最低 9 m <sup>2</sup> ） + 馬房のうち 20%は大きい馬匹用に 12 m <sup>2</sup> 以上の広さ* * 参加申込にて選手からの特別要請があり大型馬房を提供した場合、組織委員会は€50 を限度として請求できる。

以下の条項を世界共通で CSI に適用する：

新しく CSI5\*競技会を開催する場合の注意事項：FEI ハイレベル競技会開催の経験がない組織委員会が CSI5\*競技会開催の許可を得るには、先ず同じ競技会場で CSI4\*競技会を成功させなければならない。新設される CSI5\*の賞金は、競技会開催前、FEI が定める期日までに確保していなければならない。FEI ハイレベル競技会の開催実績がある組織委員会に対しては、組織委員会の NF からの申請に基づき、同じ競技会場で CSI4\*競技会の開催実績がなくても新設 CSI5\*の開催が許可されることがある。新設 CSI5\*競技会および／または既存の CSI5\*を開催する新規の組織委員会については、当該競技会をカレンダーに掲載する前に運営や設備が CSI5\*技術基準を満たしていることを確認するため、FEI は競技会前に組織委員会の経費負担で会場を視察する技術代表を指名する権利を有する。障害馬術委員会の判断により、新設の CSI4\*競技会にも同様の措置をとることがある。日程が重複する場合の対応詳細については障害馬術規程第 200 条 8 を参照。

同じ競技会場で連続する週末に開催される複数の競技会（「ツアー」）については、最初の競技会開催前に、設備や運営がこれら競技会に招待される多数の人馬に対応する必要基準を満たしているかを確認するため、組織委員会の経費負担で CSI 会場を視察する技術代表の指名権限が FEI にある。

<sup>1</sup> 同じ競技会場で同一週に行われる複数の競技会での賞金を累積してスターレベルを確定させることはできない。CSI5\*の開催期間は最長で 5 日間。数週間にわたって週末に同一会場で開催される競技会は、各々が個別の CSI とみなされる。これらの競技会については、競技会全体の賞金額ではなく、各競技会で最大 12 競技の賞金額を合算して競技会スターレベルを決定する。

CSIYH 競技会については、スターレベルを決定する賞金額算出に以下を適用する：

CSI または CSIO に参加申込した選手のみが YH 競技に出場できる単独競技会（例：CSI5\*または CSIO3\*）については、CSIYH の賞金を総額に含めて当該競技会のスターレベルを決定する；

YH 競技に追加選手が招待される単独競技会（例：CSI5\*または CSIO3\*）については、CSIYH の賞金を総額に含めず当該競技会のスターレベルを決定する；

同じ競技会場で同時に開催される複数の競技会（例：CSI2\*/CSIYJ-A/CSIAm-A/CSI5\*）については、どの競技会についても、CSIYH の賞金を総額に含めずスターレベルを決定する。

<sup>2</sup> グランプリ以外の各競技については、出場者を 100 名までとする。100 名を超える出場者の申告があった場合、組織委員会は 120 名の申告選手まで 10 名ごとに追加賞金を次の割合で提供しなければならない：

- 101 名から 110 名までの申告選手：組織委員会は当初の競技賞金額の 133%を提供しなければならず、賞金配分チャート I あるいは II に従い、競技で上位 16 位までの選手に分配する。組織委員会が提供する追加賞金は競技会のスターレベルあるいは競技のロンジン・ランキングポイント・グループを決定する賞金総額には勘案しない。
- 111 名から 120 名までの申告選手：組織委員会は当初の競技賞金額の 166%を提供しなければならず、賞金配分チャート I あるいは II に従い、競技で上位 20 位までの選手に分配する。組織委員会が提供する追加賞金は競技会のスターレベルあるいは競技のロンジン・ランキングポイント・グループを決定する賞金総額には勘案しない。

120 名を超える出場者の申告があった場合、組織委員会は競技を 2 グループに分割して当初の競技賞金額の 200%を提供しなければならず、これを 2 グループ間で平等に分配する。組織委員会が提供する追加賞金は競技会のスターレベルあるいは競技のロンジン・ランキングポイント・グループを決定する賞金総額には勘案しない。

組織委員会は以下のいずれかの方法で競技を分けることができる：

競技開始前に競技を 2 グループに分ける。各グループに複数の馬で出場する選手がいても構わないが、同一選手の馬は全頭を同じグループに入れなければならない。同規模のグループに分けることができない場合、各グループの出場者数は異なってもよい；あるいは

競技を 1 競技として行い、終了後に 2 グループに分けて順位を以下の通りに確定する：最も成績の良い選手を第 1 グループの優勝者とし、2 番目の成績の選手を第 2 グループの優勝者というように、出場者総数の 25%に賞が授与されるまで順位づけする。注記：この場合はグループごとに分けた成績を FEI へ提出しなければならない、例：競技成績 1a、競技成績 1b。

いずれの場合でも、各々のグループには同額の賞金を授与しなければならない。疑念を避けるために記すと、競技の班分けが必要かを決めるのは競技への出場を申し込んだ選手数であり、最終的な出場者数ではない。

200 名を超える出場者の申告があった場合、組織委員会は競技を 3 グループに分割し、上述の通り同じ割合の追加賞金を提供しなければならない（各グループの出場者が 100 名あるいはそれ以下であった場合は、3 グループ各々に当初の競技賞金額の 100%を提供する；3 グループのうちいずれかのグループ出場者が 101～110 名であった場合は、3 グループ各々に当初の競技賞金額の 133%を提供する；3 グループのうちいずれかのグループ出場者が 111～120 名であった場合は、3 グループ各々に当初の競技賞金額の 166%を提供する）。

<sup>3</sup> FEI ワールドカップ™ 競技に加えてグランプリ競技を行う CSI-W 競技会については、FEI ワールドカップ™ 競技はグランプリのステータスであることから、上述したグランプリの賞金額要件の最低限度は FEI ワールドカップ™ 競技にのみ適用する；そのよう

な競技会でのグランプリ競技では、FEI ワールドカップ<sup>TM</sup> 競技に提供される賞金額を超えて賞金を授与することはできない。CSI-W 競技会における本規定の適用開始期日詳細については FEI 障害馬術ワールドカップ<sup>TM</sup> 規程を参照のこと。

<sup>4</sup> CSI1\*と CSI2\*における高さ制限：要請があれば、FEI は高さ制限を免除することがある。CSI3\*やハイレベル大会を多数開催している国では、CSI1\*と CSI2\*競技会における障害物の高さ制限の免除が適用されることがあるが、これはスポーツ上の理由であり、賞金額の理由ではない。能力証明書取得の機会を選手に提供するため、NF が高さ制限の免除を必要とする場合は許可されるが、定期的に CSI3\*やハイレベル大会を開催している NF が 3\*以上の賞金を提供せずに 1.45m を超える高さの競技開催を希望しても免除は適用されない。

ヒアリング後に、FEI は CSI/CSIO 要件を満たしていなかった組織委員会に対して警告を発することがあり、ルール違反内容とともに組織委員会名が公表される場合がある。組織委員会が更に違反を重ねた場合は、該当競技会が FEI カレンダーから削除されることがある。

2. ヨーロッパと北米対象の追加 CSI 開催要件				
2.1 ヨーロッパ 対象の追加要件	CSI1* + 2*	CSI3*	CSI4*	CSI5*
馬のエントリー代 上限* <b>税金含まず</b>	€400.-/馬	€450.-/馬	€550.-/馬	CSI5* エントリー代不要 CSI5*W WEL €450.-/馬
	エントリー代には当該競技会期間中における馬 1 頭の厩舎代、すべての施設使用料、実施要項の記載条件に従いすべての競技に出場する権利、および運営費が含まれる。エントリー代に規定料金（エントリー代には含まれないサービスに対するもの）あるいは任意料金（任意使用の物品に対するもの）は含まれない。障害馬術規程用語集に掲載された費用の定義を参照。用語集に定義する通り、規定料金と任意料金がエントリー代に加算されることがある；その他の費用は課されない。			
敷料－ワラ	最初の敷料は無料	最初の敷料は無料	最初の敷料は無料	最初の敷料は無料で、20 kgの梱包 5 個まで無料
グルームの食事	自己負担	自己負担	自己負担	組織委員会負担（朝食+1 食）
選手の食事	自己負担	自己負担	自己負担	組織委員会負担（朝食+1 食）
グルームの宿泊施設	自己負担	自己負担	自己負担	組織委員会負担
選手の宿泊施設	自己負担	自己負担	CSI：自己負担	組織委員会負担；選手全員に対して 3*以上のホテル
<p>*すべてのカテゴリーについて、ヤングホースのエントリー代上限は€300.-/馬。U25、ヤングライダー、ジュニア、チルドレン、ポニー競技会のエントリー代上限は€400.-/馬あるいはポニー。</p> <p>WEL = 西ヨーロッパリーグ；PM = 賞金；b/fast = 朝食；max. = 最大；min. = 最低；n/a = 適用されない</p>				



2.2 北米対象の 追加要件	CSI1*+ 2*	CSI3*	CSI4*	CSI5*
馬のエントリー代	3 頭分のエントリー代と規定料金すべてを合わせた金額が賞金の 4%を超えてはならない。	CSI : 3 頭分のエントリー代と規定料金すべてを合わせた金額が賞金の 3%を超えてはならない。 CSI-W:ワールドカップルールに従う。	CSI:3 頭分のエントリー代と規定料金すべてを合わせた金額が賞金の 2%を超えてはならない。 CSI-W:ワールドカップルールに従う。	CSI : 3 頭分のエントリー代と規定料金すべてを合わせた金額が賞金の 1%を超えてはならない。 CSI-W:ワールドカップルールに従う。
	各馬のエントリー代は実施要項に記載しなければならない。参加申込頭数が 3 頭未満の選手には、参加申込頭数分のエントリー代を課す。エントリー代には当該競技会期間中における馬 1 頭の厩舎代、すべての施設使用料、実施要項の記載条件に従いすべての競技に出場する権利、および運営費が含まれる。エントリー代に規定料金（エントリー代には含まれないサービスに対するもの）あるいは任意料金（任意使用の物品に対するもの）は含まれない。障害馬術規程用語集に掲載された費用の定義を参照。用語集に定義する通り、規定料金と任意料金がエントリー代に加算されることがある；その他の費用は課されない。			
敷料－オガ	敷料はすべて徴収	敷料はすべて徴収	敷料はすべて徴収	各馬につき US \$ 50（カナダ \$ 65）を控除し、以降は徴収
グルームの食事	自己負担	自己負担	自己負担	自己負担
選手の食事	自己負担	自己負担	自己負担	自己負担
グルームの宿泊施設	自己負担	自己負担	自己負担	自己負担
選手の宿泊施設	自己負担	自己負担	CSI : 自己負担	自己負担

3. CSIO 世界共通開催要件				
要件	CSIO1*+ 2*	CSIO3*	CSIO4*	CSIO5*
賞金 (CHF) 他の通貨換算額は、 FEI ウェブサイトの賞 金通貨表を参照	1*:最大 CHF49,999 2*:CHF50,000-149,999	CHF150,000-249,999	CHF250,000-499,999	CHF500,000 以上
賞金配分方法	同じ競技会場で同一週に行われる複数の競技会の賞金を合算してスターレベルを確定することはできない。 <sup>1</sup>			
CSIs/CSIOs の併催	<p>馬は次の条件下でのみ、同一競技会における国内競技と国際競技に出場することができる：</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>-国内競技会が国際競技会のホースインスペクション開始の遅くとも 1 時間前までに終了する場合、馬は両方に参加できる；</li> <li>-国内競技会が国際競技会のホースインスペクション開始の 1 時間前を過ぎて終了する場合、馬は国内競技と国際競技の両方に出場することはできない；</li> <li>-国内競技会が国際競技会終了の翌日にも競技を行う場合、国際競技会に出場した馬はこの日、即ち国際競技会終了翌日の国内競技に出場できる。</li> </ul> <p>CSI1*あるいは CSI2*は、CSIO と同時開催できる。このような競技会を開催する組織委員会はアリーナを 2 面準備しなければならない；1 つは CSI 用、1 つは CSIO 用。CSIO の出場馬は CSI に参加できない。</p>			
FEI 馬パスポート	必要	必要	必要	必要
馬のエントリー代 上限 <b>税金含まず</b> *すべてのカテゴリー でヤングホースの エントリー代上限は €300/馬	€550/馬	€550/馬	€550/馬	€550/馬
	<p>エントリー代には当該競技会の期間中における馬 1 頭の厩舎代、競技会におけるすべての施設使用料、実施要項の記載条件に従いすべての競技に出場する権利、および運営費が含まれる。エントリー代に規定料金（エントリー代には含まれないサービスに対するもの）あるいは任意料金（任意使用の物品に対するもの）は含まれない。障害馬術規程用語集に掲載された費用の定義を参照。用語集に定義する通り、規定料金と任意料金がエントリー代に加算されることがある；その他の費用は課されない。</p>			

出場料／ノミネーション料	出場料なし。ノミネーション料なし。すべてのカテゴリーに適用。			
敷料－ワラ	各馬 20 kgの梱包 5 個まで無料	各馬 20 kgの梱包 5 個まで無料	各馬 20 kgの梱包 5 個まで無料	各馬 20 kgの梱包 5 個まで無料
ボロ処理費用上限	€40.-/馬	€40.-/馬	€40.-/馬	€40.-/馬
各競技への 出場者数上限	グランプリ以外の各競技における参加者数上限は 100 名（下記参照）。100 名を超える選手が出場を申告した場合は、競技を分割し、追加賞金を追加競技に提供しなければならない。 <sup>2</sup>			
グランプリへの 出場者数上限	100	60	50	50
グランプリ競技 <sup>3</sup> の 賞金額下限	適用せず	ロンジン・ランキングポイント・ グループ C で求められる下限に 準拠	ロンジン・ランキングポイント・ グループ B で求められる下限に 準拠	ロンジン・ランキングポイント・ グループ A で求められる下限に 準拠
ロンジン・ランキング 競技数下限	CSIO1*：最低 1 CSIO2*：最低 1	最低 2	最低 3	最低 4
障害物の高さ最大	規定に準拠	規定に準拠	規定に準拠	規定に準拠
スタートリストと 成績表	馬のオーナーとブリーダー氏名（可能であれば。一般規程第 121 条 4 参照）をすべてのスタートリストと成績表に記載する。			
公式チームの グルームの食事	すべての食事が組織委員会負担	すべての食事が組織委員会負担	すべての食事が組織委員会負担	すべての食事が組織委員会負担
公式チームの 選手の食事	すべての食事が組織委員会負担	すべての食事が組織委員会負担	すべての食事が組織委員会負担	すべての食事が組織委員会負担
公式チームの グルームの宿泊	組織委員会負担 (参加申込時に申請があった場合)	組織委員会負担 (参加申込時に申請があった場合)	組織委員会負担 (参加申込時に申請があった場合)	組織委員会負担 (参加申込時に申請があった場合)
公式チームの 選手の宿泊	組織委員会負担	組織委員会負担	組織委員会負担； 3*以上のホテル	組織委員会負担

フットイング	最低基準に準拠
厩舎	最低基準に準拠；馬房は 3m x 3m 以上（最低 9 m <sup>2</sup> ） + 馬房のうち 20%は大きい馬匹用に 12 m <sup>2</sup> 以上の広さ* *参加申込にて選手からの特別要請があり大型馬房を提供した場合、組織委員会は€50 を限度として請求できる。

WEL = 西ヨーロッパリーグ；PM = 賞金、b/fast = 朝食；max. = 最大；min. = 最低；n/a = 適用されない

<sup>1</sup> 同じ競技会場で同一週に行われる複数の競技会での賞金を累積してスターレベルを確定させることはできない。CSI5\*の開催期間は最長で 5 日間。数週間にわたって週末に同一会場で開催される競技会は、各々が個別の CSI とみなされる。これらの競技会については、競技会全体の賞金額ではなく、各競技会で最大 12 競技の賞金額を合算して競技会スターレベルを決定する。

CSIYH 競技会については、スターレベルを決定する賞金額算出に以下を適用する：

CSI または CSIO に参加申込した選手のみが YH 競技に出場できる単独競技会（例：CSI5\*または CSIO3\*）については、CSIYH の賞金を総額に含めて当該競技会のスターレベルを決定する；

YH 競技に追加選手が招待される単独競技会（例：CSI5\*または CSIO3\*）については、CSIYH の賞金を総額に含めず当該競技会のスターレベルを決定する；

同じ競技会場で同時に開催される複数の競技会（例：CSI2\*/CSIYJ-A/CSIAm-A/CSI5\*）については、どの競技会についても、CSIYH の賞金を総額に含めずにスターレベルを決定する。

<sup>2</sup> グランプリ以外の各競技については、出場者を 100 名までとする。100 名を超える選手が出場を申告した場合、組織委員会は 120 名の申告選手まで 10 名ごとに追加賞金を次の割合で提供しなければならない：

- 101 名から 110 名までの申告選手：組織委員会は当初の競技賞金額の 133%を提供しなければならず、賞金配分チャート I あるいは II に従い、競技で上位 16 位までの選手に分配する。組織委員会が提供する追加賞金は競技会のスターレベルある

いは競技のロンジン・ランキングポイント・グループを決定する賞金総額には勘案しない。

- 111 名から 120 名までの申告選手：組織委員会は当初の競技賞金額の 166%を提供しなければならず、賞金配分チャート I あるいは II に従い、競技で上位 20 位までの選手に分配する。組織委員会が提供する追加賞金は競技会のスターレベルあるいは競技のロンジン・ランキングポイント・グループを決定する賞金総額には勘案しない。

120 名を超える出場者の申告があった場合、組織委員会は競技を 2 グループに分割して当初の競技賞金額の 200%を提供しなければならず、これを 2 グループ間で平等に分配する。組織委員会が提供する追加賞金は競技会のスターレベルあるいは競技のロンジン・ランキングポイント・グループを決定する賞金総額には勘案しない。

組織委員会は以下のいずれかの方法で競技を分けることができる：

競技開始前に競技を 2 グループに分ける。各グループに複数の馬で出場する選手がいても構わないが、同一選手の馬は全頭を同じグループに入れなければならない。同規模のグループに分けることができない場合、各グループの出場者数は異なってもよい；あるいは

競技を 1 つの競技として行い、終了後に 2 グループに分けて順位を以下の通りに確定する：最も成績の良い選手を第 1 グループの優勝者とし、2 番目の成績の選手を第 2 グループの優勝者というように、出場者総数の 25%に賞が授与されるまで順位づけする。

注記：この場合はグループごとに分けた成績を FEI へ提出しなければならない、例：競技成績 1a、競技成績 1b。

いずれの場合でも、各々のグループには同額の賞金を授与しなければならない。疑念を避けるために記すと、競技の班分けが必要かを決めるのは競技への出場を申し込んだ選手数であり、最終的な出場者数ではない。

200 名を超える出場者の申告があった場合、組織委員会は競技を 3 グループに分割し、上述の通り同じ割合の追加賞金を適用しなければならない（各グループの出場者が 100 名あるいはそれ以下であった場合は、3 グループ各々に当初の競技賞金額の 100%を提供する；3 グループのうちいずれかのグループ出場者が 101～110 名であった場合は、3 グループ各々に当初の競技賞金額の 133%

を提供する；3 グループのうちいずれかのグループ出場者が 111～120 名であった場合は、3 グループ各々に当初の競技賞金額の 166%を提供する）。

<sup>3</sup> FEI ワールドカップ<sup>TM</sup> 競技に加えてグランプリ競技を行う CSI-W 競技会については、FEI ワールドカップ<sup>TM</sup> 競技はグランプリのステータスであることから、上述したグランプリの賞金額要件の最低限度は FEI ワールドカップ<sup>TM</sup> 競技にのみ適用する；そのような競技会でのグランプリ競技では、FEI ワールドカップ<sup>TM</sup> 競技に提供される賞金額を超えて賞金を授与することはできない。CSI-W 競技会における本規定の適用開始期日詳細については FEI 障害馬術ワールドカップ<sup>TM</sup> 規程を参照のこと。

ヒアリング後に、FEI は CSI/CSIO 要件を満たしていなかった組織委員会に対して警告を発することがあり、ルール違反内容とともに組織委員会名が公表される場合がある。組織委員会が更に違反を重ねた場合は、該当競技会が FEI カレンダーから削除されることがある。

## 付則7 水濠障害の構造

水濠手前の最低距離：

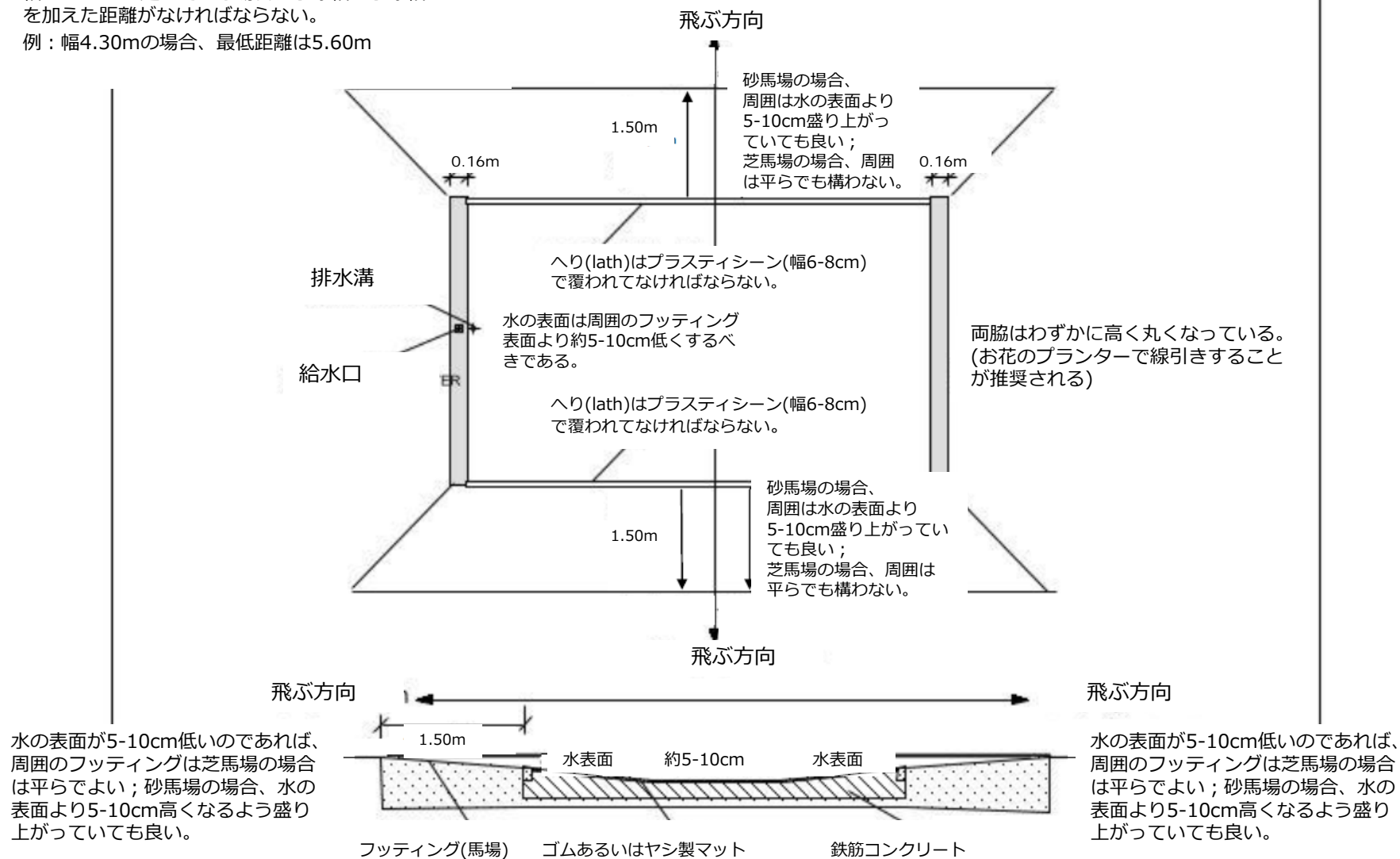
幅が3.00m以下の場合4.00m。

幅が3.00mを超えている場合、水濠幅に水濠幅の30%を加えた距離がなければならない。

例：幅4.30mの場合、最低距離は5.60m

## 水濠障害のデザイン

正しく構築された水濠障害とは、水の表面が周囲のフッティングより低くなっていることである。そのため、水濠障害周辺のフッティングは水の表面より5-10cm高くなければならない。下図は、水の表面と周囲のフッティングの高さが5-10cmの差を造るための方法である。



## **付則 8 オリンピック大会、世界障害馬術選手権大会、大陸障害馬術選手権大会への出場資格認定手順**

1. NFはチームまたは個人選手を参加させる意思を、指定期日までに書面にて FEI へ申告しなければならない。オリンピック大会の場合を除き、選手と馬はコンビネーションで出場資格を取得する必要はない。
2. オリンピック大会については、選手／馬はオリンピック大会が行われる前年 1 月 1 日からノミネートエントリー締切日、あるいはFEIが指定した期日までに出場最低基準を満たさなければならない。オリンピック大会への出場資格取得手順についてはオリンピック大会におけるFEI馬術競技会規程を参照のこと。
3. **世界選手権大会について** 選手／馬は世界選手権大会が行われる前年 1 月 1 日からノミネートエントリー締切日、あるいはFEIが指定した期日までに出場最低基準を満たさなければならない。以下のいずれかの項目に応じた成績を満たした者が能力証明を取得できる：
  - 3.1 前回のヨーロッパ選手権大会、世界選手権大会、パン-アメリカン大会、オリンピック大会、あるいは他のシニア大陸選手権大会にて団体競技（第1ラウンドか第2ラウンド）の成績が減点 8 以内であった選手と馬。
  - 3.2 前回の世界選手権大会の第 3 競技、あるいは前回のヨーロッパ選手権大会、パン-アメリカン大会、オリンピック大会、もしくは他のシニア大陸選手権大会の個人決勝競技にて完走した選手と馬。
  - 3.3 指定の屋外CSI1\*-W、CSI2\*-W、CSI3\*-W競技会における2回のFEIワールドカップ<sup>TM</sup>競技の第1ラウンド成績が減点 0 であった選手と馬。指定の屋外CSI4\*-W競技会におけるFEIワールドカップ<sup>TM</sup>競技の第1ラウンドを減点4以内で完走した選手と馬。指定の屋外CSI5\*-W競技会におけるFEIワールドカップ<sup>TM</sup>競技の第1ラウンドを減点8以内で完走した選手と馬。
  - 3.4 指定のCSI 3 \*屋外競技会における 2 回のグランプリ競技の第1ラウンドにて減点 0 であった選手と馬。
  - 3.5 CSI 4 \*屋外競技会におけるグランプリ競技の第1ラウンドの成績が減点 4 以内であった選手と馬。



- 3.6 CSI 5 \*屋外競技会におけるグランプリ競技の第1ラウンドの成績が減点 8 以内であった選手と馬。
- 3.7 指定のCSIO3\*あるいはCSIO4\*屋外競技会におけるネーションズカップ競技の第1ラウンドの成績が減点 4 以内であるか、第2ラウンドが減点 0 であった選手と馬、もしくは同競技会でグランプリ競技の第1ラウンド（あるいはこの競技会でのFEIワールドカップ™競技がグランプリの場合は、その第1ラウンド）の成績が減点 4 以内であった選手と馬。ただし、これらの競技のコースは下記の 6. に定める規格に従って構築されている場合とする。これらの競技のコースプランは競技会前にFEIへ送付して承認を受けなければならない。
- 3.8 CSIO 5 \*屋外競技会におけるネーションズカップ競技の第1ラウンドか第2ラウンドの成績が減点 8 以内であるか、もしくは同競技会でグランプリ競技の第1ラウンド（あるいはこの競技会でのFEIワールドカップ™競技がグランプリの場合は、その第1ラウンド）の成績が減点 8 以内であった選手と馬。
4. **大陸選手権大会について** 選手／馬は大陸選手権大会が行われる前年 1 月 1 日からノミネートエントリー締切日、あるいはFEIが指定した期日までに出場最低基準を満たさなければならない。以下の条項のいずれかに準拠する成績を満たした者が能力証明を取得できる：
- 4.1 前回のヨーロッパ選手権大会、世界選手権大会、パン-アメリカン大会、オリンピック大会、あるいは他のシニア大陸選手権大会における団体競技（第1ラウンドまたは第2ラウンド）の成績が減点 8 以内であった選手と馬。
- 4.2 前回の世界選手権大会の第 3 競技、あるいは前回のヨーロッパ選手権大会、パン-アメリカン大会、オリンピック大会、もしくは他のシニア大陸選手権大会の個人決勝競技を完走した選手と馬。
- 4.3 指定の屋外CSI1\*-W、CSI2\*-W、CSI3\*-W競技会におけるFEIワールドカップ™競技の第1ラウンドの成績が減点 0 であった選手と馬。指定の屋外CSI4\*-WあるいはCSI5\*-W競技会におけるFEIワールドカップ™競技の第1ラウンドを減点8以内で完走した選手と馬。
- 4.4 選手と馬は、指定のCSI 3 \*屋外競技会におけるグランプリ競技の第1ラウンドを減点 0 で完走していなければならない。

- 4.5 選手と馬は、CSI 4 \*あるいはCSI 5 \*屋外競技会におけるグランプリ競技の第1ラウンドを減点 8 以内で完走していなければならない。
- 4.6 指定のCSIO3\*あるいはCSIO4\*屋外競技会におけるネーションズカップ競技の第1ラウンドか第2ラウンドの成績が減点 4 以内であった選手と馬、もしくは同競技会でグランプリ競技の第1ラウンド（あるいはこの競技会でのFEIワールドカップ™競技がグランプリの場合は、その第1ラウンド）の成績が減点 4 以内であった選手と馬。ただし、これらの競技のコースは下記 6. に定める規格に従って構築されている場合とする。これらの競技のコースプランは競技会前にFEIへ送付して承認を受けなければならない。
- 4.7 CSIO 5 \*屋外競技会におけるネーションズカップ競技の第1ラウンドか第2ラウンドの成績が減点 8 以内であるか、もしくは同競技会でグランプリ競技の第1ラウンド（あるいはこの競技会でのFEIワールドカップ™競技がグランプリの場合は、その第1ラウンド）の成績が減点 8 以内であった選手と馬。
5. 上述のCSIとCSIO競技会については、大会もしくは選手権大会が行われる前年 1 月 1 日からノミネートエントリー締切日までに、あるいはFEIが指定した期日までに行われる競技会から選考を行う。競技会リストは、オリンピック大会またはFEI選手権大会の行われる前年にFEIが発表する。
6. 指定のネーションズカップ、グランプリ競技、およびFEIワールドカップ™予選競技は次の規格を満たさなければならない：  
高さが1.40m～1.60mまでの障害物を12個以上で構成する。幅障害については1.50m～2.00m（トリプルバーでは2.20m）の幅がなければならない。高さが1.60m以上の垂直障害を少なくとも 2 個設置しなければならない。実施要項で予選競技、例えばCSI3\*のグランプリ競技における障害物の高さを1.50mと記載している競技会では、当該競技がオリンピック大会、世界選手権大会あるいは大陸選手権大会の予選競技としてリストアップされた場合には、高さ1.60mの必須垂直障害をコースに2個含めることとし、これが実施要項に示す寸法からの逸脱とはみなされない旨を競技会実施要項に特別追記できる。
7. CSIOに完全なチームを派遣できないNFは、ネーションズカップ競技に「オープン参加（hors concours）」として出場が認められる個人選手を参加申込できる。

8. 例外的に、NFが上記の方法で選手の出場資格を得ることが難しいと判断した場合、NFは資格認定特別競技にて当該選手のレベル査定を受けるため、FEIに当該NFの経費負担による外国人査定代表の派遣を要請することができる；資格認定特別競技の許可を与えることができるのは障害馬術委員会である。資格認定特別競技はCSIまたはCSIOにて行うこととし、以下に示すFEIプロトコルに則って実施しなければならない。

組織委員会はコースデザインのため、屋外アリーナの正確な広さ（および固定パーツ）をFEIへ通知しなければならない。組織委員会はコース設営のためFEIコースデザイナーを選任しなければならない。

FEIは技術代表を選任する。

FEIは査定代表を務める国際（外国人）審判員を選任する。

FEIは障害飛越前のホースインスペクションを行うFEI獣医師を選任する。

ブーツとバンデージ規制などを含むFEIスチュワードの通常任務を行うため、FEIスチュワードの臨場が必要である。

上記に加え、参加馬にMCP検査を行うことがある。

資格認定特別競技については、正確な時間を設定しなければならない。

資格認定特別競技に関わる経費はすべて要請したNFが負担する。

この競技は他国NFの選手にもオープンとしなければならず、1回のラウンドで実施する。

次の寸法とテクニカル要件に準拠したコースをデザインするため、FEIはFEIコースデザイナーを選考する；コースプランはFEI障害馬術委員長へ送付し、承認を受けなければならない。

必須要件：

- ・ 第1障害を高さ1.45m以上の垂直障害、あるいは前段横木が高さ1.40m以上で後段横木が1.45m以上のオクサー1個とすることができる；
- ・ フラットな掛け金にプランク1セット（極度に風の強い天候の場合、競技場審

判団長あるいは技術代表の合意を得て、コースデザイナーが例外を認めてこれを除くことがある) ;

- ・ 幅1.80m、高さ1.50m以上のトリプルバー ;
- ・ 箱障害か門扉1個 ;
- ・ 正面幅が2.50~3.00mの幅の狭い垂直障害あるいは幅障害1個 ;
- ・ 少なくともトリプル1個とダブル1個のコンビネーション (ダブル3個は認められない) ;
- ・ トリプルコンビネーションには高さ1.50mで幅1.50m以上のオクサー障害を少なくとも1個は含めなければならない、A-B間またはB-C間の少なくともどちらかを1ストライドとする ;
- ・ 飛越数の約50%は垂直障害、50%は幅障害 (例 : オクサー、トリプルバー、スウェーデンオクサー、ナローオクサーなど) でなければならない。しかしながら垂直障害数は飛越数の55%を越えてはならず、また水濺障害がある場合はこれを含めて幅障害の個数は60%以内とする ;
- ・ (箱障害ではなく) 垂直障害2個は1.60mの高さがなければならない ;
- ・ 高さ1.50mで幅1.60m以上の幅障害を少なくとも2個 ;
- ・ 2個のリバプール障害で、片方は垂直障害、他方は幅障害。コース中に水濺障害がある場合は、リバプールを1個とすることができる ;
- ・ 2個の単一障害間は6ストライドの直線か曲線 ;
- ・ 掛け金の深さ : 掛け金の50%以上は18mmの深さがなければならない ; 横木の長さが350~400cmの場合は、掛け金の深さを最大20mmとする ;
- ・ コース全長は400m以上、速度は375m/分以上とする ;
- ・ コースには12個以上14個までの障害物を含める。

追加の推奨基準 (次の推奨基準から少なくとも2つはコースに含めなければならない) :

- ・ 2個の障害間ラインの1本は、5ストライド以内の直線とする。 ;
- ・ 3個以上の障害間ラインの1本は、7ストライド以内の曲線か直線とする ;
- ・ 直線か曲線上に配置したダブルのコンビネーションで、その前か後に7ストライド以内で障害物1個を配置する ;
- ・ 曲線か直線上で8ストライドまでの「関連距離 (related distance)」でトリプルコンビネーションに至るか、あるいはトリプルの後に7ストライド以内で配置 ;
- ・ コンビネーション障害の1個には「関連距離 (related distance)」 (最大7ストライド) を設け、(コンビネーション障害の前か後に) 障害物を1個、直線上に配置しなければならない。

FEIは資格認定特別競技当日の朝、組織委員会が選任したコースデザイナーにコースプランを渡す。

競技終了後は直ちに、FEI査定代表が確認して署名したコースプランと成績表をFEIへ送付しなければならない。

上記の要件を満たさない資格認定特別競技は有効と認められない。

この走行で減点 8 以内の選手／馬は出場資格ありとみなされる。障害馬術委員会が選任した外国人査定代表は、能力証明書の発行について当該NFとFEIへ助言する。不運にも選手／馬コンビネーションが減点 8 を超えてしまったものの素晴らしい能力を示した場合、外国人査定代表は類似したコースで再度走行させることができる。しかし 2 回目の走行でも減点 8 点を超えた場合は資格を取得できない。

9. ネーションズカップ、FEIワールドカップ<sup>TM</sup>、指定のCSI/CSIO3\*/4\*/5\*競技会のグランプリ競技では、外国人審判員が指定の規格でコースが造られているかを確認する責務を負い、またFEIへの外国人審判員報告書にて、能力証明を獲得するための最低基準が満たされていたことを確証する。
10. 選手と馬の能力証明書は遅くともノミネートエントリー締切日、あるいはFEIが指定した期日までにFEIへ到着しなければならない。能力証明書が届いていない選手と馬は出場が認められない。
11. 直接あるいは間接的に本付則および／または障害馬術種目のいずれかの特別規定で定める「オープン参加 (hors concour)」については、一般規程第117条6に記載の例外条項に準拠する。
12. 外国人査定代表による報告書はFEI事務総長へ送付し、同事務総長はそのコピーを障害馬術委員長へ送らなければならない。資格が与えられた選手と馬については、FEIが直ちにその所属NFへ連絡を行う。

## **付則9 アンダー25（U25）、ヤングライダー、およびジュニア規程**

### **第1章 緒言**

#### **第1条 概要**

1. ユースの参加は世界の馬術競技の発展に重要な要素である。  
本付則の目的はユースカテゴリーに特化した配慮をほどこし、U25 やヤングライダー、ジュニアを対象とする世界の競技会や競技を規格統一することにある。

#### **第2条 諸規程の優先性**

1. U25、ヤングライダーあるいはジュニア対象の障害馬術競技会は、概してシニア対象の障害馬術規程に従って開催される。
2. 本付則に網羅されていない事項についてはすべて、定款、一般規程、獣医規程、障害馬術規程、その他すべての FEI 該当規程を適用する。

#### **第3条 U25、ヤングライダーおよびジュニア選手の定義**

1. 選手は16歳となる暦年の始めから25歳となる暦年の終わりまで、U25カテゴリーで競技に出場できる。初回ラウンドの障害物の高さが1.40mを超えない場合には、選手は14歳の誕生日を迎える年から15歳の誕生日を迎える年の終わりまで、U25競技に出場できる（障害馬術規程第255条2.2）。
2. 選手は16歳となる暦年の始めから21歳となる暦年の終わりまで、ヤングライダーとして競技に出場できる。
3. 選手は14歳となる暦年の始めから18歳となる暦年の終わりまで、ジュニアとして競技に出場できる。
4. いかなる選手も、18歳まではプロフェッショナルとしてクラス分けされることはできない。

### **第2章 国際競技会と選手権大会**

#### **第4条 国際競技会（一般規程第102条参照）**

1. U25選手、ヤングライダーおよびジュニア対象の障害馬術競技会としては次の種類がある：国際競技会カテゴリー A とカテゴリー B（CSIU25、CSIY、CSIJのカテゴリー A、およびCSIU25、CSIY、CSIJのカテゴリー B）；公式国際競技会（CSIOYあるいはCSIOJ）と選手権大会はヤングライダーとジュニアを対象として開催できるが、U25カテゴリー対象では開催できない。
2. CSIU25、CSIYあるいはCSIJのカテゴリー A 競技会

- 2.1 CSIU25、CSIY あるいは CSIJ のカテゴリー A 競技会は、開催国 NF の個人選手、および参加 NF 数に制限を設けず諸外国からの個人選手を対象とする国際競技会である。
- 2.2 賞金額の制限はない。
- 2.3 U25とヤングライダー対象の場合は障害物の高さを1.50mまでとし、幅は高さと同釣り合いをとり1.50m～1.80mの範囲とする；馬の年齢は7才以上。
- 2.4 ジュニア対象の場合は障害物の高さを1.40mまでとし、幅は高さと同釣り合いをとり1.40m～1.70mの範囲とする；馬の年齢は6歳以上。
- 2.5 その他の条件はすべてシニアCSI2\*競技会規定に従う。
- 2.6 これらの競技会では、「ネーションズカップ」と表記できない厳格に非公式な団体競技を開催できるが、選手数は各チーム4名に限定しなければならない。

### 3. CSIU25、CSIYあるいはCSIJのカテゴリー B 競技会

- 3.1 CSIU25、CSIY あるいは CSIJ のカテゴリー B 競技会は、開催国 NF と諸外国から参加 NF 数の制限なしに個人選手を受け入れる国際競技会である。
- 3.2 賞金は授与できない。
- 3.3 U25とヤングライダー対象の場合は障害物の高さを1.50mまでとし、幅は高さと同釣り合いをとり1.50m～1.80mの範囲とする；馬の年齢は7才以上。
- 3.4 ジュニア対象の場合は障害物の高さを1.40mまでとし、幅は高さと同釣り合いをとり1.40m～1.70mの範囲とする；馬の年齢は6才以上。
- 3.5 CSIU25 カテゴリー B 競技会における競技場審判団の選任は、シニア対象のCSI2\*競技会規定に従う；CSIY あるいは CSIJ カテゴリー B 競技会における競技場審判団の選任は、シニア対象のCSI1\*競技会規定に従う。
- 3.6 その他の要件はすべてシニアCSI1\*競技会規定に従う。
- 3.7 これらの競技会では、「ネーションズカップ」と表記できない厳格に非公式な団体競技を開催できるが、選手数は各チーム4名に限定しなければならない。

### 4. ヤングライダーとジュニア対象の公式国際競技会（CSIOYとCSIOJ） （一般規程第103条参照）

- 4.1 CSIOはチームを派遣する3NF以上を対象とする国際競技会である。U25選手対象のCSIOは許可されない。
- 4.1.1 CSIO競技会への招待について、組織委員会は次のいずれかの方式を選択できる：
  - － 本付則第13条2.1と第13条2.2に従う；あるいは
  - － 障害馬術規程第249条1に従う。
- 4.2 障害馬術規程に定める通り、公式団体競技と公式個人競技を開催しなければならない。
- 4.3 障害物
- 4.3.1 障害物の寸法は、CSIOYでは前述2.3の通りとし、CSIOJでは前述2.4の通り

とする。

- 4.4 第5条（FEI選手権大会）に基づいてNFが招待されるCSIO競技会では、上記4.2に定める公式競技を開催しなければならない。
- 4.5 障害馬術規程第249条に基づいてNFが招待されるCSIO競技会では、公式団体競技と個人決勝競技を実施要項に盛り込まなければならない。これらの競技は障害馬術規程に定める通り、該当競技の特別規定に従って開催しなければならない。他の競技はCSIO開催期間中に行い、競技会プログラムを完結させる。障害物の規模は、選手権大会で定める大きさを超えてはならない。
- 4.6 各カテゴリーにて、同一国で1暦年中に開催できるCSIOは屋内で1回、屋外で1回の合計2回までとする。
- 4.7 CSIOYあるいはCSIOJは、既に競技カレンダーに組み込まれているヤングライダーあるいはジュニア国際競技会の開催を妨げない場合に限り、FEI事務総長の判断によって、その年のカレンダーへの組み込みを認められる。

## 5. 貸与馬での国際競技会

- 5.1 FEI事務総長とFEI障害馬術委員長の同意があれば、組織委員会が提供する馬を用いてCSIU25、CSIYおよびCSIJ競技会を開催できる。
- 5.2 一般規程第111条と障害馬術規程付則12第4条4に概要が記載されている貸与馬規定を適用しなければならない。

## 6. ヤングライダーとジュニア対象の併催競技

併催競技（ジュニアとヤングライダー両方を対象とする）を開催する場合は、ジュニア競技の障害物規模に関わる条項を適用するか、あるいはヤングライダーでは高さを上げる。

## 第5条 ヤングライダーとジュニア対象の選手権大会

- 1. U25選手対象の障害馬術選手権大会は許可されない。ヤングライダーあるいはジュニア対象の障害馬術選手権大会はすべてCSIOの格付けである。選手権大会では、選手は一般規程第119条に定める通り、自分のスポーツ国籍がある国の代表としてのみ出場することができる。
- 2. 障害馬術における大陸選手権大会と地域選手権大会を毎年開催するよう推奨し、また開催するべきである。
- 3. 選手権大会は大陸あるいは地域ごとに開催できる。地域で開催する場合は、事前にFEIから領域設定の承認を受けなければならない。
- 4. FEIはNFに対して、毎年各大陸あるいは地域での個人選手権大会および団体選手



権大会の開催を勧め、あるいはこれを認可する。

5. 選手権

大会は一般規程、障害馬術規程、本付則を厳格に遵守し、またここに明記した通りに開催しなければならない。各NFにつき1チームのみ参加申込できる。

6. 選手権大会の開催を希望するNFは、一般規程に定める通りに申請しなければならない。

7. 原則として、選手権大会は4NF以上の参加があつて初めて開催できるが、ヨーロッパ域外では、（開催国NFを含めて）少なくとも2NFから不特定数の地域チームの参加があれば開催できる。参加申込の締切日以降、選手権大会の開始前に出場を取り止めたNFについては出場とみなされる。

8. 選手権大会への参加は、該当する大陸にあるすべてのNFに限定しなければならない。

9. 選手権大会は学校の長期休暇中に開催しなければならない（ヨーロッパにおいては7月中旬から8月中旬）。

10. 選手権大会は天候により屋内での開催を余儀なくされる場合を除き、屋外で開催しなければならない。

11. 賞金が授与される場合を除き、エントリー代あるいは出場料を徴収してはならない。

## 第6条 国際競技会と選手権大会への出場資格

1. 選手の年齢

地域大会とオリンピック大会では、選手は18歳の誕生日を迎える年から障害馬術競技に出場できる。しかしシニア対象の地域大会と地域選手権大会における競技で初回ラウンドの障害物の高さが1.40mを超えない場合、選手は16歳の誕生日を迎える年からこれらの大会および選手権大会に出場できる。

2. オリンピック大会を除くすべての競技会において、選手は自分と国籍を異にする人物が所有する馬で参加できる。

3. 諸外国に滞在している選手については、一般規程が定める制限と条件を適用する。

4. ヤングライダーあるいはジュニアは、ある競技種目で各々ヤングライダーあるいはジュニア対象の選手権大会に出場しても、規定の年齢に達していれば異なる馬で別の種目のシニア選手権大会に出場することができる。

5. 一度、障害馬術のヤングライダー選手権競技に出場した選手は、障害馬術でジュニア選手権大会に出場することはできなくなる。

6. 一度、障害馬術のシニア選手権競技、あるいは地域大会および／またはオリンピック大会に出場した選手は、障害馬術でヤングライダーあるいはジュニア対象の選手権大会に出場することはできなくなる。しかしシニア対象の地域大会および／または地域選手権大会に出場していても、その地域大会／選手権大会における競技で初回ラウンドの障害物の高さが1.40mを超えない場合、規定年齢に達している選手はジュニア選手権大会あるいはヤングライダー選手権大会に出場できる。

#### 7. ヤングライダーとジュニア対象の FEI ヨーロッパ障害馬術選手権大会へ参加するための能力証明書

国際競技に参戦している選手と馬であり、選手権大会で完走する能力があると思われる人馬のみ参加申込を行うことができる。そのため NF は FEI へ能力証明書を送付しなければならない（一般規程参照）。

この能力証明書には、選手権大会前年の 1 月 1 日からノミネートエントリー締切日までに、障害馬術規程に定める要件を満たす競技で獲得した成績記録を記載しなければならない。

ここに定める資格認定手順は厳格に遵守しなければならない。選手と馬はコンビネーションで出場資格を取得する必要はない。

選手と馬がコンビネーションで資格認定を受けているか否かにかかわらず、選手権大会の会場へ到着した時点で、チーム監督は任意で人馬を交代させることができる。第 1 選手権競技の終了後は、いかなる変更も認められない。

ヨーロッパ・ヤングライダーおよびジュニア選手権大会については、選手と馬は次の条項のいずれかに則って出場資格を得ることができる：

7.1 各々該当する年齢カテゴリーで、前年のヤングライダーおよびジュニア対象の FEI ヨーロッパ選手権大会に出場した選手と馬。

7.2 ヤングライダー選手権大会については、選手と馬は次の 7.2.1、7.2.2、7.4 と 7.5 に則って出場資格を得ることができる：

7.2.1 選手と馬は CSI1\*～CSI5\* 屋外競技会におけるグランプリ競技の第 1 ラウンド、もしくは CSI1\*～CSI5\* 競技会におけるメイン競技がグランプリでない場合はその第 1 ラウンドを減点 8 以内の成績で完走していなければならない。ただしグラ

ンプリあるいはメイン競技の初回ラウンドにおける障害物の高さがジュニアでは1.30m以上、ヤングライダーでは1.40m以上の場合とする。

- 7.2.2 選手と馬はCSIO1\*～CSIO5\*競技会におけるグランプリ競技の第1ラウンド、もしくはネーションズカップかグランプリ競技の第1ラウンドを減点8以内の成績で完走していなければならない。ただしグランプリの初回ラウンドにおける障害物の高さがジュニアでは1.30m以上、ヤングライダーでは1.40m以上の場合とする。

**注記：**選手は14歳の誕生日を迎える年からCSI1\*競技会のグランプリに出場でき、16歳の誕生日を迎える年からCSI2\*競技会のグランプリに出場できる（障害馬術規程第255条参照）。選手は18歳の誕生日を迎える年からCSI3\*/4\*/5\*競技会のグランプリ、そしてCSIO1\*～CSIO5\*競技会のネーションズカップとグランプリに出場できる。

- 7.3 ジュニア選手権大会については、選手と馬は次の7.3.1～7.5に則って出場資格を得ることができる：

- 7.3.1 **CSIでの出場資格獲得：**選手と馬はCSI1\*～CSI5\*屋外競技会におけるグランプリ競技の第1ラウンドを、もしくはメイン競技がグランプリでない場合はその第1ラウンドを、減点8以内の成績で完走していなければならない。

- 7.3.2 **CSIOでの出場資格獲得：**選手はCSIO1\*～CSIO5\*競技会におけるネーションズカップあるいはグランプリ競技の第1ラウンドを減点8以内の成績で完走していなければならない。

選手権大会の前年にCSIO1\*～CSIO5\*競技会におけるネーションズカップあるいはグランプリ競技の第1ラウンドを減点8以内の成績で完走した馬は、ジュニア選手権大会への出場資格を得る。選手権大会の年にCSIO1\*～CSIO5\*競技会におけるネーションズカップまたはグランプリ競技に出場した馬は、ジュニア選手権大会に出場できない。（障害馬術規程付則9、第15条1.2参照：ジュニア選手権大会は、その年にシニア対象のCSIOにおいてネーションズカップあるいはグランプリを完走していない馬が出場できる。）

**注記：**選手は14歳の誕生日を迎える年からCSI1\*競技会のグランプリに出場でき、16歳の誕生日を迎える年からCSI2\*競技会のグランプリに出場できる（障害馬術規程第255条参照）。選手は18歳の誕生日を迎える年からCSI3\*/4\*/5\*競技会のグランプリ、そしてCSIO1\*～CSIO5\*競技会のネーションズカップとグランプリに出場できる。

- 7.4 選手と馬はCSIY/J屋外競技会の各自のカテゴリーでグランプリ競技の第1ラウンドを減点8以内で完走しているか、またはCSIU25屋外競技会にてグランプリ競

技の第1ラウンド、もしくはCSIU25屋外競技会におけるメインのU25競技がグランプリでない場合は、その第1ラウンドを減点8以内で完走していなければならない。

**注記：**選手は16歳の誕生日を迎える年からCSIU25競技に出場できる；初回ラウンドの障害物の高さが1.40m以内である場合、選手は14歳の誕生日を迎える年から15歳の誕生日を迎える年の終わりまでCSIU25競技に出場できる。

7.5 選手と馬はCSIOY/J屋外競技会の各自のカテゴリーで、ネーションズカップ競技の第1ラウンドあるいは第2ラウンドを減点8以内で完走しているか、または自分のカテゴリーにおけるグランプリ競技、もしくは各自カテゴリーのメイン競技がグランプリでない場合は、その第1ラウンドを減点8以内で完走していなければならない。

7.6 例外的に、NFが上記の方法で選手の出場資格を得ることが難しいと判断した場合は当該NFの経費負担による外国人査定代表の派遣をFEIへ要請し、FEIプロトコルに準拠し、FEI提供のコースプランに示された規模の1回走行を行う特別競技にてレベル査定を受けることができる。この走行で減点8以内の選手／馬は出場資格ありとみなされる。障害馬術委員会が選任した外国人査定代表は、能力証明書の発行について当該NFとFEIへ助言する。予期せぬ状況により選手／馬のコンビネーションが減点8を超えてしまったものの素晴らしい能力を示した場合、外国人査定代表は類似したコースで再走行させることができる。しかし2回目の走行でも減点8点を超えた場合は資格を取得できない。

## **第7条 他のカテゴリー、シニア競技会および他の選手権大会への参加**

1. U25選手、ヤングライダーおよびジュニアは、所属NFの許可があれば14歳の誕生日を迎える年から特定のシニア国際競技へ出場することができる（障害馬術規程第255条参照）。
2. 該当年齢に達している選手は、2つ以上のカテゴリーで競技および選手権大会に出場できるが、各競技種目につき1暦年の間に出場できる大陸選手権大会は1カテゴリーのみとする。該当年齢に達している選手は同じ競技会場で同一週に開催されるCSIOPとCSIOJで、ネーションズカップ以外の競技には異なるポニー／馬で参加できるが、そのような競技会（CSIOPあるいはCSIOJ）でのネーションズカップは1競技のみ参加できる。選手は同じ競技会場で同一週に開催されるポニーライダー対象競技、およびU25選手もしくはヤングライダー対象の競技に参加することはできない。選手は同じ競技会場で同一週に開催されるCSIOChとCSIOJ、またはCSIOJとCSIOYに参加することはできない。

## 第8条 経費と特典

### 1. 競技会

- 1.1 U25選手、ヤングライダーあるいはジュニアを対象とする競技会の組織委員会は、ホテル、ユースホステルまたは個人家庭への宿泊と資金援助について招待選手の所属NFと交渉すること、およびこれを提供することは自由である。

### 2. 選手権大会と CSIO（ヤングライダーとジュニア）

- 2.1 各 NF はチーム監督と選手、グルーム、馬について、選手権大会および CSIO 競技会の開催地までの往復旅費を負担しなければならない。

- 2.2 組織委員会については上記 1.1 に定める内容を適用するが、以下に示す項目は最低限遵守しなければならない：

#### (i) 厩舎と飼料

原則として厩舎と飼料代は無料とするが、組織委員会が適正な金額を徴収したいとする場合は、その判断に任される。徴収する場合は実施要項に記載しなければならない。

- (ii) グルームはできるだけ厩舎近くに滞在できるようにする。

- (iii) 組織委員会は選手とチーム監督に主たる食事を 1 日 1 回、できれば夕食を（競技会場かその他の場所にて）無償で提供しなければならない。

- (iv) 宿泊を無償で提供できない場合は適切な宿泊施設を手配するか推薦し、料金については実施要項に記載する。

- (v) 一般規程第 132 条 1（ホースオーナー）を適用する。

- (vi) 開催国の国境および／または競技会場への出入りに関わる手数料や獣医検査は組織委員会が手配し、その費用を負担する。

- 2.3 役員については一般規程を適用する。

3. 特典はすべて、CSIO および選手権大会開催の前日から終了の翌日まで供与される。

4. チーム監督は競技会開催期間を通して、そのチームおよび／または個人選手の行動に責任を負う。損害が生じた場合は、チーム監督とその所属 NF が責任を負う。選手が個人家庭に宿泊しない場合は、チーム監督がそのチームおよび／または個人選手と同宿しなければならない。

5. 上訴委員会は事故の損害額を査定する権限を有する。競技場審判団および／または上訴委員会は、容認しがたい行為について競技会期間中を通してどの時点であっても、FEI 司法制度に従って罰金を科し、またそのチームおよび／または個人選手を失格とする権限を有する。

## 第9条 褒 賞

1. U25、ヤングライダーおよびジュニア競技会では、賞金および／または賞品を授与しなければならない。
2. 選手権大会を除くすべての競技会において、その出場選手数の4分の1、少なくとも第5位までの選手に、賞金がでない場合はリボンと賞品、あるいは記念品を授与しなければならない。上位4名の個人選手には厩舎プレートを授与することが望ましい。
3. 選手権大会では少なくとも次のような賞を授与しなければならない：
  - 3.1 フェアウェル競技では、その出場選手数の4分の1、少なくとも第5位までの選手に賞金および／または賞品、厩舎プレート、リボンを授与する。
  - 3.2 団体選手権競技ではFEIメダルを5名のチームメンバー全員に授与する（一般規程第104条2.2.5参照）。優勝したNFへは、総会にてFEIトロフィーを授与する。更に上位4チームには、5名の選手各々に賞金および／または賞品、厩舎プレート、リボンを授与する。
  - 3.3 個人選手権競技ではFEIメダルを授与する（一般規程第104条2.2.5参照）。更に出場選手数の4分の1、少なくとも第5位までの選手に賞金および／または賞品、厩舎プレート、リボンを授与する。
  - 3.4 選手権大会では、表彰式に大変重要な意味合いをもたせてアリーナで行うべきであり、選手は馬に騎乗して臨む。
  - 3.5 組織委員会はチーム監督と選手に記念品か厩舎プレートを進呈することとする。
  - 3.6 組織委員会はこの他にも次のような賞をできるだけ多く授与するべきである：
    - 3.6.1 ベストスタイルの選手；
    - 3.6.2 スポーツマンシップ

## 第10条 馬のスクーリング

1. 競技会あるいは選手権大会の第1競技が行われる前日の18:00から、競技会あるいは選手権大会全体が終了するまで、ヤングライダーあるいはジュニアの馬は競技会あるいは選手権大会の開催地内外で選手以外の者が騎乗してスクーリングしてはならず、これに違反した場合は失格となる（U25カテゴリーには適用しない）。しかし選手以外の人物がスチュワード監視下で調馬索運動や引き運動などを行うことは認められる。

## 第11条 技術代表

1. 選手権大会と国際競技会（技術代表が選任される場合）における技術代表は、一般規程が定める責務に加えて、参加者のウェルフェアおよびスポーツマンシップとフェアプレイの精神を高めるという使命を常に念頭におきつつ、設備がすべて適切な

ものであり、参加者の態度も正当であって、最大限の注意を払いつつ社会教育的機能も果たされていることを確認する責任と権限を有する。

## **第12条 実施要項**

1. 組織委員会は次の情報を記載した実施要項を準備しなければならない：
  - 1.1 競技会の種類
  - 1.2 個人競技についての説明
  - 1.3 授与される賞とトロフィー
  - 1.4 障害物の高さと幅
  - 1.5 使用される障害物の種類
  - 1.6 審判員、技術代表、コースデザイナーなどのリスト
  - 1.7 競技プログラム
  - 1.8 行事プログラム
  - 1.9 ホテルあるいは個人家庭などへのチーム監督と選手の宿泊
  - 1.10 組織委員会を通さず直接予約できるホテルリストを含む、選手の親に対する手配
  - 1.11 グループの宿泊
  - 1.12 厩舎
  - 1.13 地域の交通手段手配
  - 1.14 到着日と出発日。この期日以外では経費が支払われない。
  - 1.15 その他、パスポートやビザの要件、気候、必要な衣服の種類などの有用情報

## **第3章 大陸および地域選手権大会（ヤングライダーとジュニア）**

### **第13条 参加申込**

1. FEI 障害馬術部門ディレクターから実施要項の承認を受けた後、開催国 NF はその実施要項とともに招待状を大陸あるいは地域の該当する NF へ送付する。
2. チーム
  - 2.1 各 NF は選手 5 名、馬 5 頭以内の構成で 1 チームを参加申込できる。しかしヨーロッパ域外においては、関与する NF がチーム数およびチーム派遣の地域ベースを決定できる（本付則第 5 条 7 参照）。組織委員会はチーム監督に招待状を送付しなければならない、このチーム監督には選手と同等の特典を供与する。選手権大会へのリザーブ馬の帯同は認められない。
  - 2.2 この選手 5 名と馬 5 頭が選手権大会の団体競技（本付則第 14 条 1 参照）および個人競技に参加できる。
3. チームに代わる個人選手  
チームを派遣できない NF は、1 名あるいは 2 名の個人選手を各々 1 頭の馬とともに参加申込できる。

4. NF は馬 2 頭につきグルームを 1 名、各チームにつき 2 名までのグルームを派遣できる。
5. 参加申込は一般規程第 116 条 2.2(i)～第 116 条 2.2(ii)に従い、2 段階に分けて行われる：
- 実施要項には、チームだけの派遣か、あるいはチームと個人選手の両方か、個人選手だけの派遣かを NF が通知する期限を記載することがある。ジュニア大陸障害馬術選手権大会あるいはヤングライダー大陸障害馬術選手権大会に参加申込できる選手と馬のノミネートエントリーおよびデフィニットエントリー数の上限は以下の通り：
- ノミネートエントリー：選手 10 名と馬 10 頭
  - デフィニットエントリー：選手 5 名と馬 5 頭

## **第 14 条 出場選手の申告および交代**

1. チームの申告
  - 1.1 ヨーロッパにおける地域選手権大会と大陸選手権大会については、第 2 競技（団体決勝）前日の 18:00 までに、チーム監督がチーム構成（3 組以上、4 組以内の選手／馬コンビネーション）を組織委員会へ書面にて申告しなければならない。5 組目のコンビネーション（選手／馬）は個人として第 2 競技に出場でき、予選を通過すれば第 3 競技（個人決勝）にも出場できる。
  - 1.2 ヨーロッパ域外の地域選手権大会と大陸選手権大会については、第 1 競技前日の 18:00 までに、チーム監督がチーム構成（3 組以上、4 組以内の選手／馬コンビネーション）を組織委員会へ書面にて申告しなければならない。5 組目のコンビネーション（選手／馬）は個人として第 1 競技と第 2 競技に出場でき、予選を通過すれば第 3 競技（個人決勝）にも出場できる。
2. チームメンバー 4 名のうち 1 名、または馬 4 頭のうち 1 頭が事故あるいは病気となった場合に限り、5 組目（選手／馬）がチームメンバーとして出場できるが、ただしチーム監督が競技場審判団の承認を得た場合とする。このような交代は、団体決勝の第 1 ラウンド開始の 1 時間前までとする。
3. 選手権大会が CSI 開催中に行われる場合、組織委員会は選手権大会の出場選手に別の馬で CSI 競技への出場を認めることがある（前述の第 7 条）。しかし選手権大会で騎乗する馬は競技会への到着前に申告しなければならず、代替することはできない。



## 第 15 条 年齢条件

### 1. 馬

- 1.1 馬は7歳以上でなければならない。
- 1.2 ジュニア選手権大会に出場できるのは、その年にシニア対象の CSIO でネーションズカップあるいはグランプリ競技に出場していない馬とする。
- 1.3 選手権大会が行われている競技会の期間中に、シニア対象のいかなる競技にも出場していないこと。

### 2. 選手

- 2.1 ヤングライダー選手権大会に出場できるのは、16 歳となる年の始めから 21 歳となる年の終わりまでである。
- 2.2 ジュニアは 16 歳となる年の始めから 18 歳となる年の終わりまで、ヤングライダー対象の選手権大会に出場できるが、同一年に同一種目でジュニア選手権大会とヤングライダー選手権大会の両方に参加することはできない(本付則第 7 条 2 参照)。
- 2.3 ジュニアは 18 歳となる年から、シニア対象の大陸選手権大会と世界選手権大会に出場できるが、同一年にジュニア選手権大会、ヤングライダー選手権大会および／またはシニア選手権大会に参加することはできない。しかしジュニアは 14 歳となる年からジュニア障害馬術選手権大会、および CSIO と CSI で行われる特定のシニア国際競技へ同一年に出場することができる(障害馬術規程第 255 条参照)。
- 2.4 18 歳となる年およびそれ以降にシニア対象の大陸障害馬術選手権大会あるいは世界障害馬術選手権大会の選手権競技に出場したジュニアは、それ以降、ジュニアとして競技に参加することはできなくなる(本付則第 6 条 6 参照)。
- 2.5 ヤングライダーは 18 歳となる年の始めから 21 歳となる年の終わりまで、シニア対象の選手権大会に出場できるが、同一年に同一種目でシニア選手権大会とヤングライダー選手権大会の両方に参加することはできない(本付則第 7 条 2 参照)。

## 第 16 条 競 技

1. 次のいずれかの方式を採用しなければならない：

	A 方式	B 方式
1 日目	トレーニングセッション	トレーニングセッション 第 1 競技
2 日目	第 1 競技	団体決勝
3 日目	団体決勝 フェアウェル競技	休養日（あるいは 2 日目を 休養日にすることもできる）
4 日目	フェアウェル競技（3 日目に行わない場合） 個人決勝	フェアウェル競技 個人決勝

- 1.1 北米で行われるジュニアとヤングライダー併催選手権大会の場合、組織委員会は上記のA方式あるいはB方式に代えて、次のC方式を採用することができる：

	C方式
1日目	トレーニングセッション
2日目	第1競技（団体と個人）
3日目	第2競技（団体決勝、第2次個人競技）
4日目	強制休養日
5日目	第3競技（個人決勝）

## 2. トレーニングセッション

組織委員会はメインアリーナにコンビネーション障害1個を含む約8個の障害物でコースを設定し、トレーニング時間を提供する。

各選手とも馬1頭につき90秒まで使うことができる。服装は略式でよい：長靴と乗馬ズボン、シャツ、保護用ヘッドギアの着用が義務づけられる。

観客から入場料を徴収してはならず、またいかなる賞も授与してはならない。

## 3. 第1競技（団体と個人）

### 3.1 第1競技のスターティングオーダー

国籍にかかわらずなく、抽選で選手のスターティングオーダーを決定する。

### 3.2 第1競技フォーマット（ヤングライダーとジュニア）

この競技は基準Aのコースを使用して基準Cで審査を行い（障害馬術規程第239条と第263条参照）、第1位で同点の選手がでた場合でもジャンプオフは行わない。

第1競技で各選手が獲得したスコアは以下の方法で減点に換算される。各選手の走行タイムに係数0.50を掛けてポイントに換算する；ポイントは四捨五入して小数点第2位までとする。0.005以上を切り上げ、0.004以下は切り捨てて小数点第2位を求める。換算後のポイントが最も少ない選手を減点0とし、他の選手については首位の選手との点差をそれぞれの減点とする。

選手が失権または棄権した場合の減点は、その競技を完走した選手全員のタイムを減点に換算後、最も減点の多い選手のスコアに減点20を加算して求める。

## 4. 第2競技（団体決勝、第2次個人）

- 4.1 この競技は同一コースで2ラウンド、あるいは難度は同じだが第2ラウンドは異なるコースにて、タイムレースでなく基準Aで行うが、団体選手権の全体順位決

定において第 1 位、第 2 位および／または第 3 位で同点となった場合は、タイムレースのジャンプオフを 1 回行う。

この競技には第 1 競技（上記 3.）に参加した選手と馬だけが出場でき、団体順位は出場を申告したチームメンバーのみを対象とする。

#### 4.2 第 2 競技のスターティングオーダー

4.2.1 ヨーロッパにおける地域選手権大会と大陸選手権大会の第 2 競技スターティングオーダーは、第 1 ラウンドでの抽選に従う。第 2 ラウンドのスターティングオーダーは、第 1 競技における各国選手 5 名から上位 3 選手の減点と第 1 ラウンドでの各チーム上位 3 選手の減点を合計したリバースオーダーとする。

4.2.2 ヨーロッパ域外の地域選手権大会と大陸選手権大会における第 2 競技のスターティングオーダーは、第 1 ラウンドでの抽選に従う。第 2 ラウンドのスターティングオーダーは、第 1 競技における各チーム上位 3 選手の減点と第 1 ラウンドでの各チーム上位 3 選手の減点を合計したリバースオーダーとする。

4.2.3 第 2 ラウンドでは個人選手がチーム選手よりも先に出場する。個人選手あるいはチームで同減点がでた場合は、第 1 ラウンドでのスターティングオーダーを採用する。

4.3 ジャンプオフを行う場合のスターティングオーダーは、第 2 ラウンドでのスターティングオーダーを採用する。

ジャンプオフが 2 回必要となった場合は、第 3 位決定のジャンプオフを第 2 位および第 1 位決定のジャンプオフに先がけて行うものとする。

第 2 ラウンドに出場できるのは、第 1 競技における各国上位 3 選手の減点および第 1 ラウンドでの各チーム上位 3 選手の減点合計に基づき、上位 10 チームと第 10 位で同順位のチームのみとする。

#### 4.4 第 2 ラウンドでのチーム数

4.4.1 第 2 ラウンドへの上場は、第 1 競技における各国上位 3 選手の減点および第 1 ラウンドでの各チーム上位 3 選手の減点合計に基づき、上位 10 チームと第 10 位で同順位のチームに限定される。

上位 10 チームと第 10 位で同順位のチームが第 2 ラウンドを開始する前に、個人選手および第 2 ラウンドに出場資格を得られなかったチームメンバー全員が第 3 競技に向けた第 2 次予選競技に出場できる。第 2 次予選競技と団体決勝の第 2 ラウンドとの間には、30 分以上のブレイクを入れなければならない。

4.2.2 北米で行われるジュニアとヤングライダー併催選手権大会については、以下を適用する：

団体決勝の第 2 ラウンドに出場できるのは、団体決勝第 1 ラウンドの成績で上位 6 チームと第 6 位で同順位のチームのみとする。

## 5. フェアウェル競技

組織委員会の判断により、選手権大会の個人決勝へ出場資格を得られなかった選手を対象として、個人選手のフェアウェル競技を 1 回設けることができる。

ヤングライダーとジュニアのフェアウェル競技が行われる場合で、これに参加を希望するヤングライダーおよびジュニアの人数が少ない場合は、これらを併せて開催できる。

この競技が行われる場合は、基準 A を採用してタイムレースでジャンプオフなしとするか（障害馬術規程第 238 条 2.1 参照）、あるいは基準 A 採用のタイムレースで第 1 位にて同減点がでた場合にタイムレースのジャンプオフを 1 回行う（障害馬術規程第 238 条 2.2 参照）。

## 6. 第 3 競技（個人決勝）

### 6.1 競技の進行

この競技はラウンド A とラウンド B の異なる 2 回走行で構成し、各々基準 A を採用してタイムレースではなく行われ、ジャンプオフはない。個人選手権の全体順位で第 1 位、第 2 位および／または第 3 位で同減点の選手がでた場合は、タイムレースのジャンプオフを 1 回行う。

出場資格があるのは、第 1 次予選競技と第 2 次予選競技の減点合計で上位 60% の選手（最下位で同順位の選手を含む）である。この競技へ参加できる選手数は 15 名以上、30 名以内とする。

選手は（完走あるいは完走しないにかかわらず）第 1 次予選競技に出場しており、また第 2 競技を（失権あるいは棄権することなく）完走していなければならない。もし何らかの理由で出場資格を得た選手のうち 1 名またはそれ以上の選手が出場できない場合でも、次点の選手の繰り上げ出場は行わない。

ラウンド A を完走した選手は全員がラウンド B へ出場する。両ラウンドでの減点を合算する。

選手はラウンド B のコース下見を行うことができる。

6.1.1 北米で行われるジュニアとヤングライダー併催選手権大会については、以下を適用する：

個人決勝の第 1 ラウンドに出場できるのは、第 1 競技および第 2 競技の減点合計で、各カテゴリーにつき上位 25 名の選手（第 25 位で同順位の選手を含む）とする。

個人決勝の第 2 ラウンドに出場できるのは、各カテゴリーにつき上位 15 名の選手（第 15 位で同順位の選手を含む）とする。

## 6.2 スターティングオーダー

ラウンド A のスターティングオーダーは、選手権の第 1 次予選競技と第 2 次予選競技で生じた減点合計のリバースオーダーとする。どの順位についても同減点となった場合は、第 1 次予選競技の成績でスターティングオーダーを決定する。従って最下位で予選通過した選手が最初の出場となる。

ラウンド B のスターティングオーダーは、第 1 次予選競技と第 2 次予選競技、およびラウンド A で生じた減点合計のリバースオーダーとする。最多減点の選手が最初に出場し、最少減点の選手が最後の出場となる。同減点の選手については、第 1 次予選競技の成績でスターティングオーダーを決定する。

## 第 17 条 障害物とコース

### 1. 第 1 次予選競技：障害物とその他のテクニカル要件

	ヤングライダー	ジュニア
障害物の数	12～14 個	12～14 個
高さの上限	1.45m	1.40m
幅	1.50～1.70m	1.40～1.60m
水濠障害（必須ではない）の最大幅	4.00m	3.70m
コース全長の下限／上限	500/600m	500/600m
速度	適用せず	適用せず
基準	C	C

### 2. 団体決勝：障害物とその他のテクニカル要件

	ヤングライダー	ジュニア
障害物の数	12～14 個	12～14 個
高さの上限	1.50m	1.40m
最大幅	1.80m	1.70m
（垂直障害 2 個を含む）8 個以上の障害物はこの高さ以上とする	1.40m	1.30m
水濠障害（必須）の最大幅	4.20m	3.70m
コース全長の下限／上限	500/600m	500/600m
速度	400m/分	375m/分

コースにはダブル 1 個とトリプル 1 個、あるいはダブル 3 個を入れなければならない。ジュニア団体決勝の第 2 ラウンドでは、横木の本数は任意だが FEI 認可のセーフティーカップを使用した垂直障害を水濠障害上に設置しなければならない。この垂直障害は水濠障害正面から 2m 以内に設置しなければならない。この障害物は水濠障害ではなく、垂直障害として審査する（障害馬術規程第 211 条 10 参照）。

### 3. 個人決勝競技：障害物とその他のテクニカル要件

	ヤングライダー	ジュニア
ラウンド A の障害物の数	10～12 個	10～12 個
ラウンド B の障害物の数	8～10 個	8～10 個
高さの上限	1.50m	1.40m
最大幅	1.80m	1.70m
トリプルバーの最大幅	2.00m	2.00m
水濠障害（必須）の最大幅	4.20m	3.70m
コース全長の下限／上限	ラウンド A 500/600m ラウンド B 450/550m	500/600m 450/550m
速度	400m/分	375m/分

ラウンド A のコースにはダブル 1 個とトリプル 1 個、あるいはダブル 3 個を入れなければならない。ラウンド B はラウンド A と異なるコースでなければならない。ラウンド B のコースにはダブル 1 個、あるいはトリプル 1 個を入れなければならない。

### 4. ジャンプオフ

団体順位でも個人順位であってもジャンプオフを行う場合は、6 個の障害物で構成する短縮コースを採用し、ジュニアでは高さを上げ（1.50m まで）、および／または幅を広げることができる。

### 5. フェアウェル競技

フェアウェル競技が行われる場合、その障害物の高さはヤングライダーで約 1.40m、ジュニアで約 1.30m とし、幅は高さと同程度をとり、1.40～1.60m の範囲とする。

## 第 18 条 団体順位

- ヨーロッパにおける地域選手権大会と大陸選手権大会の団体順位は、第 1 競技における各国選手 5 名から上位 3 選手の減点、および団体決勝における 2 回走行の各走行で各チーム上位 3 選手の減点を合計して決定する。第 2 ラウンドへの出場資格を得られなかったチームについては、第 1 競技における各国上位 3 選手の成績、および団体決勝第 1 ラウンドにおけるチーム内上位 3 選手の成績をカウントする。
- ヨーロッパ域外の地域選手権大会と大陸選手権大会における団体順位は、第 1 競

技における各チーム上位 3 選手の減点、および団体決勝における 2 回走行の各走行で各チーム上位 3 選手の減点を合計して決定する。第 2 ラウンドへの出場資格を得られなかったチームについては、第 1 競技における各国上位 3 選手の成績と団体決勝第 1 ラウンドにおけるチーム内上位 3 選手の成績をカウントする。

3. 団体決勝の第 1 ラウンドあるいは第 2 ラウンドを完走していないチーム選手の成績は、当該ラウンドで最も減点の多かったチーム選手のスコアに減点 20 を加算する。
4. 第 1 位、第 2 位および／または第 3 位で同減点のチームがでた場合は、タイムレースのジャンプオフを 1 回行わなければならない、チームメンバーは全員が参加する（本付則第 17 条 4 参照）。
5. ジャンプオフが 2 回必要となった場合は、第 3 位決定のジャンプオフを第 2 位および第 1 位決定のジャンプオフに先がけて行うものとする。
6. ジャンプオフの順位は、各チームの上位 3 選手の減点とタイムを合計して決定する。それでも同減点で同タイムの場合は同順位となる。
7. その他のチームについては 2 回走行の減点を合計して順位を決定する。同減点の場合は同順位となる。
8. 団体競技では、団体順位に加えて個人順位も決定され、賞が授与される。同減点の選手は同順位となる。

#### **第 19 条 個人順位**

1. 個人順位は各選手の第 1 競技、第 2 競技の 2 回走行（ジャンプオフが行われた場合でもその減点は含めない）、第 3 競技の 2 回走行での減点を合計して決定する。
2. 第 1 位、第 2 位および／または第 3 位で同減点の選手がでた場合は、タイムレースのジャンプオフを 1 回行わなければならない（本付則第 17 条 4 参照）。
3. ジャンプオフが 2 回必要となった場合は、第 3 位決定のジャンプオフを第 2 位および第 1 位決定のジャンプオフに先がけて行うものとする。
4. 個人決勝競技では 2 種類の順位付けを行わなければならない；1 つは個人メダル受賞者の順位付け、もう 1 つはこの競技に出場した選手全員の順位付けである。後者の順位ではラウンド A とラウンド B の成績のみをカウントする。同減点の選手は

同順位となる。

## **第 20 条 馬装と服装**

1. 馬装と服装に関する規定は、障害馬術規程に従って厳格に適用しなければならない（障害馬術規程第 256 条と第 257 条参照）。

## **第 21 条 競技場審判団**

1. 競技場審判団長については、FEI 障害馬術部門ディレクターが障害馬術委員会と協議のうえ、一般規程と障害馬術規程に則って選任しなければならない。競技場審判団メンバーは、NF／組織委員会が一般規程に則って選任する。

## **第 22 条 外国人技術代表**

1. 外国人技術代表については、FEI 障害馬術部門ディレクターが障害馬術委員会と協議のうえ、一般規程と障害馬術規程に則って選任しなければならない。

## **第 23 条 獣医師代表団**

1. 獣医師代表団の構成、およびその代表団長とメンバーの選任は、獣医規程に定める要件に準拠しなければならない。

## **第 24 条 上訴委員会**

1. 上訴委員長については、FEI 障害馬術部門ディレクターが障害馬術委員会と協議のうえ、一般規程と障害馬術規程に則って選任しなければならない。CSI 競技会では、上訴委員会の設置は義務づけられない。

## **第 25 条 その他**

1. 本付則に網羅されていない状況については、競技場審判団が一般規程と障害馬術規程に則り、選手権順位を公正に決定するにあたり最善と思われる決断を下す。



## **付則 10 ベテラン選手規程**

### **第1章 ベテラン選手**

#### **第1条 概 要**

1. 以下に定める一連の規則の目的は、ベテラン選手に特化した問題を斟酌し、ベテラン選手を対象とする世界の競技会や競技を規格統一することにある。

以下に記載する特別規定を除いては、障害馬術規程を適用する。

#### **第2条 ベテラン選手の定義**

次の選手はベテラン選手として競技に参加できる：

1. 選手は45歳の誕生日を迎える年の始めからベテランカテゴリーに出場できる。
2. ベテラン競技に出場できるのは、その年に、実施要項記載で初回ラウンドの障害物の高さが1.35mを超える競技に出場していない選手である。
3. 各選手は所属するNF発行の有効なライセンスをもっていなければならない。
4. 国際競技会に選手を参加申込した時点で、NFはその参加申込が正当であり、出場者は上記の条件を満たす者であることを自ずと確証したこととなる。

#### **第3条 国際競技会（一般規程第102条参照）**

ベテラン選手を対象として以下の競技会を開催できる：CSIカテゴリーA、CSIカテゴリーB、CSIO

##### **1. CSIVカテゴリーA競技会**

- 1.1 CSIVカテゴリーA競技会は、開催国NFと諸外国から参加NF数の制限なしに個人選手を受け入れる国際競技会である。
- 1.2 賞金額の制限はない。
- 1.3 その他の条件はシニア対象のCSI2\*競技会規定に従う。

##### **2. CSIVカテゴリーB競技会**

- 2.1 CSIVカテゴリーB競技会は、開催国NFと諸外国から参加NF数の制限なしに個人選手を受け入れる国際競技会である。海外在住の選手は、開催国NFでのCSIVカテゴリーB競技会に（在住国である）開催国NFの一員として競技に出場できる。
- 2.2 賞金はない。
- 2.3 その他の要件はすべてシニア対象のCSI1\*競技会規定に従う。

#### **第 4 条 障害物とコース**

1. ベテラン選手対象のコースは 8～12 個の障害物で構成する。第 1 ラウンドの障害物の高さは 1.10m 以上、1.30m 以下とする。幅障害の幅は、高さと同じ合いをとり 1.20m～1.35m の範囲とする。速度は分速 350m。

#### **第 2 章 大陸選手権大会 チームと個人選手**

##### **第 5 条 開 催**

1. 以下の原則に従い、毎年 FEI の権限下で団体および個人大陸選手権大会を開催できる：
  - 1.1 通常は同じ NF が 2 回続けて大陸選手権大会を開催することは認められない。
  - 1.2 この選手権大会は一般規程、障害馬術規程、本付則すべてに準拠して開催しなければならない。
  - 1.3 この選手権大会は屋外で行わなければならない。
2. この選手権大会は CSI と同時開催することはできるが、CSIO の一部として行うことはできない。選手権大会を単独で開催する場合には、選手権大会に出場する選手が選手権大会には出ない馬で参加できる競技を、選手権大会プログラムに組み込まなければならない。プログラムには毎日 1 競技か 2 競技を入れることができる。各馬とも 1 日につき 1 競技にのみ出場することができる。これらの競技条件は FEI 事務総長へ提出して承認を受けなければならない。
3. 選手権大会を CSI と同時開催する場合は、初日のトレーニングセッションを選手権大会に出場する選手に限定して行う。CSI に出場する選手については、別途、競技を設けることができる。2 日目からは両方の選手を混在させることができる。

##### **第 6 条 外国人技術代表、獣医師代表団、コースデザイナー**

1. 外国人技術代表については、FEI が障害馬術委員会と協議のうえ、一般規程の条項に則って選任しなければならない。レベル 3 コースデザイナーリストから選考しなければならない。
2. 獣医師代表団の構成と団長およびメンバーの選任は、獣医規程の要件に準拠しなければならない。
3. コースデザイナーは、少なくともレベル 3 コースデザイナーリストから選任しなければならない。

##### **第 7 条 上訴委員会と競技場審判団**

1. 競技場審判団長については、組織委員会が一般規程の条項に則って選任しなければならない。競技場審判団長は、組織委員会および FEI と協議のうえ競技場審判団メンバーを選任する。外国人審判員については FEI が選任しなければならない。

競技場審判団長と外国人審判員はレベル 3 審判員リストから選任し、競技場審判団メンバーの少なくとも 2 名はレベル 4 審判員あるいはレベル 3 審判員リストから選任しなければならない。競技場審判団長が外国籍の場合は、FEI の明確な承認を受けて外国人審判員として活動できる。

2. 上訴委員会の設置は必須である。上訴委員会の構成と選任については、一般規程第 150 条を参照のこと。

## 第 8 条 参加申込

1. FEI 障害馬術部門ディレクターから実施要項の承認を受けた後、開催国 NF は選手権大会の実施要項と招待状を、選手権大会が開催される大陸に属するすべての FEI 加盟 NF へ送付する。
2. ノミネートエントリー（選手権大会の 4 週間前）リストで選手権大会への参加申込を行った選手と馬については、デフィニットエントリー期日（遅くとも選手権大会開始の 4 日前）まで、一般規程第 116 条 2.2(i)に定める制限内での交代および追加が可能である。

選手および／または馬が事故にあったり病気となった場合で、公式医師および／または獣医師からの診断書によりこれが確認できれば、デフィニットエントリー期日から当該選手権大会の第 1 回ホースインスペクション 1 時間前まで、選手および／または馬の交代は可能である。この交代はノミネートエントリーの最新リストに記載されている人馬からとし、競技場審判団の承認が必要である。

### 3. チーム

チームは選手 3～5 名、馬 3～10 頭で構成する。各 NF ともノミネートエントリーでは選手 10 名、馬 20 頭まで、デフィニットエントリーでは選手 5 名、馬 10 頭まで参加申込できる。各 NF が選手権大会へ派遣できるのは選手 5 名、馬 10 頭までである。さらに各 NF はチーム監督を 1 名派遣することができ、このチーム監督には選手と同等の特典が供与される。

### 4. チームに代わる個人選手

チームを派遣できない NF は、1 名あるいは 2 名の個人選手を各々 2 頭の馬とともに参加申込できる。

#### 4.1 追加の選手と馬

選手権競技に出場しないチームメンバーと個人選手の馬は、選手権ではない競技に出場できる。5 番目（リザーブ）の選手は、個人選手権競技に 1 頭の馬で出場できる。このリザーブ選手は、選手権ではない競技に別の馬で出場できる。

## 5. FEI 南米選手権大会 - チーム数と個人選手数

少なくとも 3NF がチームを派遣しているものでなければならない。選手権大会として認可を受けるには、3 チーム以上の参加が必要である。各 NF とも派遣できるチーム数は 2 チームまでである。選手権大会の期間中、選手および／または馬は、一方のチームから他方のチームへ移籍することはできない。選手権大会に 1 チームを派遣する NF については、個人選手の参加を 2 名までに限定する。チームを派遣しない NF については、その NF の代表として 2 名の個人選手が参加できる。

## 第 9 条 出場選手の申告と交代（チームと個人選手）

### 1. 申告

出場選手の申告はトレーニングセッション終了後に行うが、このトレーニングセッションは選手権大会第 1 競技の前日に行わなければならない。組織委員会が設定した時刻に、チーム監督はチームメンバー（3 名か 4 名）または個人選手の氏名と馬名（選手権大会の 3 競技とも各選手につき同一馬 1 頭）を選手権大会の競技出場人馬として書面にて指定する。

### 2. 交代

出場の申告を行ってから選手権第 1 競技開始の 1 時間前までに、選手および／または馬が事故にあったり病気となった場合は、公式医師からの診断書を提出し／または FEI 獣医師代表の許可を受け、競技場審判団長の承認を受けた後に、公式チームとしてデフィニットエントリーを行っている別の選手および／または馬と交代させることができ、また本付則第 8 条に基づく交代も可能である。

## 第 10 条 出場資格

### 1. 馬

馬は 6 歳以上でなければならない。

### 2. 選手

選手権大会への出場は、選手が 45 歳の誕生日を迎える年からに限定される。

3. 選手権大会を完走できる能力のある選手と馬に限定して参加申込ができる。

## 第 11 条 経費と特典

1. 組織委員会は競技場審判団長の旅費を負担する。

2. 組織委員会は競技場審判団長、競技場審判団メンバー、上訴委員会、獣医師代表団、上訴委員会、技術代表の宿泊費とその他の滞在費を負担する。

## 第 12 条 トレーニングセッション

1. 最初の公式競技の前日に、組織委員会はメインアリーナにコンビネーション障害 1 個を含む約 8 個の障害物でコースを設定し、トレーニング時間を提供しなければならない。

2. 各選手とも1頭につき90秒まで使うことができる。
3. 服装は略式でよい；長靴と乗馬ズボン、シャツ、保護用ヘッドギアの着用が義務づけられる。
4. 観客から入場料を徴収してはならず、またいかなる賞も授与してはならない。

### **第13条 選手権競技**

1. 選手権大会は3つの競技で構成し、別々の日に開催する。第1競技、および第2競技の各ラウンドで上位3選手の減点が合計されて団体順位が決まり、また最初の3競技の各々での減点が合計されて個人順位が決定される。
2. 安全性とテクニカル面での適正の観点から、すべての障害物デザインと構造は技術代表とコースデザイナーの承認が必要である。これらの障害物に関して議論となった場合は、技術代表が最終的な判断を下す。

### **第14条 第1競技（チームと個人選手）**

#### **1. 手順、基準、速度**

第1競技は基準Aの大きなコースを使用し、基準Cで審査を行い（障害馬術規程第239条と第263条参照）、第1位で同タイムの場合でもジャンプオフを行わない。

#### **2. 障害物、コース全長**

ダブル1個とトリプル1個、あるいはダブル3個を含む12～14個の障害物。高さは1.25mまで、幅は高さと同釣り合いをとって1.35m（トリプルバーでは1.70m）以内で設定する。水濠障害は認められない。

コース全長：500m以上、600m以内。

#### **3. 参加**

団体選手権と個人選手権への出場人马として申告した選手と馬は、この第1競技に参加する資格がある。リザーブ（5番目）の選手は、個人決勝競技への参加資格をかけて、この競技に1頭の馬で出場できる。

#### **4. スターティングオーダー**

この第1競技のスターティングオーダーは、トレーニングセッション後に組織委員会の同意を得て競技場審判団長が決定した指定時刻に、競技場審判団と技術代表、チーム監督立ち会いのもとで抽選により決定する。個人選手とチームのスターティングオーダー抽選は、障害馬術規程第252条に定める手順に従って行われる。選手3名で構成するチームの監督は、4名枠から3名分の出場順を選択できる。

## 5. 減点

第1競技で各選手が獲得したスコアは以下の方法で減点に換算される。各選手の走行タイムに係数0.50を掛けてポイントに換算する；ポイントは四捨五入して小数点第2位までとする。0.005以上を切り上げ、0.004以下は切り捨てて小数点第2位を求める。換算後のポイントが最も少ない選手を減点0とし、他の選手については首位の選手との点差をそれぞれの減点とする。

選手が失権または棄権した場合の減点は、その競技を完走した選手全員のタイムを減点に換算後、最も減点の多い選手のスコアに減点20を加算して求める。

## 第15条 第2競技（団体決勝、第2次個人）

### 1. 手順、基準、速度

第2競技は、タイムレースではなく同一コースで2回の走行を1日か2日間にわたって基準Aにて行い、速度は分速350m、ジャンプオフは行わない。

### 2. 障害物、コース全長

ダブル1個とトリプル1個、あるいはダブル3個を含む12～14個の障害物。高さは1.25mまで、幅は高さと同様にとり合いをとって1.35m（トリプルバーでは1.70m）以内。高さ1.30mの垂直障害（踏切側で傾斜している箱障害は必須の垂直障害とみなされない）を少なくとも2個入れなければならない。その他に高さ1.25m以上の障害物を6個以上設置する。水濠障害は認められない。

コース全長：500m以上、700m以内。

フットディングの状態によっては第1ラウンド後に、競技場審判団はコースデザイナーと協議のうえ、障害物の位置をずらす判断を下すことができる。コース全長を変更した場合は、コースの再測定が必要である。障害物の位置を変えた場合は、第2ラウンドの前に選手はコース下見を行うことが認められる。

### 3. 参加

第1競技に出場した選手と馬だけが第2競技に出場できる。

#### 3.1 個人選手

3.1.1 第1次個人予選競技と、団体決勝第1ラウンド（第2次個人予選競技）での成績を合計して、その上位50名の選手（第50位で同点の選手がでた場合は人数増加となる）が第3次個人予選競技、すなわち団体決勝第2ラウンドへの出場資格を得る。

3.1.2 上述の3.1.1で出場資格を得た選手が、団体決勝第2ラウンドへの出場資格を得たチームのメンバーではない場合、この選手は団体競技第2ラウンドの前に競

技を行う。このラウンドと団体決勝第 2 ラウンドの間には 30 分以上のブレイクを設ける。

### 3.2 チーム

3.2.1 団体決勝第 2 ラウンドは、第 3 次個人予選競技の後に行う。この競技には、団体競技第 1 ラウンド後の成績で上位 10 チームと、同減点で第 10 位となったチームのみ出場できる。

3.2.2 団体決勝第 2 ラウンドへ出場資格を得たチームはすべて、第 1 次個人予選競技と団体決勝第 1 ラウンドでの減点を持ち越す。

前述の 3.1.1 に示す第 3 次個人予選競技へ出場資格を得られなかったチームメンバーの第 2 ラウンドにおけるスコアは、チーム順位決定にのみカウントされる。

## 4. スターティングオーダー

この第 2 競技のスターティングオーダーは、第 1 競技の場合と同様の手順で新たに抽選を行って決定する。

### 4.1 個人選手

4.1.1 上述の 3.1.1 で示した通り、出場資格を得た個人選手のスターティングオーダーは、第 1 次と第 2 次個人予選競技での減点を合計し、そのリバースオーダーとする。同減点の選手がでた場合は、第 1 競技のスコアでスターティングオーダーを決定する。

### 4.2 チーム

4.2.1 団体競技第 2 ラウンドへ出場資格を得たチームのスターティングオーダーは、第 1 次個人予選競技でのチーム内上位 3 選手の減点と、団体競技第 1 ラウンドでのチーム内上位 3 選手の減点を合計し、そのリバースオーダーとする。同減点となったチームについては、第 1 ラウンドのスターティングオーダーを適用する。

4.2.2 上述の通り、第 2 ラウンドへ出場資格を得たチームのメンバーである個人選手のスコアは、団体決勝のチーム順位決定にカウントされるとともに、3.1.1 に記載の選手に入っていれば、第 3 次個人予選競技での個人成績としてもカウントされる。

## 5. 団体順位

上位 10 チームと第 10 位で同減点のチームの順位は、第 1 競技での各チーム内上位 3 選手の減点と、第 2 競技の 2 回走行での各走行でチーム内上位 3 選手の減点を合計して決定する。最少減点のチームが第 1 位で、大陸チームチャンピオンとなる。

第 1 位、第 2 位および／または第 3 位で同減点のチームがでた場合はタイムレースのジャンプオフを行い、チームメンバー全員が出場できるが、コースは障害物 6 個で構成し、分速 350m にて高さを上げ／または幅を広げることができる。

ジャンプオフでのスコアは各チームで上位3選手の減点を合計して求めるが、それでも同減点の場合はジャンプオフにおける上位3選手のタイムを合計して優勝チーム、および第2位と第3位を決定する。ジャンプオフのスコアは団体順位を決定するためだけのもので、個人選手の最終スコアにはカウントしない。

ジャンプオフが2回必要となった場合は、第3位決定のジャンプオフを第1位および第2位決定のジャンプオフに先がけて行うものとする。

第1位から第3位までの何れかで、ジャンプオフを行っても減点とタイムが同じとなった場合は、当該チームを同順位とする。

団体競技第2ラウンドに出場資格を得られなかったチームについては、第1競技でのチーム内上位3選手の減点と、団体競技第1ラウンドでチーム内上位3選手の減点を合計して順位を決定する。

## 6. 休養日

第2競技と第3競技の間に休養日を設けなければならない。

## 第16条 第3競技（個人決勝）

### 1. 手順、基準、速度

第3競技はタイムレースではなく、規定タイムを設けて速度は分速350m、基準AにてラウンドAとラウンドBの2回走行を行う。

### 2. 障害物、コース全長

#### 2.1 ラウンドA

ダブル1個とトリプル1個、あるいはダブル3個を含む10～12個の障害物。高さは1.25mまで、幅は高さと同釣り合いをとって1.35m（トリプルバーでは1.70m）以内。高さ1.30mの垂直障害（踏切側で傾斜している箱障害は必須の垂直障害とみなされない）を少なくとも2個入れなければならない。水濠障害は認められない。  
コース全長：500m以上、600m以内。

#### 2.2 ラウンドB

ラウンドAとは異なるコースとし、8～10個の障害物で構成するが、コンビネーション障害を1個のみ（ダブル1個かトリプル1個）含める。高さは1.30mまで、幅は高さと同釣り合いをとって1.35m（トリプルバーでは1.70m）以内。高さ1.30mの垂直障害（踏切側で傾斜している箱障害は必須の垂直障害とみなされない）を少なくとも2個入れなければならない。

水濠障害は入れてはならないが、障害物の下か前面、あるいは背面に水濠を設置したもの（いわゆる「リバプール」）はコースに含めることができる。コース全長：400m以上、500m以内。



### 3. 参加

この第3競技へは第1競技と第2競技での減点合計、あるいは第1競技と第2競技第1ラウンド、および個人選手と団体競技第2ラウンドに出場できないチームメンバーを対象とする団体競技第2ラウンドに代わるラウンドでの減点合計で、上位25組の人馬（第25位で同減点の人馬を含む）が出場を義務づけられる。選手は（完走した、しないにかかわらず）第1競技に出場しており、また第2競技を（失権あるいは棄権をせずに）完走しているか、もしくは（完走した、しないにかかわらず）第1競技に出場しており、また第2競技第1ラウンド、および個人選手と団体競技第2ラウンドに出場できないチームメンバーを対象とする団体競技第2ラウンドに代わるラウンドを（失権、あるいは棄権をせずに）完走していなければならない。もし何らかの理由で上位25名の選手のうち1名またはそれ以上の選手が出場できない場合は、選手5名のリザーブリストから選手を交代させる。

### 4. コースBの下見

選手はラウンドA終了後、ラウンドBのコース下見を行うことができる。

### 5. スターティングオーダー

- 5.1 ラウンドAのスターティングオーダーは、第1競技と第2競技の減点合計のリバースオーダーとする。個人選手および団体競技第2ラウンドに出場資格を得られなかったチームメンバーのスターティングオーダーは、第1競技と第2競技第1ラウンド、および団体競技第2ラウンドに代わるラウンドでの減点合計のリバースオーダーとする。同減点の選手がでた場合は、第1競技のスコアでスターティングオーダーを決定する。従って第25位で予選を通過した選手が最初の出場となる。
- 5.2 ラウンドBのスターティングオーダーは、最終競技のラウンドA、および第1競技と第2競技での減点合計のリバースオーダーとする。個人選手と団体競技第2ラウンドに出場資格を得られなかったチームメンバーのスターティングオーダーは、最終競技のラウンドA、第1競技、第2競技第1ラウンド、および団体競技第2ラウンドに代わるラウンドでの減点合計のリバースオーダーとする。最多減点の選手が最初に出場し、最少減点の選手が最後の出場となる。同減点の選手がでた場合は、第1競技の成績でスターティングオーダーを決定する。

### 6. 個人順位

個人順位は第1競技と、第2競技の2回走行（ジャンプオフがあった場合でもその減点はカウントせず）、第3競技のラウンドAとラウンドBでの減点を合計して決定する。個人選手と団体決勝第2ラウンドに出場資格を得られなかったチームメンバーについては、団体決勝第2ラウンドの代わりに第2ラウンド予選の成績をカウントする。

最少減点の選手が第 1 位で大陸チャンピオンとなる。

第 3 競技ラウンド B 終了後に、上位 3 位までの何れかで同減点となった場合は分速 350m、タイムレースにてジャンプオフを行うが、コースはラウンド A とラウンド B のコースで使用した障害物から 8 個の障害物を使う。選手はジャンプオフのコース下見を行うことができる。

ジャンプオフが 2 回必要となった場合は、第 3 位決定のジャンプオフを第 1 位および第 2 位決定のジャンプオフに先がけて行うものとする。

第 1 位から第 3 位までの何れかで、ジャンプオフを行っても減点とタイムが同じとなった場合は、当該選手を同順位とする。

## **第 17 条 褒 賞**

1. 賞金は授与しない。第 1 競技終了後に上位 12 名の選手に賞品が贈られ、チーム対象の第 2 競技終了後には上位 6 チームに賞品が贈られ、また第 3 競技終了後には全体成績で上位 12 名の選手に賞品が贈られる。
2. 団体選手権で上位 3 チームの各選手、および個人選手権で第 1 位と第 2 位、第 3 位の個人選手に各々 FEI 金メダル、銀メダル、銅メダルが授与される。

## **付則 11 ポニーライダー規程**

### **第 1 章 緒 言**

#### **第 1 条 概 要**

1. ポニーライダー競技は、世界の馬術競技の発展において重要な要素である。
2. 以下に定める一連の規則の目的は、ポニー騎乗に特化した配慮をほどこし、ポニー競技会を規格統一することにある。

#### **第 2 条 諸規程の優先性**

1. 本付則に網羅されていない事柄についてはすべて、一般規程、獣医規程、障害馬術規程を適用する。

### **第 2 章 ポニーライダーとポニーの定義**

#### **第 3 条 ポニーライダー**

1. 選手は 12 歳となる暦年の始めから 16 歳となる年の終わりまで、ポニーライダーとして競技に出場できる。

2. ポニーライダーをプロフェッショナルとしてクラス分けすることはできない。

#### **第4条 ポニーの定義**

1. ポニーとは、平坦な地面上で蹄鉄を装着していない状態で、髻甲で測定した体高が 1.48m を超えない小型の馬をいう。
  - 1.1 FEI 競技会で測定されるポニーの体高についての許容範囲：FEI 競技会で測定されるポニーの体高は蹄鉄を装着していない状態で 1.50m、蹄鉄を装着した状態で 1.51m を超えていてはならない（獣医規程第 1082 条参照）。ポニーの体高測定詳細については、本付則第 13 条を参照のこと。
  - 1.2 ポニーの国際競技会および選手権大会に出場するには、ポニーとして FEI 登録しなければならない。ポニーはチルドレンの CSI(O)に出場することはできない（付則 12 第 3 条 2 参照）。初回ラウンドでの障害物の高さ最大が 1.35m を超えない場合は、ポニーを組織委員会の判断で CSI の特定競技に出場させることができる。いずれかのカテゴリーの CSI に参加申込したポニー（ポニーとして FEI 登録したもの）には、ポニーライダーとして定める年齢範囲（12 歳となる暦年の始めから 16 歳となる年の終わりまで）に準拠した選手が騎乗しなければならない。

2. いかなる国際競技会および選手権大会でも、ポニーは 6 歳以上でなければならない。

### **第3章 国際競技会と選手権大会**

#### **第5条 国際競技会**

1. ポニーで競技に出場するポニーライダーのための障害馬術競技会としては、次の種類がある：国際競技会（CSIP）、公式国際競技会（CSIOP）、選手権大会。
  2. CSIP は開催国 NF の個人選手、および参加 NF 数に制限を設けず諸外国からの個人選手を対象とする国際競技会である。
    - 2.1 CSIP 競技会はポニーを貸与する形式の競技会として行うことができ、その場合は CSIP（貸与ポニー形式）などのように明示しなければならない。
    - 2.2 これらの競技会では、「ネーションズカップ」と表記できない厳格に非公式な団体競技を行うことができる。
    - 2.3 外国人選手も参加できる障害馬術競技を少なくとも 3 競技は設け、FEI 規程に従って開催しなければならない。
  3. CSIOP はチームを派遣する 3 NF 以上を対象とする国際競技会である。
    - 3.1 該当する競技種目規程に定める通り、公式団体競技と公式個人競技を含めなければならない。
    - 3.2 同一国で 1 暦年の間に開催できる CSIOP は屋内で 1 回、屋外で 1 回の合計 2 回までとする。

- 3.3 CSIOP は、既に競技カレンダーに組み込まれているポニー国際競技会の開催を妨げない場合に限り、FEI 事務総長の判断によって、その年のカレンダーへの組み込みを認められることがある。
- 3.4 このような競技会へは開催国から 1 チーム、外国からは各 NF につき 1 チームが参加できる。
- 3.5 いずれの競技種目でもポニーチームは選手 4 名とポニー 4 頭で構成し、このうち上位 3 選手の成績をカウントする。3 名構成のチームも認められる。
- 3.6 CSIOP と CSIP を一緒に開催することができる。
4. 国際団体競技会  
障害馬術規程（障害馬術規程第 265 条 2 参照）に則って開催することができる。
5. 貸与ポニー形式の国際競技会（一般規程第 111 条参照）
- 5.1 FEI 障害馬術部門ディレクターの同意があれば、組織委員会が提供するポニーを用いて CSIP と CSIOP を開催できる。大陸選手権大会では認められない。
- 5.2 チルドレン規程第 4 条 4.に記載の貸与馬競技会規定を適用しなければならない。
6. 本規定を適用する選手権大会を含めた競技会については、その参加申込で各選手が申し込むポニーを特定しなければならず、いかなる選手も自分が参加申込したポニー以外のポニーに騎乗することはできない。

## **第 6 条 大陸選手権大会**

1. 毎年、各大陸にて障害馬術の大陸選手権大会を開催できる。ポニーライダー対象の障害馬術、馬場馬術、総合馬術大陸選手権を同一競技会にて開催することができ、また分けて開催することもできる。
2. 大陸選手権大会はできるだけ学校の長期休暇中に開催する（ヨーロッパにおいては 7 月中旬から 8 月中旬）。
3. 大陸選手権大会は屋外で開催する。
4. 大陸選手権大会への参加は、その大陸にあるすべての NF に限定しなければならない。
5. FEI が CSIOP と選手権大会の開催を承認する。選手権大会の開催を希望する NF は、一般規程に定める要領で申請しなければならない。
6. 選手権大会は一般規程、該当種目の競技会規程および本特別規定を厳格に遵守して開催しなければならない。

7. 大陸選手権大会は、開催国 NF を含めて 4NF 以上の参加があつて初めて開催できるが、ヨーロッパ域外では開催国 NF を含めて少なくとも 2NF から地域チームの参加があれば開催できる。参加申込の締切日以降、選手権大会の開始前に出場を取り止めた NF については出場とみなされる。
8. 所属 NF から公式に参加申込されたチームおよび／または個人選手だけが出場できる。
9. ポニーライダーおよび／またはポニーが同じ競技会で 1 暦年に出場できるのは 1 競技種目のみである。

## **第 7 条 国際競技会と選手権大会への出場資格**

1. ポニーライダーは、該当する年齢に達していれば、また該当競技における障害物の高さが選手の年齢に適用される高さ制限（障害馬術規程第 255 条 2 参照）を超えない限り、ポニーライダーとしての資格を失わずにヤングライダー、ジュニアおよび／またはチルドレン対象の競技に馬で出場できる。しかしポニーライダーは、同じ競技会場で同一週に行われるポニーライダー競技とヤングライダー競技、あるいは U25 競技に出場することはできない；同じ競技会場で同一週に行われるポニー競技とヤングライダー競技、あるいは U25 競技に出場するポニーライダーは、両競技会から失格となる。シニア競技への出場については障害馬術規程第 255 条を参照。
2. 該当年齢に達している選手は、2 つ以上のカテゴリーで競技および選手権大会に出場できるが、各競技種目につき 1 暦年の間に出場できる大陸選手権大会は 1 カテゴリーのみである（一般規程第 124 条 1 参照）。
3. 該当年齢に達している選手は、CSIOP におけるネーションズカップを含むすべての競技にポニーで出場し、またそれと同じ競技会場で同一週に行われる CSIOCh にてネーションズカップを含むすべての競技に馬で出場することができる。選手は同じ競技会場で同一日程にて行われる CSIOP のネーションズカップと CSIOJ のネーションズカップに参加することはできない。

## **第 8 条 経費と特典**

1. 競技会  
ポニーライダーを対象とする競技会の組織委員会は、ホテルかユースホステル、あるいは個人家庭への宿泊と資金援助について招待選手の所属 NF と交渉すること、およびこれを提供することは自由である。

## 2. 選手権大会と CSIOP

2.1 NF は自国のチーム監督、選手、グルーム、ポニーについて、選手権大会と CSIOP の開催地への往復旅費を負担する。

2.2 組織委員会については上記 1. に同じであるが、以下に示す項目は最低限遵守しなければならない：

- － ポニーの厩舎と飼料を無料で提供しなければならない；
- － グルームはできるだけ厩舎近くに滞在できるようにする。

2.3 役員については一般規程を適用する。

3. 特典はすべて、競技会および選手権大会の開催前日から終了の翌日まで供与される。

4. 適正な金額であればエントリー代を徴収してもよいが、FEI の承認が必要である。ヨーロッパ選手権大会については、ポニー 1 頭のエントリー代上限は 500 ユーロである。

5. チーム監督は競技会開催期間を通して、そのチームおよび／または個人選手の行動に責任を負う。損害が生じた場合は、チーム監督とその所属 NF が責任を負う。選手が個人家庭に宿泊しない場合は、チーム監督がそのチームおよび／または個人選手と同泊しなければならない。

上訴委員会は損害額を査定する権限を有する。競技場審判団および／または上訴委員会は、容認しがたい行為については競技会期間中を通してどの時点であっても、FEI 司法制度に従って罰金を科し、またそのチームおよび／または個人選手を失格とすることができる。

## 第9条 褒 賞

1. ポニー障害馬術競技会では、賞金および／または賞品を授与しなければならない。CSIP、CSIOP またはポニー障害馬術選手権大会で授与できる賞金総額は 8,000 ユーロまでである。賞品が贈られる場合は、そのおおよその価格を実施要項に記載しなければならない。

2. 選手権大会を除くすべての競技会において、その出場選手数の 4 分の 1、少なくとも第 5 位までの選手に、賞金がでない場合はリボンと賞品、あるいは記念品を授与しなければならない。上位 4 名の個人選手には厩舎プレートを授与することが望ましい。

3. 選手権大会では少なくとも次のような賞を授与しなければならない：

3.1 フェアウェル競技では、その出場選手数の 4 分の 1、少なくとも第 5 位までの

選手に賞金および／または賞品、厩舎プレート、リボンを授与する。

- 3.2 団体選手権競技では FEI メダルを 5 名のチームメンバー全員に授与する（一般規程第 104 条 2.2.5 参照）。優勝した NF へは、総会にて FEI トロフィーを授与する。更に上位 4 チームには、選手 5 名各々に賞金および／または賞品、厩舎プレート、リボンを授与する。
- 3.3 個人選手権競技では FEI メダルを授与する（一般規程第 104 条 2.2.5 参照）。更に出場選手数の 4 分の 1、少なくとも第 5 位までの選手に賞金および／または賞品、厩舎プレート、リボンを授与する。
- 3.4 選手権大会では、表彰式に大変重要な意味合いをもたせてアリーナで行うべきであり、選手は馬に騎乗して臨む。
- 3.5 組織委員会はチーム監督と選手全員に記念品か厩舎プレートを進呈することとする。入賞チームの監督には厩舎プレートを授与しなければならない；上位 3 チームの監督には賞品も授与しなければならない。
- 3.6 組織委員会はこの他にも次のような賞をできるだけ多く授与するべきである：
  - 3.6.1 ベストスタイルの選手；
  - 3.6.2 スポーツマンシップ

## 第 10 条 ポニーのスクーリング

1. 競技会の第 1 競技が行われる前日の 18:00 から、競技会全体が終了するまで、選手のポニーは競技会あるいは選手権大会の開催地内外で選手以外の者が騎乗してスクーリングしてはならず、これに違反した場合は失権となる。しかし選手以外の人物が FEI スチュワード監視下で調馬索運動や引き運動などを行うことは認められる。
2. ポニーの健康とウェルフェアを考慮する獣医師、あるいは認定された FEI 役員が許可しない限り、いかなる目的でもポニーを厩舎、競技エリアあるいはスチュワード管轄エリアから退出させることはできない。
3. 各ポニーは到着時に組織委員会から交付される個体識別番号を、競技会期間中を通して使用する。この個体識別番号は当該ポニーが厩舎を離れる際には常時装着し、スチュワードを含むすべての役員がポニーを確認できるようにすることが義務づけられる。この個体識別番号をはっきり表示していない場合、最初は警告が発せられるが、繰り返し違反した場合は競技場審判団または上訴委員会によって当該選手に罰金が科せられる。

## 第 11 条 役 員

1. CSIP 競技会における審判員の選任は、障害馬術規程第 259 条の CSI2\* 規定に従わなければならない。

2. ポニー競技会に経験のある役員を競技場審判団と上訴委員会に加えるよう、組織委員会へは強く進言するものである。
3. 障害馬術の大陸選手権大会では、FEI が競技場審判団長、技術代表、外国人獣医師代表を選任しなければならない（本付則第 22 条 9 と第 22 条 11 参照）。障害馬術の大陸選手権大会については、競技場審判団メンバーの 2 名以上をレベル 3 かレベル 4 の障害馬術審判員リストから選考しなければならない。その他の審判員については、レベル 2 以上の障害馬術審判員リストから選考しなければならない。
4. 障害馬術競技で水濠障害が設けられている場合は、競技場審判団メンバーとして審判員を 1 名追加しなければならない。

選手権大会、および CSIOP での団体競技とグランプリでは、水濠障害審判員は少なくとも国内審判員でなければならない（障害馬術規程第 259 条 1 参照）。

## **第 12 条 パスポート**

1. 一般規程第 137 条と獣医規程第 1001 条を参照のこと。

## **第 13 条 ポニーの体高測定**

1. 獣医規程第 1014 条、1082 条～1088 条、一般規程第 137 条を適用する。
2. CH-EU-Pに出場するポニーはすべて競技開始前に現場で体高測定する。諸々の CSIPでは無作為に体高測定を行うこともできる。
3. FEIポニー体高測定をホースインスペクション前に行う場合には、最初のポニー体高測定をもって競技会期間の開始とする。この条項は一般規程に優先する。

## **第 14 条 実施要項**

1. ジュニア規程第 12 条を適用する。

## **第 15 条 ポニー障害馬術競技会および選手権大会規定**

1. ポニー障害馬術競技会と選手権大会は、以下に特に記載がない限り、障害馬術規程に則って開催しなければならない。

## **第 16 条 障害物**

1. 選手権大会と CSIOP のコースは 10～12 個の障害物で構成し、飛越数は 15 までとする。コンビネーション障害の数はダブル 1 個とトリプル 1 個、あるいはダブル 3 個までである。
- 1.1 他の競技会におけるコースも上述した規模の範囲内とし、必要な場合は出場す



る選手とポニーの水準に応じて変更する。

2. 障害物は頑強な造りであり、見栄えの良い外観でなければならない。ポニーは馬よりも体重が軽いことを考慮し、そのようなポニーがあてても障害物が落下するようにしなければならない。
3. 選手権大会における障害物の高さとの幅の上限は、ジャンプオフの場合を除いて次の通りである：
  - 3.1 フェアウェル競技では高さ 1.25m、幅 1.40m（トリプルバーでは 1.60m）を超えない大きさとする。
  - 3.2 第 1 競技と団体決勝では高さ 1.30m、幅 1.40m（トリプルバーでは 1.60m）まで。
  - 3.3 個人決勝では高さ 1.35m、幅 1.45m（トリプルバーでは 1.60m）まで。
4. CSIOP における障害物の高さとの幅の上限は、選手権大会における類似競技で指定されている規模を超えないこととする。
  - 4.1 CSIP 競技会では障害物の大きさに同様の上限を適用するが、第 1 ラウンドでは高さ 1.20m、幅 1.30m 以内とすることを推奨する。
  - 4.2 貸与ポニー形式での CSIP 競技会では、障害物の高さは 1.20m を超えてはならない。
5. ジャンプオフでは（障害馬術規程第 246 条 1 に従い）、最大 10cm まで障害物の高さを上げ、幅を広げることができるが、いかなる場合も高さは 1.40m まで、幅は 1.50m（トリプルバーでは 1.60m）以内とする。
6. 水濠障害については、踏切部分を含めて幅が 3.30m を超えてはならない。選手権大会と CSIOP では、踏切部分を含めて 3 m 以上を推奨する。選手権大会あるいは CSIOP の団体競技、ネーションズカップ競技で水濠障害を使用する場合は、第 2 ラウンドで横木の本数は任意だが FEI 認可のセイフティーカップを使用した垂直障害を水濠障害上に設置しなければならない；この障害物は水濠障害ではなく、垂直障害として審査する（障害馬術規程第 211 条 10 参照）。
7. コンビネーション障害の障害間距離は 7m 以上、11m 以内とする。

## **第 17 条 練習用障害物**

1. スクーリングエリアでの障害物は、その選手が出場準備をしている競技の該当ラウンドで使用されている障害物の大きさ（高さとの幅）を超えてはならない。
2. 特定の競技に向けた準備ではなく、障害飛越訓練を行うポニーライダーについて

は、障害物の高さ最大 1.35m、最大幅 1.45m を遵守しなければならない。

## **第 18 条 速 度**

1. すべての競技において速度は分速 350m とする。

## **第 19 条 服装と敬礼**

1. 騎乗中は 3 点で固定された保護用ヘッドギアを、顎紐を締めて着用することが義務づけられる。
2. いかなる選手も脱帽せず、頭を下げることで競技場審判団へ敬意を表わすものとする。
3. 色指定がない競技用ジャケット（襟はジャケットと同色かあるいは他の色でも良い）かクラブのユニフォームジャケット。白か淡黄褐色の乗馬ズボンかジョッパースーツと長靴。長靴は踵付きでなければならない。白のシャツにタイかハンティング・ストッキング。拍車の装着は任意であるが、もし使用する場合は、表面の滑らかな金属製でなければならない。柄がある場合、長靴から拍車先端までを測定した長さが 4cm 以内で、柄は後方を向いてなければならない。先端は鋭利であってはならない。柄がカーブしている場合、拍車は柄を下向き状態で着用しなければならない。歯車状の輪拍は許可されない。ハンマー拍車は上記要件を満たしていれば使用できる。硬質プラスチックや金属のノブ付きの金属あるいはプラスチック製「インパルス拍車」や柄のない「疑似拍車」は認められる。円盤状の輪拍は認められる。馬と接する面とすべての角はなめらかで丸くなければならない。

## **第 20 条 ヘッドギアの脱落と顎紐の緩み**

障害馬術規程第 256 条 1.4 を参照

## **第 21 条 馬装の検査**

1. 競技会あるいは選手権大会への到着時点から全大会が終了するまでは、常に競技会場全体で以下を適用する：
  - 1.1 手綱は銜かコンバーターにつけるか、あるいは頭勒に直接装着しなければならない。可動式ランニング・マルタンガールのみ使用が許可される。大勒は認められない。以下の銜と鼻革が許可される：
    - 1.1.1 銜  
銜はどのような素材のものでもよい（金属、ゴム、プラスチック、革など）が、製造された本来の形態で使用しなければならない。大勒は認められない。銜の直径は 10mm 以上とする。

注記：ワイヤ、ダブルワイヤ、あるいはチェーンビットは使用できない。次の銜が許可される：

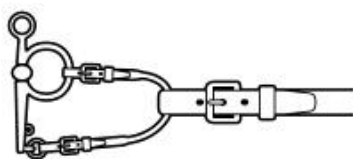
あらゆるタイプの水勒頭絡： ジョイント式、ダブルジョイント式、  
あるいはジョイントのないもの  
カーブのあるマウスピース  
ソフトなねじりあり（soft twisted）



あらゆるタイプのギャグ： ジョイント式あるいはジョイントのない  
通常タイプの水勒ギャグ

あらゆるタイプのペラム： ジョイント式、ダブルジョイント式、  
あるいはジョイントのないもの  
ソフトなねじりあり（soft twisted）  
頬枝の長さは 15cm まで

注記：ペラムはすべて一本手綱で使用しなければならない。手綱はコンバーターを使用するか、あるいは銜リングの大きい方へ装着して使用しなければならない。



シングルレーン用ストラップ（コンバーター）の例－ペラム

あらゆるタイプのキンバーウィック（Kimberwicks）

ペソア：スムーズな（ねじりのない）水勒ペソアのみ許可される。4 リングまで（最上部の頬部分のリング含む）。手綱はどのリングに装着していても良く、またコンバーターを使って装着しても良い；2 本手綱を使用しても良い。

ジョイント式、ダブルジョイント式、あるいはジョイントのないもの  
頬枝の長さは 16cm まで

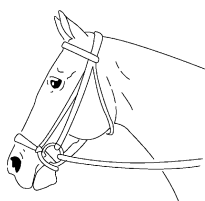
ハックモア：枝の長さは 17cm までとする（上のリング中央から下のリング中央までを測る。「グルメット（curb chain）」やストラップ付きのものでは、下のリング中央から枝と鼻革（nose piece）の連結部までを測らなければならない。FEI ウェブサイトに掲載されている国際障害馬術競技会メモランダムで写真を参照のこと。）

注記：ハックモアを銜と組み合わせて使うことはできない。

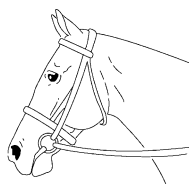
### 1.1.2 鼻革

鼻革は平らでなければならない。革以外の素材で作られた鼻革は許可されない。交叉鼻革で2本のストラップが交わる部分にシープスキンの小さいディスクを使用することはできる。ポニー障害馬術競技会では、次のような鼻革の使用が認められる：

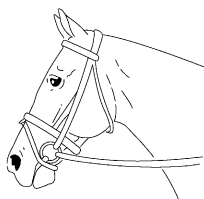
Dropped noseband  
ドロップ鼻革



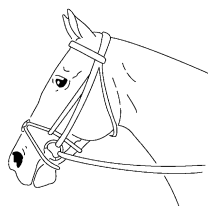
Cavesson noseband  
カブソン鼻革



Flash noseband  
フラッシュ鼻革



Crossed noseband  
交叉鼻革



上記の各種鼻革のバリエーションとして、これに限定するものではないが下図の鼻革は本条項に準拠し、適正に装着されていてポニーの呼吸を妨げていない場合に使用が認められる（詳細はスチュワードマニュアル参照）。



1.2 安全確保の観点より、鐙と鐙革（セイフティ鐙にも適用される）はあおり革の外側で鞍の托革から垂れ下がっていなければならない。選手は直接あるいは間接的にであれ、自分の体のいかなる部分も馬具に縛り付けてはならない。

1.3 鞭の長さ上限：75cm

- 1.4 ポニーの前肢あるいは後肢に装着が認められる装具（単一のブーツか複数のブーツ、フェットロックリングなど）の総重量は1肢あたり500グラムまでとする（蹄鉄は含まない）。
- 1.5 ポニー障害馬術競技会で使用できる後肢用ブーツの種類については、障害馬術規程第257条2.4と第257条2.5の記載を参照のこと。
- 1.6 舌紐の使用は禁止である。舌押さえの使用については獣医規程第1046条5を参照のこと。
2. 競技アリーナにて：
  - 2.1 ブリンカーと馬の目を覆うフライマスクの使用は禁止である。
  - 2.2 頭絡の頬革上に革、シープスキンもしくはこれに類する素材をあてることはできるが、馬の頬から測って直径3cmを超えないものとする。
  - 2.3 表彰式やパレードの間を除き、競技アリーナでの折り返し（ランニングレーン）の使用は禁止である。
3. 第21条1と第21条2に記載の規定遵守を怠った場合は失権となる。
4. 競技場審判団は獣医師からの助言に基づき、ポニーが怪我をしそうな銜や拍車の使用を禁止する権限がある。
5. スチュワードを選任して、アリーナ入場前に各ポニーの馬装を点検しなければならない。

## **第22条 大陸障害馬術選手権大会**

1. 参加申込

FEI 障害馬術部門ディレクターから実施要項の承認を受けた後、開催国 NF はその実施要項とともに招待状を該当する大陸の NF へ送付する。
2. チーム
  - 2.1 各 NF は選手6名、ポニー6頭以内の構成で1チームを参加申込でき、このうち選手5名とポニー5頭を選手権大会へ派遣し、選手4名とポニー4頭が団体決勝に出場できる。
  - 2.2 組織委員会はチーム監督に招待状を送付するとともに、チーム監督には選手と同等の特典を供与しなければならない。
3. チームに代わる個人選手

チームを派遣できない NF は、1名あるいは2名の個人選手を各々1頭のポニーとともに参加申込できる。

4. NF はポニー 2 頭につきグルームを 1 名、各チームにつき 2 名までのグルームを派遣できる。

5. 参加申込は一般規程第 116 条 2.2(i)～第 116 条 2.2(ii)に従い、2 段階に分けて行うこととする：

実施要項には、チームだけの派遣か、あるいはチームと個人選手の両方か、個人選手だけかを NF が通知する期限を記載することがある。ポニー大陸障害馬術選手権大会に参加申込できる選手とポニーのノミネートエントリーおよびデフィニットエントリー数の上限は以下の通り：

- ノミネートエントリー：選手 12 名とポニー12 頭
- デフィニットエントリー：選手 6 名とポニー6 頭で、このうち選手 5 名とポニー5 頭が選手権大会への派遣を認められる（上記第 22 条 2.1 参照）。

## 6. 競技方式

6.1 選手権大会は各々異なる日に行われる 3 競技で構成される。第 1 競技と、第 2 競技の各ラウンドにおける各国上位 3 選手の減点を合計してチーム順位を決定し、3 つの選手権競技各々における減点を合計して個人順位を決定する。

### 6.2 第 1 競技（団体と個人）

6.2.1 これはタイムレースの基準 A 競技であり、第 1 位で同点の選手がでてもジャンプオフを行わない（障害馬術規程第 238 条 2.1 参照）。選手が失権または棄権した場合は、最多減点の選手のスコアに減点 20 を加算した点数が当該選手の減点となる。もし当該選手の失権あるいは棄権するまでの減点が出場選手の中で最も多かった場合は、そのスコアに減点 20 が加算される。

6.2.2 第 1 競技における選手のスターティングオーダーは、障害馬術規程第 252 条に準拠した抽選で決定する。

### 6.3 第 2 競技（団体決勝、第 2 次個人）

6.3.1 この競技は同一コースで 2 ラウンド、あるいは難度は同じだが第 2 ラウンドは異なるコースにて、タイムレースでなく基準 A で行い、第 1 位、第 2 位および／または第 3 位で同点がでた場合にはタイムレースのジャンプオフを 1 回行う。

この競技には第 1 次予選競技に参加した選手とポニーのみ出場でき、団体順位については、出場を申告したチームメンバーのみを対象とする。

### 6.3.2 第 2 競技のスターティングオーダー

第 2 競技のスターティングオーダーは、障害馬術規程第 252 条に則って行われる第 1 ラウンドの抽選結果に従う。第 2 ラウンドのスターティングオーダーは、第 1 競技における各国選手 5 名から上位 3 選手の減点と団体決勝第 1 ラウンドでの各

チーム上位 3 選手の減点を合算したリバースオーダーとする。

第 2 ラウンドでは個人選手がチームの前に出場する。個人選手とチーム選手が同減点であった場合は、第 1 ラウンドでのスターティングオーダーを採用する。

ジャンプオフとなった場合のスターティングオーダーは、第 2 ラウンドのスターティングオーダーを採用する。

ジャンプオフが 2 回必要となった場合は、第 3 位決定のジャンプオフを第 2 位および第 1 位決定のジャンプオフに先がけて行うものとする。

第 2 ラウンドへの出場は、第 1 競技と団体決勝第 1 ラウンド終了後の成績で上位 10 チームと、第 10 位で同順位のチームに限定される。

上位 10 チームと第 10 位で同順位のチームが第 2 ラウンドを開始する前に、個人選手と第 2 ラウンドへ予選通過できなかったチームメンバー全員が第 3 競技への第 2 ラウンド予選に出場できる。第 2 ラウンド予選と団体競技第 2 ラウンドとの間には、30 分以上のブレイクを設けなければならない。

#### 6.4 フェアウェル競技

組織委員会は、個人決勝へ出場資格を得られなかった選手を対象として、個人選手のフェアウェル競技を 1 回設けなければならない。この競技は基準 A 採用でタイムレースとしてジャンプオフなしで審査する（障害馬術規程第 238 条 2.1 参照）か、あるいは基準 A 採用でタイムレースとし、第 1 位で同減点の選手がでた場合はタイムレースのジャンプオフを 1 回行う（障害馬術規程第 238 条 2.2 参照）。

#### 6.5 第 3 競技（個人決勝）

##### 6.5.1 この競技は 2 つの異なるコースのラウンド A とラウンド B で構成し、各々基準 A を採用してタイムレースではなく行われる。

出場できるのは、第 1 競技と第 2 競技の減点合計で上位 60%の選手（最下位同順位の選手を含む）である。この競技へ出場できる選手数は 15 名以上、30 名以内とする。しかし予選通過の最下位順位で同減点の選手は、出場選手数が 30 名を超えた場合でも全員が個人決勝へ出場できる。

選手は（完走あるいは完走しないにかかわらず）第 1 競技に出場しており、また第 2 競技を（失権あるいは棄権することなく）完走していなければならない。もし何らかの理由で出場資格を得た選手のうち 1 名またはそれ以上の選手が出場できな

い場合でも、次点の選手の繰り上げ出場は行わない。

ラウンド A を完走した選手は全員がラウンド B へ出場する。両ラウンドでの減点を合算する。

選手はラウンド B のコース下見を行うことができる。

#### 6.5.2 スターティングオーダー

ラウンド A のスターティングオーダーは、選手権の第 1 競技と第 2 競技で生じた減点合計のリバースオーダーとする。どの順位についても同減点となった場合は、第 1 競技の成績でスターティングオーダーを決定する。従って最下位で予選通過した選手が最初の出場となる。

ラウンド B のスターティングオーダーは第 1 競技、第 2 競技、およびラウンド A で生じた減点合計のリバースオーダーとする。最多減点の選手が最初に出場し、最少減点の選手が最後の出場となる。同減点の選手がでた場合は、第 1 競技の成績でスターティングオーダーを決定する。

### 7. 出場選手の申告

- 7.1 チーム監督は第 2 競技前日の 18:00 までに、チーム構成（3 組以上、4 組以内の選手／ポニーコンビネーション）を組織委員会へ書面にて申告しなければならない。5 組目のコンビネーション（選手／ポニー）は個人選手として第 2 競技に出場でき、予選を通過すれば第 3（個人決勝）競技にも出場できる。
- 7.2 チームメンバー 4 名のうち 1 名、またはポニー 4 頭のうち 1 頭が事故あるいは病気となった場合に限り、5 組目のコンビネーション（選手／ポニー）がチームメンバーとして交代できるが、ただしチーム監督が競技場審判団から承認を受けた場合とする。このような交代は、団体決勝の第 1 ラウンド開始の 1 時間前までである。
- 7.3 選手権大会が CSI 開催中に行われる場合、組織委員会は選手権大会の出場選手に別のポニーで CSI 競技への出場を認めることがある。しかし選手権大会で騎乗するポニーは競技会への到着前に申告しなければならず、代替することはできない。

### 8. 障害物とコース

前述の第 16 条を参照のこと。

### 9. 競技場審判団と外国人技術代表

競技場審判団長と外国人技術代表については、FEI 障害馬術部門ディレクターが障害馬術委員会と協議のうえ選任しなければならない。彼らの選任と競技場審判団メ



ンバーの選任については、一般規程に定める要件に準拠しなければならない。

#### 10. 上訴委員会

上訴委員会の構成、および上訴委員長とメンバーの選任は、一般規程に定める要件に準拠しなければならない。

CSIP 競技会では上訴委員会の設置は義務づけられない。

#### 11. 獣医師代表団

獣医師代表団の構成、および獣医師代表団長とメンバーの選任は、獣医規程に定める要件に準拠しなければならない。

#### 12. 本付則に網羅されていない状況については、競技場審判団が FEI の一般規程と障害馬術規程に則り、選手権順位を公正に決定するにあたり最善と思われる決断を下す。

#### 13. 落馬

選手の落馬あるいはポニーの転倒で、選手は当該競技から失権となる。これはネーションズカップ競技および選手権競技でも同様である。しかしながら、公式医師と競技場審判団が承認した場合に限り、ネーションズカップの第 2 ラウンドには出場できる。失権した選手の成績は当該ラウンドで最下位となった選手のスコアに減点 20 が加算される（第 22 条 6.2.1 と第 22 条 15.2 参照）。

#### 14. 団体順位

14.1 団体順位は第 1 競技、および団体決勝における 2 回走行の各走行で、各国上位 3 選手の減点を合計して決定する。第 2 ラウンドへの出場資格を得られなかったチームについては、団体決勝の第 1 ラウンドにおけるチーム内上位 3 選手の成績をカウントする。

14.2 第 1 ラウンドあるいは第 2 ラウンドを完走していないチーム選手については、当該ラウンドを完走した最下位のチーム選手のスコアに減点 20 を加算する。

14.3 第 1 位、第 2 位および／または第 3 位で同減点のチームがでた場合は、タイムレースのジャンプオフを 1 回行わなければならない、チームメンバーは全員が参加する。ジャンプオフが 2 回必要となった場合は、第 1 位と第 2 位を決定するジャンプオフの前に第 3 位決定戦を行わなければならない。ジャンプオフでの順位は、各チーム上位 3 選手の減点とタイムを合計して決定する。それでも同減点、同タイムの場合は同順位となる。

14.4 その他の順位で同減点の場合は同順位となる。

14.5 この競技では団体順位に加えて個人順位も決定して賞を授与する。

## 15. 個人順位

15.1 個人順位は各選手の第1次予選競技、第2次予選競技の2回走行（ジャンプオフが行われた場合でもその減点は含めない）、第3競技（個人決勝）のラウンドAとラウンドBの減点を合計して決定する。

15.2 第1位、第2位および／または第3位で同減点の選手がでた場合は、タイムレースのジャンプオフを1回行わなければならない。ジャンプオフが2回必要となった場合は、第1位と第2位を決定するジャンプオフの前に第3位決定戦を行う。それでも同減点、同タイムの場合は同順位となる。

15.3 個人決勝競技では2種類の順位付けを行わなければならない；1つは個人メダル受賞者の順位付け、もう1つはこの競技に参加した選手全員の順位付けである。後者の順位ではラウンドAとラウンドBの成績のみをカウントする。同減点の選手は同順位となる。

## 第23条 選手権大会以外の競技会

### 1. CSIOP

1.1 障害馬術規程第238条あるいは第273条3.1、3.2、3.3に従い、実施要項には公式団体競技とグランプリ競技を組み込まなければならない。組織委員会はFEIの許可を受けて、開催国NFのポニーライダーを追加して招待することができる。

1.2 下記2.に従うものとして、本付則第22条の該当条項をCSIOPに適用する。

### 2. 選手権大会以外のCSIPとCSIOP

2.1 公式団体競技と非公式団体競技を行う場合は、可能な限り障害馬術規程第264条に則って開催する。

2.2 障害馬術規程あるいは実施要項に明記していない限り、団体競技あるいは個人競技で第1位を決定するジャンプオフは行わない。

2.3 組織委員会は、選手権大会のための競技プログラムに必ずしも固執する必要はないが、前述の1.1（CSIOP）に従い、実情に最も相応しく、選手が楽しめて観客も楽しませることができるような実施要項の策定を推奨する。

2.4 障害馬術規程第238条に則って行われる競技を軽視するものではないが、基準Cによる競技や、障害馬術規程第265条～第271条に掲載の特別競技も考慮するべきである。だが障害馬術規程第262条2（ピュイッサンス競技）と障害馬術規程第262条3（六段障害飛越競技とオブスタクル・イン・ライン競技）に基づく競技は認められない。

2.5 自然障害を利用できる場合は、「ポニー・ダービー」と名称をつけた競技を障害馬術規程第277条に則って開催することができるが、この場合はコース全長の指定はない。この競技は基準Aあるいはタイムレースとして1ラウンドで行うか、基準Aにて1ラウンドとジャンプオフ1回で行うか、もしくは基準Cで行うことができる（障害馬術規程第277条参照）。

2.6 選手権競技を除き、少年と少女を対象とした競技を行うことができる。

### 3. 落馬

第 22 条 13 を参照のこと。

## 付則 12 チルドレン競技会規程

### 第 1 章 緒 言

#### 第 1 条 概 要

1. チルドレンの参加は世界の馬術競技の発展に重要な要素である。
2. 以下に定める一連の規則の目的は、馬に騎乗するチルドレンに特化した配慮をほどこし、世界中の様々なタイプのチルドレン競技会と競技を規格統一することにある。

#### 第 2 条 諸規程の優先性

本規程に網羅されていない事柄についてはすべて、一般規程、獣医規程、障害馬術規程を適用する。

### 第 2 章 出場資格

#### 第 3 条 チルドレンの定義

1. 選手は 12 歳となる暦年の始めから 14 歳となる暦年の終わりまで、チルドレンカテゴリーで競技に出場できる。
2. チルドレン競技会では、選手は馬でのみ出場できる。ポニーで出場することは認められない。

### 第 3 章 国際競技会と FEI 選手権大会

#### 第 4 条 競技会の種類

1. 馬で競技に出場するチルドレンのための障害馬術競技会としては、次の種類がある：国際競技会（CSIch）、公式国際競技会（CSIOCh）、選手権大会
2. CSIch は開催国 NF の個人選手、および参加 NF 数に制限を設けず諸外国からの個人選手を対象とする国際競技会である。
  - 2.1 チルドレンを対象とする国際障害馬術競技会は次のように区分される：CSIch カテゴリー A（賞金が授与される競技会）と CSIch カテゴリー B（賞金なしの競技会）
  - 2.2 これらの競技会では、「ネーションズカップ」と表記できない厳格に非公式な団体競技を開催できるが、選手数は各チーム 3～4 名に限定しなければならない。

3. CSIOCh はチームを派遣する 3 NF 以上を対象とする公式国際競技会である。
- 3.1 該当する競技種目規程に定める通り、公式団体競技と公式個人競技を含めなければならない。
- 3.2 どの競技種目についても、同一 NF で同一年に開催できる CSIOCh は屋内で 1 回、屋外で 1 回の合計 2 回までとする。
- 3.3 CSIOCh は、既に競技カレンダーに組み込まれているチルドレン国際競技会の開催を妨げない場合に限り、FEI 事務総長の判断によって、その年のカレンダーへの組み込みを認められることがある。
- 3.4 このような競技会へは開催国 NF から 1 チーム、外国からは各 NF につき 1 チームが参加できる。
- 3.4.1 CSIOCh 競技会への招待について、組織委員会は次の方式のいずれかを選択できる：
- － 本付則第 19 条 2.1 と第 19 条 3.1 に従う；あるいは
  - － 障害馬術規程第 249 条 1 と第 249 条 2 に従う。
- 3.5 いずれの競技種目でも、団体競技は選手 4 名と馬 4 頭でチームを構成し、このうち上位 3 選手の成績をカウントする。3 名構成のチームも認められる。
4. 貸与馬での国際競技会
- 4.1 FEI 事務総長の同意があれば、組織委員会が提供する馬を用いて CSIOCh 競技会および CSIOCh 競技会を開催できる。この場合は貸与馬競技会であることを明示しなければならない。例えば CSIOCh カテゴリー A（貸与馬）。
- 4.2 大陸選手権大会を貸与馬で開催することはできない。
- 4.3 FEI 事務総長の同意があれば、組織委員会は貸与馬を提供する競技会で様々な方式を採用することはできるが、推奨される方式は次の通りである：
- 4.3.1 開催国 NF の選手が各々馬を 2 頭提供する。抽選を行って外国人選手と開催国選手とを組み合わせる。もう 1 回抽選を行って、開催国選手の馬のどちらかを相手の外国人選手に割り当てる。開催国 NF の選手は外国人選手に割り当てられなかったもう片方の馬に騎乗する。
- 4.3.2 開催国 NF の選手が各々馬を 2 頭提供する。外国人選手は各々、開催国 NF の各選手が騎乗する馬を抽選する。残った馬を集めてもう 1 回抽選を行い、外国人選手に割り当てる。
- 4.3.3 組織委員会が馬を全頭提供し、抽選で出場選手に割り当てる。
- 4.3.4 開催国 NF の選手が各々馬を 1 頭提供する。抽選を行って外国人選手と開催国選手の組み合わせを行う。各馬には開催国 NF 選手と外国人選手が騎乗する。第 1 競技では開催国 NF 選手が先に自分の馬に騎乗する。
- 4.3.5 貸与馬競技にはすべて次の規則を適用する：
- 4.3.6 外国人選手には十分な頭数のリザーブ馬を提供しなければならない。明らかに外国人選手には不適当と思われる馬は、リザーブ馬に変更しなければならない。

このような馬の交代は競技場審判団の承認が必要である。

- 4.3.7 どの選手も1時間の騎乗セッションで、抽選で決定した馬に少なくとも1回は騎乗する機会が与えられる。
- 4.3.8 トレーニングセッションで飛越できるのは障害物6個までとする。クロスバーはこれにカウントしない。
- 4.3.9 組織委員会はスクーリングセッションを統括する規則を定める。
- 4.3.10 リバプール、乾壕、そしてバンクなどの自然障害は使用できない。
- 4.3.11 遅くとも第1競技の2日前までには馬を割り当てなければならない。
- 4.3.12 馬には毎日1回、1時間まで騎乗できる。
- 4.3.13 ホースオーナーから承諾を得ている場合に限り、競技会開催中に馬のトレーナーか他の人物が当該馬をスクーリングすることは可能である。
- 4.3.14 馬には日常使われている銜であり、抽選に際して臨場した時の銜を使用して騎乗しなければならない。ホースオーナーの同意があった場合にのみ銜を替えることができる。
- 4.3.15 1個の障害物で3回飛越を試みた場合は、障害物1個の飛越とカウントする。ダブル1個あるいはトリプル1個は、障害物1個とカウントする。
- 4.3.16 以下に別段の記載がある場合を除き、4.3.4に則って行われる貸与馬競技には上述の規則および次の規則を適用する。
- 4.3.17 競技開催日には、前段の選手と後段の選手は各々6個の障害物を飛越することができる。
- 4.3.18 コース上の障害物の数は合計8個までとし、飛越数は10回以内とする。ダブルを2個あるいはトリプルを1個、使用することができる。
- 4.3.19 第1競技では、先ず開催国NFの選手が騎乗しなければならない。
- 4.3.20 開催国NFの選手数に見合うだけの十分な数の外国人選手がいない場合は、外国人選手の間で抽選を行い、割り当てから外れている余剰馬に誰が騎乗するかを決めて、すべての馬が1日に2回出場するようにする。

## **第5条 大陸選手権大会**

- 1. 毎年、各大陸にて大陸選手権大会を開催できる（一般規程第106条参照）。
- 2. 選手権大会はできるだけ学校の長期休暇中に開催する（ヨーロッパにおいては7月中旬から8月中旬）。
- 3. 選手権大会は屋外で開催する。
- 4. 大陸選手権大会はその大陸にあるすべてのNFを対象とする。
- 5. FEIがCSIOChと選手権大会の開催を承認する。選手権大会の開催を希望するNF

は、一般規程に定める要領で申請しなければならない。

6. 選手権大会は一般規程、当該種目の競技会規程、本規程を厳格に遵守して開催しなければならない。
7. 大陸選手権大会は、開催国 NF を含めて 4NF 以上の参加があつて初めて開催できるが、ヨーロッパ域外では開催国 NF を含めて少なくとも 2NF から地域チームの参加があれば大陸選手権大会を開催できる。関与する NF が地域チーム基準を定める。参加申込の締切日以降、選手権大会の開始前に出場を取り止めた NF については出場とみなされる。
8. ヨーロッパ障害馬術選手権ではエントリー代が課されることがあるが、400 ユーロを上限とする。他の大陸選手権では適正な金額であればエントリー代を徴収してもよいが、FEI の承認が必要である。
9. 所属 NF から公式に参加申込されたチームおよび／または個人選手だけが出場できる。

## **第 6 条 国際競技会と選手権大会への出場資格**

1. 該当年齢に達している選手は、2 つ以上のカテゴリーで競技および選手権大会に出場できるが、各競技種目につき 1 暦年の間に出場できる大陸選手権大会は 1 カテゴリーのみである。
  - 1.1 14 歳となる年にジュニア対象の大陸障害馬術選手権競技に出場した選手は、それ以後、チルドレン選手権大会に参加することはできなくなる。
  - 1.2 選手はその所属 NF から明確な許可があれば、12 歳の誕生日を迎える年から特定のシニア国際競技に参加できる（障害馬術規程第 255 条参照）。
  - 1.3 選手は同じ競技会場で同一日程にて行われる CSIOCh と CSIOJ に出場することはできない。しかし該当年齢に達している選手は、同じ競技会場で同一週に行われる CSIOCh に馬で出場し、CSIOP にポニーで出場することはできる。

## **第 7 条 経費と特典**

1. 競技会

チルドレンを対象とする競技会の組織委員会は、ホテルかユースホステル、あるいは個人家庭への宿泊と資金援助について招待選手の所属 NF と交渉すること、およびこれを提供することは自由である。
2. 選手権大会と CSIOCh 競技会
  - 2.1 NF は自国のチーム監督、選手、グルーム、馬について、選手権大会と CSIOCh

競技会の開催地への往復旅費を負担する。

2.2 組織委員会については上記 1.に同じであるが、以下に示す項目は最低限遵守しなければならない：

- － 組織委員会は厩舎と飼料を無料で提供しなければならない；
- － グループはできるだけ厩舎近くに滞在できるようにする。

2.3 役員については一般規程を適用する。

3. 特典はすべて、競技会の開催前日から終了の翌日まで供与される。

4. チーム監督は競技会開催期間を通して、そのチームおよび／または個人選手の行動に責任を負う。損害が生じた場合はチーム監督とその所属 NF が責任を負う。選手が個人家庭に宿泊しない場合、チーム監督はそのチームおよび／または個人選手と同泊しなければならない。

上訴委員会は損害額を査定する権限を有する。競技場審判団および／または上訴委員会は、容認しがたい行為については競技会期間中を通してどの時点であっても、FEI 司法制度に従って罰金を科し、またそのチームおよび／または個人選手を失格とすることができる。

## 第8条 褒 賞

1. チルドレン競技会では、賞金および／または賞品を授与しなければならない。CSIch、CSIOCh またはチルドレン障害馬術選手権大会で授与できる賞金総額は 8,000 ユーロまでである。賞品が贈られる場合は、そのおおよその価格を実施要項に記載しなければならない。

2. 選手権大会を除くすべての競技会において、その出場選手数の 4 分の 1、少なくとも第 5 位までの選手に、賞金がでない場合はリボンと賞品、あるいは記念品を授与しなければならない。上位 4 名の個人選手には厩舎プレートを授与することが望ましい。

3. 選手権大会では少なくとも次のような賞を授与しなければならない：

3.1 フェアウェル競技では、その出場選手数の 4 分の 1、少なくとも第 5 位までの選手に賞金および／または賞品、厩舎プレート、リボンを授与する。

3.2 団体選手権競技では FEI メダルを 5 名のチームメンバー全員に授与する（一般規程第 104 条 2.2.5 参照）。優勝した NF へは、総会にて FEI トロフィーを授与する。更に上位 4 チームには、選手 5 名各々に賞金および／または賞品、厩舎プレート、リボンを授与する。

- 3.3 個人選手権競技では FEI メダルを授与する（一般規程第 104 条 2.2.5 参照）。更に出場選手数の 4 分の 1、少なくとも第 5 位までの選手に賞金および／または賞品、厩舎プレート、リボンを授与する。
- 3.4 選手権大会では、表彰式に大変重要な意味合いをもたせてアリーナで行うべきであり、選手は馬に騎乗して臨む。
- 3.5 組織委員会はチーム監督と選手全員に記念品か厩舎プレートを進呈することとする。入賞チームの監督には厩舎プレートを授与しなければならない；上位 3 チームの監督には賞品も授与しなければならない。
- 3.6 組織委員会はこの他にも次のような賞をできるだけ多く授与するべきである：
- 3.6.1 ベストスタイルの選手；
- 3.6.2 スポーツマンシップ

## 第 9 条 馬

### 1. スクーリング

競技会あるいは選手権大会の第 1 競技が行われる前日の 18:00 から、競技会あるいは選手権大会全体が終了するまで、選手の馬は競技会あるいは選手権大会の開催地内外で選手以外の者が騎乗してスクーリングしてはならない。これに違反した場合は失権となる。しかし選手以外の人物が FEI スチュワード監視下で調馬索運動や引き運動などを行うことは認められる。貸与馬競技会に限り、ホースオーナーが認めた場合は、トレーナーあるいはトレーナーが委託した人物が上述期間に選手の馬をスクーリングすることは認められる。

### 2. コントロール

自分の馬の制御ができないチルドレン選手については、競技場審判団の判断で競技開始前あるいはラウンド走行中に、競技あるいは競技会全体から出場を取り止めさせられることがある。

### 3. 個体識別

馬は競技会期間中を通して指定の厩舎へ入れなければならない。これに違反した場合は失格となる。

各馬は到着時に組織委員会から交付される個体識別番号を、競技会期間中を通して使用する。スチュワードを含むどの役員でも馬の個体識別ができるよう、厩舎から出る時にはいつでもこの番号を付けていることが義務づけられる。この番号の提示を怠った場合は先ず警告カードが渡され、再犯の場合は FEI 司法手続きに従い、競技場審判団あるいは上訴委員会から当該選手に罰金が科せられる。



## **第 10 条 役 員**

1. カテゴリー A の CSIch 競技会における審判員の選任は、障害馬術規程第 259 条の CSI2\* 規定に従わなければならない。カテゴリー B の CSIch 競技会における審判員の選任は、障害馬術規程第 259 条の CSI1\* 競技会規定に従わなければならない。
2. チルドレン競技に経験のある役員を競技場審判団と上訴委員会に加えるよう、組織委員会へは強く進言するものである。
3. 大陸選手権大会では、FEI が競技場審判団長、技術代表、外国人獣医師代表を選任しなければならない（本付則第 26 条と第 27 条参照）。

## **第 11 条 パスポート**

1. 一般規程第 137 条と獣医規程第 1001 条を適用する。

## **第 12 条 実施要項**

1. ヤングライダーとジュニア規程第 12 条を適用する。

## **第 13 条 チルドレン障害馬術競技会および選手権大会規定**

1. チルドレン障害馬術競技会と選手権大会は、以下に特に記載がない限り、障害馬術規程に則って開催しなければならない。

## **第 14 条 障害物**

1. CSIch あるいは CSIOCh では、ジャンプオフの場合を除いて障害物は高さ 1.30m、幅 1.40m を超えてはならず、またジャンプオフでは 6～8 個の障害物でコースを構成し、そのうち 4 個までは高さ最大を 1.30m とする。大陸選手権大会における障害物の高さ最大については第 23 条を参照のこと。
2. バンク、堆土、傾斜路の使用は認められない。横木の数は任意だが FEI 認可セイフティーカップを使用して垂直障害を設置した最大幅 2.50m の水濠障害は許可される；この障害物は水濠障害としてではなく、垂直障害として審査される（障害馬術規程第 211 条 10 参照）。
3. リバプールの使用は認められる。

## **第 15 条 速 度**

1. CSIOCh と選手権大会の競技では、速度を分速 350m としなければならないが、その他の競技では分速 300～350m の間で定めることができる。

## 第 16 条 基準「C」競技

1. 基準「C」競技は認められない。

## 第 17 条 服装と敬礼

1. 騎乗中は 3 点で固定された保護用ヘッドギアを、顎紐を締めて着用することが義務づけられる。
2. いかなる選手も脱帽せず、頭を下げることで競技場審判団へ敬意を表わすものとする。
3. 色指定がない競技用ジャケット（襟はジャケットと同色かあるいは他の色でも良い）かクラブのユニフォームジャケット、白か淡黄褐色の乗馬ズボンかジョッパーと長靴、白のシャツにタイかチョーカーが認められる。長靴は踵付きでなければならない。拍車の装着は任意であるが、もし使用する場合は、表面の滑らかな金属製のものでなければならない。柄がある場合、長靴から拍車先端までを測定した長さが 4cm 以内で、柄は後方を向いてなければならない、鋭利であってはならない。柄がカーブしている場合、拍車は柄を下向きの状態で着用しなければならない。歯車状の輪拍は許可されない。ハマー拍車は上記要件を満たしていれば使用できる。硬質プラスチックや金属のノブ付きの金属あるいはプラスチック製の「インパルス拍車」や柄のない「疑似拍車」は認められる。円盤状の輪拍は認められる。馬と接する面とすべての角はなめらかで丸くなければならない。

## 第 18 条 馬 装

1. 競技アリーナにて
  - 1.1 馬装に制限はない。
  - 1.2 ブリンカーと馬の目を覆うフライマスクの使用は禁止である。頭絡の頬革上に革、シープスキンもしくはこれに類する素材をあてることはできるが、馬の頬から測って直径 3cm を超えないものとする。
  - 1.3 スタンディング・マルタンガールと可動式ランニング・マルタンガールの使用は認められる。
  - 1.4 手綱は銜につけるか、あるいは頭絡に直接装着しなければならない。ギャグとバックモアの使用が許可されている。
  - 1.5 表彰式やパレードの間を除き、競技アリーナでの折り返し（ランニングレーン）の使用は禁止である。
2. 競技会場内すべての場所：
  - 2.1 安全確保の観点より、鐙や鐙革（セイフティ鐙にも適用される）はあおり革の外側で托革から垂れ下がっていないなければならない。いかなる物でも鐙を固定するような器具の取り付けは許可されない。選手は直接あるいは間接的にであれ、自分の体のいか

なる部分も馬具に縛り付けてはならない。

2.2 アリーナ、スクーリングエリア、競技会場内および周辺のいかなる場所でも、選手は長さが75cmを超える鞭や先端に重りの付いた鞭を携帯したり使用することは禁止されている。鞭の代用品を携帯することも認められない。この条項に従わなかった場合は失権となる。

2.3 銜の規制はない。しかし競技場審判団には、獣医師の助言に基づき馬が怪我をしそうな銜の使用を禁止する権限がある。

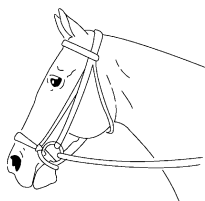
2.4 舌紐の使用は禁止である。舌押さえの使用については獣医規程第1046条5を参照のこと。

2.5 鼻革は平らでなければならない。革以外の素材で作られた鼻革は許可されない。交叉鼻革で2本のストラップが交わる部分にシープスキンの小さいディスクを使用することはできる。

チルドレン競技会で使用が許可される鼻革：

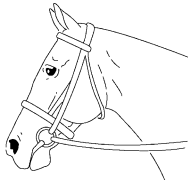
Dropped noseband

ドロップ鼻革



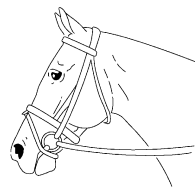
Cavesson noseband

カブソン鼻革



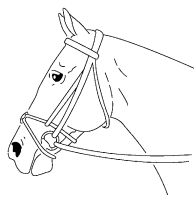
Flash noseband

フラッシュ鼻革



Crossed noseband

交叉鼻革



上記の各種鼻革のバリエーションとして、これに限定するものではないが下図の鼻革は本条項に準拠し、適正に装着されていて馬の呼吸を妨げていない場合に使用が認められる（詳細はスチュワードマニュアル参照）。



- 2.6 馬の前肢あるいは後肢に装着が認められる装具（単一のブーツか複数のブーツ、フェットロックリングなど）の総重量は、1 肢あたり 500g までとする（蹄鉄は含まない）。
- 2.7 FEI チルドレン障害馬術競技会で使用できる後肢用ブーツの種類については、障害馬術規程第 257 条 2.4 と第 257 条 2.5 の記載を参照のこと。
3. 競技アリーナにて第 18 条 1 と第 18 条 2 に記載の規定遵守を怠った場合は失権となる。

## **第 4 章 大陸および地域障害馬術選手権大会**

### **第 19 条 参加申込**

1. FEI 障害馬術部門ディレクターから実施要項の承認を受けた後、開催国 NF はその実施要項とともに招待状を大陸あるいは地域の該当する NF へ送付する。
2. チーム
  - 2.1 各 NF は選手 5 名、馬 5 頭以内の構成で 1 チームを参加申込できる。しかしヨーロッパ域外においては、関与する NF がチーム数およびチーム派遣の地域ベースを決定できる（本付則第 5 条 7 を参照）。組織委員会はチーム監督に招待状を送付しなければならない。このチーム監督には選手と同等の特典を供与する。選手権大会へのリザーブ馬の帯同は認められない。
  - 2.2 この選手 5 名と馬 5 頭すべてが後出の第 20 条 3 に従い、選手権大会の団体競技（後出の第 20 条 1 参照）および個人競技に参加できる。
3. チームに代わる個人選手
  - 3.1 チームを派遣できない NF は、1 名あるいは 2 名の個人選手を各々 1 頭の馬とともに参加申込できる。
4. 個人選手権タイトル保持者
  - 4.1 NF は前年に開催された FEI 選手権大会の個人タイトル所持者をタイトル防衛のため、自動的に派遣決定する権利はない。
5. NF は馬 2 頭につきグルームを 1 名、各チームにつき 2 名までのグルームを CSIOCh 競技会と選手権大会に派遣できる。
6. 参加申込は一般規程第 116 条 2.2(i)～第 116 条 2.2(ii)に従い、2 段階に分けて行わなければならない。

実施要項には、チームだけの派遣か、あるいはチームと個人選手の両方か、個人選手だけかを NF が通知する期限を記載することがある。チルドレン大陸障害馬術選手権大会に参加申込できる選手と馬のノミネートエントリーおよびデフィニットエントリー数の上限は以下の通り：

  - ノミネートエントリー：選手 10 名と馬 10 頭
  - デフィニットエントリー：選手 5 名と馬 5 頭

## 第 20 条 出場選手の申告

### 1. チームの申告

1.1 ヨーロッパにおける地域選手権大会と大陸選手権大会については、第 2 競技（団体決勝）前日の 18:00 までに、チーム監督がチーム構成（3 組以上、4 組以内の選手／馬コンビネーション）を組織委員会へ書面にて申告しなければならない。5 組目のコンビネーション（選手／馬）は個人として第 2 競技に出場でき、予選を通過すれば第 3 競技（個人決勝）にも出場できる。

1.2 ヨーロッパ域外の地域選手権大会と大陸選手権大会については、第 1 競技前日の 18:00 までに、チーム監督がチーム構成（3 組以上、4 組以内の選手／馬コンビネーション）を組織委員会へ書面にて申告しなければならない。5 組目のコンビネーション（選手／馬）は個人として第 1 競技と第 2 競技に出場でき、予選を通過すれば第 3 競技（個人決勝）にも出場できる。

2. チームメンバー 4 名のうち 1 名、または馬 4 頭のうち 1 頭が事故あるいは病気となった場合に限り、5 組目（選手／馬）がチームメンバーとして交代できるが、ただしチーム監督が競技場審判団の承認を得た場合とする。このような交代は、団体決勝の第 1 ラウンド開始の 1 時間前までとする。

3. 選手権大会が CSI 開催中に行われる場合、組織委員会は選手権大会の出場選手に別の馬で CSI 競技への出場を認めることがある。しかし選手権大会で騎乗する馬は競技会への到着前に申告しなければならない、代替することはできない。

## 第 21 条 馬の出場資格

### 1. 馬

1.1 馬は 6 歳以上でなければならない。

1.2 この選手権大会に出場できるのは、その前年および／または現行年にシニア対象の CSI0 でネーションズカップあるいはグランプリ競技に出場していない馬とする。

1.3 選手権競技が行われている競技会の期間中に、シニア対象のいかなる競技にも出場していないこと。

## 第 22 条 競 技

### 1. 1 日目 - トレーニングセッション

組織委員会は、メインアリーナにコンビネーション障害 1 個を含む約 8 個の障害物でコースを設定し、トレーニング時間を提供しなければならない。障害物の高さは約 1.15～1.20m、幅は約 1.25m でなければならない。

各選手とも 1 頭につき 90 秒まで使うことができる。服装は略式でよい；長靴と乗馬ズボン、シャツ、保護用ヘッドギアの着用が義務づけられる。

観客から入場料を徴収してはならず、またいかなる賞も授与してはならない。

## 2. 2 日目－第 1 競技（団体と個人）

基準 A、タイムレース、ジャンプオフなし（障害馬術規程第 238 条 2.1 参照）

### 2.1 第 1 競技のスターティングオーダー

第 1 競技のスターティングオーダーは、障害馬術規程第 252 条に準拠した抽選で決定する。

## 3. 3 日目－第 2 競技（団体決勝、第 2 次個人）

3.1 この競技は同一コースで 2 ラウンド、あるいは難度は同じだが第 2 ラウンドは異なるコースにて、タイムレースでなく基準 A で行い、第 1 位、第 2 位および／または第 3 位で同点がでた場合にはタイムレースのジャンプオフを 1 回行う。  
この競技には第 1 競技（前述 2.）に参加した選手と馬だけが出場できる。団体順位については、出場を申告したチームメンバーのみを対象とする。

### 3.2 第 2 競技のスターティングオーダー（団体決勝）

3.2.1 ヨーロッパにおける地域選手権大会と大陸選手権大会の第 2 競技第 1 ラウンドのスターティングオーダーは、障害馬術規程第 252 条に準拠した抽選で決定する。第 2 ラウンドのスターティングオーダーは、第 1 競技における各国選手 5 名から上位 3 選手の減点と、団体決勝第 1 ラウンドにおける各チーム上位 3 選手の減点を合計したリバースオーダーとする。

3.2.2 ヨーロッパ域外の地域選手権大会と大陸選手権大会における第 2 競技第 1 ラウンドのスターティングオーダーは、障害馬術規程第 252 条に準拠した抽選で決定する。第 2 ラウンドのスターティングオーダーは、第 1 競技における各チーム上位 3 選手の減点と団体決勝の第 1 ラウンドでの各チーム上位 3 選手の減点を合計したリバースオーダーとする。

3.3 第 2 ラウンドでは個人選手がチーム選手よりも先に出場する。個人選手あるいはチームで同減点がでた場合は、第 1 ラウンドでのスターティングオーダーを採用する。

### 3.4 ジャンプオフでのスターティングオーダー

ジャンプオフとなった場合のスターティングオーダーは、第 2 ラウンドでのスターティングオーダーを採用する。

ジャンプオフが 2 回必要となった場合は、第 3 位決定のジャンプオフを第 2 位および第 1 位決定のジャンプオフに先がけて行うものとする。

### 3.5 第 2 ラウンドでのチーム数

第 2 ラウンドへの出場は、第 1 次予選競技と団体競技第 1 ラウンド終了後の成績で上位 10 チームと、第 10 位で同順位のチームに限定される。

上位 10 チームと第 10 位で同順位のチームが第 2 ラウンドを開始する前に、個人選手および第 2 ラウンドへ予選通過できなかったチームメンバー全員が第 3 競技に向けた第 2 ラウンド予選に出場できる。第 2 ラウンド予選と団体競技第 2 ラウンドとの間には、30 分以上のブレイクを入れなければならない。

#### 4. 4 日目

##### 4.1 フェアウェル競技

組織委員会は、個人決勝へ出場資格を得られなかった選手を対象として、個人選手のフェアウェル競技を 1 回設けなければならない。

個人選手権競技への出場資格を得られなかった選手を対象とする（下記 4.2.1 に従う）。この競技は基準 A 採用でタイムレースとしてジャンプオフなしで審査する（障害馬術規程第 238 条 2.1 参照）か、あるいは基準 A 採用でタイムレースとせず、タイムレースのジャンプオフを 1 回行う（障害馬術規程第 238 条 1.2 参照）。速度は分速 350m。

##### 4.2 第 3 競技（個人決勝）

###### 4.2.1 競技の進行

この競技はラウンド A とラウンド B で構成し、各々基準 A を採用してタイムレースではなく、分速 350m で行われる。

出場資格があるのは、第 1 次予選競技と第 2 次予選競技の減点合計で上位 60% の選手（予選通過最下位で同順位の選手を含む）である。この競技へ出場できる選手数は 15 名以上、30 名以内とする。しかし予選通過最下位順位で同減点の選手は、出場選手数が 30 名を超えた場合でも全員が個人決勝へ出場できる。

選手は（完走あるいは完走しないにかかわらず）第 1 競技に出場しており、また第 2 競技を（失権あるいは棄権することなく）完走していなければならない。第 1 競技で失権あるいは棄権した選手の成績は、最も減点の多かった選手のスコアに減点 20 を加算したものとする。もし当該選手が失権あるいは棄権するまでの減点が出場選手の中で最も多かった場合は、そのスコアに減点 20 が加算される。もし何らかの理由で出場資格を得た選手のうち 1 名またはそれ以上の選手が出場できない場合でも、次点の選手の繰り上げ出場は行わない。

ラウンド A を完走した選手は全員がラウンド B へ出場する。両ラウンドの減点を合算する。

選手はラウンド B のコース下見を行うことができる。

###### 4.2.2 スターティングオーダー

ラウンド A のスターティングオーダーは、選手権の第 1 次予選競技と第 2 次予選競

技で生じた減点合計のリバースオーダーとする。どの順位についても同減点となった場合は、第1次予選競技の成績でスターティングオーダーを決定する。従って最下位で予選通過した選手が最初の出場となる。

ラウンドBのスターティングオーダーは、第1次予選競技と第2次予選競技、およびラウンドAで生じた減点合計のリバースオーダーとする。最多減点の選手が最初に出場し、最少減点の選手が最後の出場となる。同減点の選手については、第1次予選競技の成績でスターティングオーダーを決定する。

### 第23条 障害物とコース

1. 第1競技のコースは12～14個の障害物で構成する。障害物の高さは1.25mまで、幅は高さと同釣り合いをとって1.00m～1.30mの範囲で設定する。
2. 第2競技のコースは、ダブル1個とトリプル1個、あるいはダブル3個を含む12～14個の障害物で構成する。団体競技で水濠障害を使用する場合は、第2ラウンドで水濠障害の上に垂直障害を設置しなければならない；この障害物は水濠障害としてではなく、垂直障害として審査される（障害馬術規程第211条10）。

高さ：1.30m（両走行とも）までとし、幅は高さと同釣り合いをとって1.00m～1.30mの範囲で設定。

速度：分速350m

3. 個人選手権競技のラウンドAのコースはダブル3個、あるいはダブル1個とトリプル1個を含む10～12個の障害物で構成し、高さは1.30mまで、幅は高さと同釣り合いをとって1.00m～1.35mの範囲で設定しなければならない。

ラウンドBはラウンドAと異なるコースでなければならず、トリプル1個あるいはダブル1個を含む8～10個の障害物で構成する。

高さ：1.30mまでとし、幅は高さと同釣り合いをとって設定 - 高さと同幅ともに技術代表の判断に任される。

速度：分速350m

4. 団体順位あるいは個人順位決定のためにジャンプオフを行う場合は、6個の障害物を使った短縮コースとするが、障害物の大きさはラウンドBに使用した障害物の大きさを超えてはならない。

速度：分速350m



5. フェアウェル競技の障害物は高さを約 1.20m、幅を約 1.25m としなければならない。  
フェアウェル競技の速度：分速 350m

## 第 24 条 団体順位

1. ヨーロッパにおける地域選手権大会と大陸選手権大会の団体順位は、第 1 競技における各国選手 5 名から上位 3 選手の減点、および団体決勝の 2 回走行の各ラウンドにおける各国上位 3 選手の減点を合計して決定する。第 2 ラウンドへの出場資格を得られなかったチームについては、第 1 競技における各国選手 5 名から上位 3 選手の成績、および団体決勝第 1 ラウンドでのチーム内上位 3 選手の成績をカウントする。
2. ヨーロッパ域外の地域選手権大会と大陸選手権大会における団体順位は、第 1 競技における各チーム上位 3 選手の減点、および団体決勝における 2 回走行の各走行で各チーム上位 3 選手の減点を合計して決定する。第 2 ラウンドへの出場資格を得られなかったチームについては、第 1 競技における各チーム上位 3 選手の成績と団体決勝第 1 ラウンドにおける各チーム上位 3 選手の成績をカウントする。
3. 第 1 ラウンドあるいは第 2 ラウンドを完走していないチーム選手の成績は、そのラウンドを完走しているチーム選手の中で最も減点の多かった者のスコアに減点 20 を加算する。
4. 第 1 位、第 2 位および／または第 3 位で同減点のチームがでた場合は、タイムレースのジャンプオフを 1 回行わなければならない、チーム選手は全員が出場する。ジャンプオフが 2 回必要となった場合は、第 1 位と第 2 位を決定するジャンプオフの前に第 3 位決定戦を行わなければならない。ジャンプオフの順位は、各チームの上位 3 選手の減点とタイムを合計して決定する。
5. それでも同順位（減点とタイム）となったチームは、同順位とする。
6. その他の順位で同減点の場合は同順位となる。
7. この競技では団体順位に加えて個人順位も決定され、賞が授与される。

## 第 25 条 個人順位

1. 個人順位は各選手の第 1 競技、第 2 競技の 2 回走行（ジャンプオフが行われた場合でもその減点は含めない）、第 3 競技のラウンド A とラウンド B（個人決勝）での減点を合計して決定する。

2. 第1位、第2位および／または第3位で同減点の選手がでた場合は、タイムレースのジャンプオフを1回行わなければならない（本付則第23条4参照）。  
ジャンプオフが2回必要となった場合は、第3位決定のジャンプオフを第2位および第1位決定のジャンプオフに先がけて行うものとする。
3. 個人決勝競技では2種類の順位付けを行わなければならない；1つは個人メダル受賞者の順位付け、もう1つはこの競技に出場した選手全員の順位付けである。後者の順位ではラウンドAとラウンドBの成績のみをカウントする。同減点の選手は同順位となる。

## **第26条 競技場審判団**

1. 競技場審判団長については、FEI 障害馬術部門ディレクターが障害馬術委員会と協議のうえ、一般規程に則って選任しなければならない。競技場審判団メンバーは、組織委員会が一般規程と障害馬術規程に則って選任する。

## **第27条 外国人技術代表**

1. 外国人技術代表については、FEI 障害馬術部門ディレクターが障害馬術委員会と協議のうえ、一般規程に則って選任しなければならない。

## **第28条 獣医師代表団**

1. 獣医師代表団の構成、およびその団長とメンバーの選任は、獣医規程に定める要件に準拠しなければならない。

## **第29条 上訴委員会**

1. 上訴委員会の構成、およびその委員長とメンバーの選任は、一般規程に定める要件に従わなければならない。
2. CSICH 競技会では、上訴委員会の設置は義務づけられない。

## **第30条 落馬**

1. 選手の落馬あるいは人馬転倒で、選手は当該競技から失権となる。これには選手権競技およびネーションズカップ競技も含まれる。しかしながら、公式医師と競技場審判団が承認した場合に限り、団体選手権競技の第2ラウンドあるいはネーションズカップ競技の第2ラウンドに出場できる。失権した選手の成績は、当該ラウンドで最下位となった選手のスコアに減点20を加算する。

## **第31条 安全性**

1. 自分の馬の制御ができない選手については、競技場審判団の判断で、その馬とともに

に競技あるいは競技会全体から出場を取り止めさせられることがある。

2. 牡馬にて出場するチルドレン選手の場合、指定の成人がホースインスペクションと獣医検査の際にその牡馬の管理責任を負わなければならない。

## **付則 13 アマチュアオーナー・カテゴリー規程**

### **第1条 要件**

1. 次の場合に「アマチュアオーナー」とみなされる：
  - 1.1 選手は自身が競技出場する馬のオーナーでなければならない。所有権は近親者に拡大適用できる。
  - 1.2 選手は所属 NF から付与された有効なライセンスを所持し、FEI 登録していなければならない。馬は FEI 登録が必要であり、繋養されている国以外で競技に出場する場合は有効な FEI パスポート、あるいはナショナルパスポートと FEI 認証カードがなければならない。繋養国内でアマチュア競技会に出場する馬については、FEI パスポートも FEI 認証カードも必要ないが、登録されていて個体識別ができなければならない（一般規程第 137 条 2 参照）。
    - 1.2.1 「アマチュアオーナー」ライセンスは、他者が所有する馬への騎乗や騎乗レッスンを行わないこと、スポンサーのついた馬に騎乗することで金銭を受領しないこと、あるいは広告や商業目的などで金銭を受領しないとの陳述書に正式に署名した選手に対してのみ、NF が付与するものである。馬の売買や賞金を現金で受領することは、それが当該選手の唯一の収入源でない限りは禁止されない。
  - 1.3 「アマチュアオーナー」資格により他の競技や選手権大会への参加が制限される。「アマチュアオーナー」ライセンスを取得、あるいはこれを更新した選手で、初回ラウンドでの障害物の高さが 1.50m 以上の国際競技または国内競技に出場した場合、その暦年の間はアマチュアとしての競技継続は認められない。例をあげると、アマチュア・ライセンスを取得したヤングライダーで、ヤングライダー大陸選手権大会にて個人決勝競技に残った者は、その年の終わりまでアマチュアとしての競技参加はできなくなる。選手は待機期間を経ってから当該 NF の規定に従って NF へ申請し、アマチュアオーナー・ライセンスを回復することはできるが、いかなる場合もその暦年内には回復できない。
  - 1.4 選手は 14 歳となる年からすべてのアマチュア競技に出場できる。  
選手は 12 歳となる年から 13 歳になる年の終わりまで、アマチュア B 競技に出場できる。
2. 馬の年齢はカテゴリー A アマチュア競技会とアマチュア選手権大会への参加には 7 歳以上、カテゴリー B アマチュア競技会への参加には 6 歳以上でなければならない。

## **第2条 国際競技会**

1. 「アマチュアオーナー」国際競技会を CSI カテゴリー A 競技会（賞金あり）あるいはカテゴリー B 競技会（承認なし）として開催できる。アマチュアオーナー競技で認められる障害物の高さは最大 1.40m、幅は高さと同じとって 1.55m 以内（トリプルバーを除く）とする。
2. 国際競技会は、開催国 NF の個人選手と限定数の外国人選手を対象とする。
3. 各競技会につき馬 1 頭の世界共通エントリー代上限：1500 ユーロ
4. 国際競技会は、FEI 国際障害馬術規程に従わなければならない。競技会実施要項ドラフトはすべて FEI へ提出して承認を受けなければならない。

## **第3条 選手権大会**

1. このカテゴリーで大陸選手権大会あるいは地域選手権大会を開催する場合は、シニア大陸選手権大会の開催方式に従わなければならない。

## **第4条 コースデザイナー**

1. コースデザイナーについては、組織委員会が FEI レベル 3 以上のコースデザイナーリストから選任する。

## **第5条 諸施設**

1. 競技、交通手段、旅費、ホテル宿泊費、国境での通関に関わる費用は、すべて選手負担となる。

## 障害馬術競技での特定用語集

- 不従順：第 219 条を参照；
- 失格：第 242 条 1 を参照；
- 失権：第 241 条 1 を参照；
- 過失：選手の走行中に生じた何らかの偶発事象で、結果として減点あるいは失権となるもの（基準 A 採用で過失に科せられる減点については第 236 条、基準 C 採用で過失に科せられる減点については第 239 条を参照）；
- 費用：
  - 規定料金：規定料金とは、エントリー代には含まれない経費／サービスに対して課される費用である。規定料金が課される場合は、当該競技会に出場する選手全員が支払わなければならない。組織委員会は金額の詳細を実施要項に記載し、また FEI の承認を受けた場合に、次の規定料金に限って請求することができる：
    - NF 経費（必要な場合）
    - NF 薬物規制プログラム費用（必要な場合）
    - FEI の馬ドーピング防止および規制薬物規程（EADCMR）費用  
（組織委員会は EADCMR 費用がエントリー代に含まれているかを実施要項に記載する）（必要な場合）
    - 馬の健康／通関関連書類費用（必要な場合）
    - ボ口処理費用（上限は競技会ごとに各馬€40）
    - 馬運車駐車料金（必要な場合）（競技会場に馬運車を駐車させない選手はこれを除外することができる）
    - 馬運車用の電気コンセント料金（競技会場に馬運車を駐車させない選手はこれを除外することができる）
  - 任意料金：任意料金とは、選手が希望すれば購入できるような任意で享受する物品／サービスにかかる費用であり、当該競技会で競う選手の権利平等性、あるいは馬の福祉に影響を及ぼすものではない。例えば：
    - VIP または特別駐車場
    - VIP テーブル
    - 追加の馬具収納用馬房または競技に出場しない馬の馬房
    - 追加の敷料および／または飼料（オガ、ワラ、乾草など詳細を記載）
    - 特別厩舎（競技会厩舎はすべて FEI 最低要件を満たしていなければならない）
- エントリー代：エントリー代は馬 1 頭につき 1 競技会に参加するために課される費用であり、次のものが含まれる：
  - 競技会期間中の馬 1 頭の厩舎利用（ツアーの一環である競技会と競技会の間を含め、競技会前に行われる厩舎の清掃と消毒、厩舎内の電気と水、競技会のタイプにより最初の敷料あるいは一定量の敷料、厩舎の 24 時間セキュリティサービスを含む）
  - 競技会におけるすべての施設利用（インフラ設備料金は科されない）

- 実施要項の記載条件に従い、すべての競技に出場する権利（ノミネーション料あるいは出場料は科されない）
- 運営／事務費（競技会運営と競技進行に関わるサービスすべてを含む：データ／成績／計時サービス、経理、認証サービス）
- － グランプリ：競技会で最も誉れの高い競技の 1 つ；
- － ペナルティ（第 216 条）：過失とみなされる特定行為の結果として選手に科せられる措置の 1 つ；
- － ポニー：ポニーとは、平坦な地面上で蹄鉄を装着していない状態で、髻甲で測定した体高が 1.48m を超えない小型の馬をいう。競技の現場で体高測定が行われたポニーについては、競技への出場許可条件として蹄鉄を装着していない状態で 150cm、蹄鉄を装着した状態で 151cm を超えていないこと。これは FEI 体高測定が競技現場にて行われた場合にのみ斟酌される（詳細については付則 11 第 4 条と第 13 条、獣医規程第 1082 条と第 1083 条を参照）；
- － 拒止：第 221 条を参照；
- － 反抗：第 223 条を参照；
- － 逃避：第 222 条を参照；
- － 実施要項（第 265 条 1）：競技会運営の基盤となる競技詳細とテクニカル条件に関わる情報を記載している文書で、組織委員会が所属 NF を通して FEI へ提出し、承認を受ける。3 \*レベル以上の競技会実施要項は FEI の承認を受けなければならない；1\*と 2 \*レベルの競技会実施要項は、開催国 NF の承認を受ける；
- － スコア（第 237 条と第 239 条 4）：選手が走行中に出した成績で、障害物での過失減点とタイム減点を加算するか（基準 A 競技の場合）、あるいは走行タイムにタイム修正がある場合はこれを加算、さらに落下させた障害物 1 個につき 4 秒（ジャンプオフあるいは二段階走行競技の二段階目の走行では 3 秒）を加算して求める（基準 C 競技の場合）；
- － スポンサーチーム：第 265 条を参照；
- － 基準 A：第 236 条を参照；
- － 基準 C：第 239 条を参照。
- － ツアー：同じ組織委員会が同一会場で少なくとも 2 週続けて週末に開催する FEI 障害馬術競技会

## 索引

馬に対する虐待行為	第 243 条
適用されるペナルティ	第 243 条 1
鞭の過剰使用	第 243 条 2.2
概略	第 243 条 2.3
馬の肢たたき	第 243 条 2
事故	第 258 条
衣服、馬具および装具に付ける広告	第 256 条 3、第 257 条 3
馬の年齢	第 254 条 1
上訴委員会	第 259 条 3
アリーナ（競技）	第 201 条 1
アリーナへの立ち入り	第 202 条
広さ	第 201 条 2
服装	第 256 条 1
名誉バッジ	付則 1
ベル	第 203 条
ブーツ（馬）	第 257 条 2.3
ブーツとバンデージ規制	第 244 条
カレンダー	
開催日程申請および日程調整	第 200 条 8
選手権大会	
チルドレン	付則 12 第 5 条、第 4 章
ジュニアとヤングライダー	付則 9 第 5 -11 条、第 3 章
ポニーライダー	付則 11 第 6 条、第 22 条
ベテラン	付則 10 第 2 章
チルドレン	
チルドレン競技会規程	付則 12
FEI 馬スポーツ憲章	
コンビネーション障害	第 212 条
閉鎖、一部開放、および一部閉鎖	第 214 条
競技	
アキュムレーター競技	第 269 条
貸与馬競技	第 279 条
ダービー競技	第 277 条
フォルト・アンド・アウト競技	第 266 条
概要	第 260 条
グランプリ競技	第 261 条
ヒット・アンド・ハリー競技	第 267 条
ハンティング競技、あるいはスピードアンドハンディネス競技	第 263 条
決勝ラウンドを行うグループ競技	第 275 条

ノックアウト競技	第 272 条
マスターズ競技	第 262 条 4
ネーションズカップ競技	第 264 条
コンビネーション障害で競う競技	第 278 条
パワーアンドスキル競技	第 262 条
ピュイッサンス競技	第 262 条 2
リレー競技	第 268 条
スポンサーチーム競技、および他の団体競技	第 265 条
コース自由選択競技	第 271 条
トップスコア競技	第 270 条
二段階走行競技	第 274 条
2 回走行競技	第 273 条
決勝ラウンドを行う競技	第 276 条
利益相反、役員	第 259 条 7
コース	第 204 条
規定タイムの修正	第 204 条 3
コースの修正	第 206 条
コースプラン	第 205 条
コースからの逸脱	第 220 条
コース全長	第 204 条 5
全長測定	第 204 条 1－第 204 条 3
コースデザイナー	第 259 条 5.1
コースデザイナーの昇格	第 259 条 5.1.6
CSI／CSIO 開催要件	
CSI 開催要件世界共通	付則 6 1.
CSI 開催要件、ヨーロッパ対象の追加要件	付則 6 2.1
CSI 開催要件、北米対象の追加要件	付則 6 2.2
CSIO 開催要件世界共通	付則 6 3.
出場選手の申告	第 253 条
コースからの逸脱	第 220 条
不従順	第 219 条
巻乗り	第 219 条 1.4
計時中断中の不従順	第 231 条、第 235 条 2
拒止	第 219 条 1.1、第 221 条
反抗	第 219 条 1.3、第 223 条
逃避	第 219 条 1.2、第 222 条
失格	第 242 条
失権	第 241 条
参加申込	第 251 条
経費	
チーム監督、チーム獣医師、選手、グルーム、馬	第 200 条 6.1



役員	第 200 条 6.2
落馬あるいは人馬転倒	第 224 条
スタートライン通過以前	第 235 条 3
落馬のペナルティ	第 241 条 3.25
過失	第 235 条
FEI ワイルドカード	第 249 条 8
罰金	第 240 条 2、第 240 条 3
標旗	第 207 条
スタートとフィニッシュラインの両方向通過	第 207 条 6
転倒	第 207 条 4、第 207 条 5
標旗の不正通過	第 207 条 3
スタートラインとフィニッシュライン	第 204 条 6
グランプリ競技	第 261 条
許可される開催方式	第 261 条 5
CSIO での開催方式	第 261 条 6
出場資格	第 261 条 4
スターティングオーダー	第 252 条 6
競技場審判団	第 259 条 1
ジムナスティック・トレーニング	第 201 条 5
ヘッドギア	第 256 条 1.4
ホースインスペクション	第 280 条 2
CSIO への招待	第 249 条
ヨーロッパ	第 249 条 2
北米	第 249 条 3
CSI への招待	第 250 条
CSI 招待ルール	付則 5
ジョーカー	第 215 条 3
アキュムレーター競技	第 269 条 5
トップスコア競技	第 270 条 12
審判員	第 259 条 1
審判員の昇格	第 259 条 1.1
ジャンプオフ	第 245 条
失権あるいは出場辞退	第 247 条
障害物	第 246 条
スターティングオーダー	第 245 条 5
ジュニア	
シニア競技および他のカテゴリーへの参加	第 255 条、付則 9 第 7 条 2
ジュニア規程	付則 9
薬物規制（馬）	第 281 条
国内競技会	第 251 条 18
ネーションズカップ	第 264 条

シニア以外のカテゴリー	第 264 条 10
順位決定方法と順位	第 264 条 9
チーム構成	第 264 条 4
障害物の規格	第 264 条 3
失権と棄権	第 264 条 8
スターティングオーダー	第 264 条 6
開催	第 264 条 1
参加	第 264 条 5
第 2 ラウンドへの出場	第 264 条 7
賞金	第 264 条 1.5
テクニカル要件	第 264 条 3
障害物	第 208 条
選択障害	第 215 条
バンク	第 213 条
コンビネーション障害	第 212 条
CSI1*-2*の規格	第 208 条 4
ジョーカー	第 215 条 3
リバプール	第 211 条 11
最大寸法	第 208 条 5、第 208 条 7
堆土	第 213 条
練習用障害物	第 201 条 4
傾斜路	第 213 条
スポンサーつき障害物	第 208 条 3
幅障害	第 210 条、第 218 条 2
垂直障害	第 209 条、第 218 条 1
水濠障害	第 211 条
役員	第 259 条
上訴委員会	第 259 条 3
利益相反	第 259 条 7
コースデザイナー	第 259 条 5.1
競技場審判団	第 259 条 1
スチュワード	第 259 条 6
技術代表	第 259 条 5.2
獣医師代表団と獣医師代表	第 259 条 4
馬の参加	第 254 条
パスポート（馬）	
パスポート査閲	第 280 条 1
要件	第 282 条 1
ペナルティ	第 216 条
障害物の落下	第 217 条
基準 A	第 236 条

基準 C	第 239 条 2
順位決定と表彰	第 248 条
置き横木	第 201 条 5.2
ポニーライダー	
ポニーの年齢	付則 11、第 4 条 2
ポニーの体高測定	付則 11、第 13 条
他の CSI へのポニーの出場	付則 11、第 4 条 1.2
ポニーライダー 規程	付則 11
練習用障害物	第 201 条 4
アリーナでの練習用障害物	第 202 条
出場資格認定手順	
オリンピック大会、世界ノ大陸選手権大会	付則 8
ヤングライダーとジュニア・ヨーロッパ選手権大会	付則 9、第 6 条 7
拒止	第 219 条 1.1、第 221 条
反抗	第 219 条 1.3、第 223 条
逃避	第 219 条 1.2、第 222 条
馬装	第 257 条
セイフティーカップ	第 210 条、第 211 条 10
敬礼	第 256 条 2
実施要項、承認	第 259 条 2
スクーリングエリア	第 201 条 3、第 201 条 7
競技でのスクーリング	第 239 条 5
スコアボード、要件	付則 4、第 1 条
速度	第 234 条
速度の変更	第 204 条 3
厩舎	第 200 条 9
スターティングオーダー	第 252 条
グランプリ	第 252 条 6
ノックアウト競技	付則 3
ネーションズカップ	第 264 条 6
スチュワード	第 259 条 6
走行中の停止	第 233 条
基準 A	第 236 条
過失	第 236 条 1
採点方式	第 238 条
減点	第 236 条 1
スコア	第 237 条
基準 C	第 239 条
過失	第 239 条 1
減点	第 239 条 2
スコア	第 239 条 4

制限タイム	第 239 条 3
技術代表	第 259 条 2
規定タイム	第 227 条
計算表	付則 2
制限タイム	第 228 条
走行タイム	第 226 条
計時の中断	第 230 条
計時	第 229 条
タイム修正	第 232 条
自動計時器	付則 4
スコアボードの要件	付則 4、第 1 条
計時システムの要件	付則 4、第 2 条
アンダー25 (U25) 選手	
U25 規程	付則 9
ベテラン選手、規程	付則 10
獣医師代表団と獣医師代表	第 259 条 4
獣医検査	第 280 条
到着時検査	第 280 条 1
ホースインスペクション	第 280 条 2
パスポート査閲	第 280 条 1
警告カード	第 240 条 1
水濠障害	第 211 条
構造	第 211 条 1～第 211 条 4、 第 211 条 10、付則 7
過失	第 211 条 5、第 211 条 7
審判員	第 211 条 8～第 211 条 9
鞭	
許可される長さ上限	第 257 条 2.2
過剰使用に対するペナルティ	第 243 条 2.2
ヤングライダー	
シニア競技と他のカテゴリーへの参加	第 255 条、付則 9、第 7 条 2
ヤングライダー規程	付則 9